

2020年の交通事故統計分析結果 【 確定版 】

2021年8月



公益社団法人

全日本トラック協会

Japan Trucking Association

目次

I. 調査の目的等	2
II. 死亡事故データの傾向	4
III. 2020年死亡事故データ(車籍)	24
IV. 2020年死亡事故データ(発生地)	44
V. 2020年死亡事故データ(道路区分)	64
VI. 2020年死亡事故データ(車両区分)	76
VII. 2020年死亡事故データ(車両総重量)	90
VIII. 2020年死亡事故データ(年齢層別)	94
IX. 2020年死亡事故データ(運転免許取得年数別)	100
X. 2020年死亡事故データ(交差点(追突を除く))	108
X I. 2020年死亡事故データ(1万台当たり)	118
X II. 2020年死亡事故データ(対自転車死亡事故)	120

I. 調査の目的等

1. 調査の目的

国の5カ年計画である「第11次交通安全基本計画」の目標値は、令和7年までに死者数を2千人以下、重傷者数を2万2千人以下としており、この背景を踏まえて国土交通省では、令和7年度までに達成すべきトラック運送事業における目標値を「総合安全プラン2025」として、次ページの表のように公表しました。

これを受けて、全日本トラック協会では、同じく次ページの表のとおり「トラック事業における総合安全プラン2025」により、令和7年度までの目標達成を目指し、各種事故防止活動に取り組んでいます。

平成2年3月末現在、事業用トラックの保有台数を運転免許区分別で見ますと、次ページの表のとおり、大型トラックが4割、中型トラックが約2割、あわせて6割強を占めています。こうした事業用トラックが惹起する交通事故には、車両の大きさ、重量などにより、交通事故の発生状況には一定の特徴がみられるところです。

このため、貨物自動車運送事業におけるトラックドライバーに対する交通事故防止対策への取り組みにあたり、各事業者が管理する事業用トラックに照らし、より実効性のある交通事故防止の取り組みを促進する必要があります。

そうした観点から、ここで取りまとめた交通事故統計は、警察庁が公表した2020年までの全国の交通事故データ（※）を基に、車籍別、都道府県別、車両総重量別等多角的な視点から統計・分析したものです。

本資料が、事業用トラックの事故発生状況に即した有効な事故防止対策につながるよう期待申し上げます。

※出所：公益財団法人交通事故総合分析センター

I. 調査の目的等

○「事業用自動車総合安全プラン2025」（国土交通省）

※軽貨物を含む

- ① 令和7年までに死者数 190人以下
- ② 令和7年までに重傷者数 1,280人以下
- ③ 令和7年までに人身事故件数 9,100件以下
- ④ 飲酒運転 ゼロ
- ⑤ 令和7年までに追突事故件数 3,350件以下

○「トラック事業における総合安全プラン2025」（全ト協）

※軽貨物を含まない

- ・ 死者数と重傷者数の合計 970人以下
 ※令和7（2025）年までに死者数＋重傷者数を「970人以下」とする目標値達成のため、車両台数 1万台あたりの死者数と重傷者数の合計を各県の共有目標として「6.5人以下」とする
- ・ 飲酒運転 ゼロ

●運転免許区分別事業用トラックの保有台数（令和2年3月末現在）

自動車の種類		保有台数	構成比
大型自動車	車両総重量11トン以上 または最大積載量6.5トン以上	貨物自動車	469,632
		特種（殊）用途車	124,978
		小計	594,610
中型自動車	車両総重量7.5トン以上11トン未満 または最大積載量4.5トン以上6.5トン未満	貨物自動車	236,298
		特種（殊）用途車	90,934
		小計	327,232
準中型自動車	車両総重量3.5トン以上7.5トン未満 または最大積載量2トン以上4.5トン未満	貨物自動車	243,438
		特種（殊）用途車	69,934
		小計	313,372
普通自動車	車両総重量3.5トン未満 または最大積載量2トン未満	貨物自動車	50,138
		特種（殊）用途車	30,865
		小計	81,003
トレーラ（道路運送車両法による分類と同じ）			166,147
合 計			1,482,364
			100.0%

資料：自動車検査登録情報協会データより独自作成 （注）：軽自動車を含まない

2. データの概要

調査対象：交通事故統計（2020年の1～12月）のうち事業用貨物自動車（軽貨物を除く）が第1当事者となった死亡事故

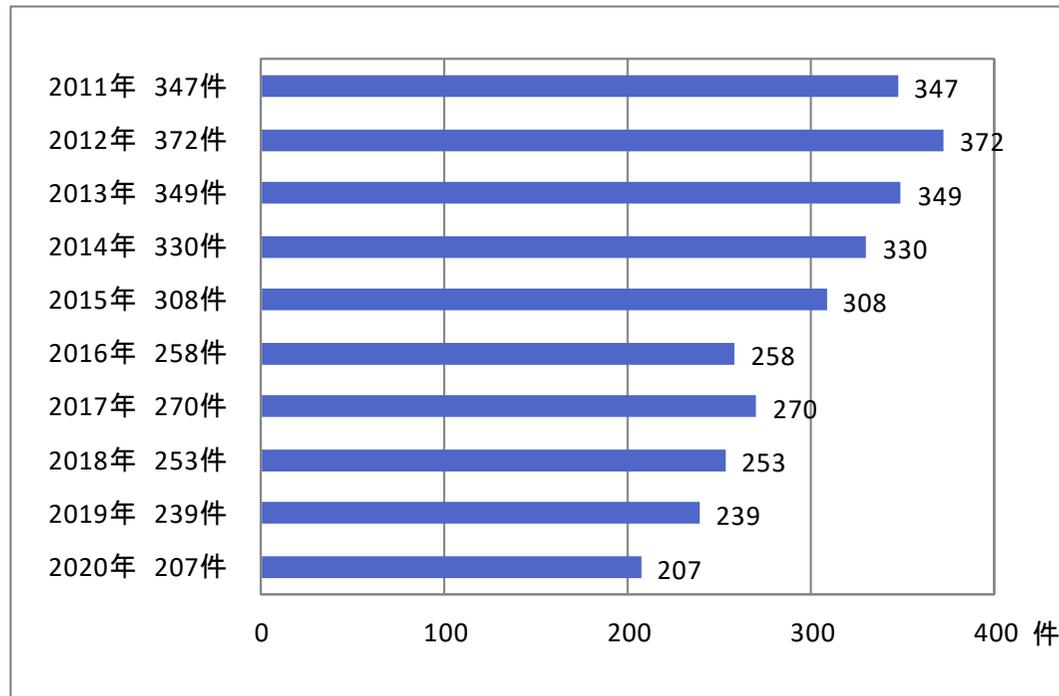
Ⅱ. 死亡事故データの傾向

1. 事故件数
2. 発生地別
3. 車籍別
4. 車籍別使用の本拠別
5. 道路区分別
6. 車両区分別
7. 車両総重量別
8. 事故類型別
9. 行動類型別
10. 時間帯別
11. 運転者の危険認知速度別
12. 運転者の年齢層別
13. 運転者の免許取得年数別

Ⅱ. 死亡事故データの傾向

1. 事故件数

- 2020年の死亡事故件数は207件で、2019年（対前年）より△32件、2011年より△140件減少している。
- 死亡事故件数は減少傾向にある。
- 営業用トラック1,325,579台（2020年12月末現在、トレーラ及び軽自動車を除く）に対する1万台当たり死亡事故件数は「1.6」となり、目標値「1.5」を上回る状況となっている。

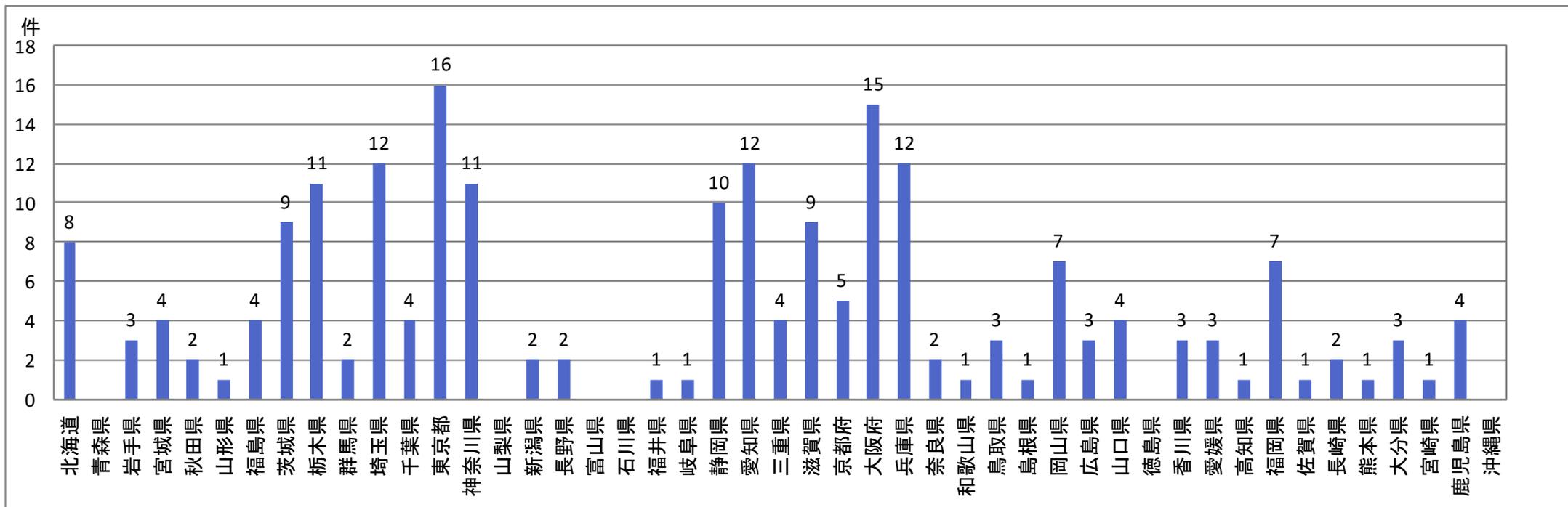


Ⅱ. 死亡事故データの傾向

2. 発生地別

- ・2020年1～12月の発生地別死亡事故件数の多い県をみると、「東京都」が最も多く16件、次いで「大阪府」15件、「埼玉県」、「愛知県」、「兵庫県」がそれぞれ12件、「神奈川県」、「栃木県」がそれぞれ11件と続いている。
- ・2020年の発生地別死亡事故件数の多いトップ10について、2019年比をみると、「東京都」、「兵庫県」、「栃木県」、「静岡県」、「滋賀県」が増加している。

発生地	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	前年比
1 東京	21	24	20	26	25	16	12	15	12	16	1.33
2 大阪	21	27	28	24	28	16	21	21	18	15	0.83
3 埼玉	26	29	30	20	14	19	16	22	15	12	0.80
4 愛知	25	14	22	15	11	16	14	19	13	12	0.92
5 兵庫	16	14	12	15	12	9	17	12	11	12	1.09
6 神奈川	9	19	16	17	19	13	13	10	15	11	0.73
7 栃木	10	8	7	6	4	4	3	7	5	11	2.20
8 静岡	13	14	12	13	15	6	10	15	6	10	1.67
9 茨城	9	15	18	8	12	7	7	10	9	9	1.00
10 滋賀	9	9	10	6	8	5	5	5	5	9	1.80

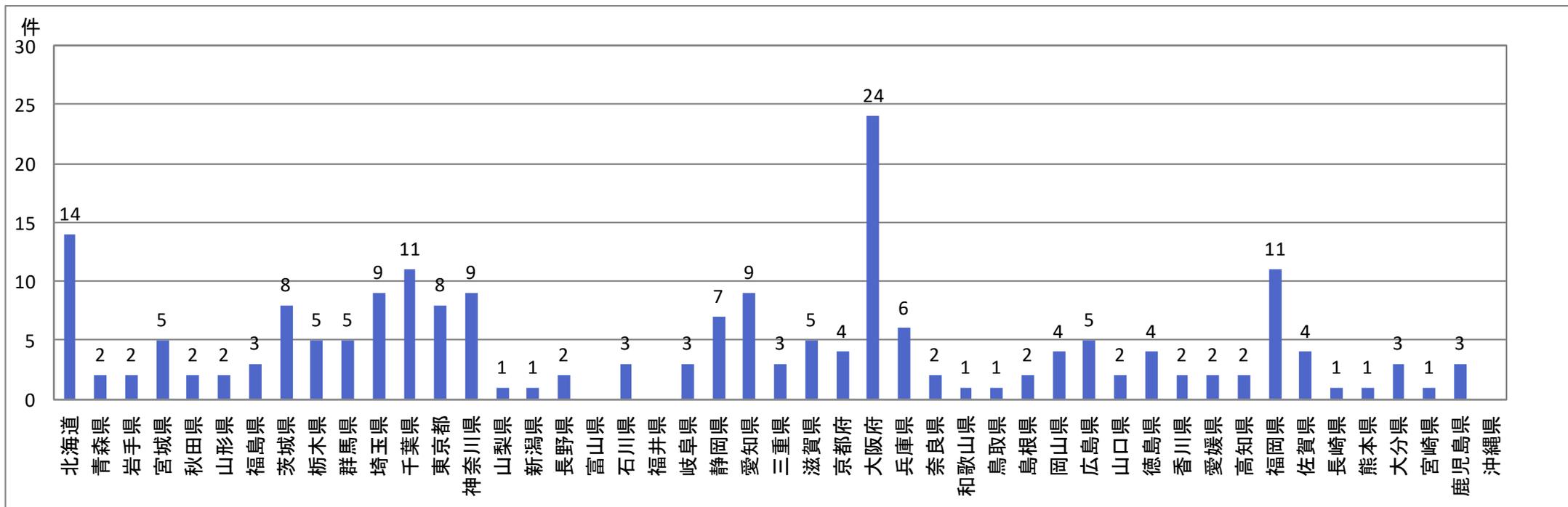


Ⅱ. 死亡事故データの傾向

3. 車籍別

- ・2020年の車籍別死亡事故件数の多い県をみると、「大阪府」が最も多く24件、次いで「北海道」14件、「千葉県」、「福岡県」がそれぞれ11件、「埼玉県」、「愛知県」、「神奈川県」がそれぞれ9件等と続いている。
- ・2020年の車籍別死亡事故件数の多いトップ10について、2019年比をみると、「大阪府」、「北海道」、「福岡県」、「東京都」が増加している。

車籍	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	前年比
1 大阪	23	30	23	24	23	19	36	22	23	24	1.04
2 北海道	13	17	14	11	16	18	9	13	10	14	1.40
3 千葉	17	11	16	19	11	21	12	16	18	11	0.61
4 福岡	17	24	16	14	10	17	13	15	9	11	1.22
5 埼玉	34	27	23	26	19	22	13	17	16	9	0.56
6 愛知	30	10	28	16	15	12	11	22	13	9	0.69
7 神奈川	8	15	14	16	15	9	12	6	10	9	0.90
8 茨城	9	13	20	8	13	5	9	11	12	8	0.67
9 東京	11	18	16	12	16	9	10	7	4	8	2.00
10 静岡	15	17	13	11	10	7	7	9	7	7	1.00



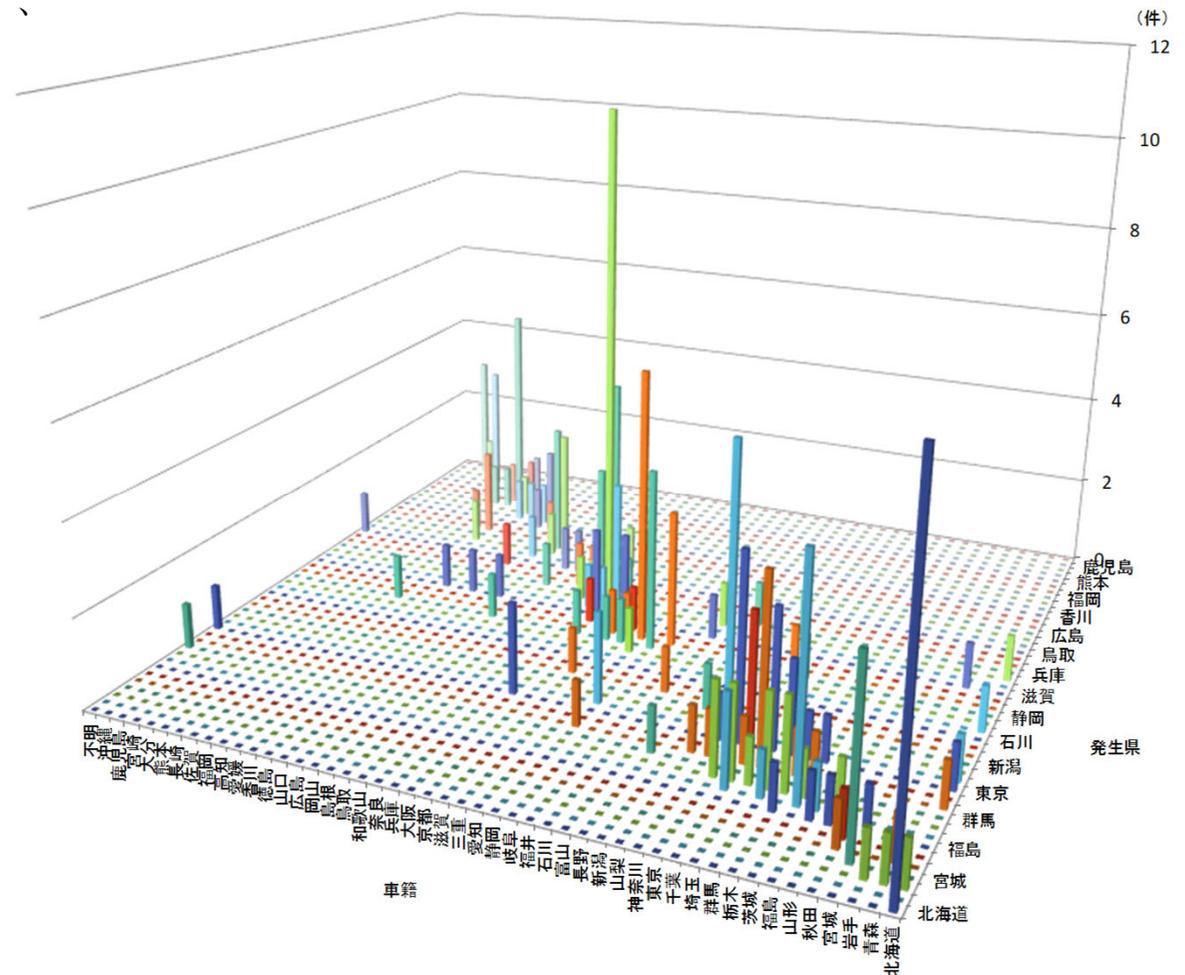
Ⅱ. 死亡事故データの傾向

4. 車籍別使用の本拠別

- ・車籍別の発生状況では、車籍地（県内）での事故は95件、他県での事故は112件となっている。
- ・車籍地以外他県での事故が54.1%と5割以上を占めている。
- ・2020年の車籍別死亡事故件数の多いワースト10について
 県内／他県比をみると、「大阪府」、「北海道」、
 「千葉県」、「福岡県」、「埼玉県」、
 「東京都」、「静岡県」は40%以上が他県で
 発生している。

ワースト 順位	車籍	件数	割合	内訳		他県 発生率
				県内	他県	
1	大阪	24	11.6%	11	13	54.2%
2	北海道	14	6.8%	8	6	42.9%
3	千葉	11	5.3%	3	8	72.7%
4	福岡	11	5.3%	5	6	54.5%
5	埼玉	9	4.3%	4	5	55.6%
6	神奈川	9	4.3%	6	3	33.3%
7	愛知	9	4.3%	6	3	33.3%
8	茨城	8	3.9%	5	3	37.5%
9	東京	8	3.9%	4	4	50.0%
10	静岡	7	3.4%	4	3	42.9%
11	兵庫	6	2.9%	3	3	50.0%
12	宮城	5	2.4%	4	1	20.0%
13	栃木	5	2.4%	2	3	60.0%
14	群馬	5	2.4%	0	5	100.0%
15	滋賀	5	2.4%	2	3	60.0%
16	広島	5	2.4%	3	2	40.0%
	その他	66	31.9%	25	41	62.1%
	合計	207	100.0%	95	112	54.1%

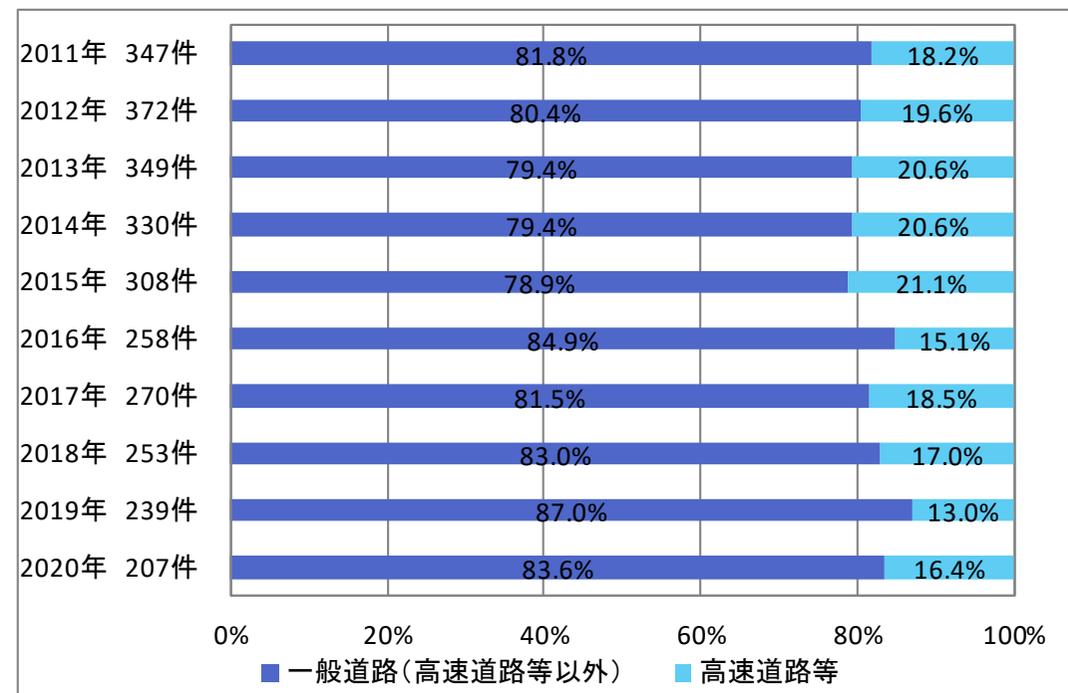
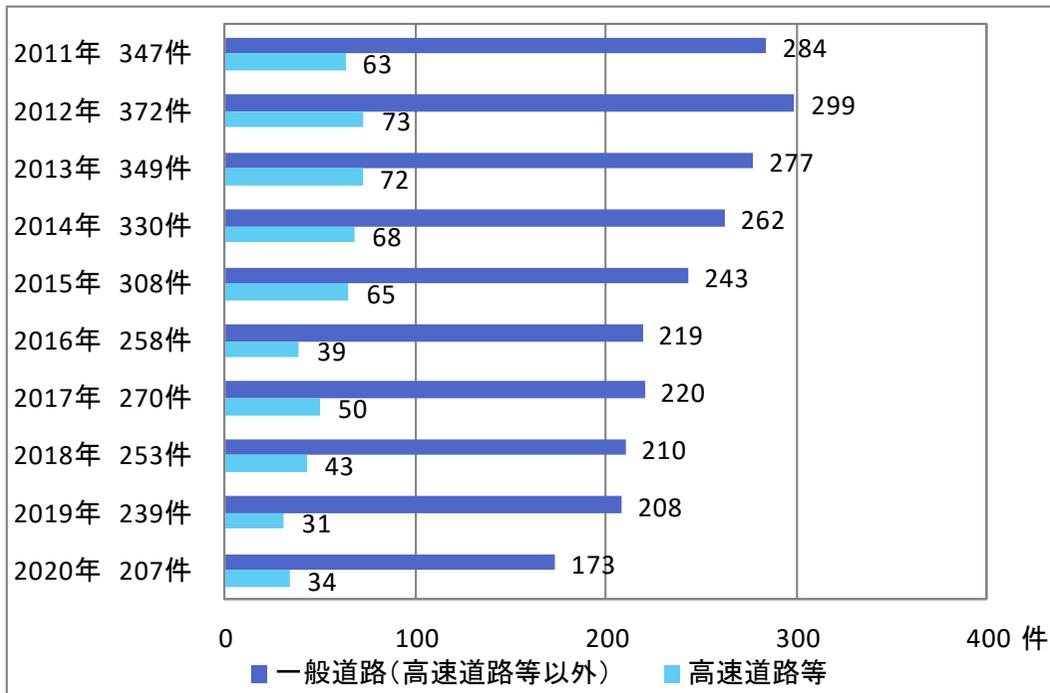
※他県には不明を含む



Ⅱ. 死亡事故データの傾向

5. 道路区分別

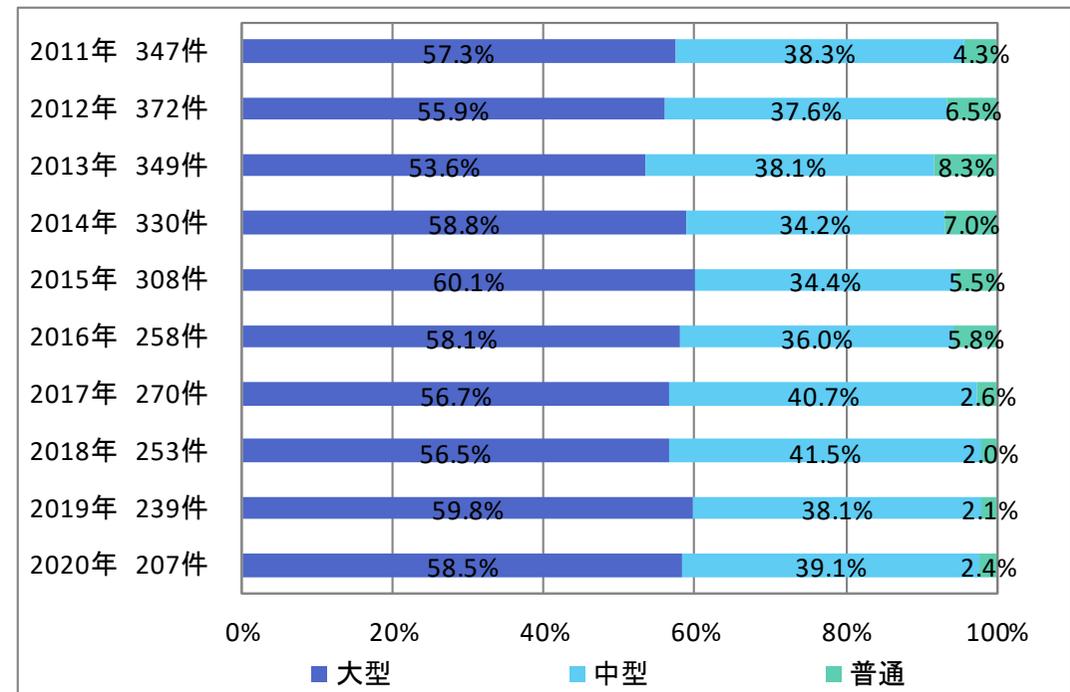
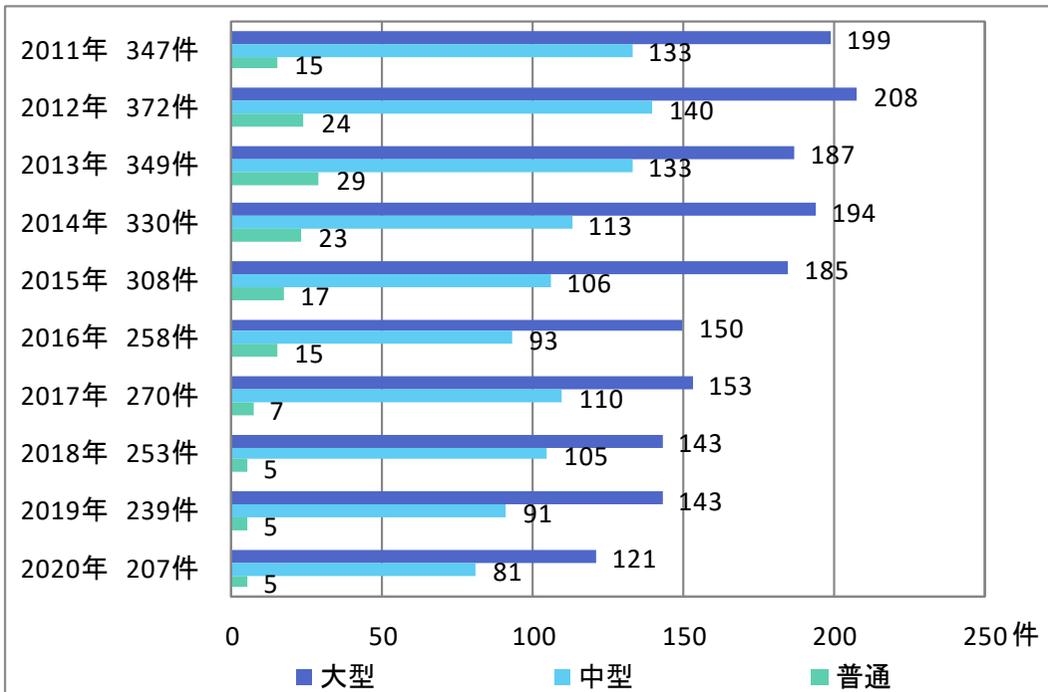
- ・2011年～2020年の傾向をみると、いずれの年も「一般道路（高速道路等以外）」が多く、概ね8～9割程度となっている。
- ・「一般道路（高速道路等以外）」の死亡事故件数は2016年まで減少、2017年に一旦増加したが、その後、再度減少傾向になっている。
- ・2020年の「高速道路等」の死亡事故件数は対前年に比べると増加している。



Ⅱ. 死亡事故データの傾向

6. 車両区分別

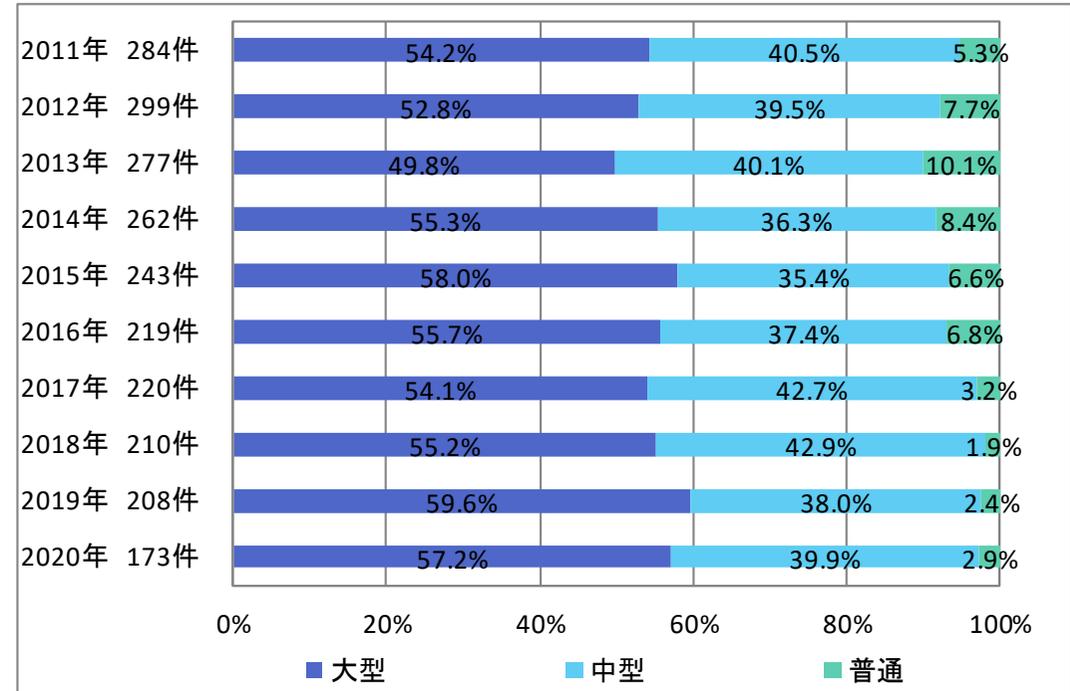
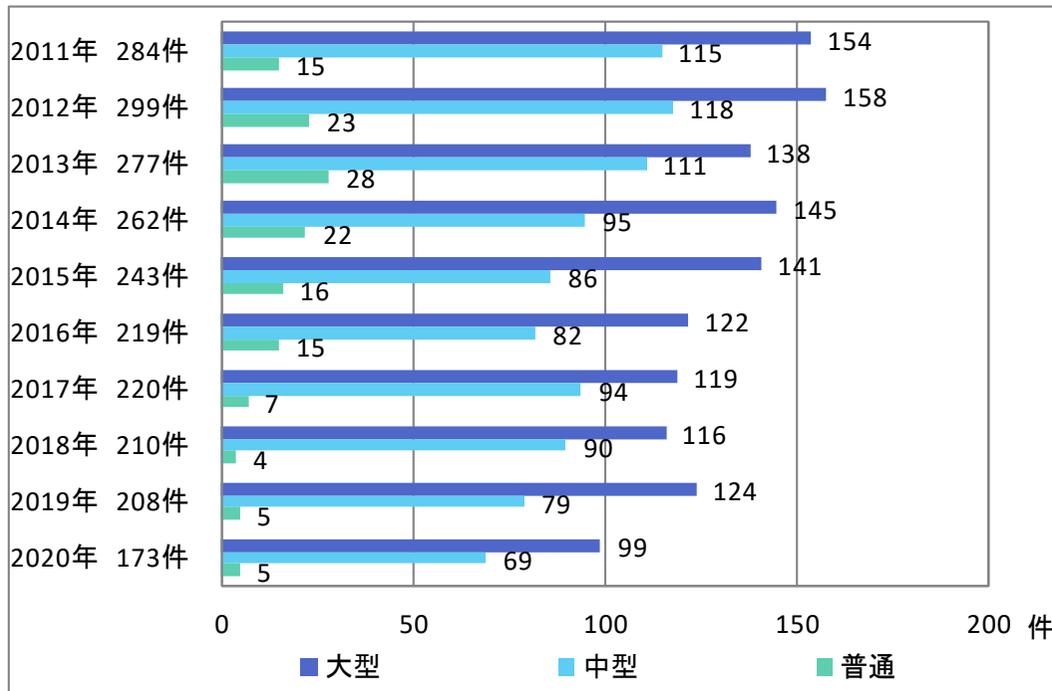
- ・2011年～2020年の傾向をみると、いずれの年も「大型」が多く、概ね5～6割程度を占めている。
- ・「大型」の死亡事故件数は2014年以降、減少傾向にある。
- ・「中型」は2012年以降、2017年及び2018年を除き減少傾向にある。
- ・「普通」は2013年以降、死亡事故件数は減少傾向にある。



Ⅱ. 死亡事故データの傾向

(1) 一般道路上での車両区分

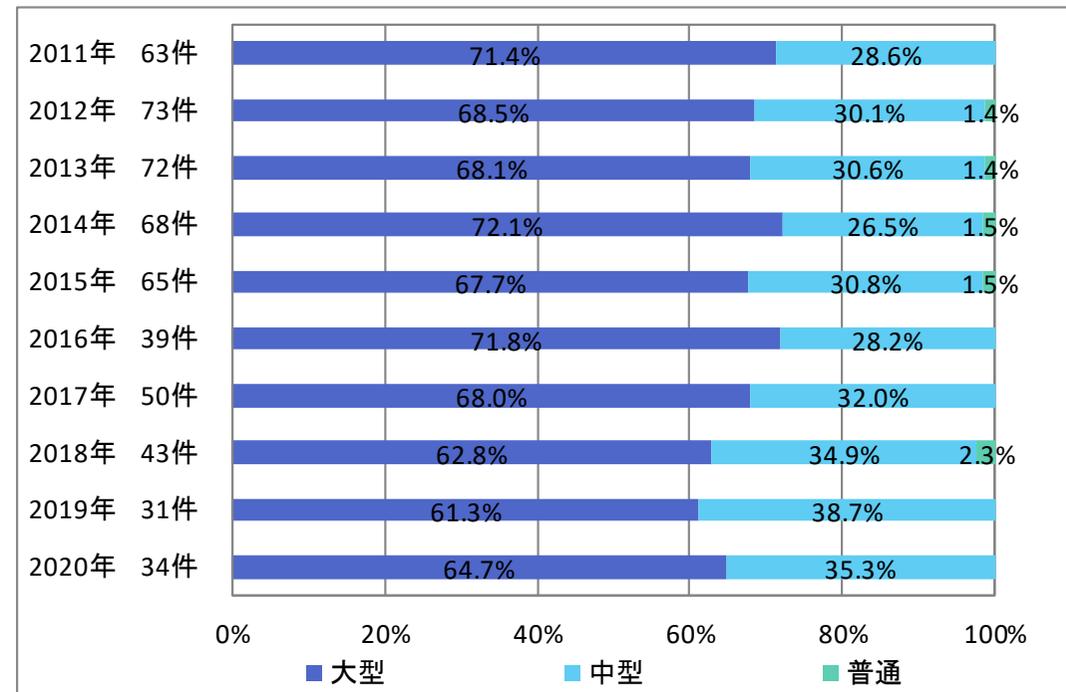
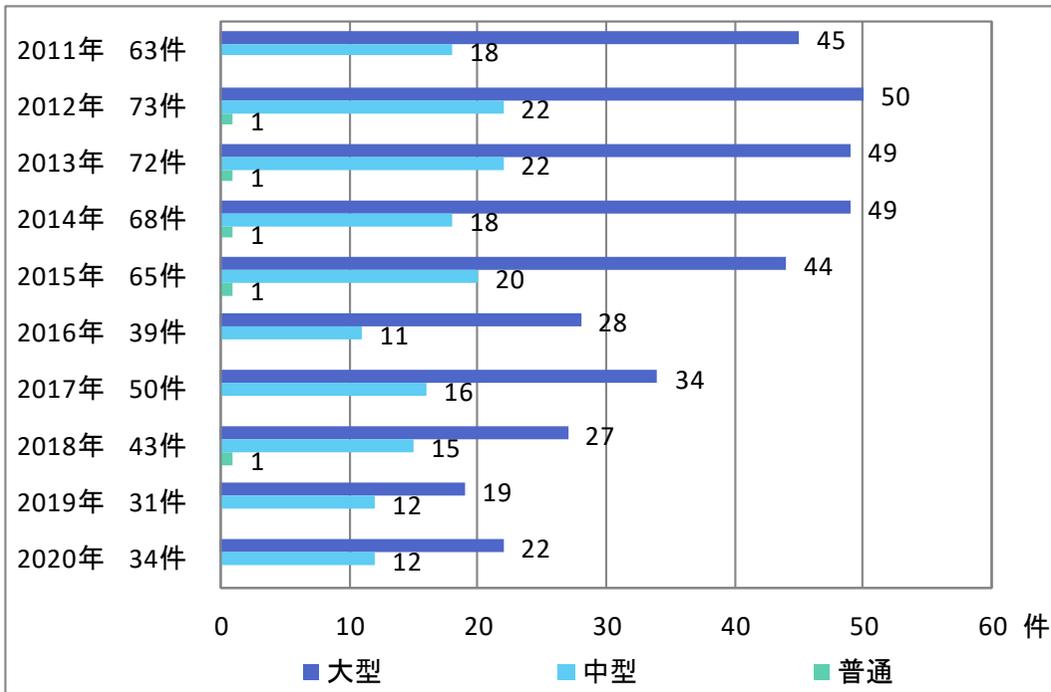
- 2011年～2020年の傾向をみると、いずれの年も「大型」が多く、概ね5～6割程度を占めている。
- 「大型」の死亡事故件数は2014年以降、減少傾向にある。
- 「中型」は2012年以降、2017年及び2018年を除き減少傾向にある。
- 「普通」は2013年以降、死亡事故件数は減少傾向にある。



Ⅱ. 死亡事故データの傾向

(2) 高速道路上での車両区分

- ・ 2011年～2020年の傾向をみると、いずれの年も「大型」が多く割合を占めている。2016年以降、「大型」の割合は減少傾向にあったが2020年は増加している。
- ・ 「大型」、「中型」の死亡事故件数は2012年以降、減少傾向にある。



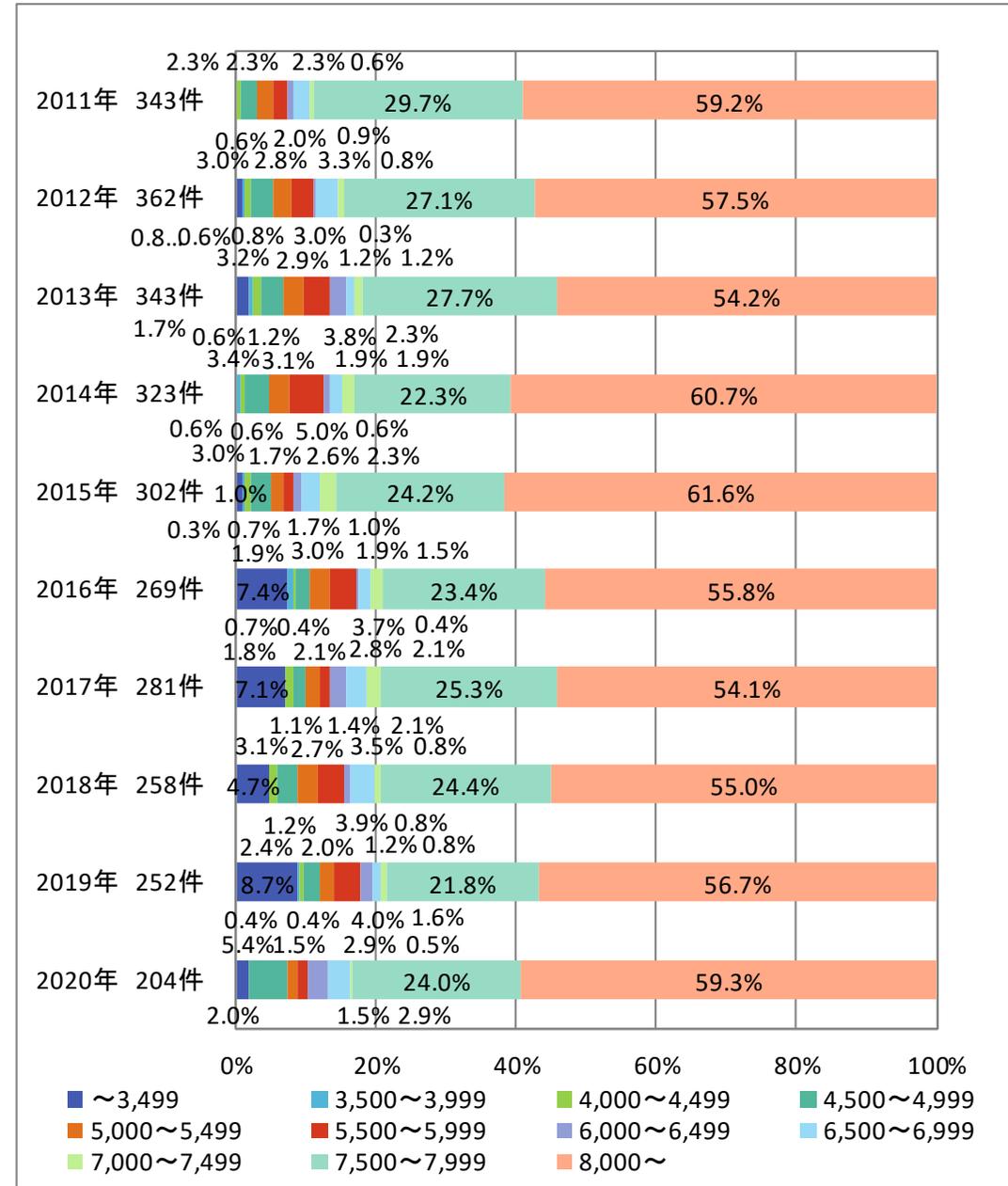
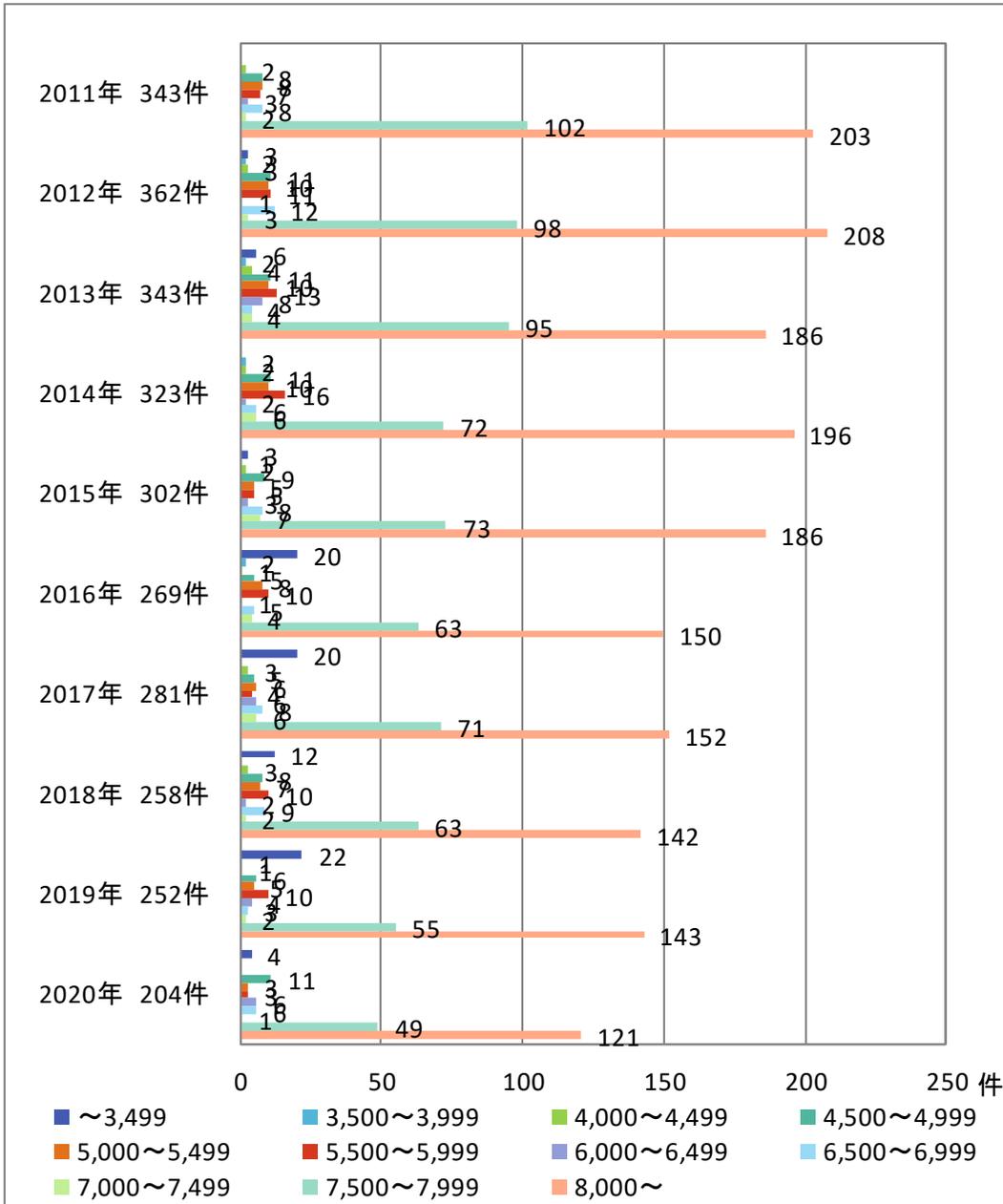
Ⅱ. 死亡事故データの傾向

7. 車両総重量別

- ・ 2011年～2020年の傾向をみると、いずれの年も「8,000～」が多く、5～6割程度を占めている。
- ・ 「7,500～7,999」は2011年～2013年までは3割程度を占めているが、その後、若干減少し2割強で推移している。
- ・ 「8,000～」の死亡事故件数は2016年以降、下げ止まりしていたが、2020年は対前年に比べて減少している。

※車両総重量別に係る集計については、車籍不明を除く204件で集計した。以下同じ。

Ⅱ. 死亡事故データの傾向

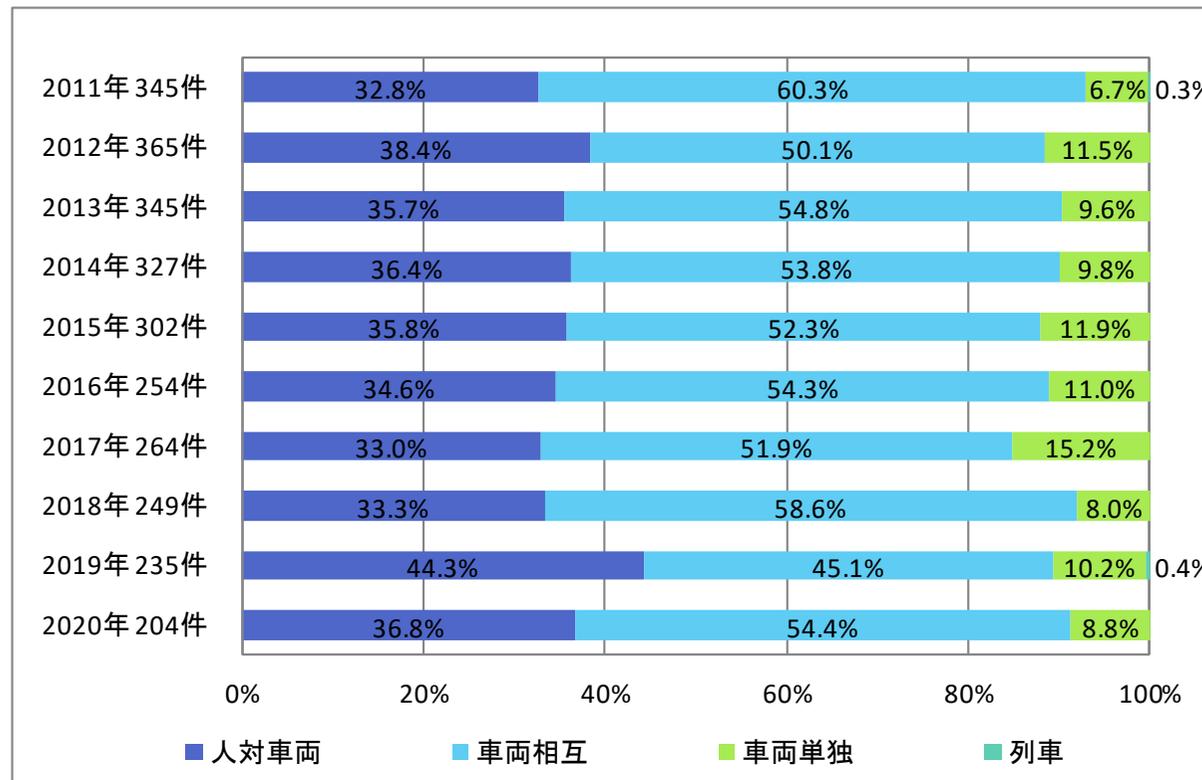


Ⅱ. 死亡事故データの傾向

8. 事故類型別

- ・2011年～2020年の傾向をみると、いずれの年も「車両相互」が多く、5～6割程度を占めている。
- ・「人対車両」の割合は、2019年が多くなっている。

※事故類型別、行動類型別、時間帯別、危険認知速度別、年齢層別、運転免許取得年数別に係る集計については、車籍不明4件を除く235件（2020年）で集計した。以下同じ。

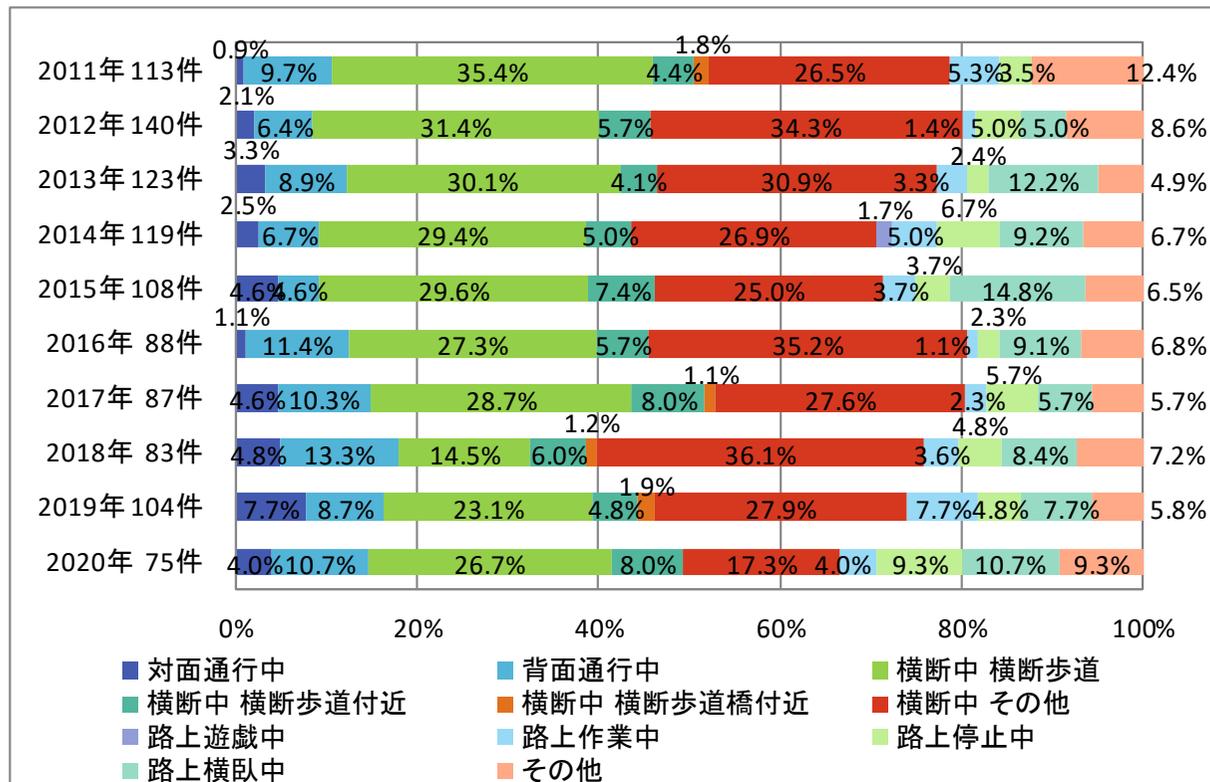


※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

Ⅱ. 死亡事故データの傾向

(1) 人対車両

- ・2011年～2020年の傾向をみると、いずれの年も「横断中 横断歩道」及び「横断中 その他」の割合が多く、両者で概ね4～6割程度を占めている。
- ・「横断中 横断歩道」の2020年の割合は、対前年に比べて+3.6ポイント増加している。2018年以降、増加傾向にある。
- ・2013年以降「路上横臥中」の割合は、2017年を除き概ね1割程度を占めている。

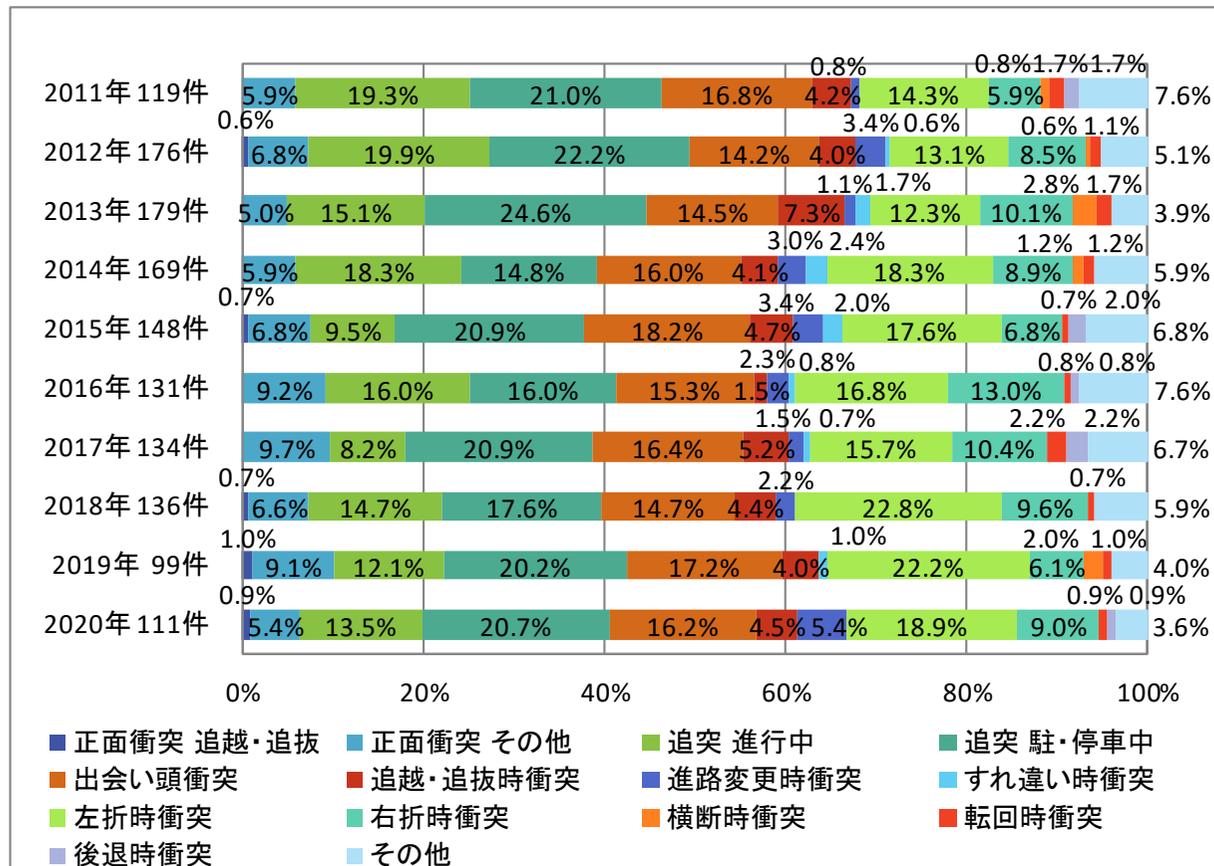


※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

Ⅱ. 死亡事故データの傾向

(2) 車両相互

- ・2011年～2020年の傾向をみると、「追突 駐・停車中」と「左折時衝突」の割合が多い。
- ・「左折時衝突」の割合は増加傾向を示し、その後、2015年から2017年にかけて一旦減少したものの、2018年からは再び増加傾向に転じている。

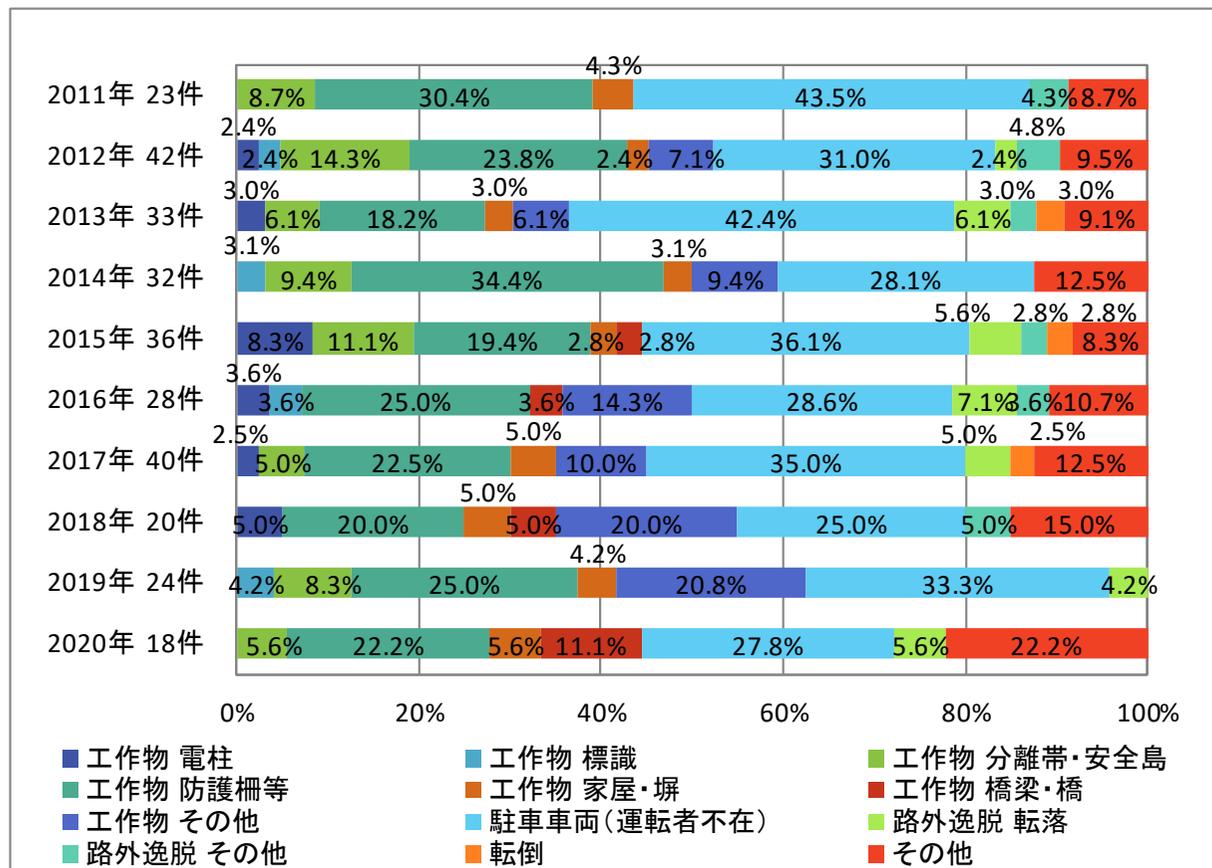


※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

Ⅱ. 死亡事故データの傾向

(3) 車両単独

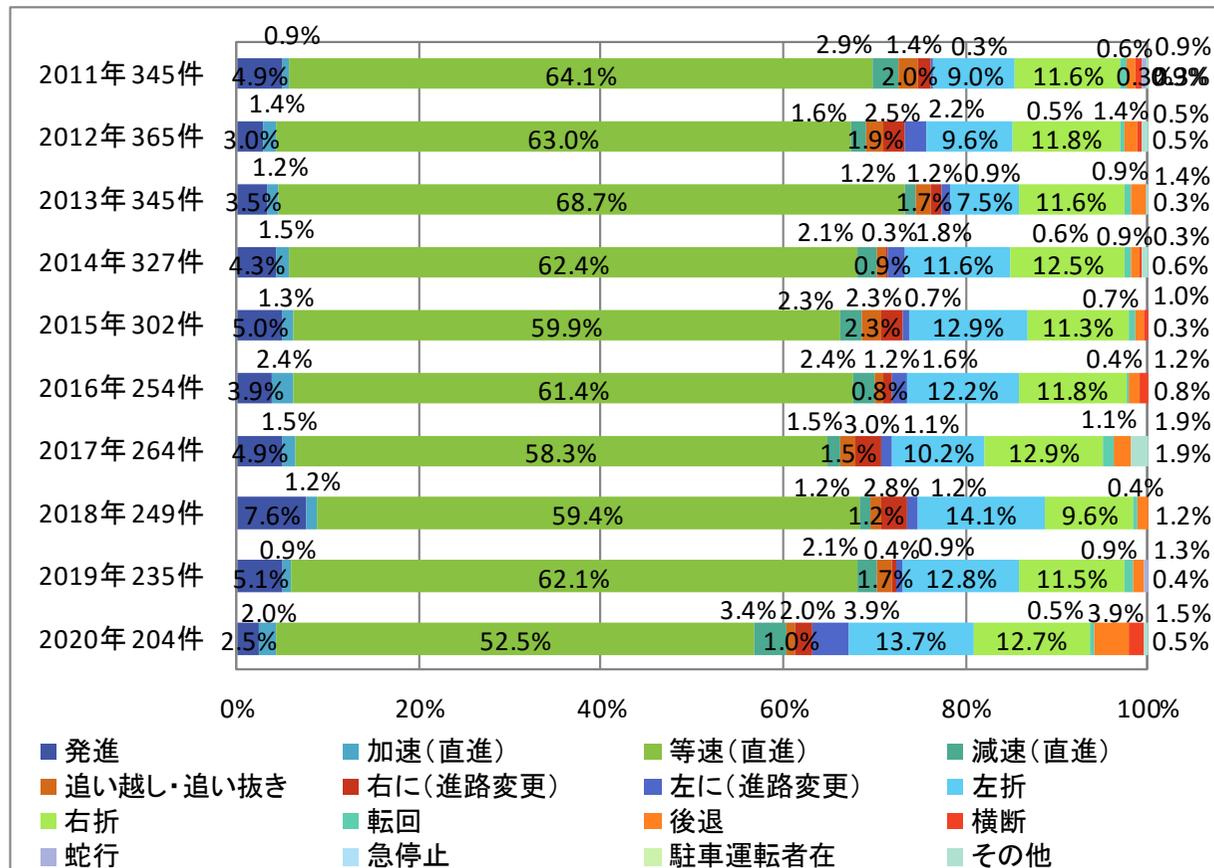
- ・ 2011年～2020年の傾向をみると、2014年を除き、「駐車車両（運転者不在）」の割合が多い。
- ・ 次いで、「工作物 防護柵等」の割合が多い。



Ⅱ. 死亡事故データの傾向

9. 行動類型別

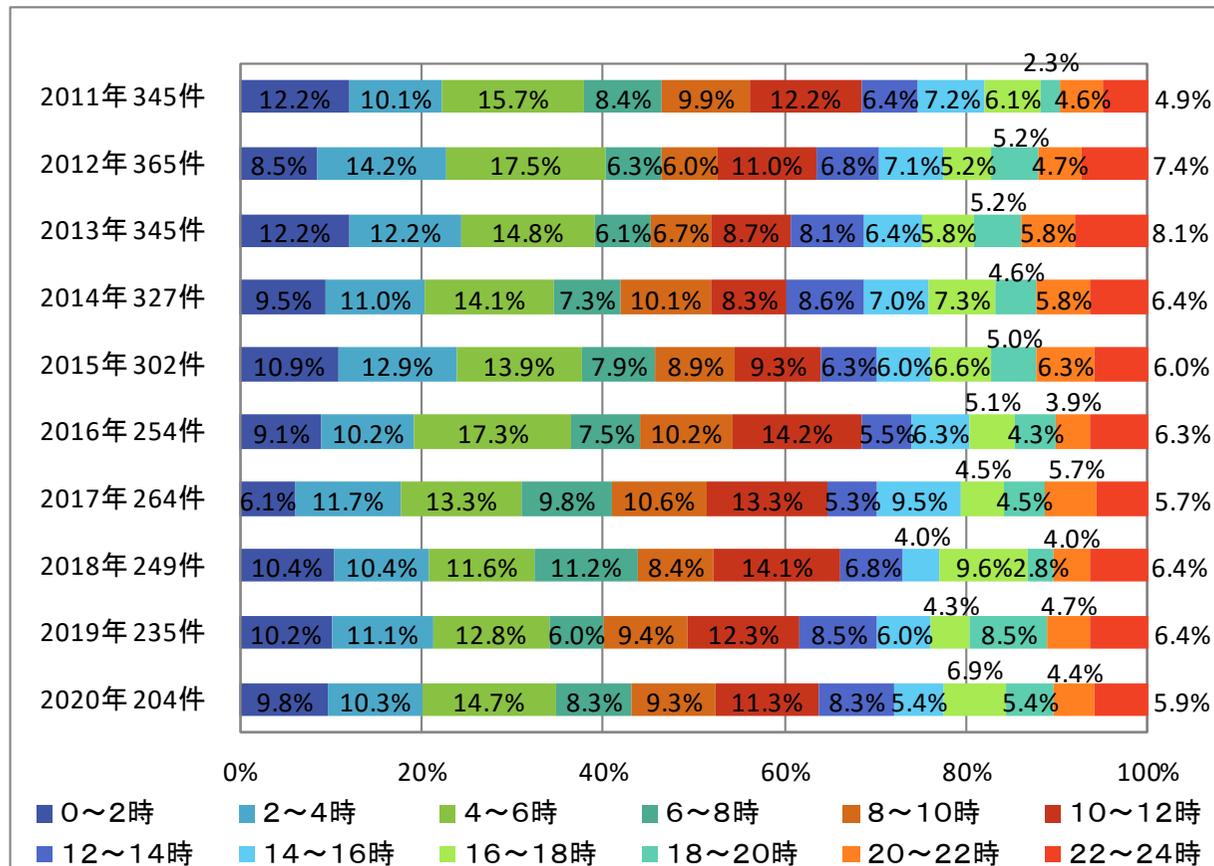
- ・2011年～2020年の傾向をみると、いずれの年も「等速（直進）」が多く、5～7割程度を占めている。
- ・各年の行動類型区分の構成比に大きな違いは見られないが、「左折」が2015年まで増加し、その後、1割程度で推移している。



Ⅱ. 死亡事故データの傾向

10. 時間帯別

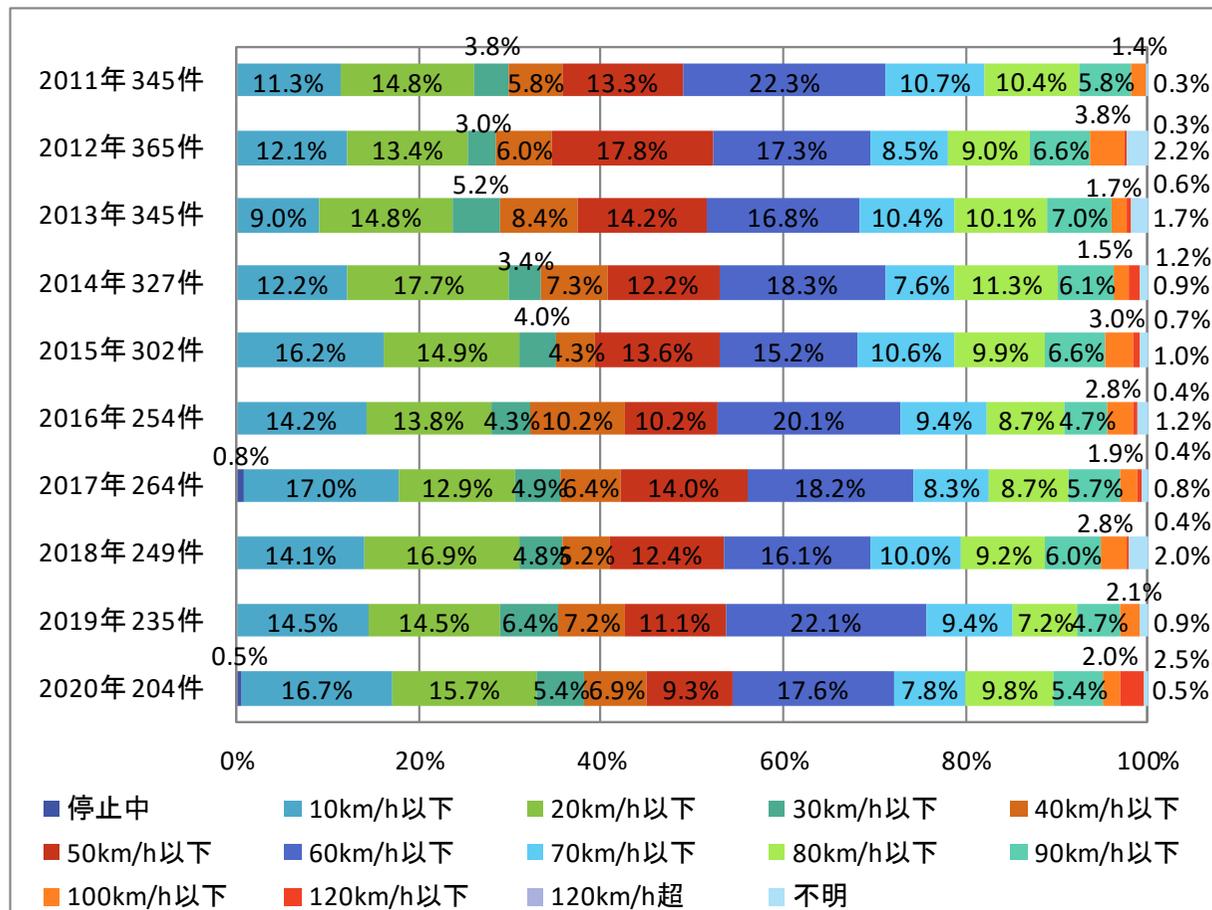
- ・ 2011年～2020年の傾向をみると、2015年までは「2～4時」、「4～6時」が多かったが、2016年以降は「4～6時」及び「10～12時」が多い。
- ・ 2015年以降、いわゆる深夜・早朝（22～6時）の時間帯の割合が減少傾向にあったが、2019年からは増加に転じている。
- ・ 2016年以降、午前中（8～12時）の割合が2割を超えている。



Ⅱ. 死亡事故データの傾向

11. 運転者の危険認知速度別

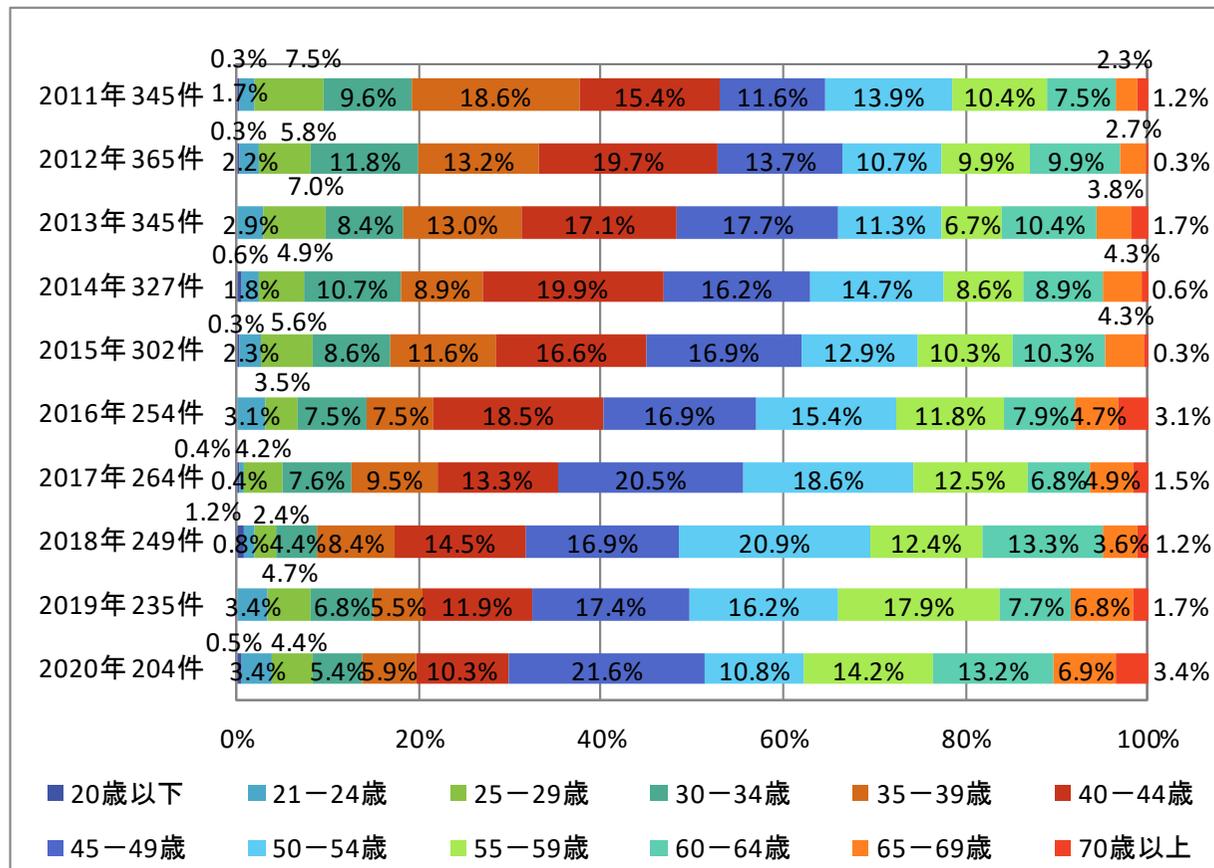
- 2011年～2020年の傾向をみると、2013年までは「10km/h以下」から「20km/h以下」までの割合が減少傾向にあったが、2014年以降、増減を繰り返している。



Ⅱ. 死亡事故データの傾向

12. 運転者の年齢層別

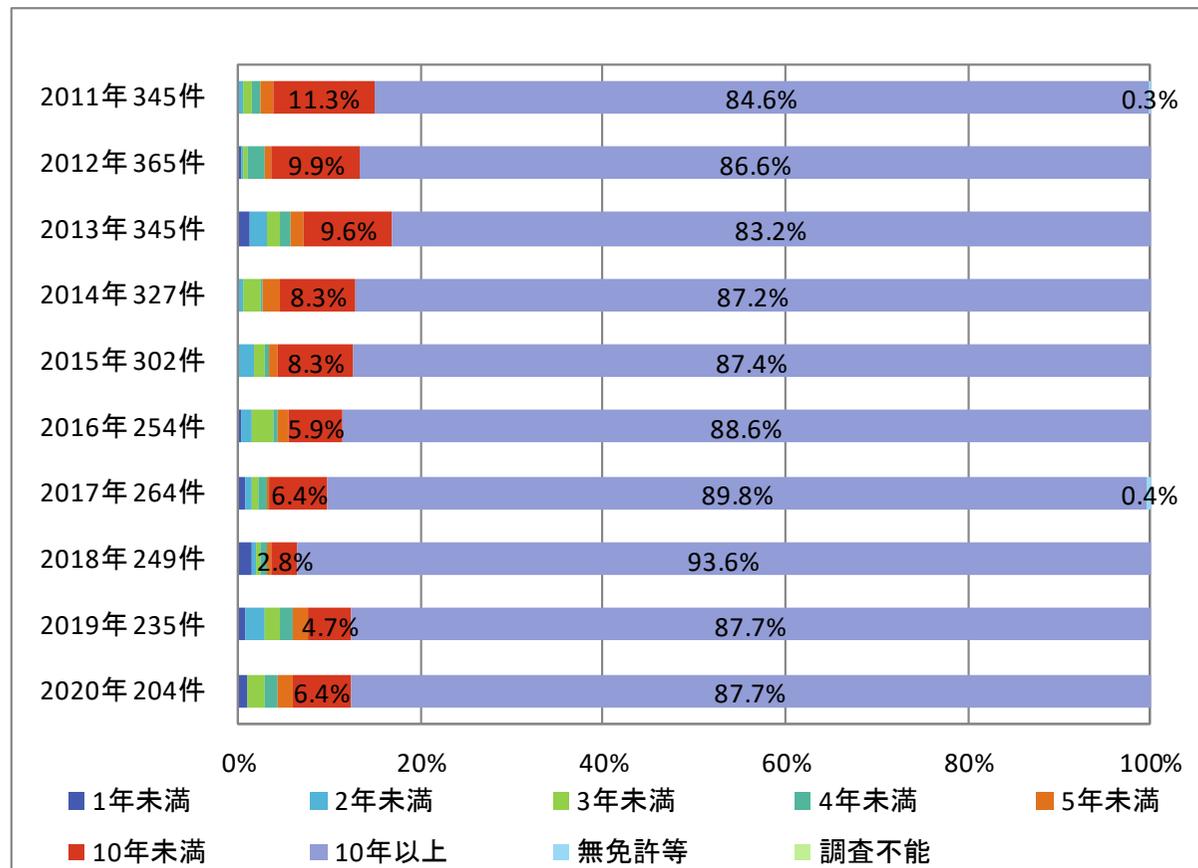
- 2011年～2020年の傾向をみると、全体的に高齢化の傾向が見られる。
- 2020年は50歳以上の割合が5割近くを占めている。



Ⅱ. 死亡事故データの傾向

13. 運転者の免許取得年数別

- ・2011年～2020年の傾向をみると、2013年以降、「10年以上」の割合が増加傾向にあったが、2019年からは減少している。



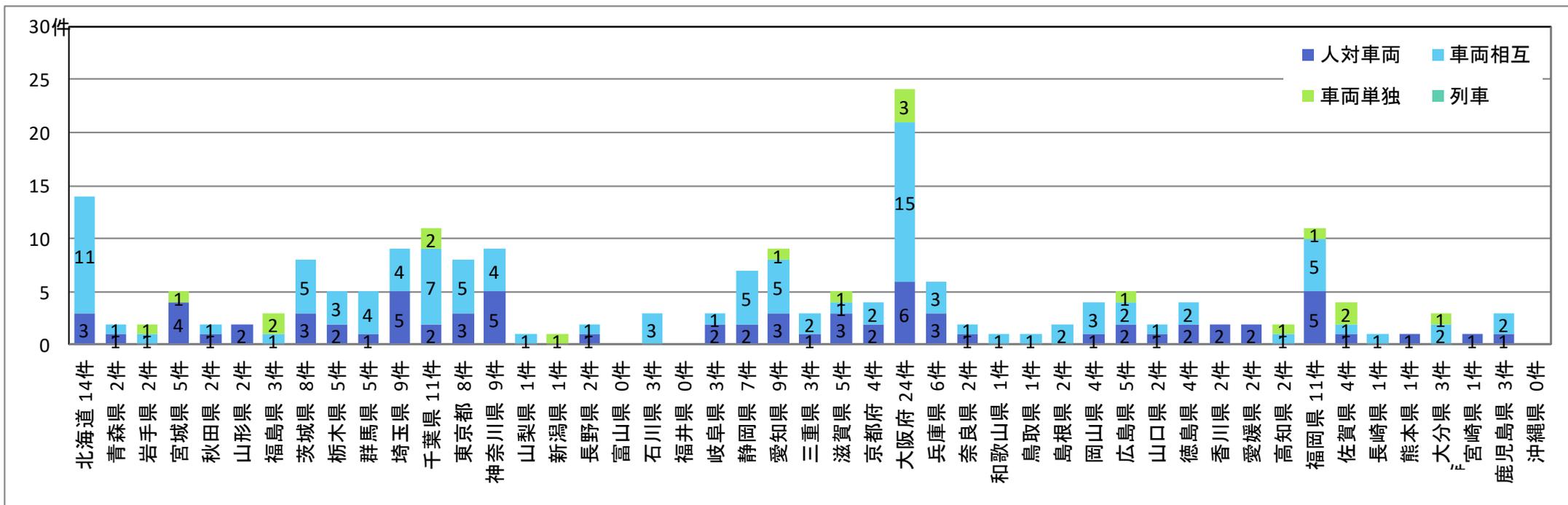
Ⅲ. 2020年死亡事故データ(車籍)

1. 車籍別の事故類型別
2. 車籍別の行動類型別
3. 車籍別の時間帯別
4. 車籍別の運転者の危険認知速度別
5. 車籍別の運転者の年齢層別
6. 車籍別の運転者の免許取得年数別

Ⅲ. 2020年死亡事故データ(車籍)

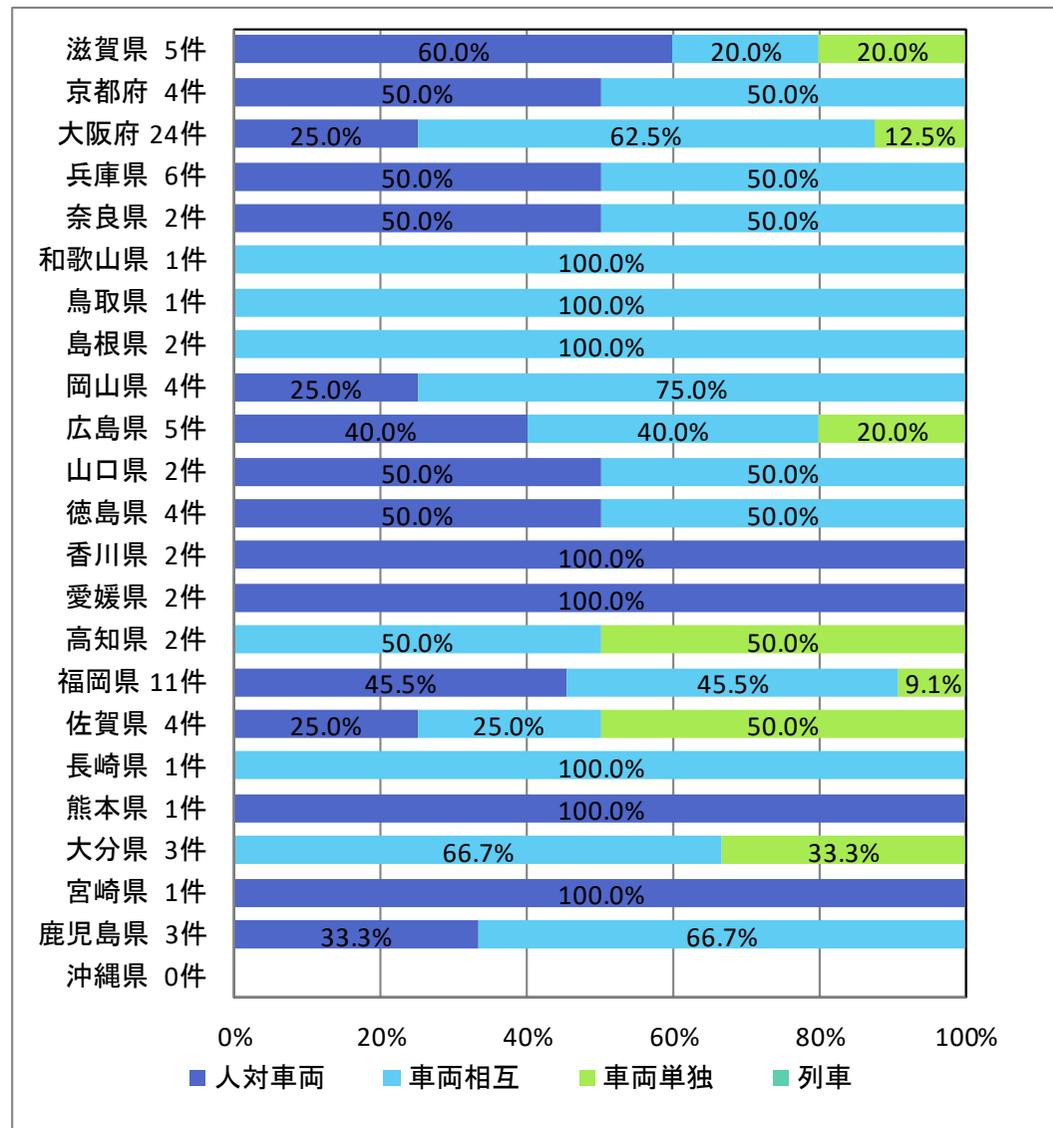
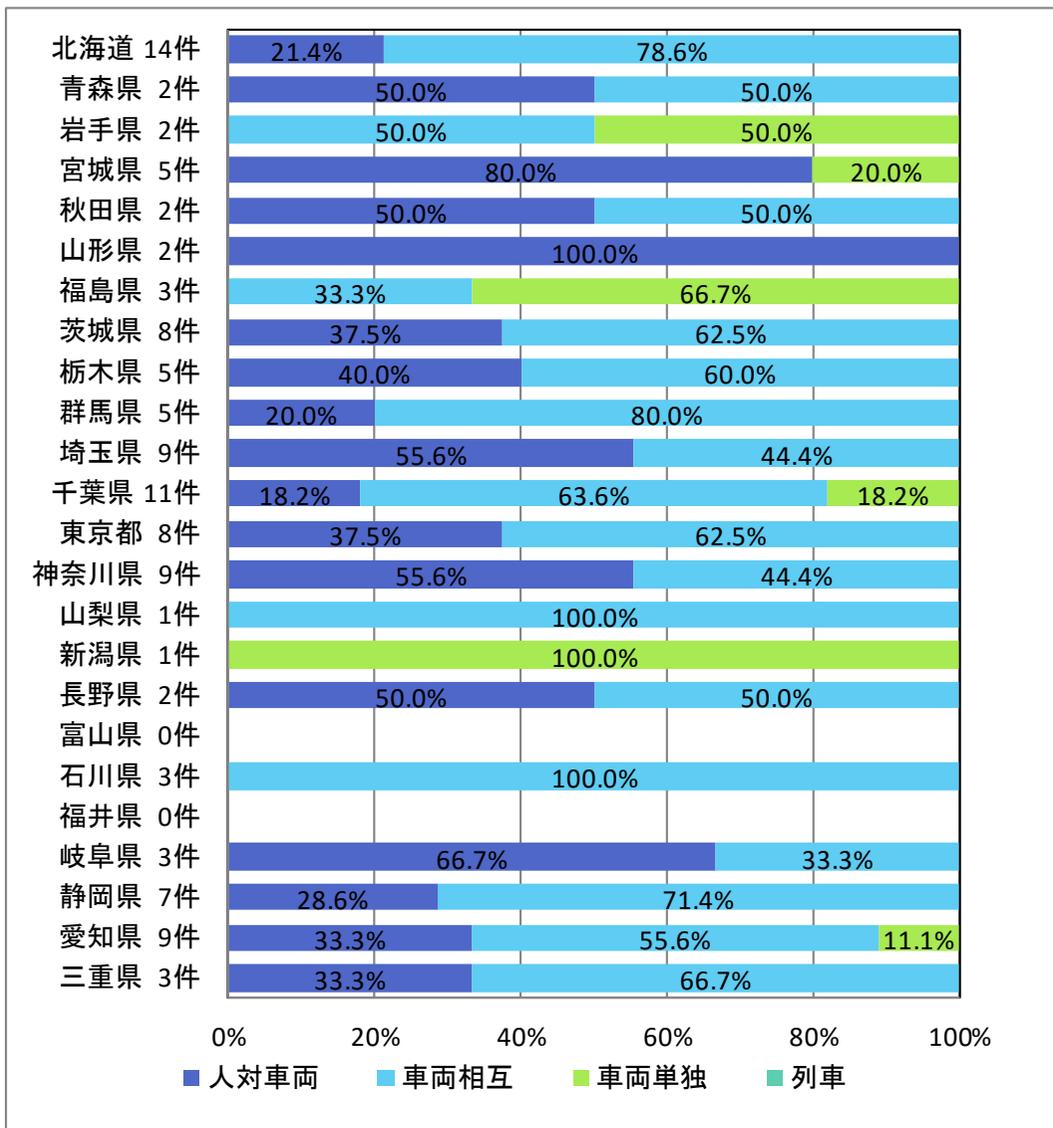
1. 車籍別の事故類型別

- ・車籍別の事故類型別にみると、「人対車両」が多い県と「車両相互」が多い県に分かれる傾向にある。
- ・事故発生件数の多い県をみると、「大阪府」、「北海道」、「北海道」、「千葉県」、「愛知県」は「車両相互」が多い。「埼玉県」、「神奈川県」は「人対車両」が多い。「福岡県」は「人対車両」と「車両相互」に分かれる。



※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

Ⅲ. 2020年死亡事故データ(車籍)

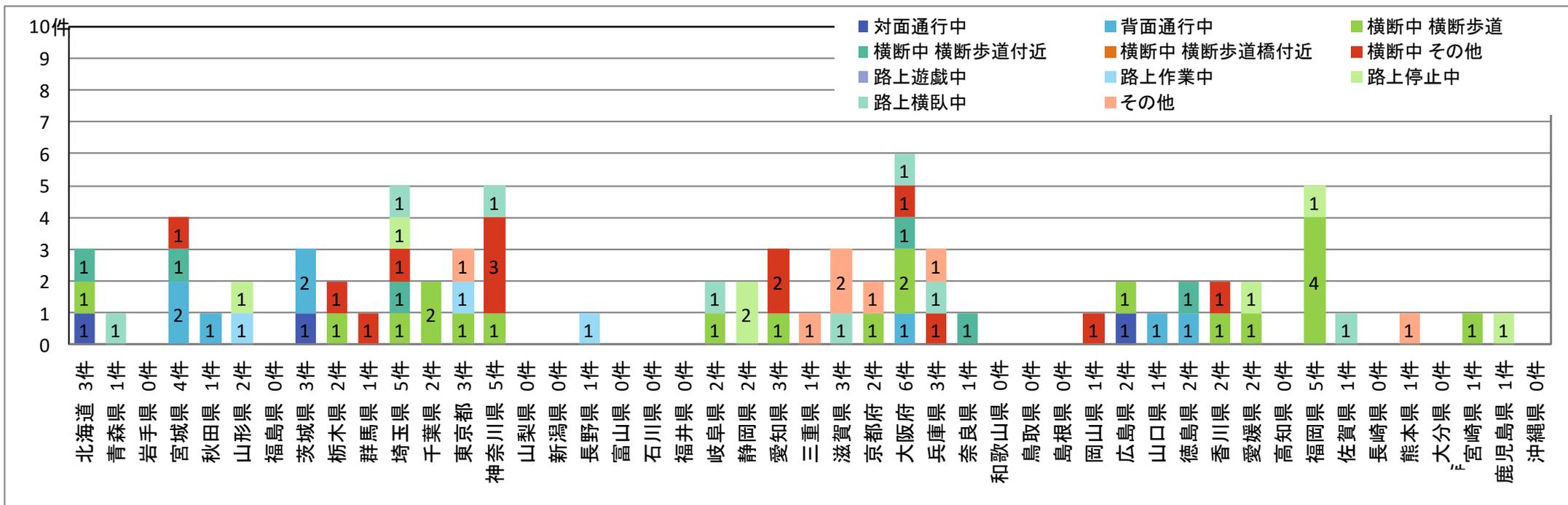


※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

Ⅲ. 2020年死亡事故データ(車籍)

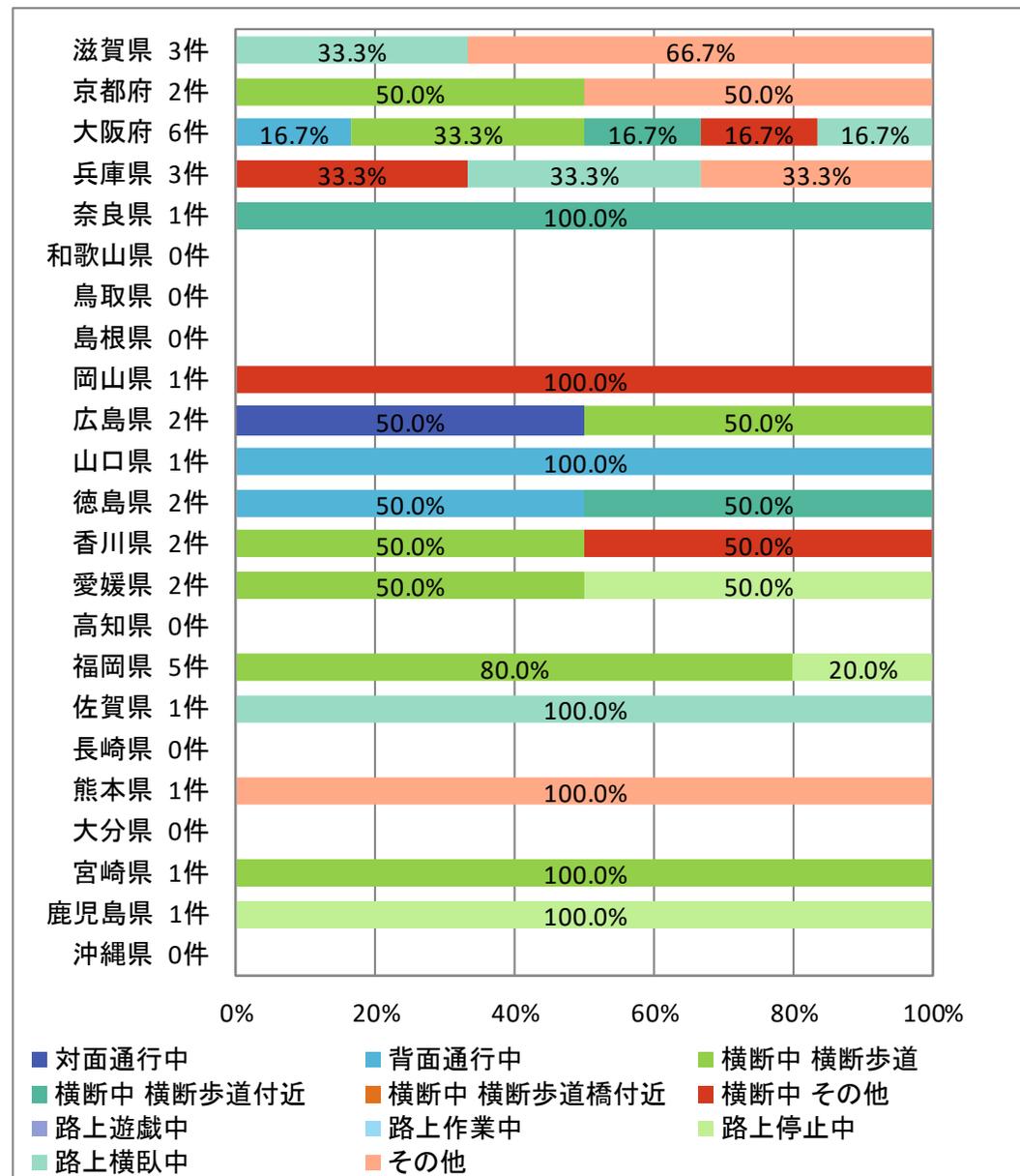
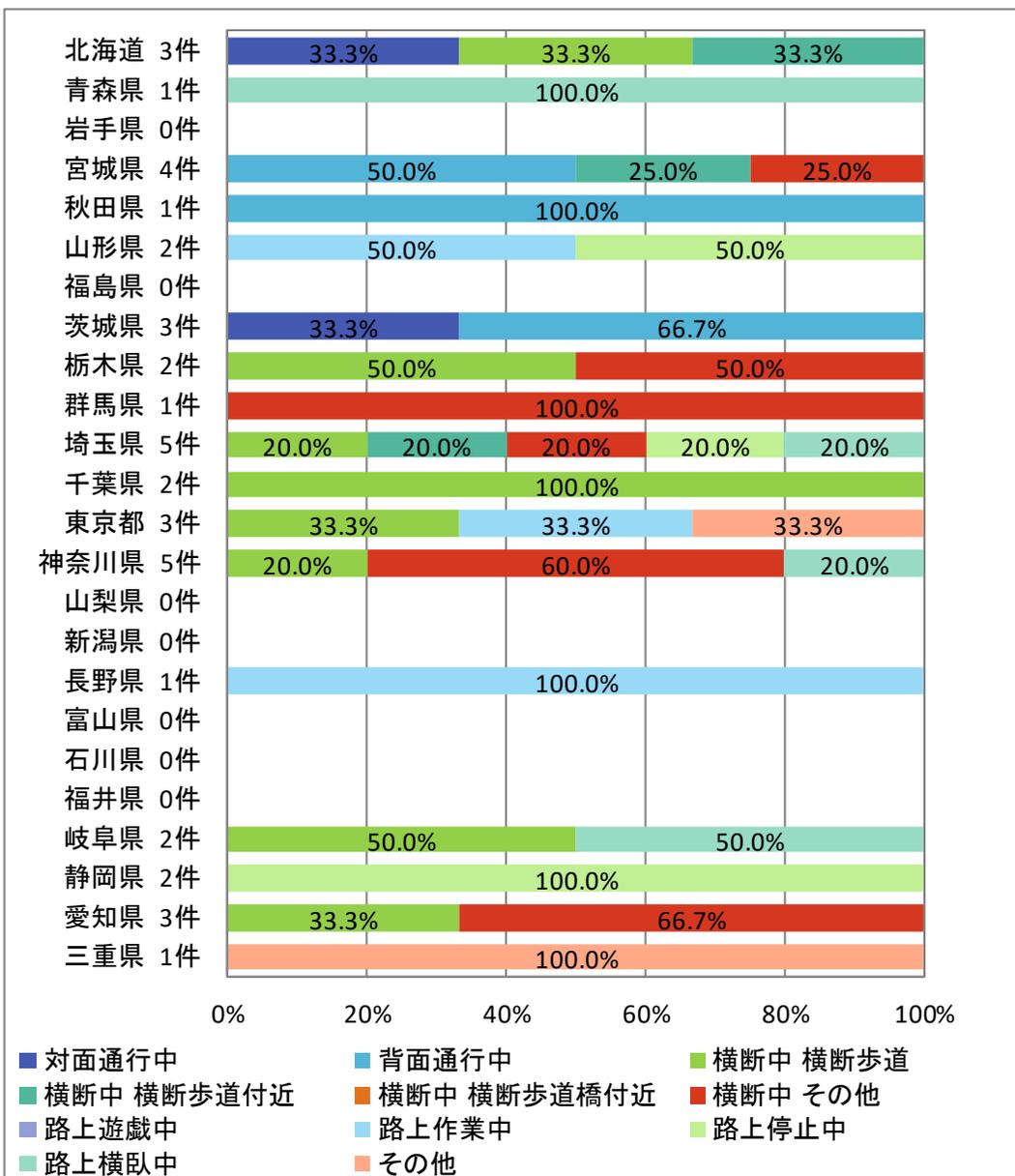
(1) 人対車両

- ・車籍別の事故類型（人対車両）別にみると、概ね「横断中 横断歩道」が多い県と「横断中 その他」が多い県に分かれる傾向にある。
- ・事故発生件数の多い県をみると、「大阪府」、「福岡県」では「横断中 横断歩道」が多い。
- ・「埼玉県」では傾向が分かれている。
- ・「神奈川県」では「横断中 その他」が多い。



※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

Ⅲ. 2020年死亡事故データ(車籍)

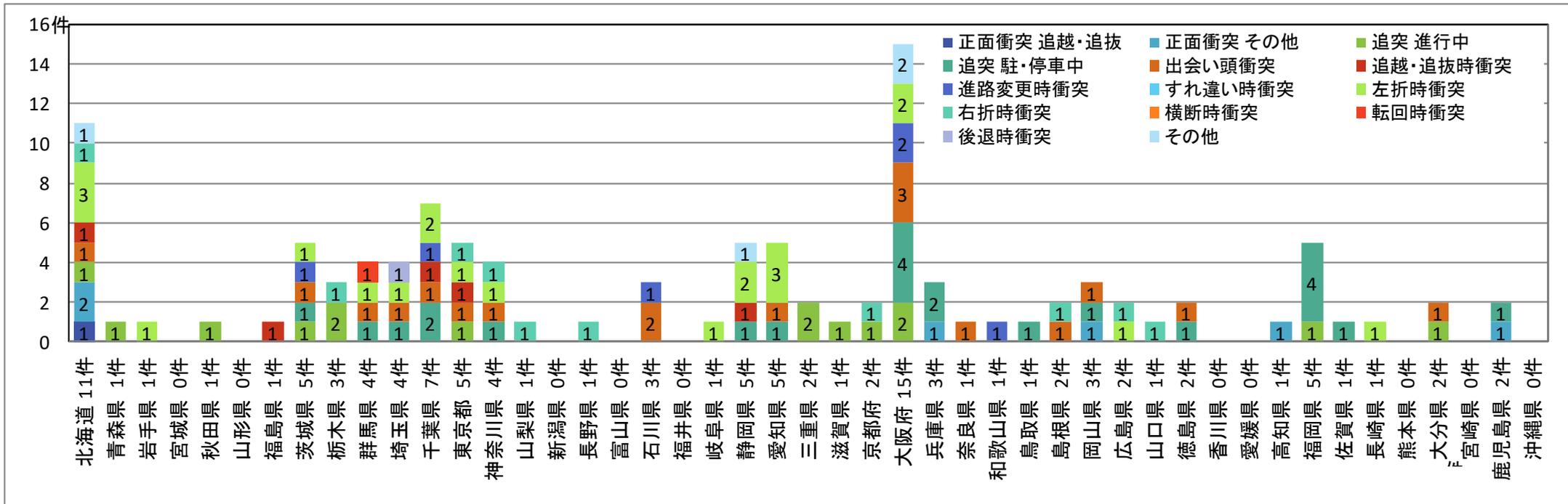


※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

Ⅲ. 2020年死亡事故データ(車籍)

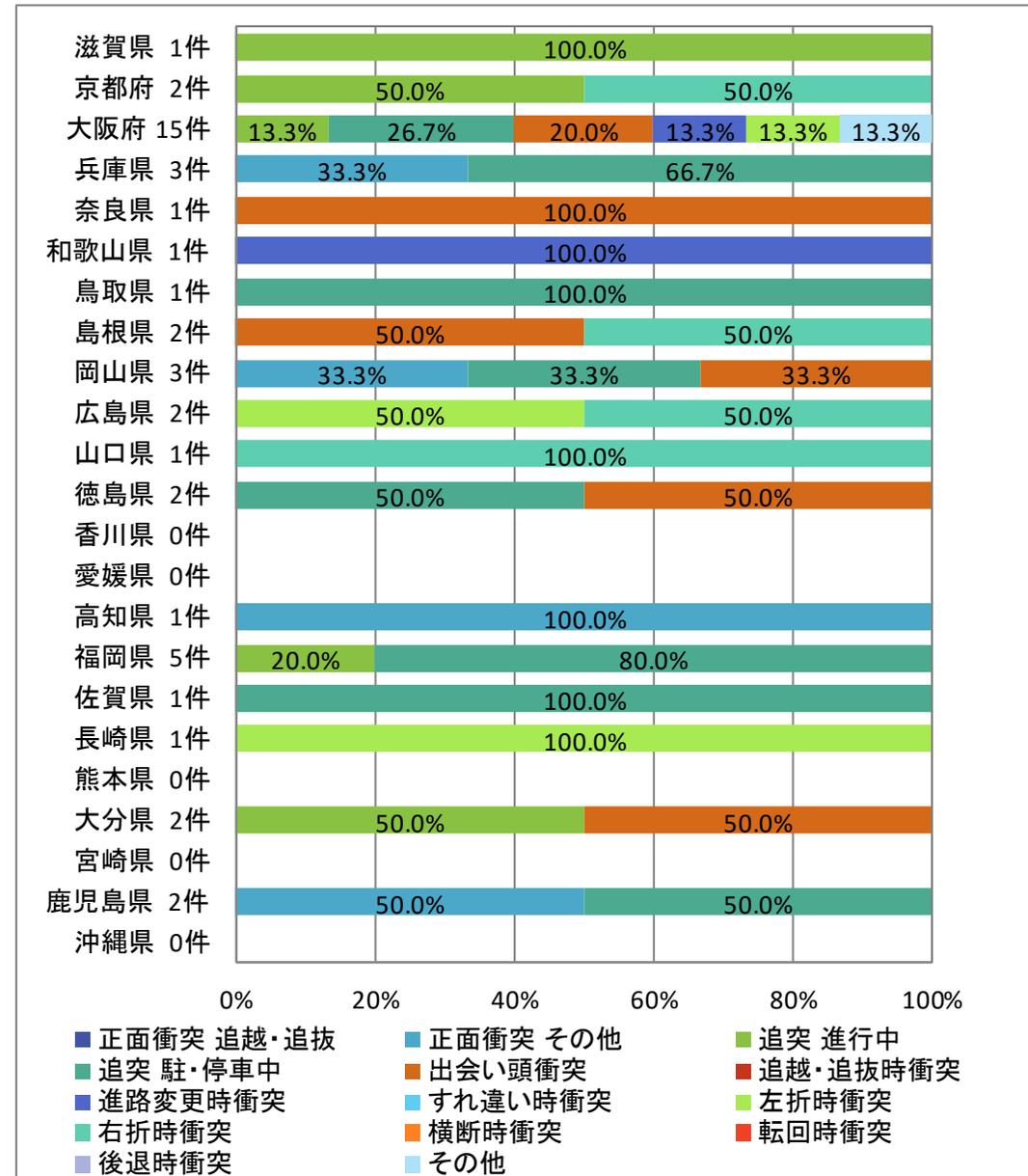
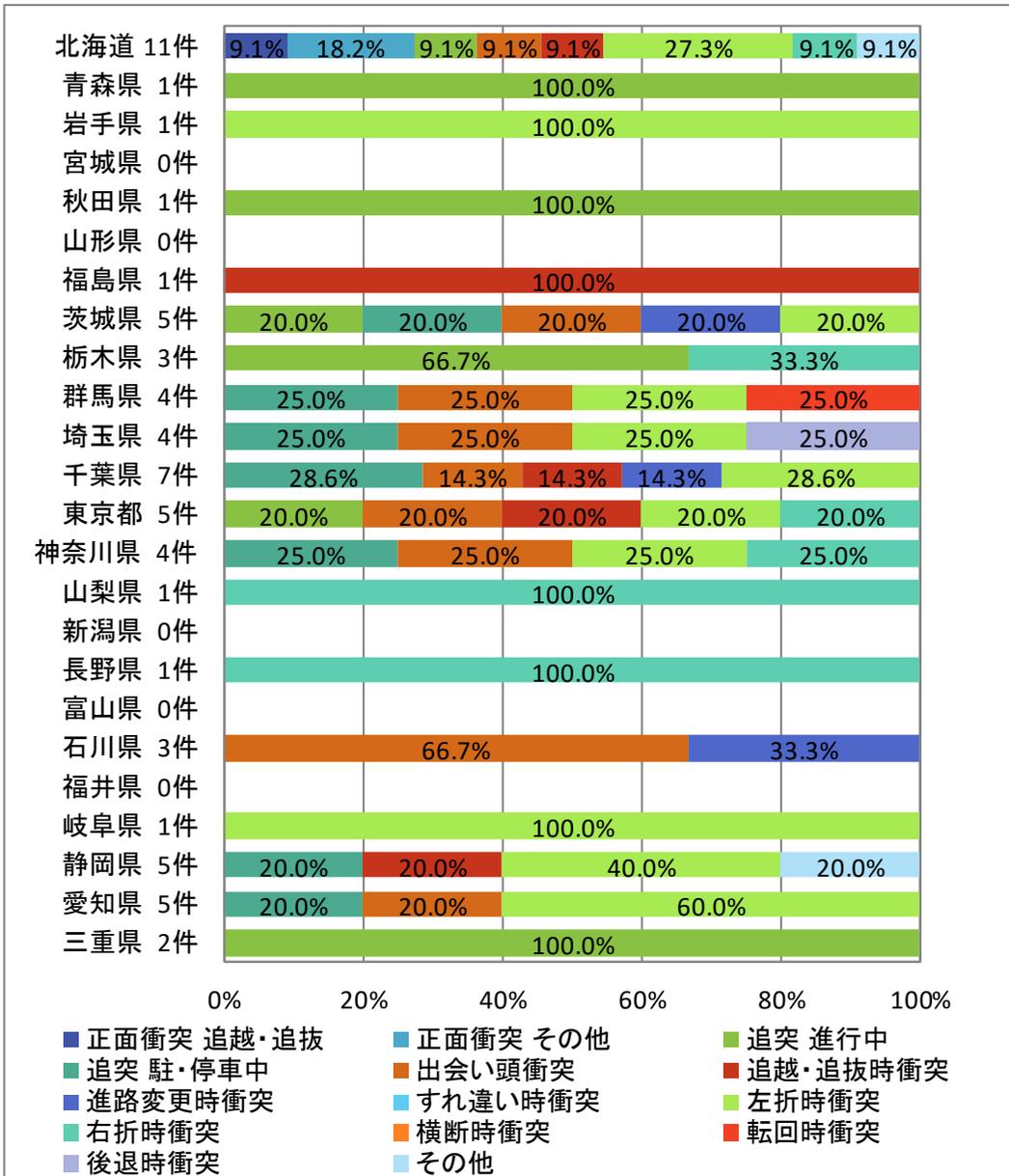
(2) 車両相互

- ・車籍別の事故類型（車両相互）別にみると、各県によって傾向は異なる。
- ・事故発生件数の多い県をみると、「大阪府」では「追突 駐・停車中」が多い。
- ・「北海道」では「左折時衝突」が多い。
- ・「千葉県」では「追突 進行中」、「左折時衝突」が多い。



※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

Ⅲ. 2020年死亡事故データ(車籍)

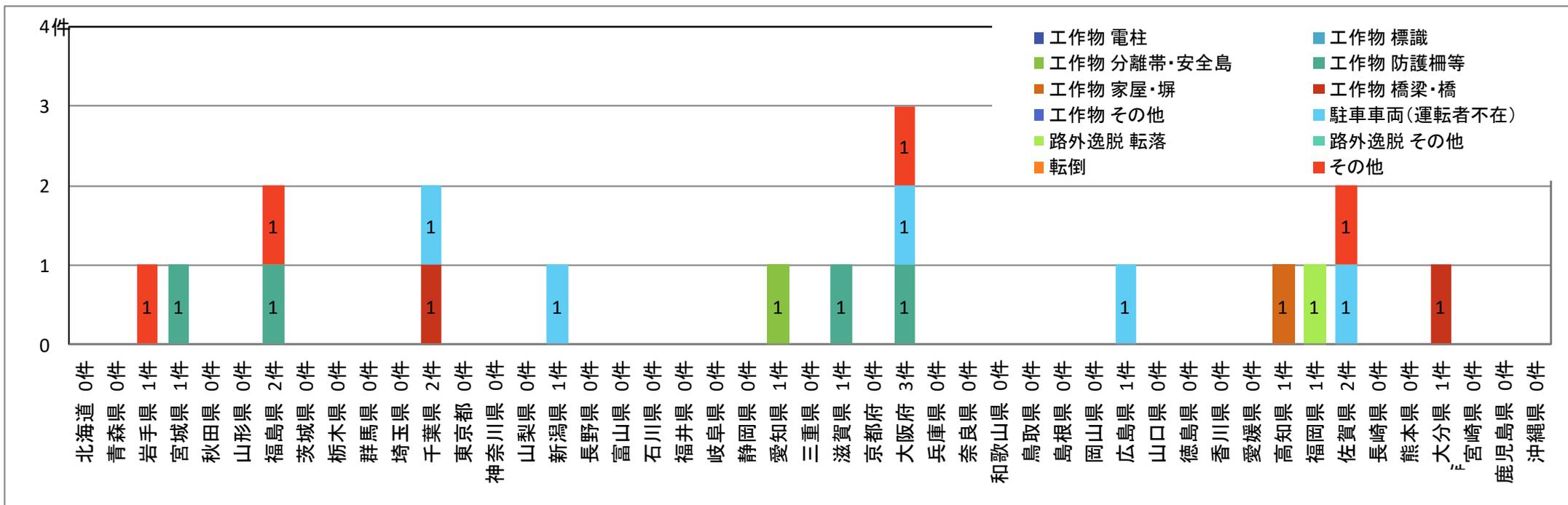


※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

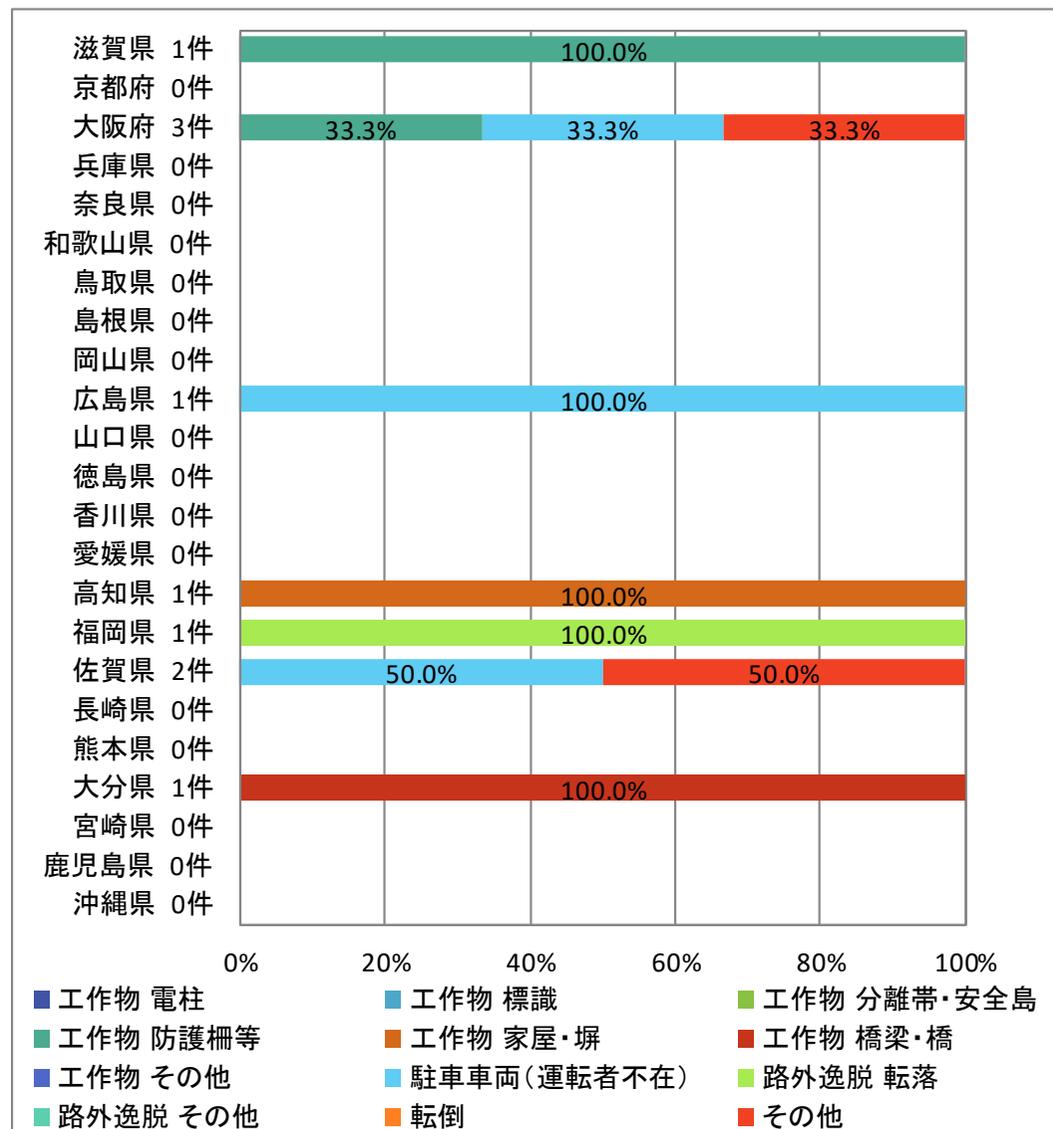
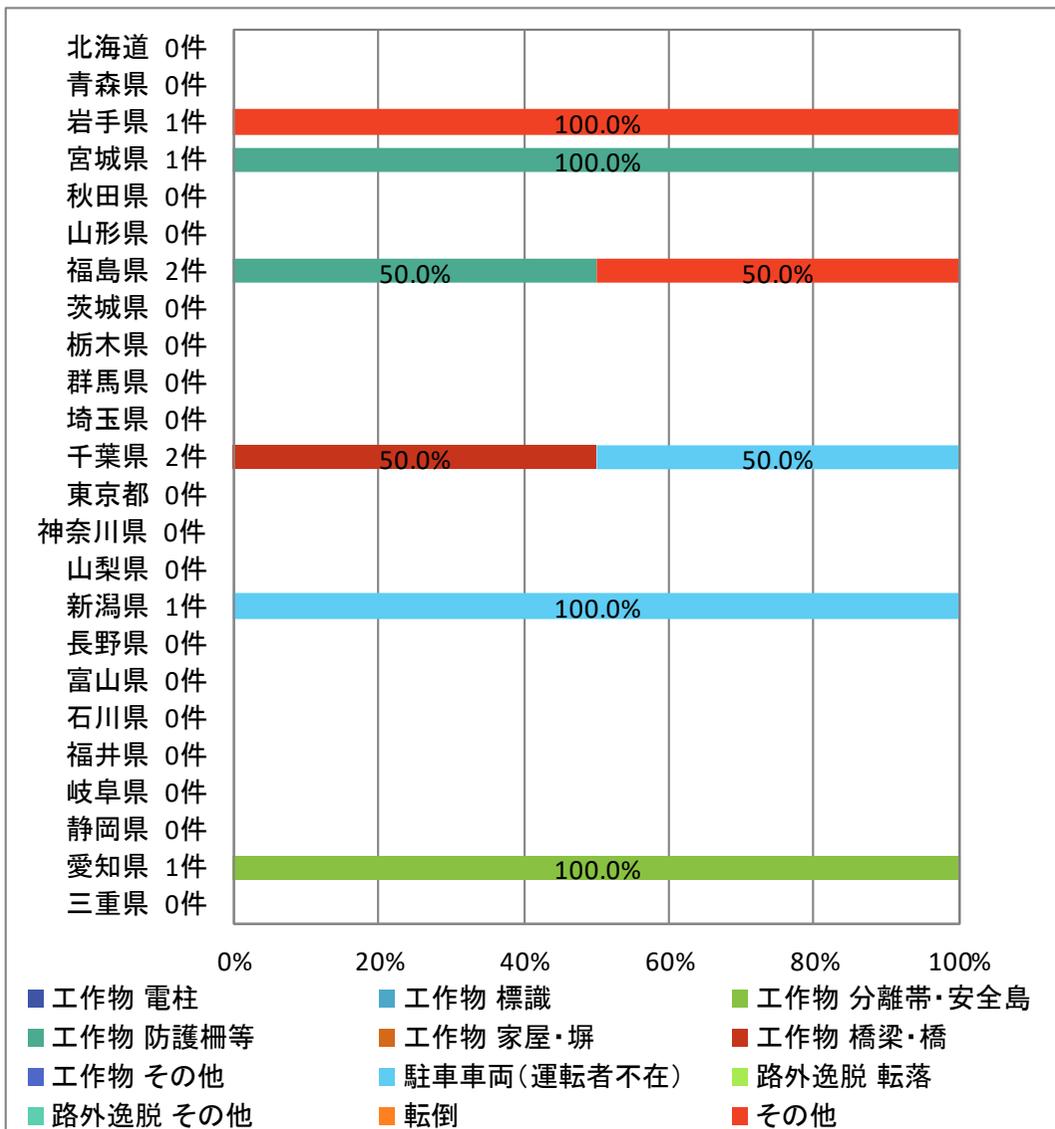
Ⅲ. 2020年死亡事故データ(車籍)

(3) 車両単独

- ・車籍別の事故類型(車両単独)別について事故発生件数の多い県をみると、「大阪府」では「工作物 防護柵等」、「駐車車両(運転者不在)」、「その他」となっている。



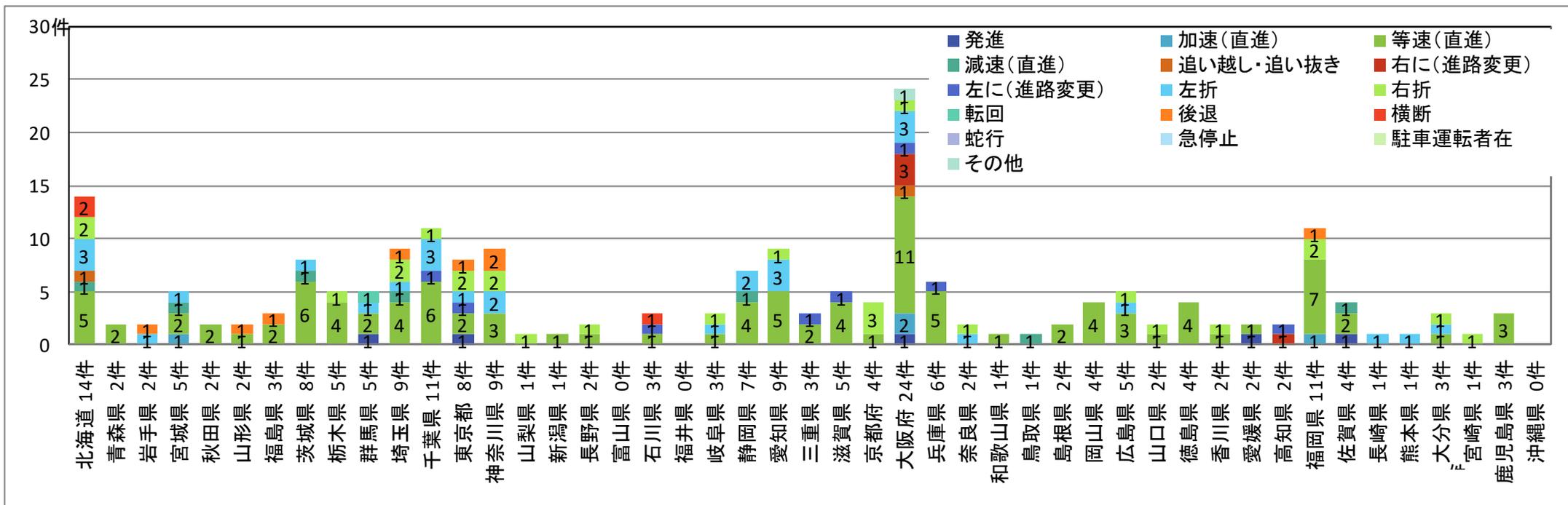
Ⅲ. 2020年死亡事故データ(車籍)



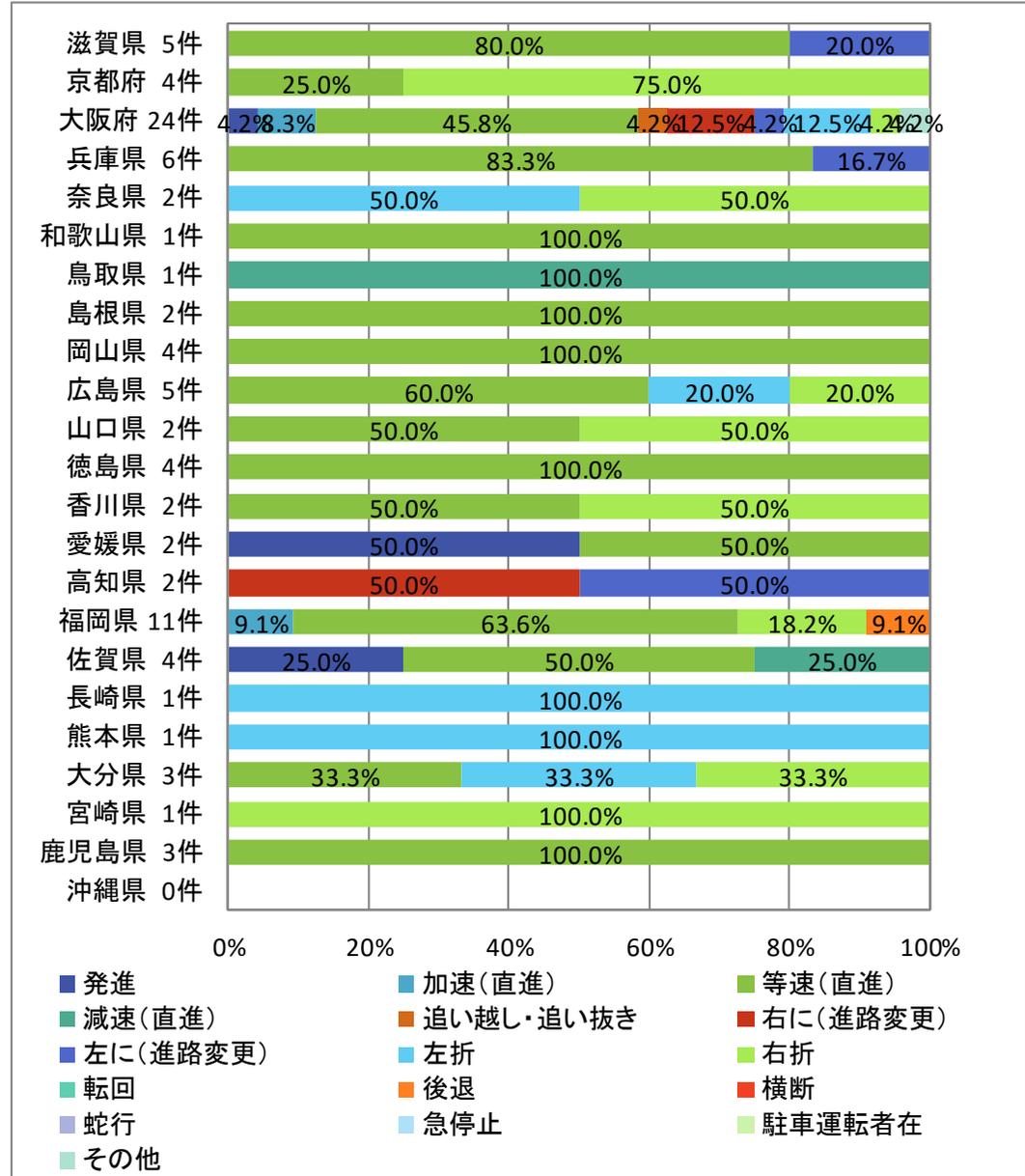
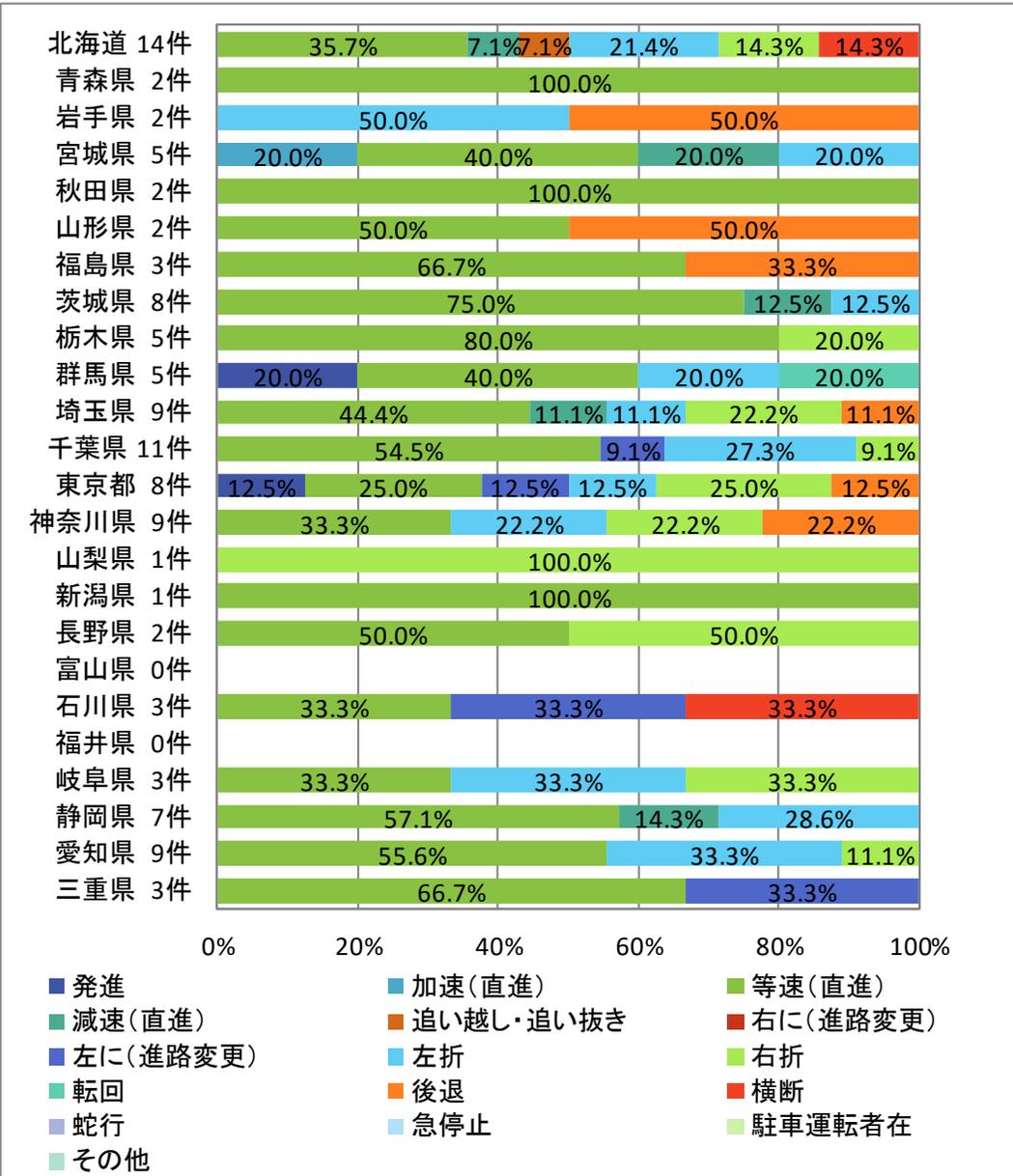
Ⅲ. 2020年死亡事故データ(車籍)

2. 車籍別の行動類型別

・車籍別の行動類型別にみると、一部の県を除き「等速（直進）」が多くなっている。



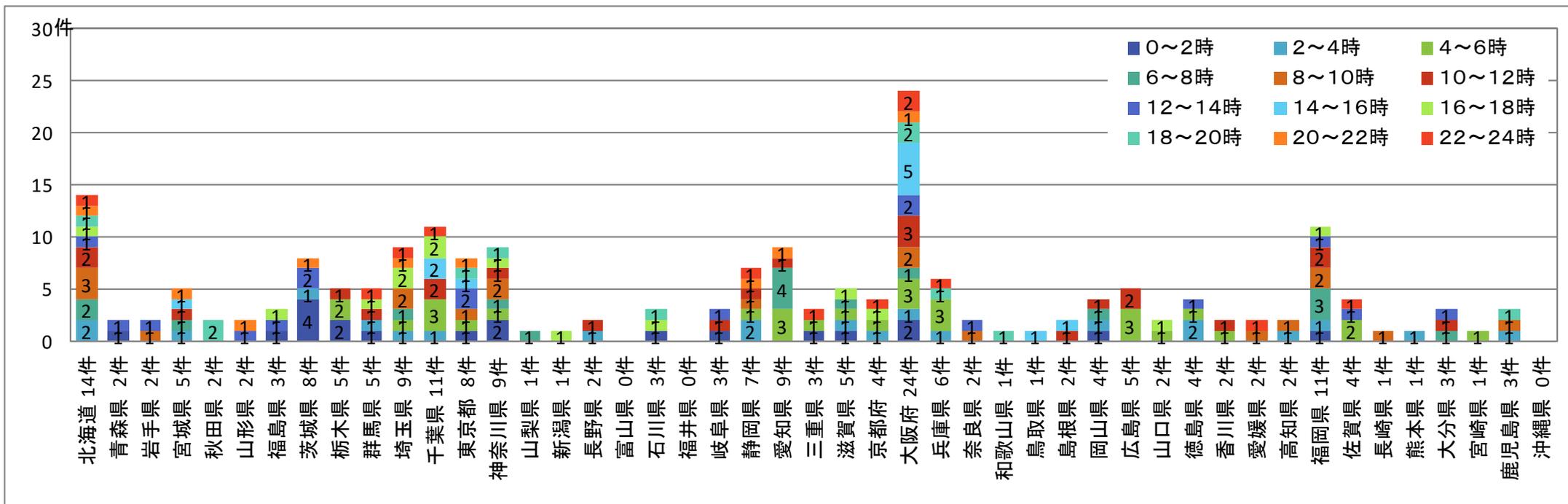
Ⅲ. 2020年死亡事故データ(車籍)



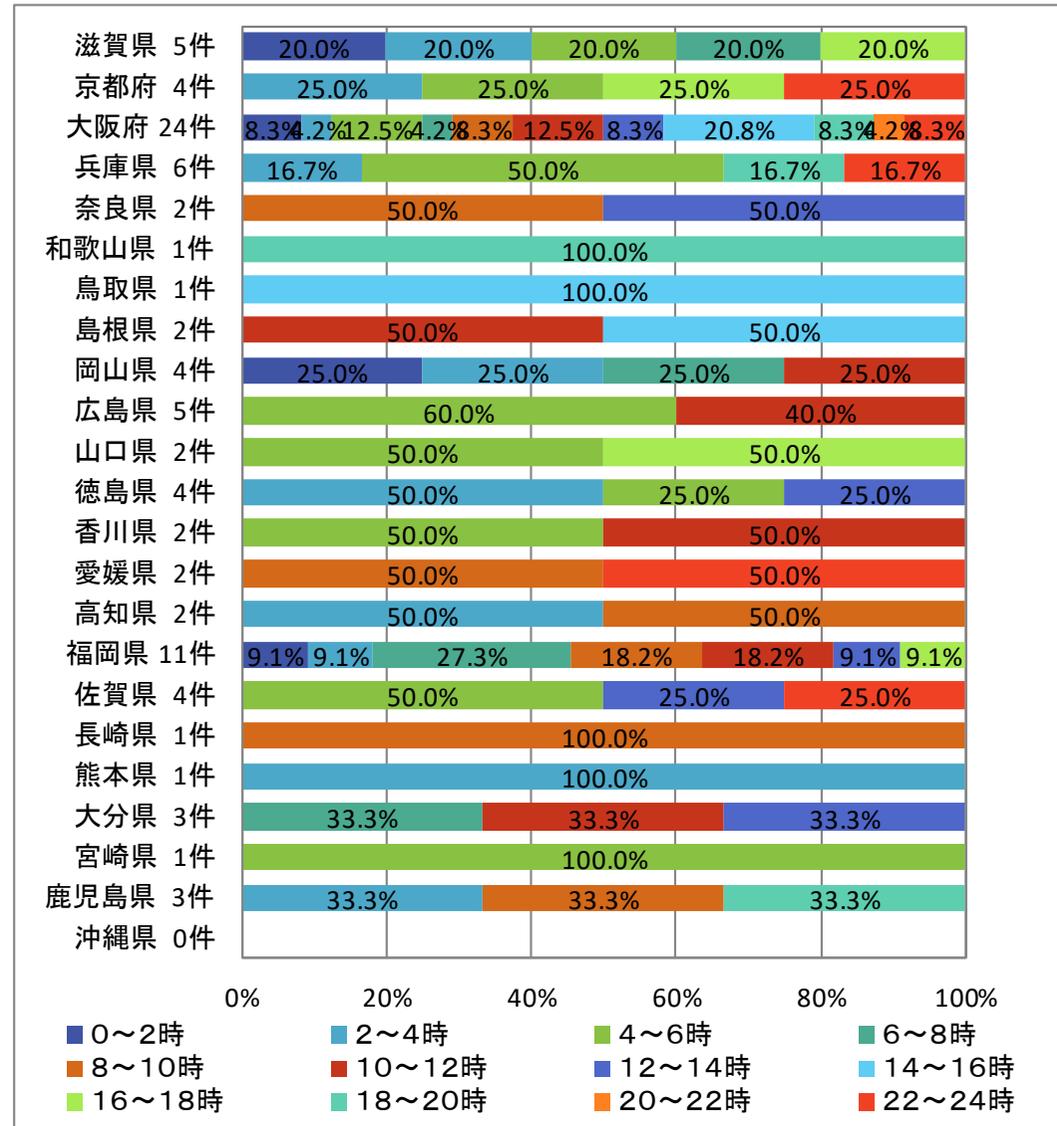
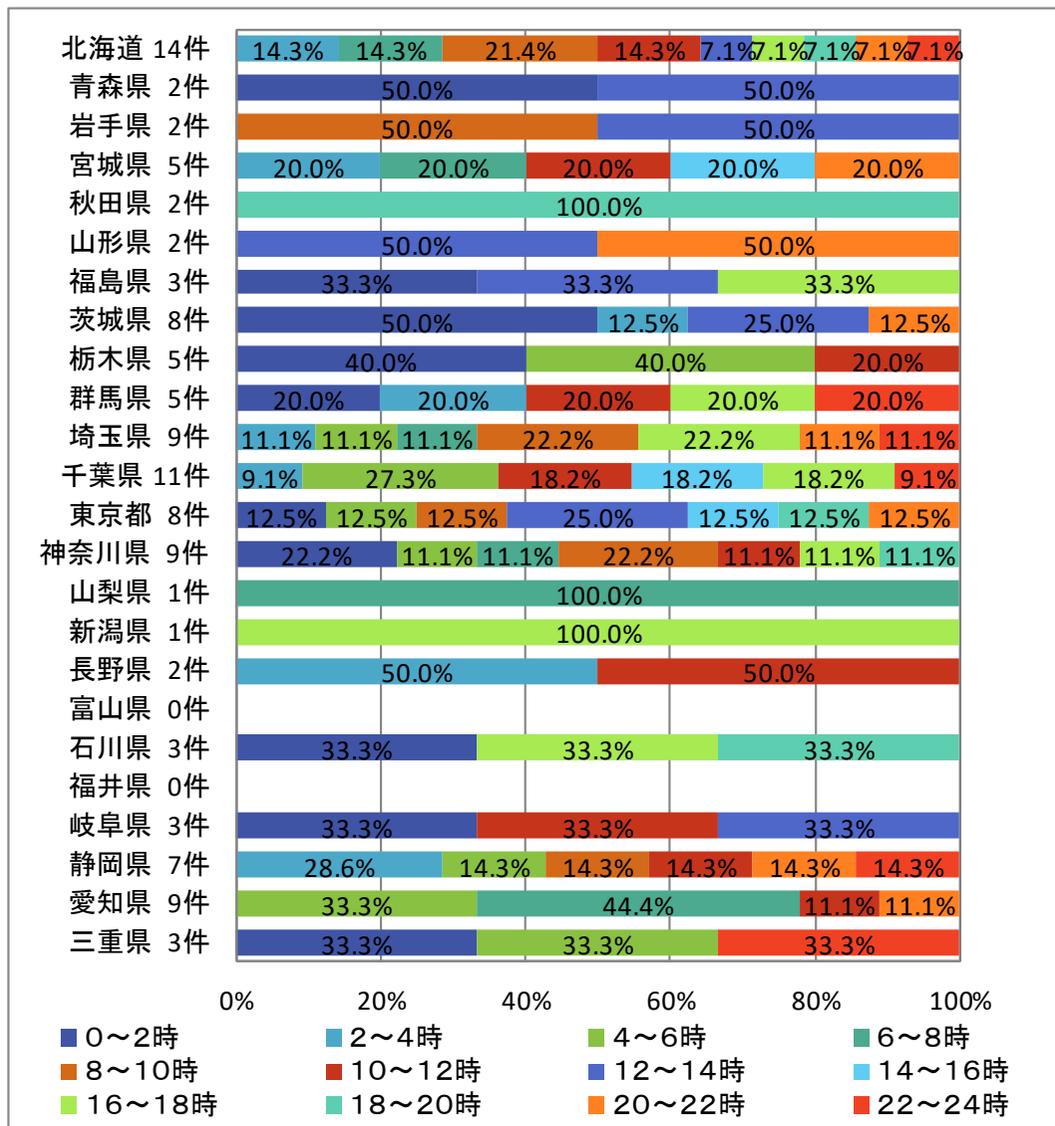
Ⅲ. 2020年死亡事故データ(車籍)

3. 車籍別の時間帯別

- ・車籍別の時間帯別にみると、各県によって傾向は異なる。
- ・事故発生件数の多い県をみると、「大阪府」では「14～16時」が多い。
- ・「北海道」、「神奈川県」では「8～10時」が多い。
- ・「福岡県」、「愛知県」では「6～8時」が多い。
- ・「千葉県」では「4～6時」が多い。
- ・「埼玉県」では「8～10時」、「16～18時」が多い。



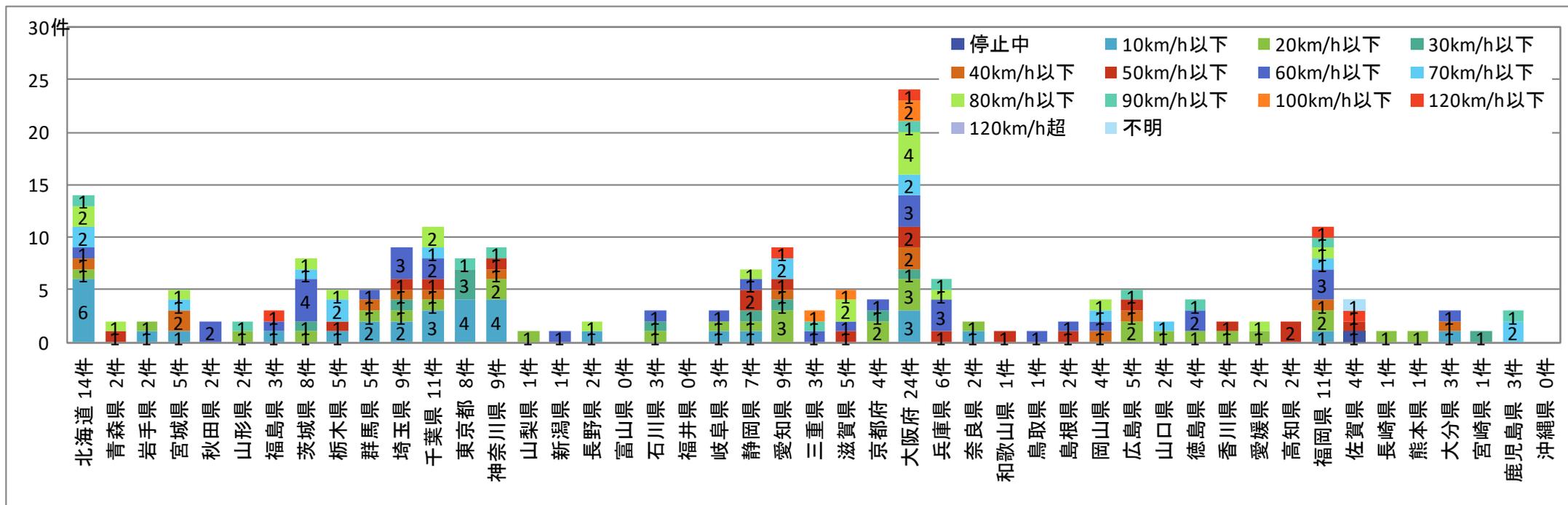
Ⅲ. 2020年死亡事故データ(車籍)



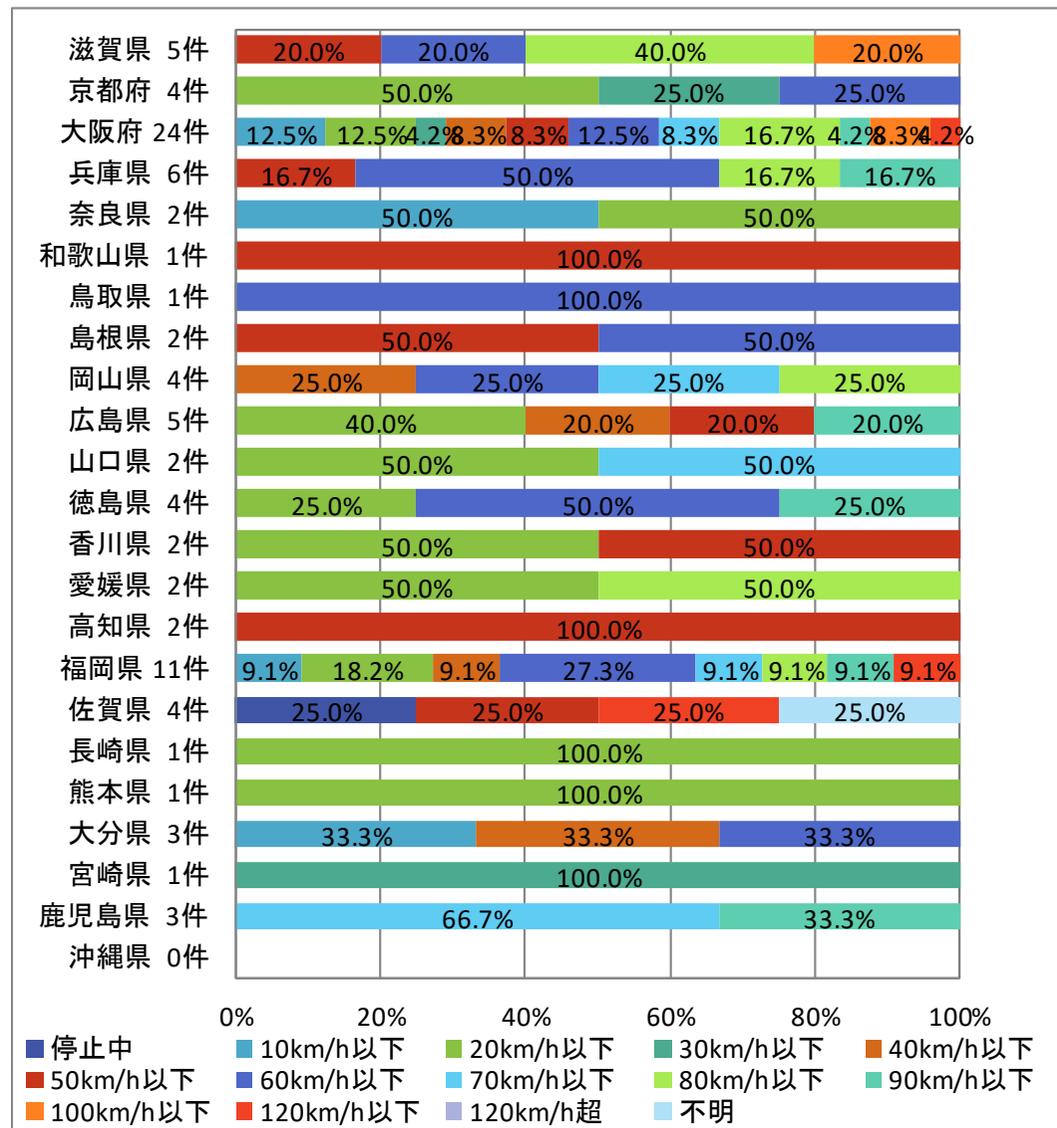
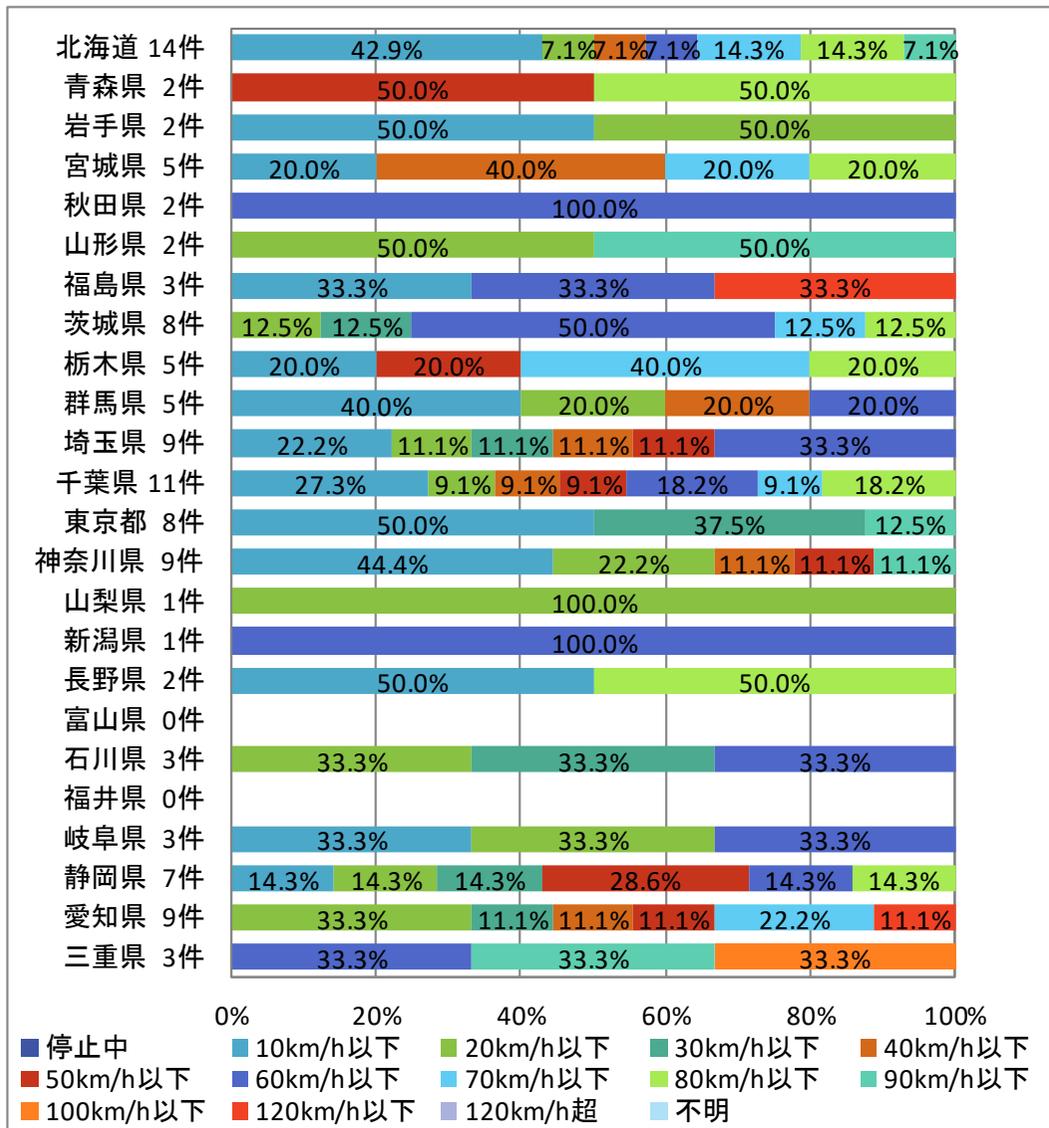
Ⅲ. 2020年死亡事故データ(車籍)

4. 車籍別の運転者の危険認知速度別

- ・車籍別の危険認知速度別にみると、各県によって傾向は異なる。
- ・事故発生件数の多い県をみると、「大阪府」では「80km/h以下」が多い。
- ・「福岡県」、「埼玉県」では「60km/h以下」が多い。
- ・「北海道」、「千葉県」、「神奈川県」では「10km/h以下」が多い。
- ・「愛知県」では「20km/h以下」が多い。



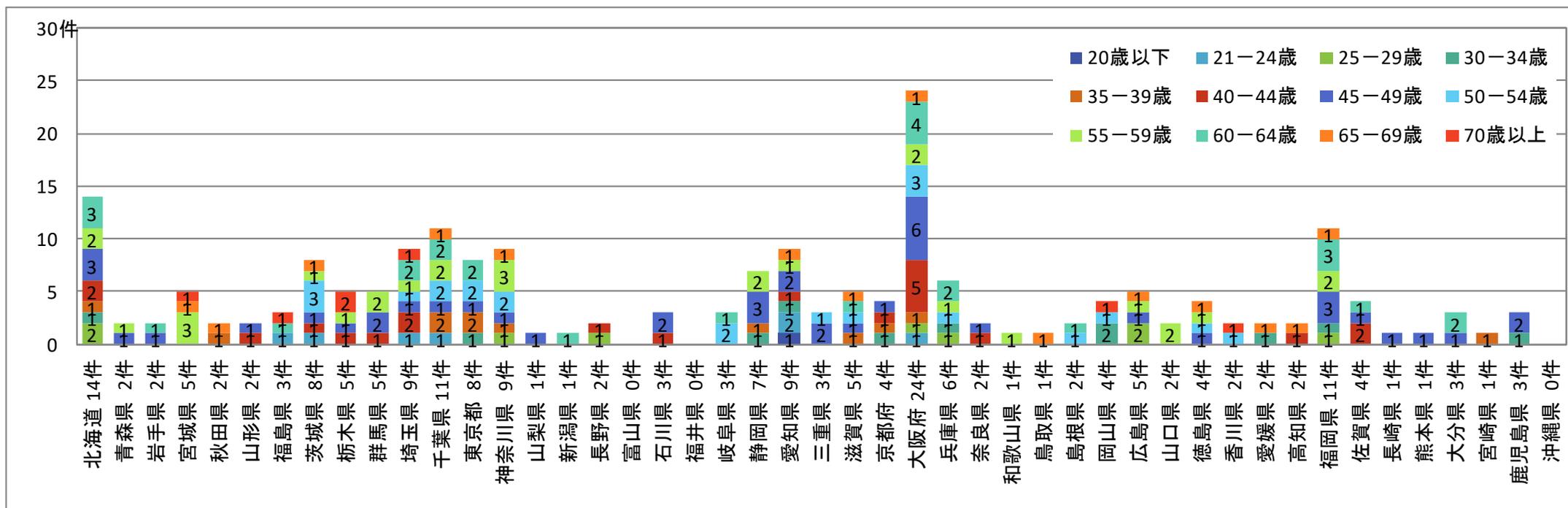
Ⅲ. 2020年死亡事故データ(車籍)



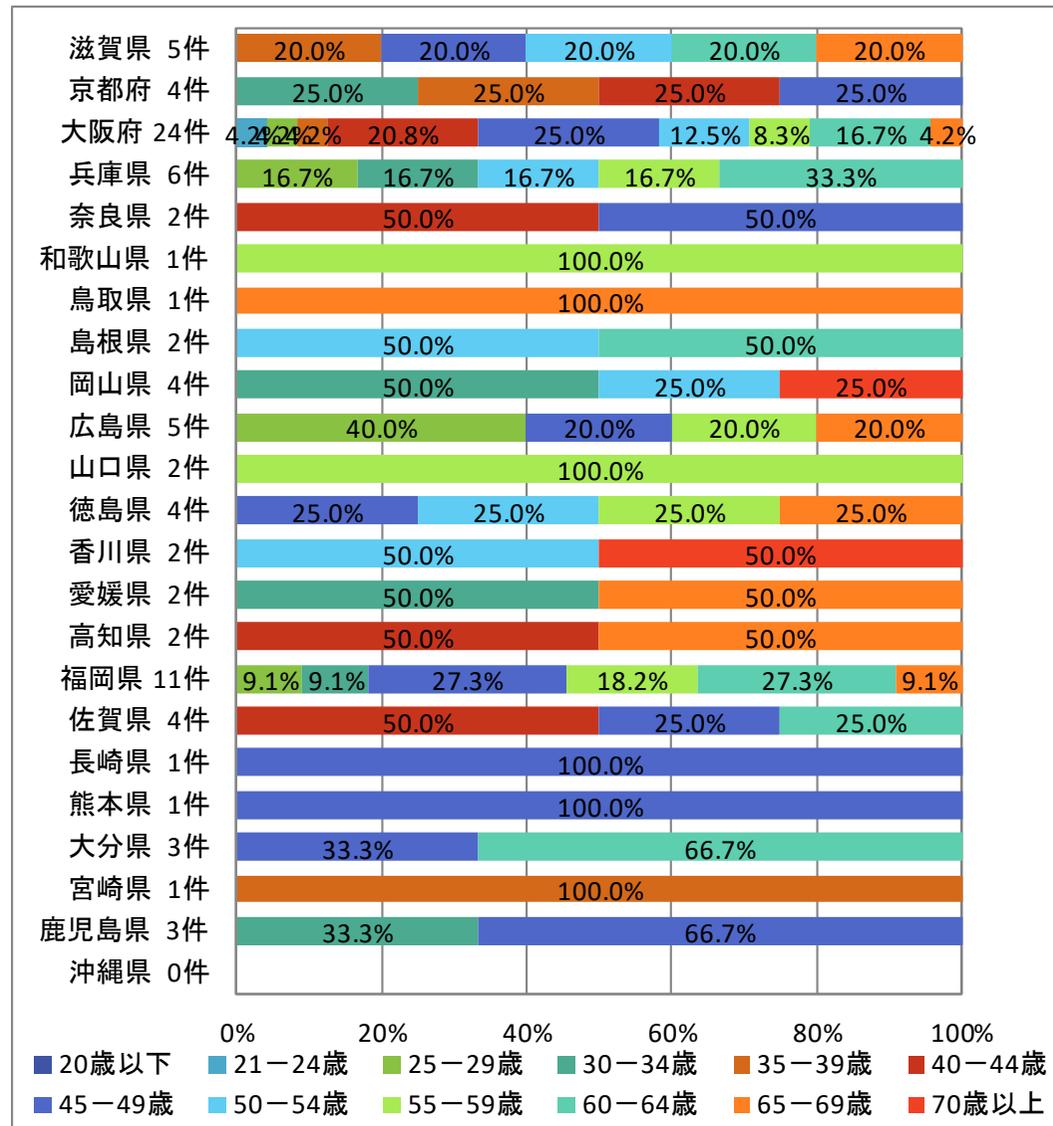
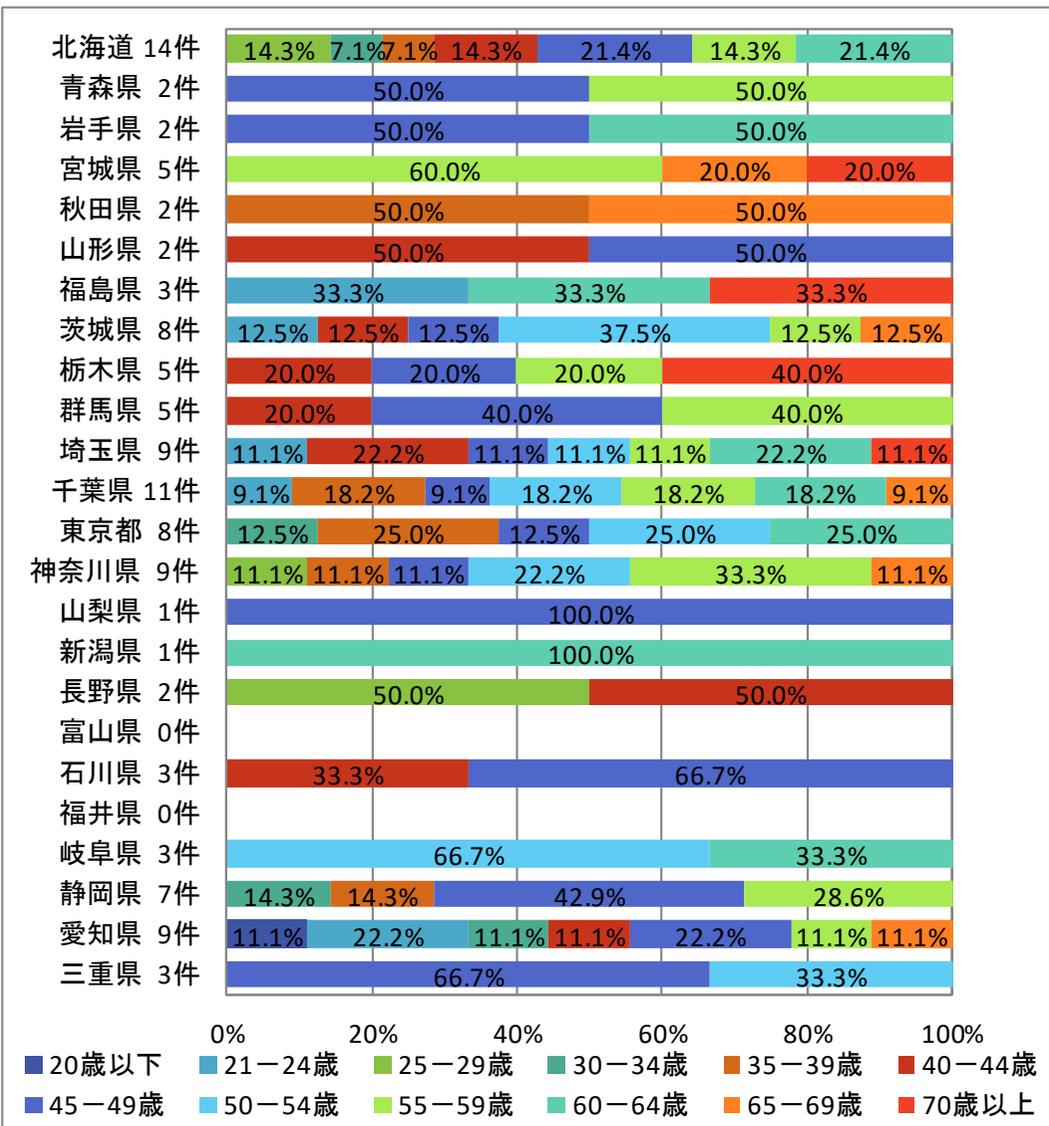
Ⅲ. 2020年死亡事故データ(車籍)

5. 車籍別の運転者の年齢層別

- ・車籍別の年齢層別にみると、各県によって傾向は異なる。
- ・事故発生件数の多い県をみると、「大阪府」では「45-49歳」が多い。
- ・「北海道」、「福桶県」では「45-49歳」、「60-64歳」が多い。
- ・「千葉県」では「35-39歳」、「50-54歳」、「55-59歳」、「60-64歳」が多い。
- ・「埼玉県」では「40-44歳」、「60-64歳」が多い。
- ・「神奈川県」では「55-59歳」が多い。
- ・「愛知県」では「21-24歳」、「45-49歳」が多い。



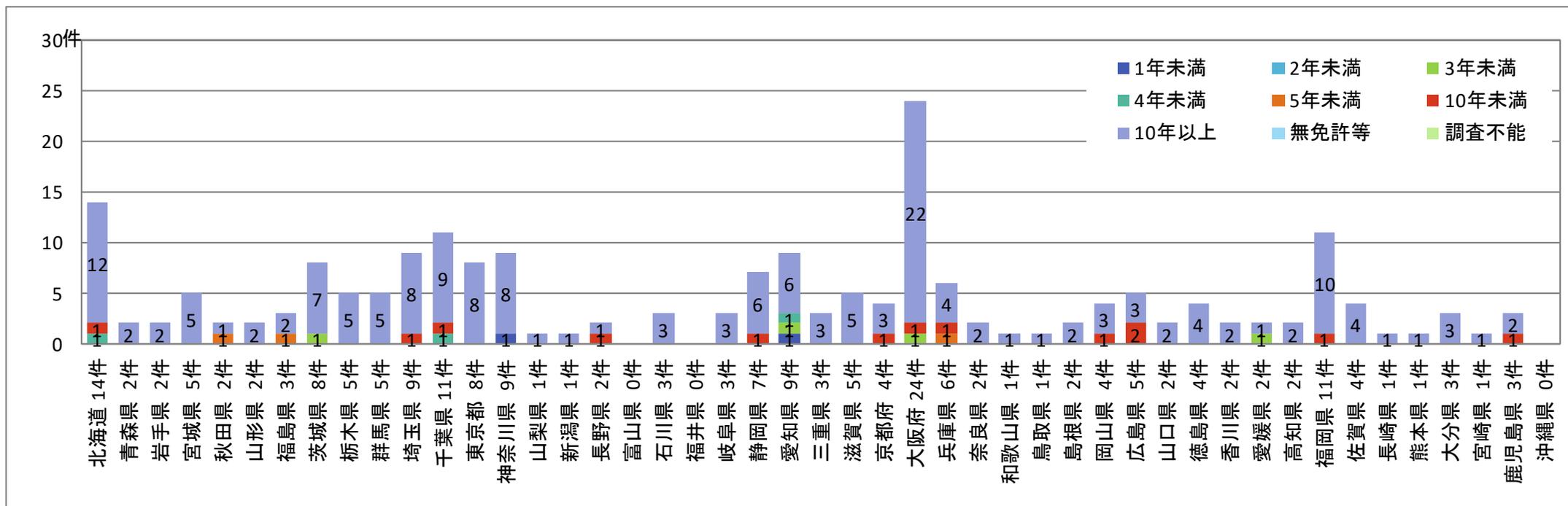
Ⅲ. 2020年死亡事故データ(車籍)



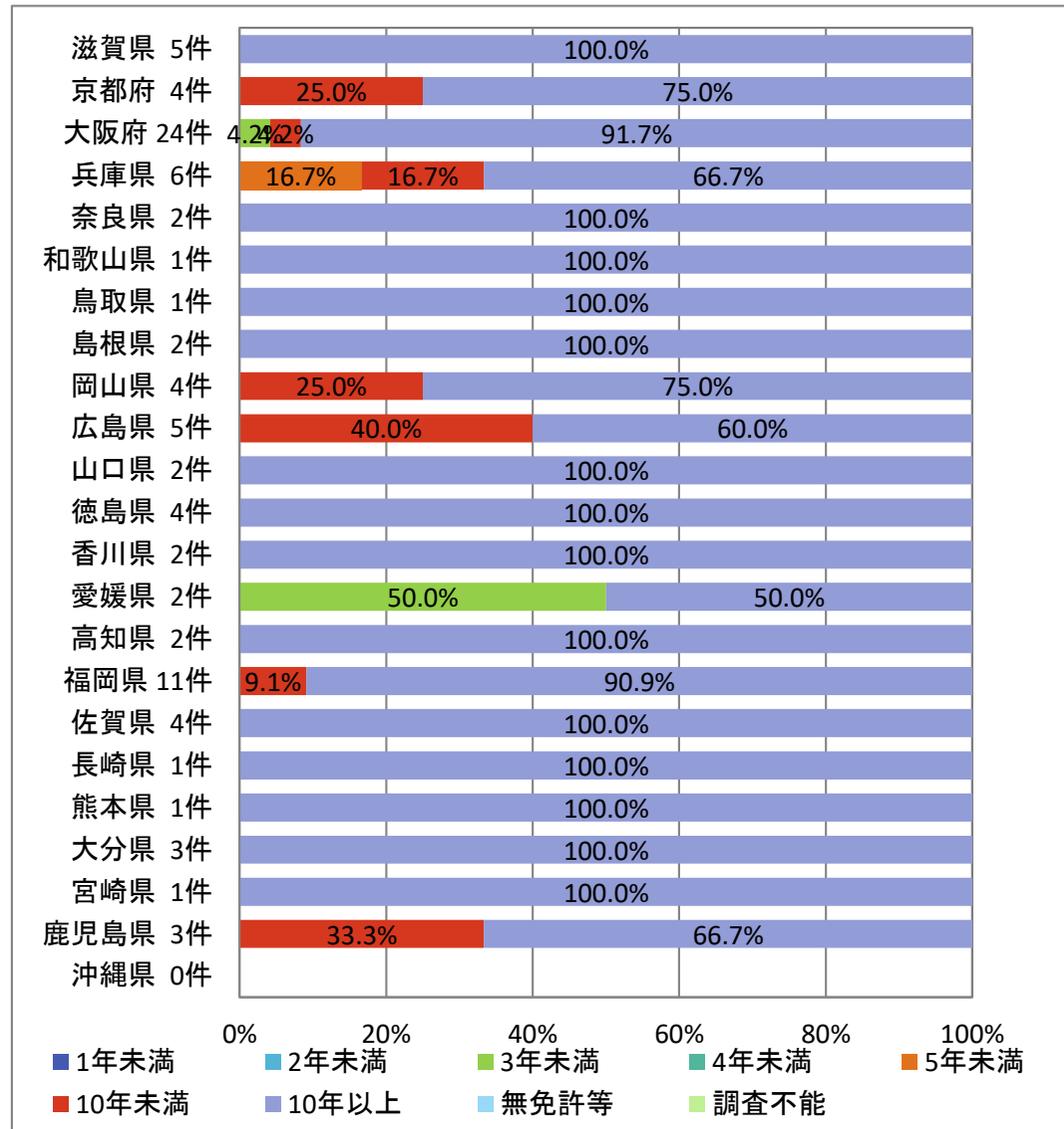
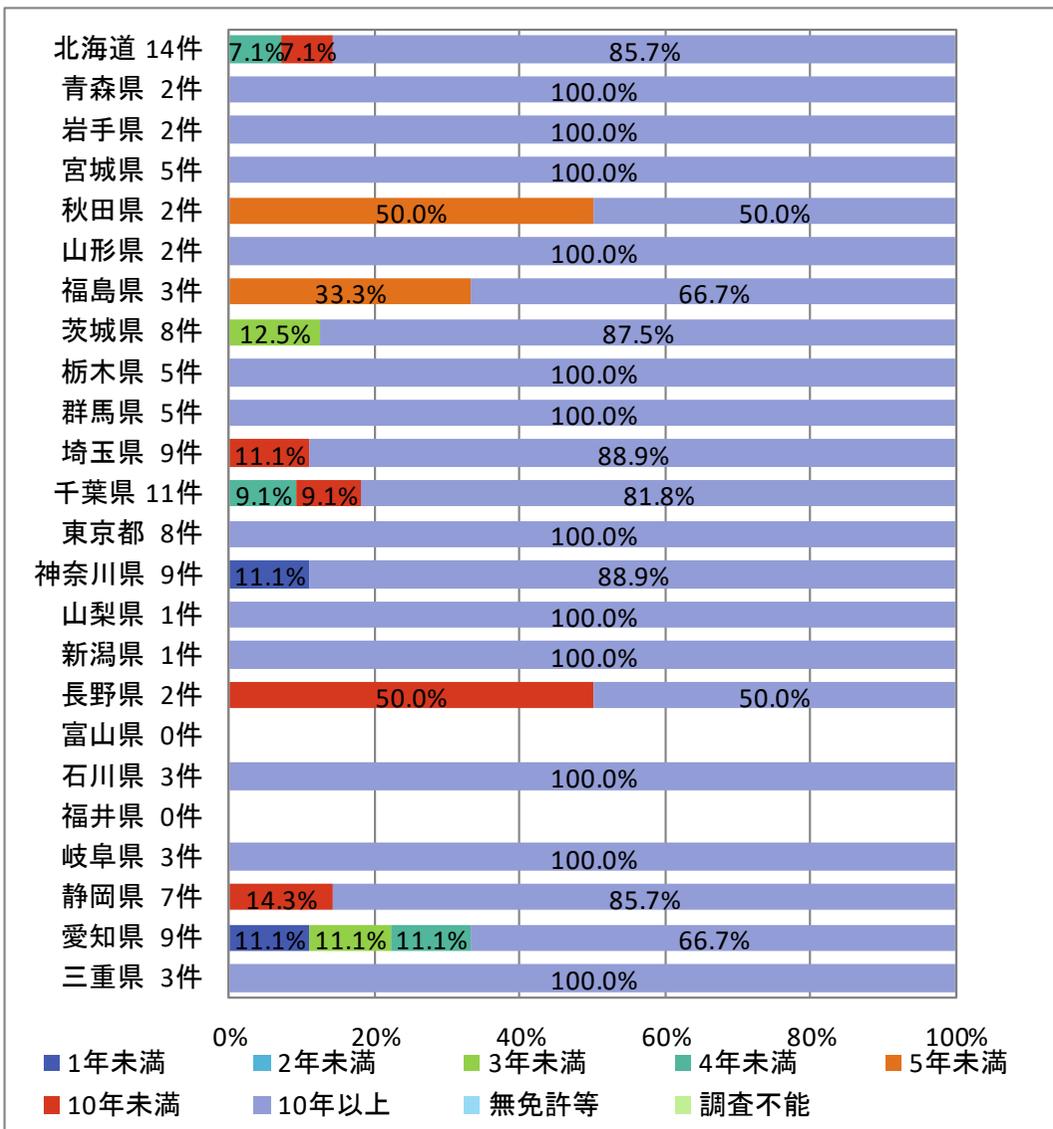
Ⅲ. 2020年死亡事故データ(車籍)

6. 車籍別の運転者の免許取得年数別

・車籍別の免許取得年別にみると、多くの県で「10年以上」が多い。



Ⅲ. 2020年死亡事故データ(車籍)



メ モ

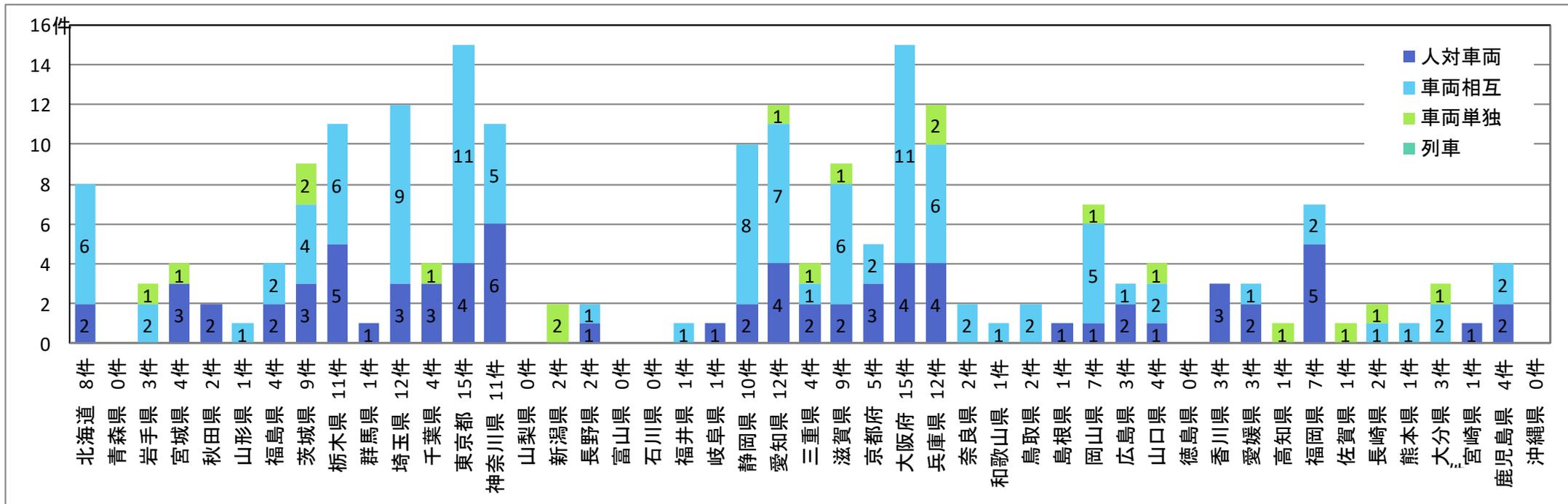
IV. 2020年死亡事故データ(発生地)

1. 発生地別の事故類型別
2. 発生地別の行動類型別
3. 発生地別の時間帯別
4. 発生地別の運転者の危険認知速度別
5. 発生地別の運転者の年齢層別
6. 発生地別の運転者の免許取得年数別

IV. 2020年死亡事故データ(発生地)

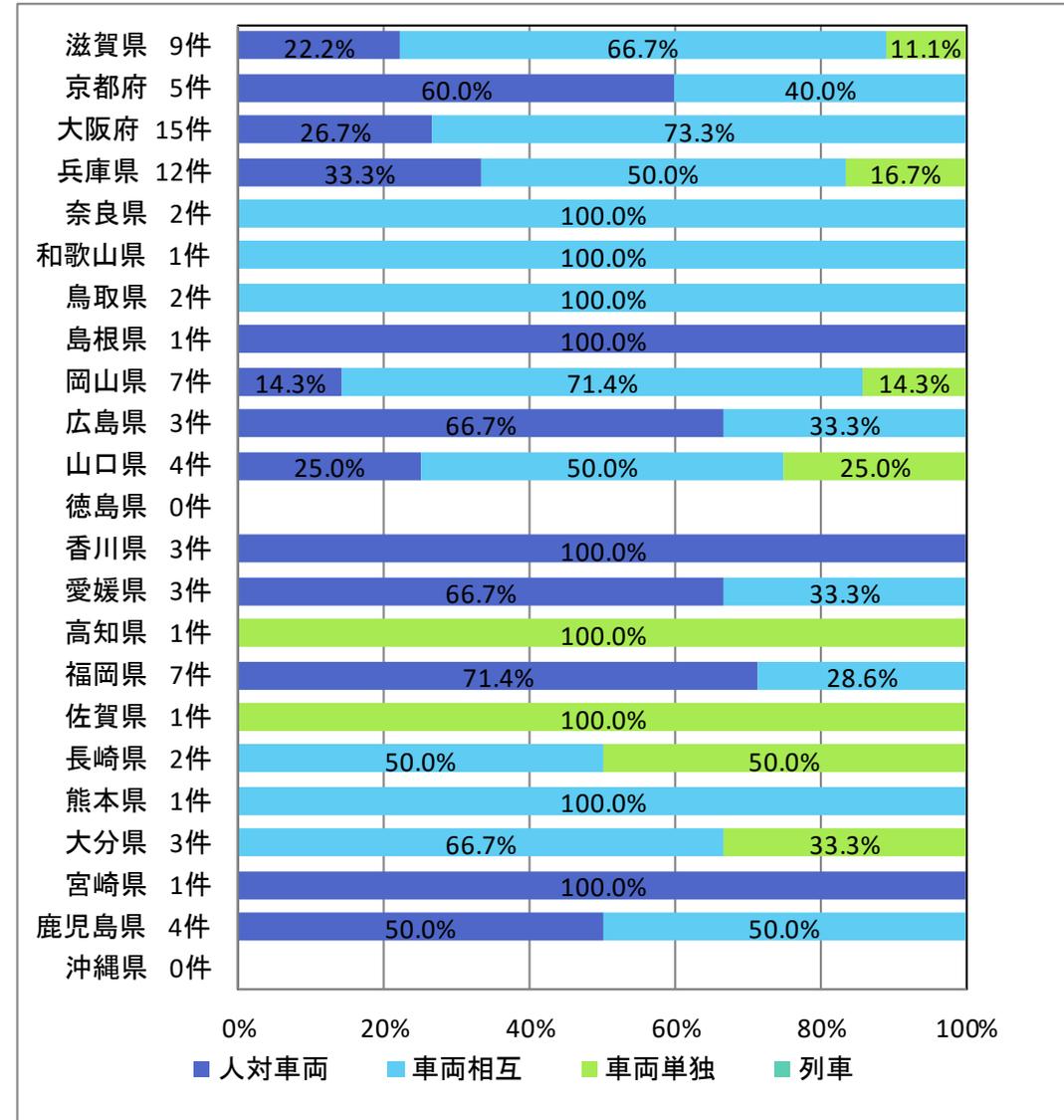
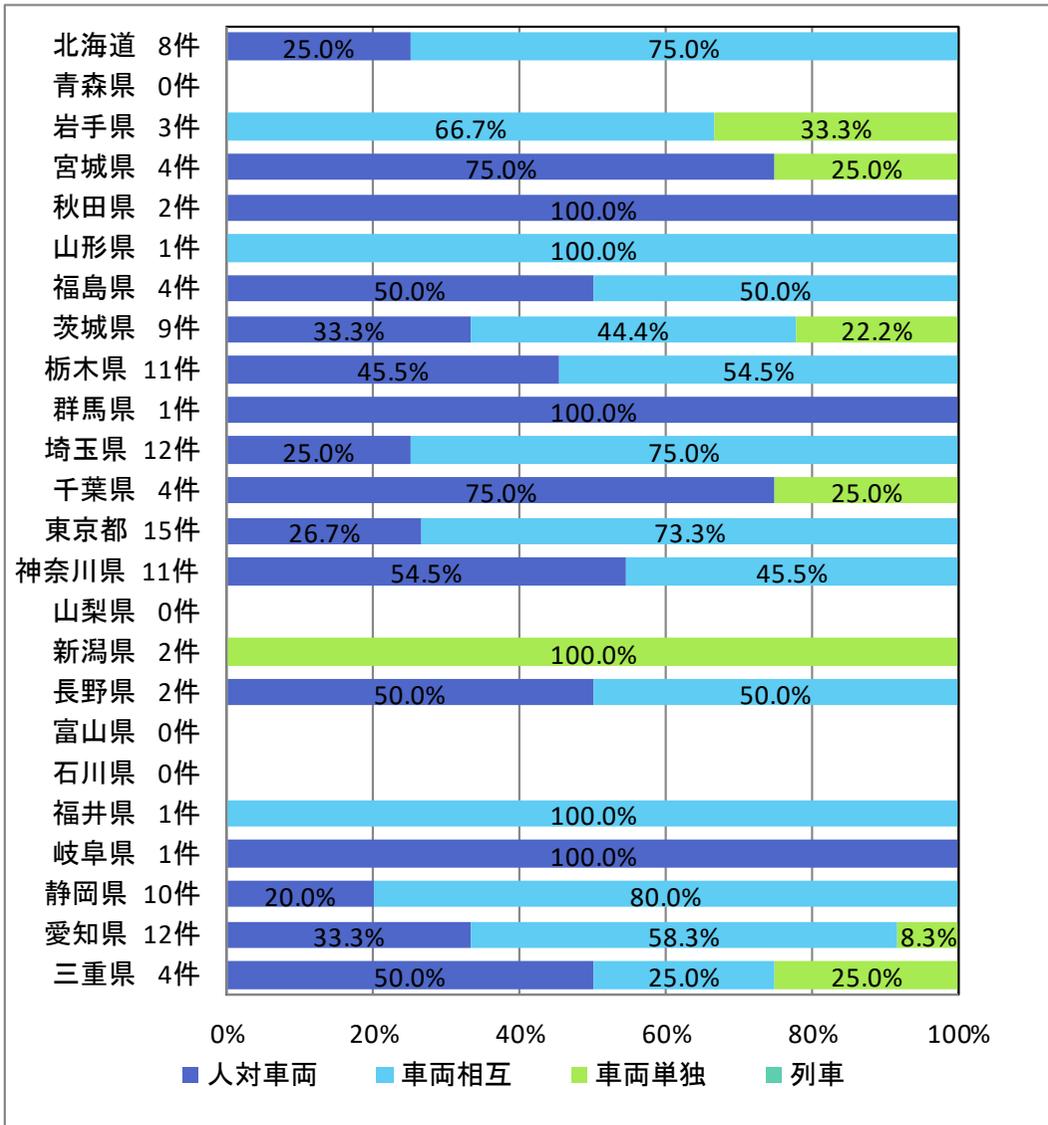
1. 発生地別の事故類型別

- ・発生地別の事故類型別にみると、「人対車両」が多い県と「車両相互」が多い県に分かれる。
- ・事故発生件数の多い県をみると、「東京都」、「大阪府」、「埼玉県」、「愛知県」、「兵庫県」、「栃木県」では「車両相互」が多い。「神奈川県」では「人対車両」が多い。



※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

IV. 2020年死亡事故データ(発生地)

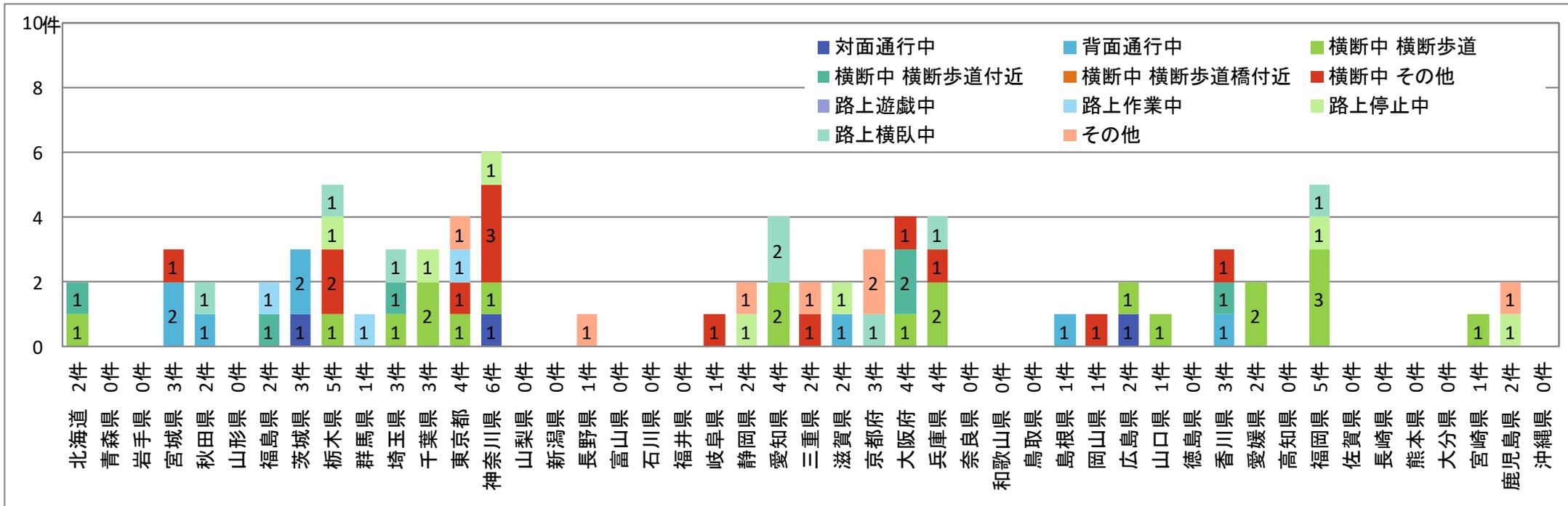


※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

IV. 2020年死亡事故データ(発生地)

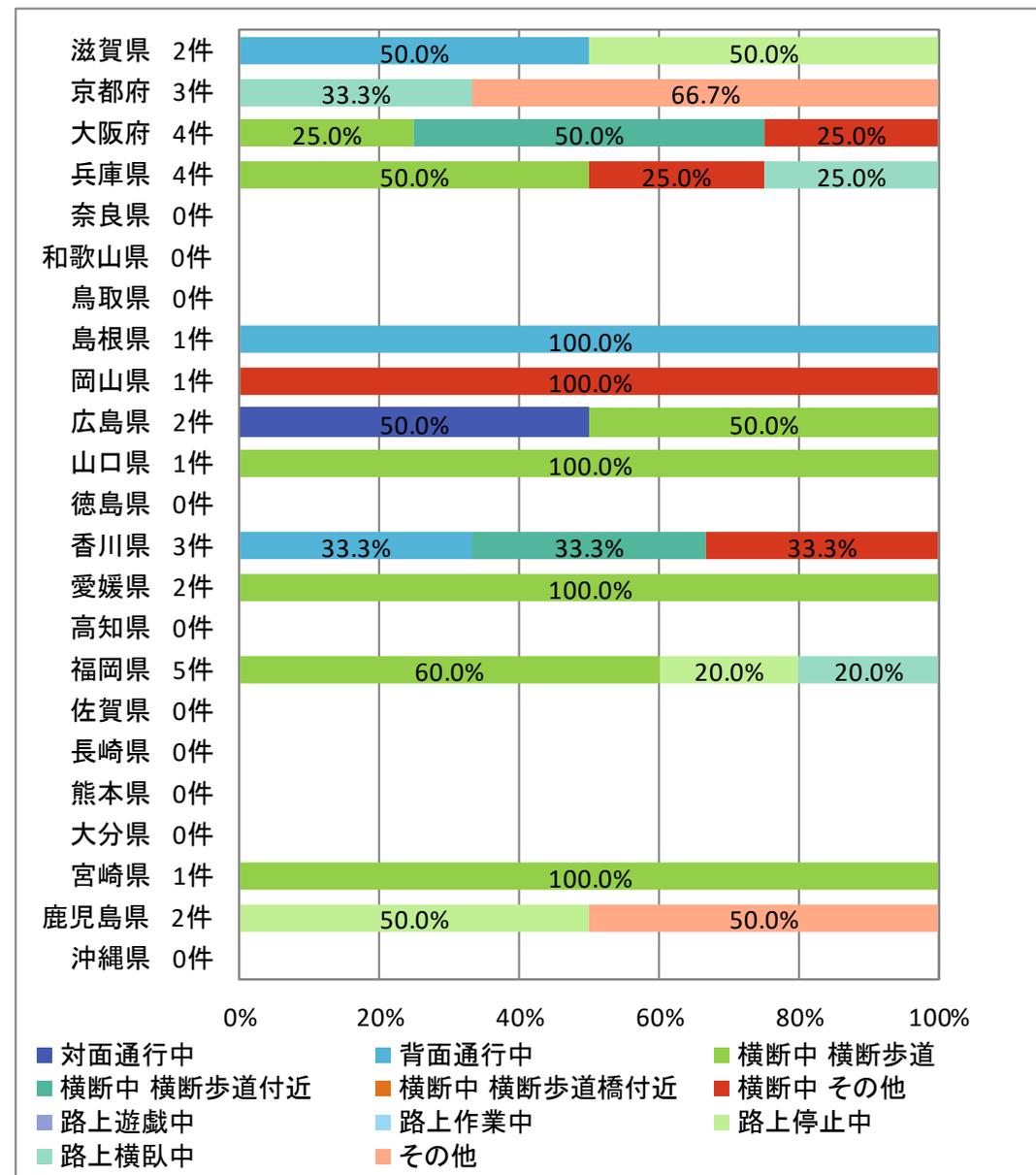
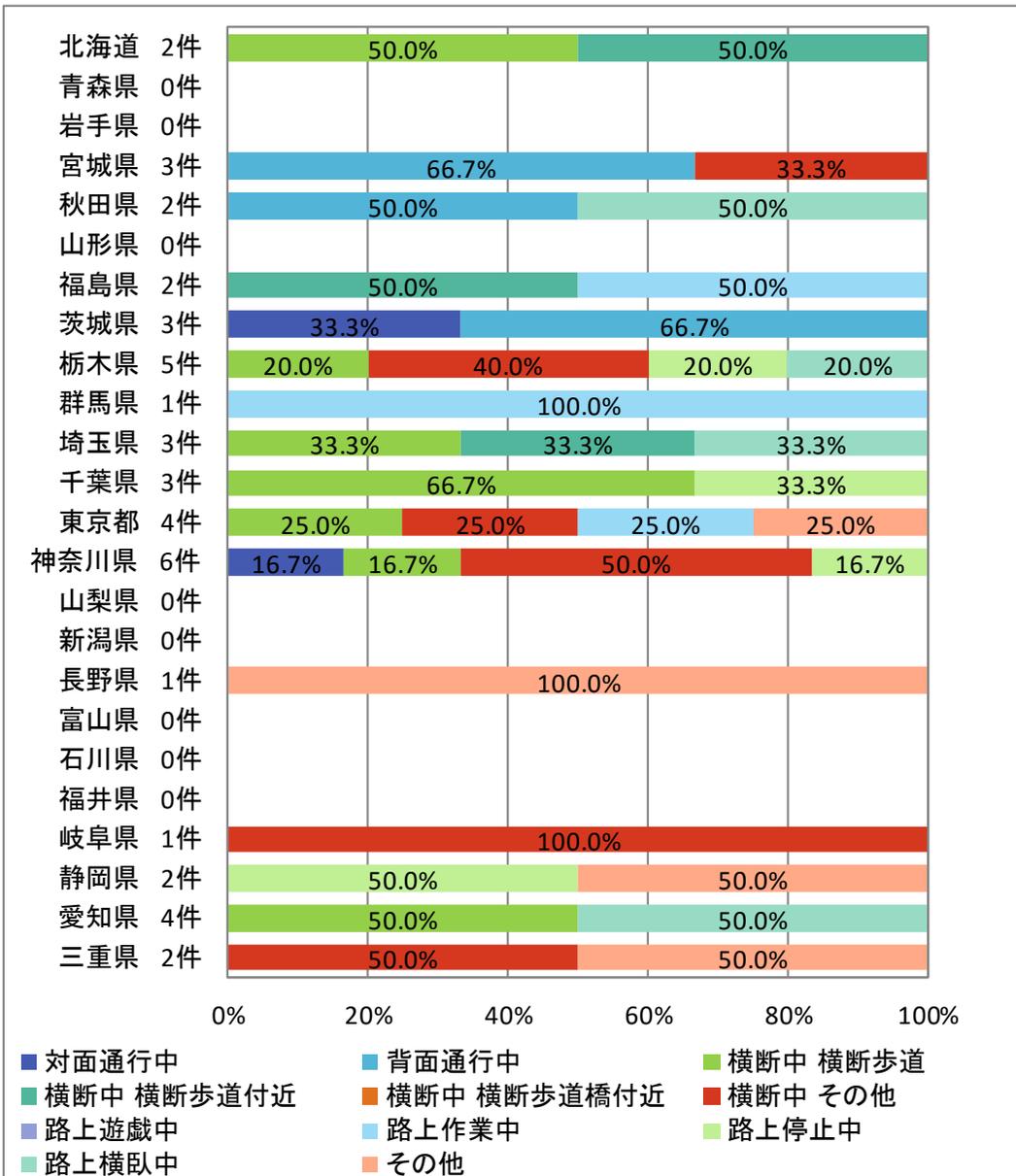
(1) 人対車両

- 発生地別の事故類型（人対車両）別にみると、一部の県を除き「横断中 横断歩道」、「横断中 その他」が多い。
- 事故発生件数の多い県をみると、「神奈川県」、「栃木県」では「横断中 その他」が多い。
- 「福岡県」では「横断中 横断歩道」が多い。



※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

IV. 2020年死亡事故データ(発生地)

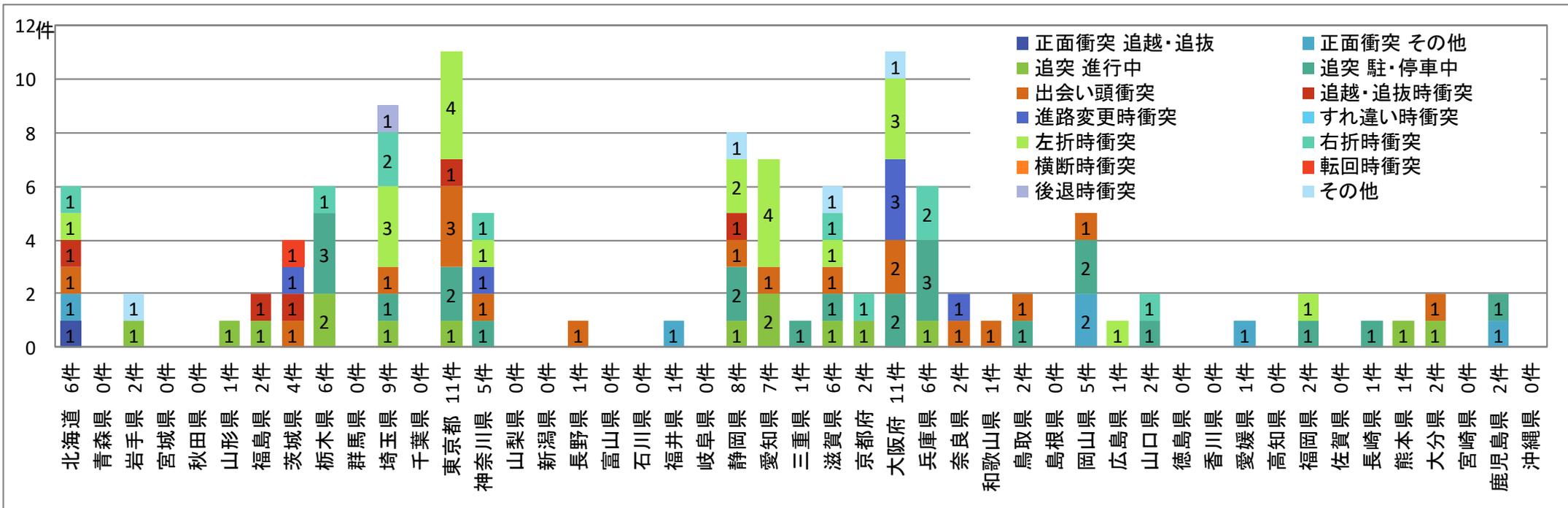


※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

IV. 2020年死亡事故データ(発生地)

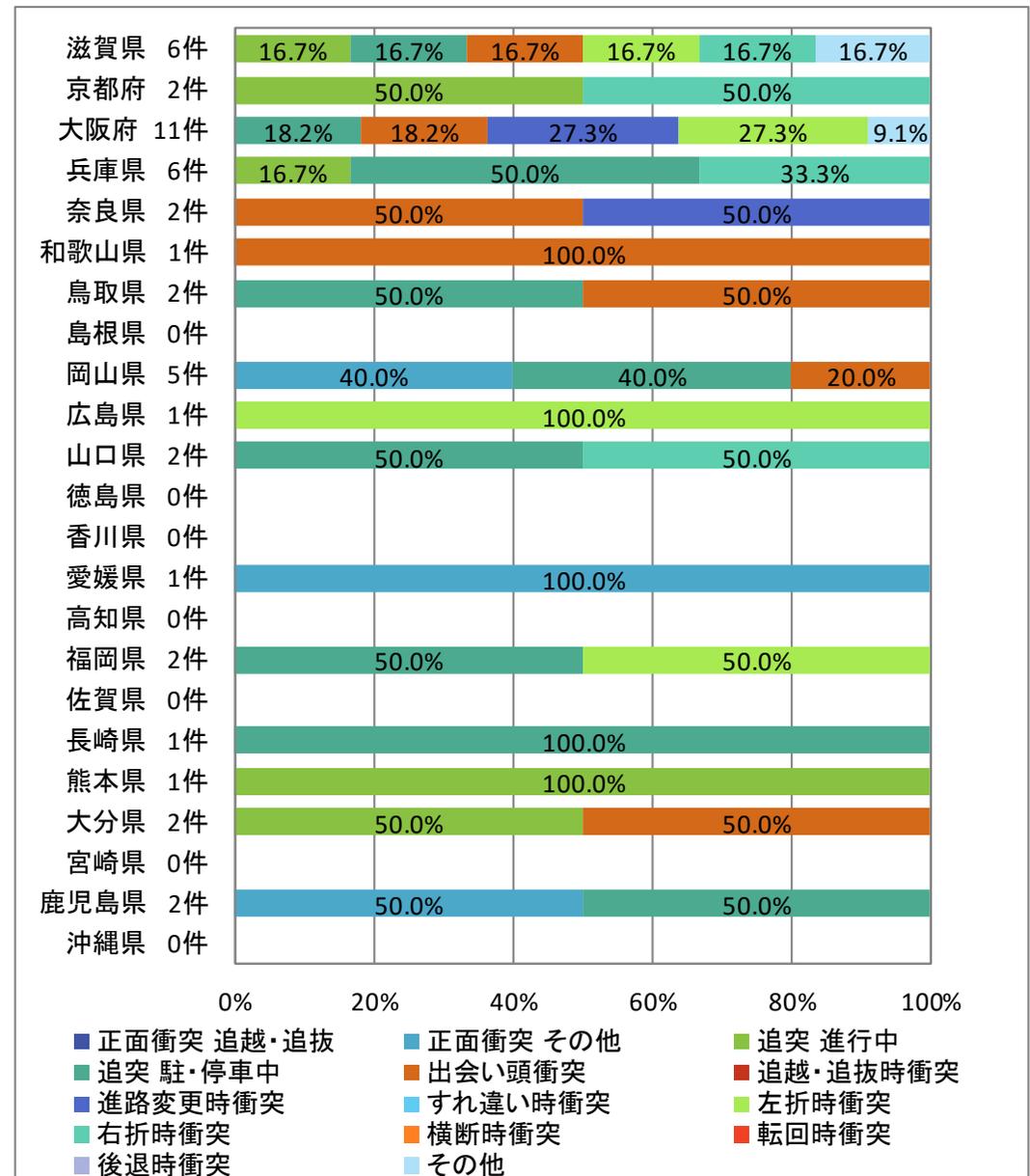
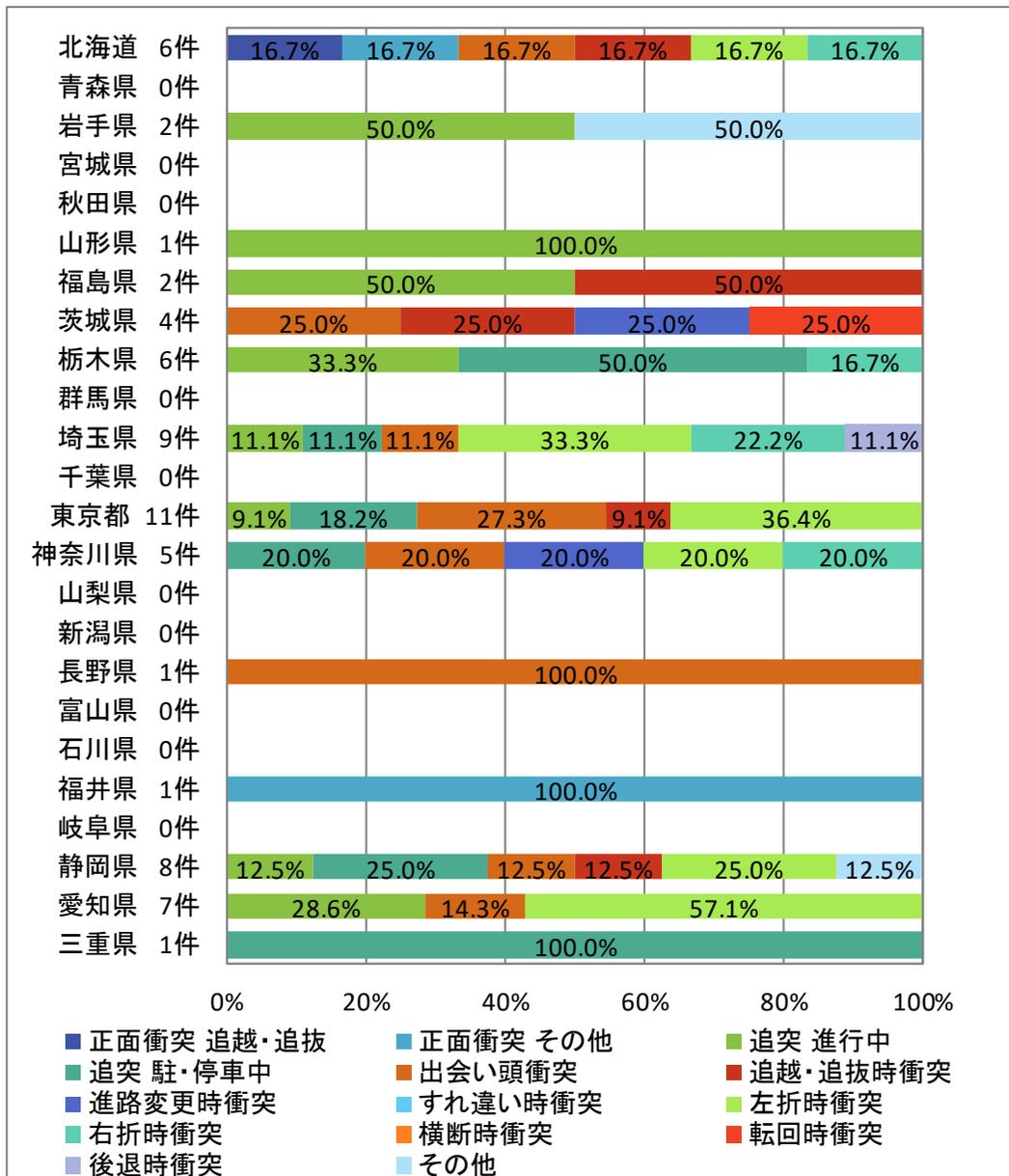
(2) 車両相互

- ・発生地別の事故類型（車両相互）別にみると、各県によって傾向は異なる。
- ・事故発生件数の多い県をみると、「東京都」、「埼玉県」では「左折時衝突」が多い。
- ・「大阪府」では「進路変更時衝突」、「左折時衝突」が多い。
- ・「静岡県」では「追突 駐・停車中」、「左折時衝突」が多い。



※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

IV. 2020年死亡事故データ(発生地)

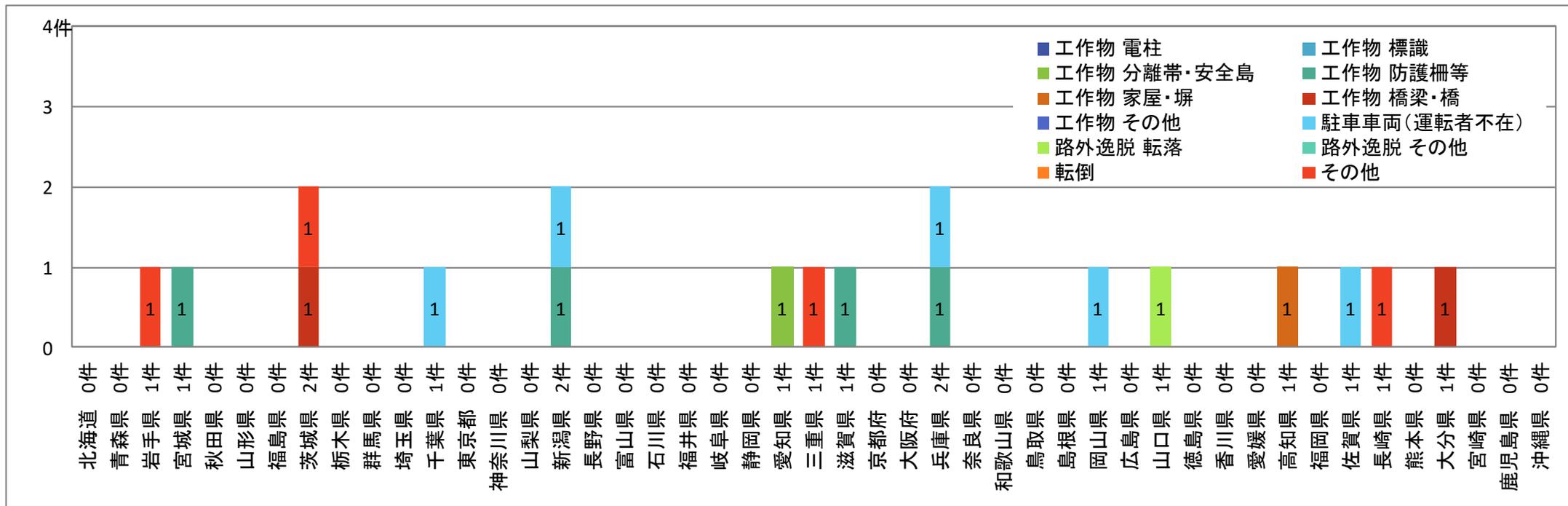


※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

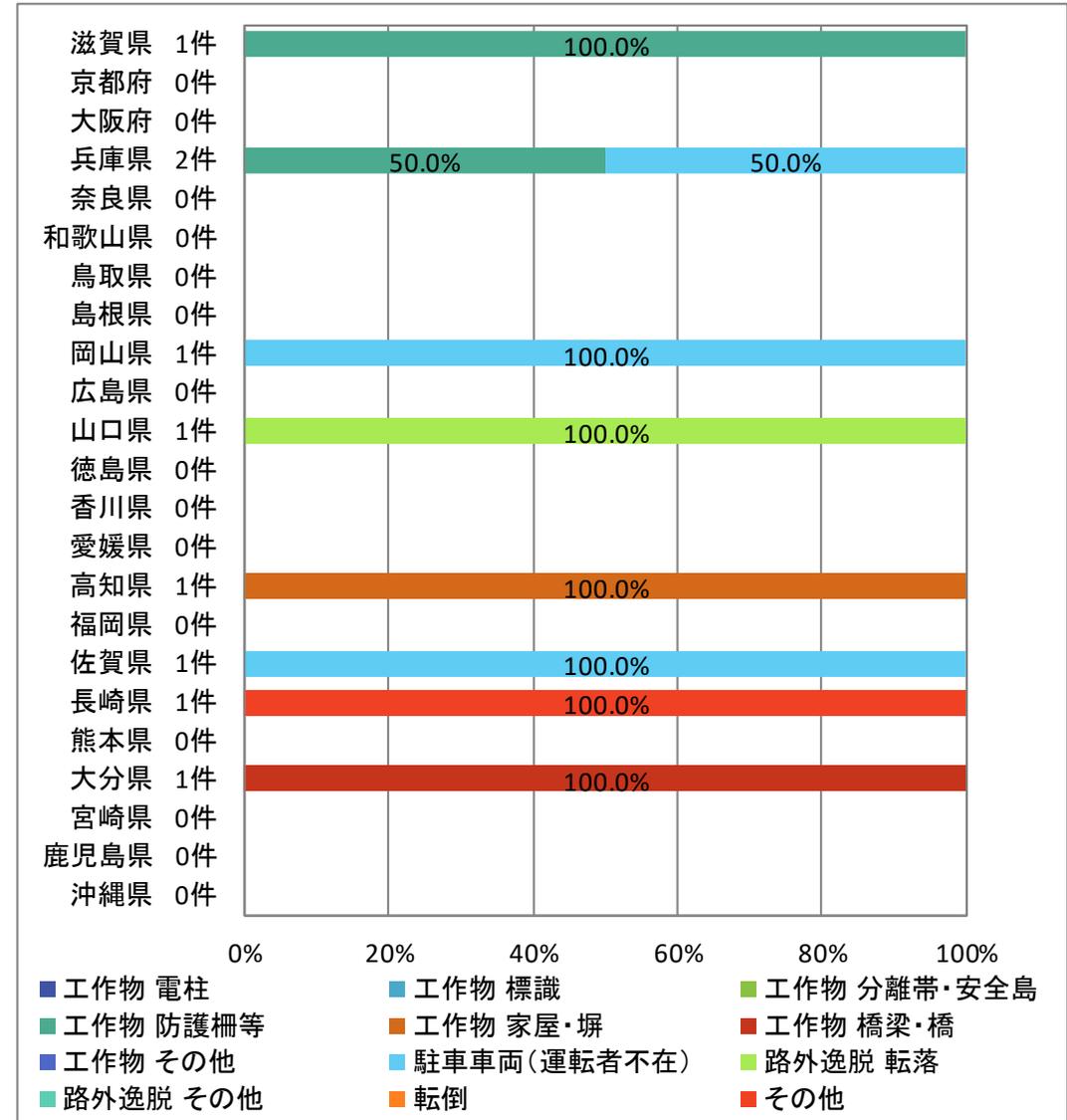
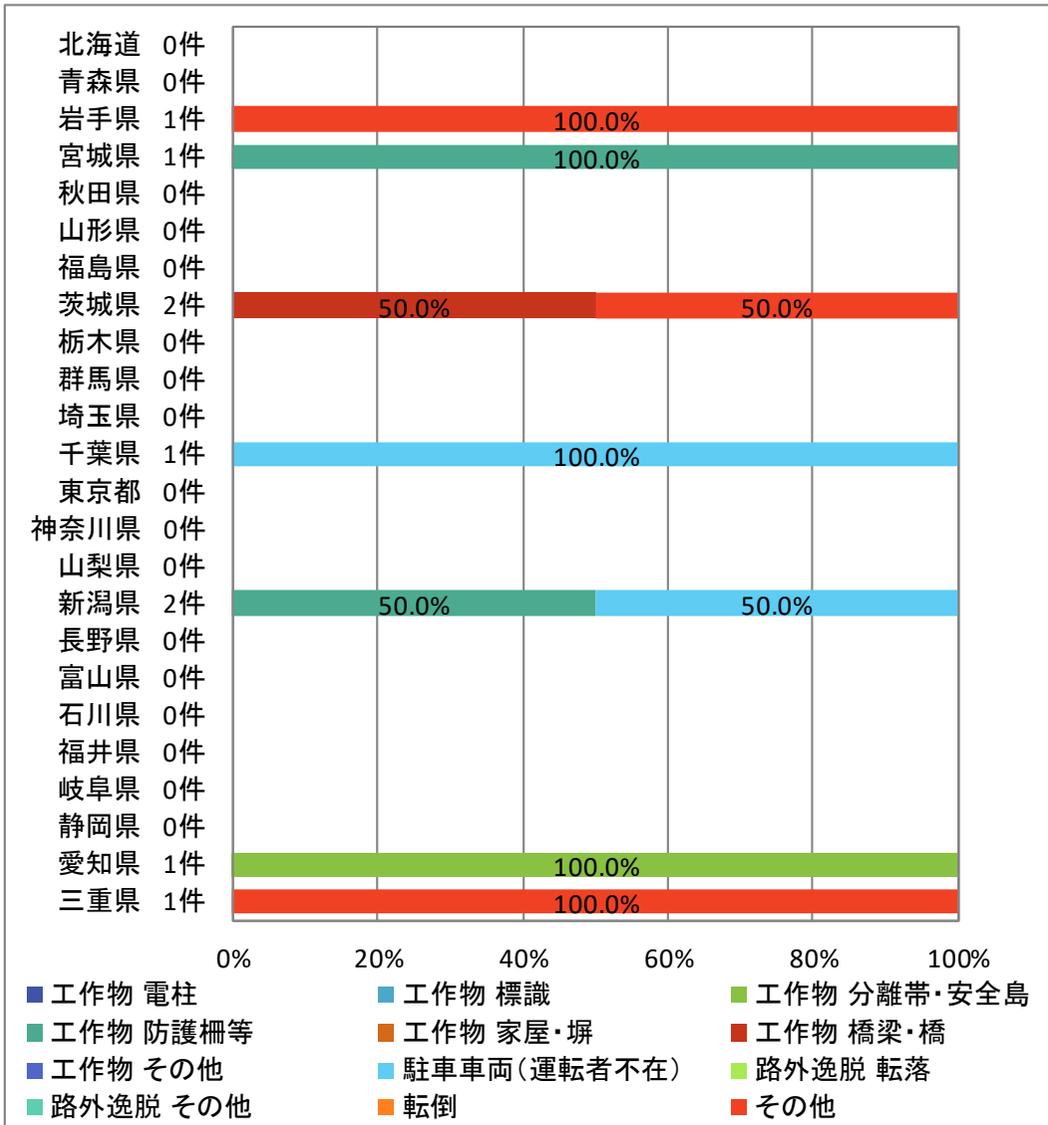
IV. 2020年死亡事故データ(発生地)

(3) 車両単独

- 発生地別の事故類型（車両単独）別について事故発生件数の多い県をみると、「茨城県」では「工作物 橋梁・橋」、「その他」、「新潟県」、「兵庫県」では「工作物 防護柵等」、「駐車車両（運転者不在）」となっている。



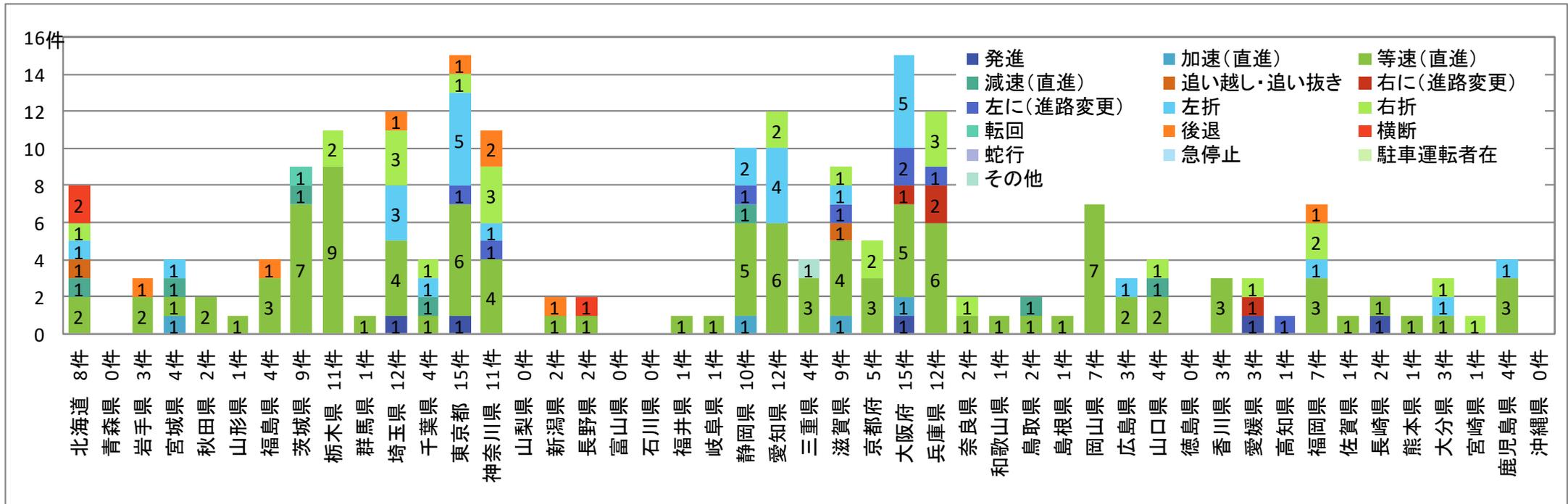
IV. 2020年死亡事故データ(発生地)



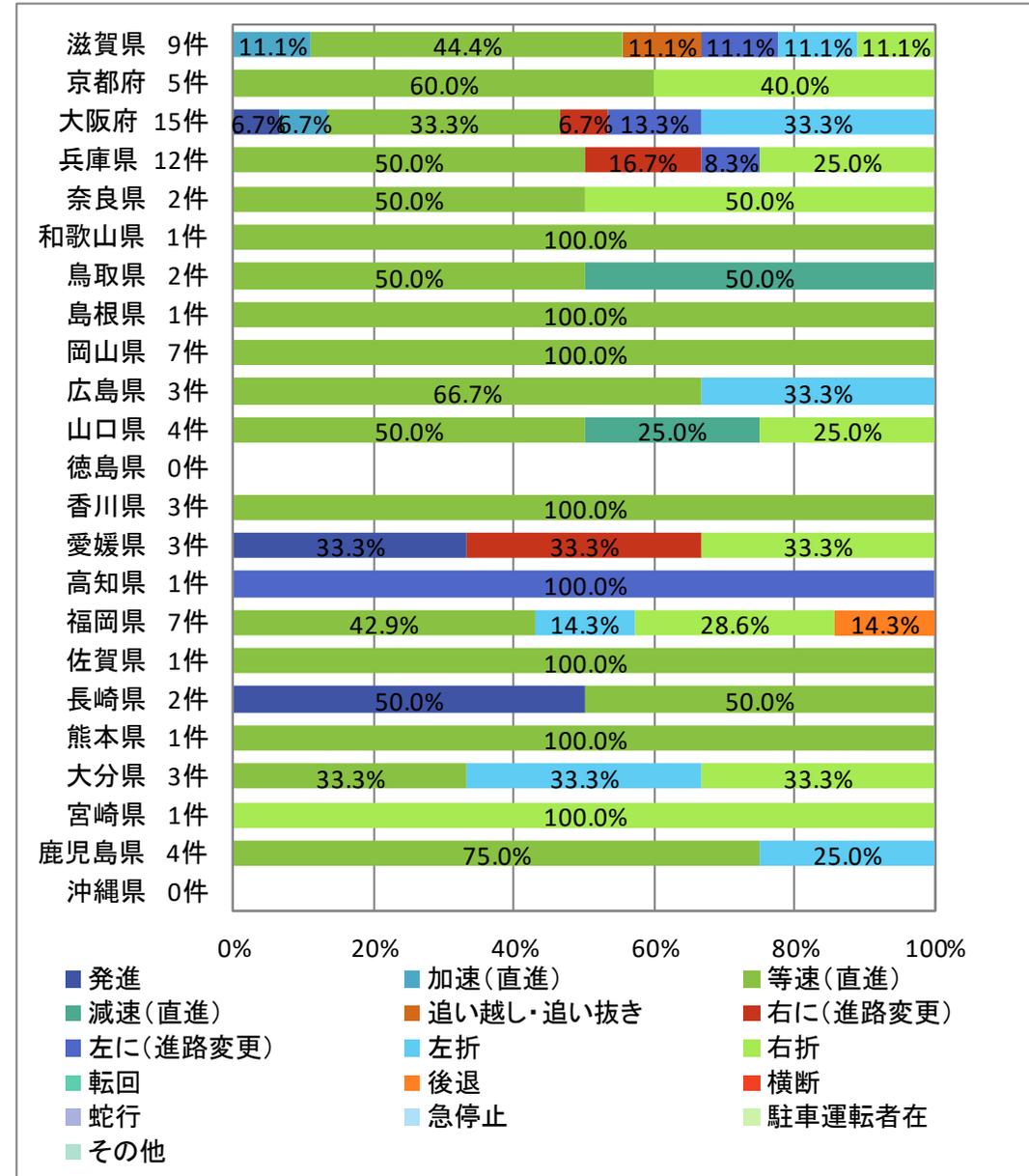
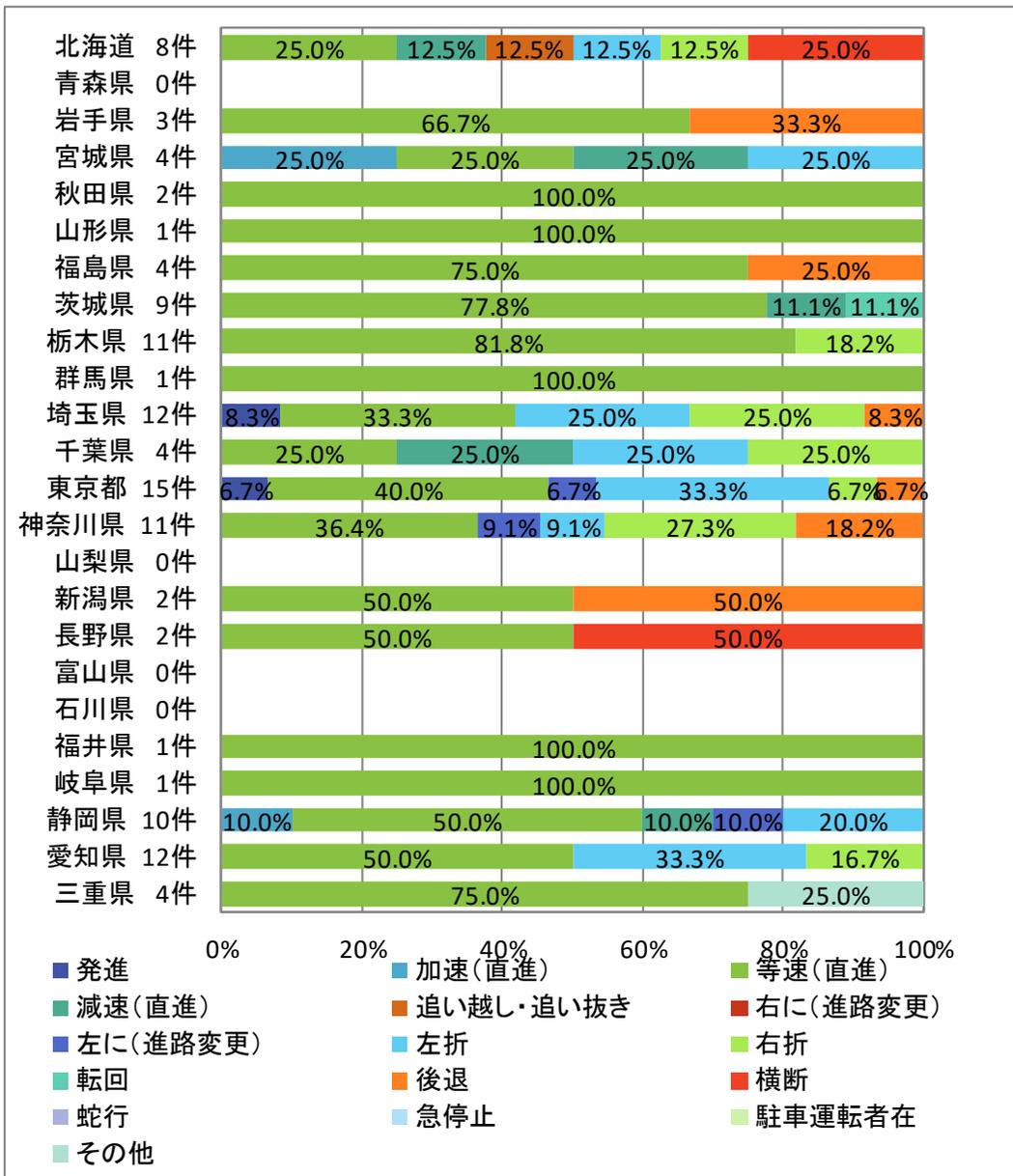
IV. 2020年死亡事故データ(発生地)

2. 発生地別の行動類型別

- ・発生地別の行動類型別にみると、一部の県を除き「等速（直進）」が多くなっている。
- ・事故発生件数の多い県をみると、「東京都」、「埼玉県」、「愛知県」、「兵庫県」、「栃木県」、「神奈川県」では「等速（直進）」が多い。
- ・「大阪府」では「等速（直進）」、「左折」が多い。



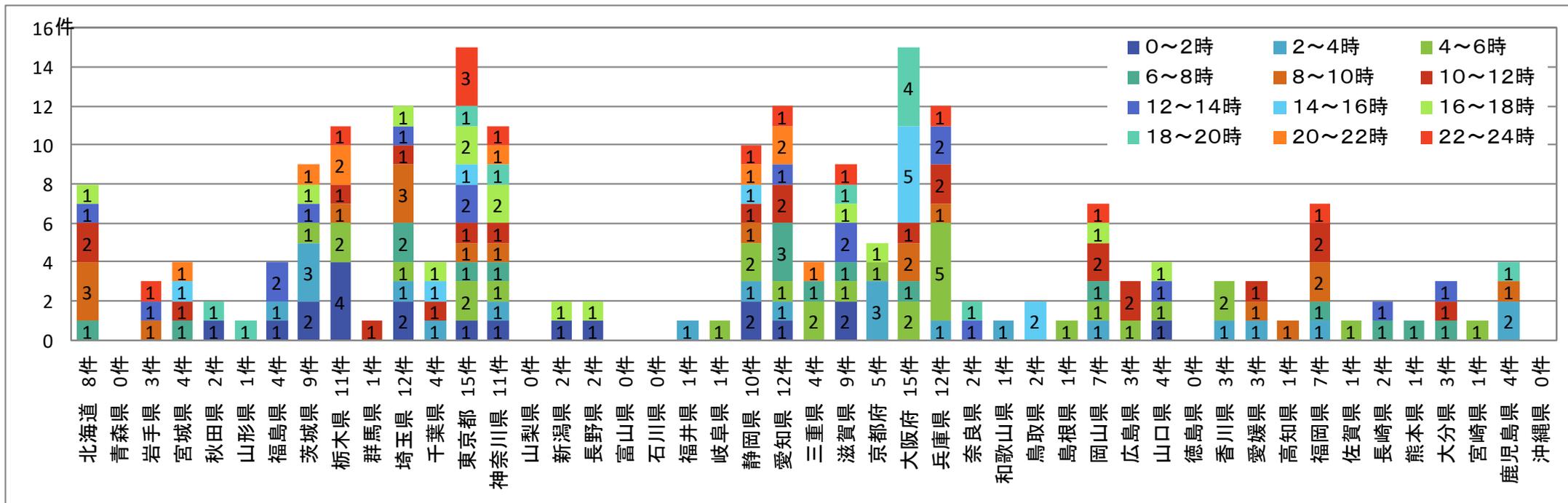
IV. 2020年死亡事故データ(発生地)



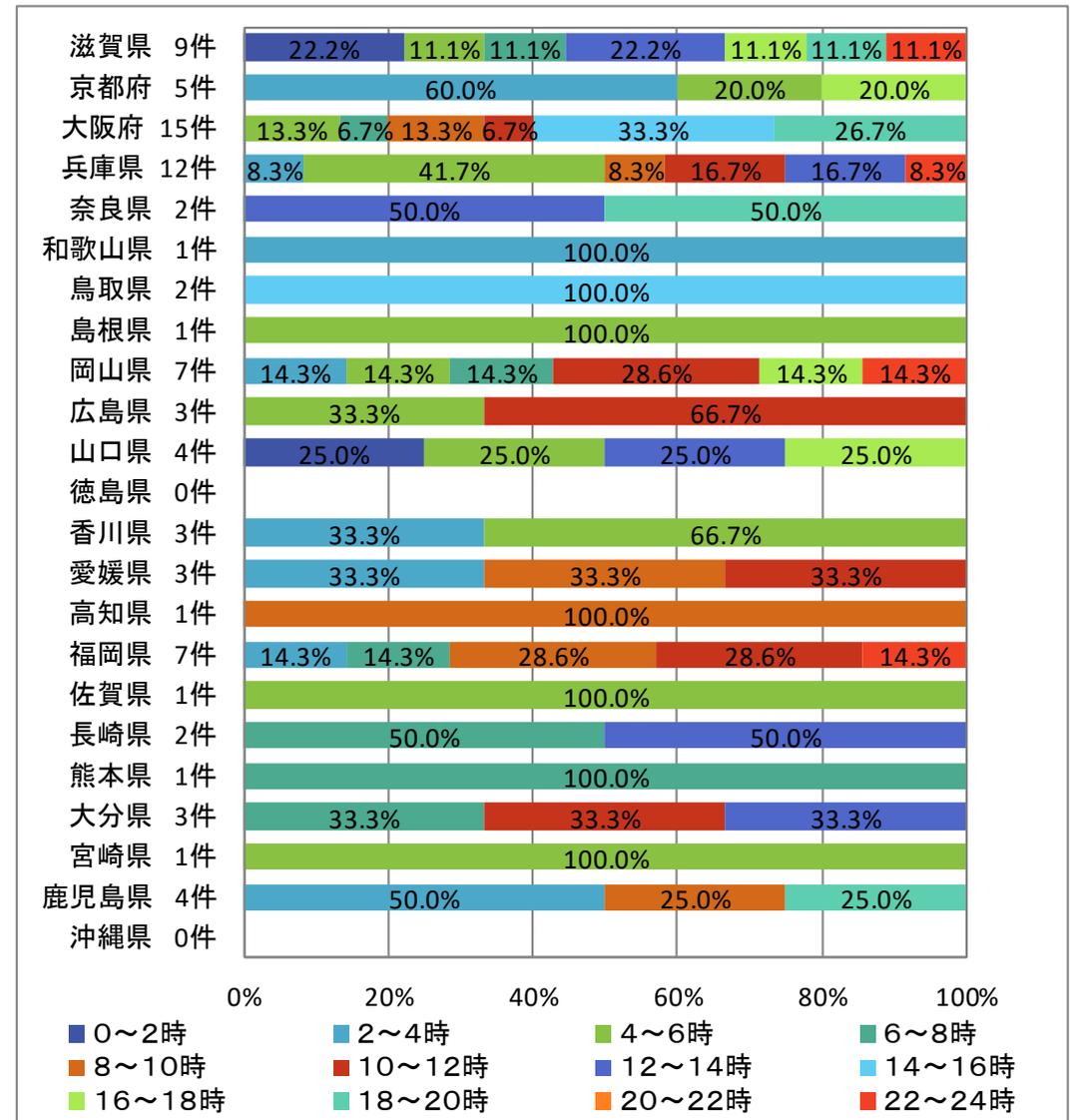
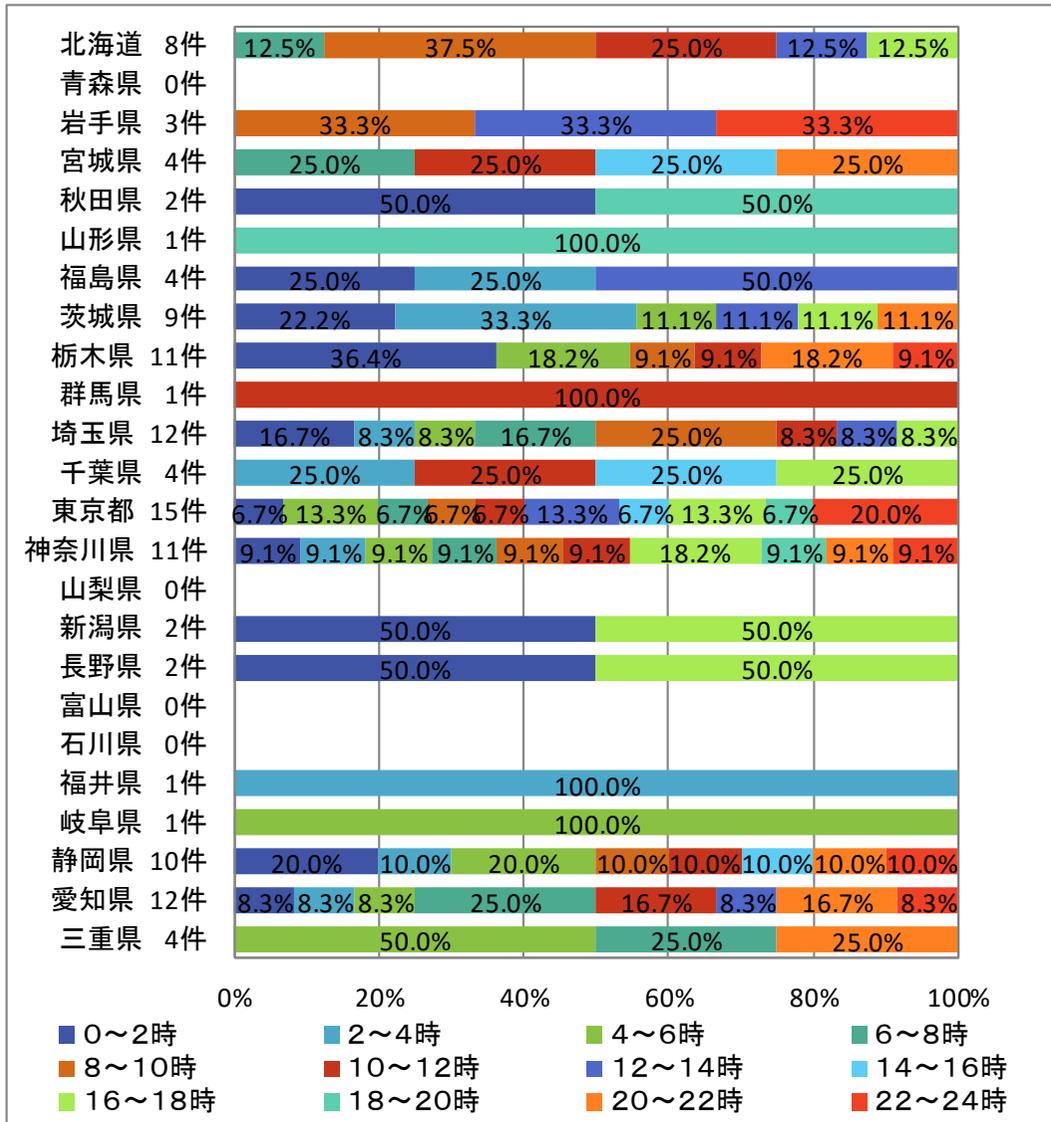
IV. 2020年死亡事故データ(発生地)

3. 発生地別の時間帯別

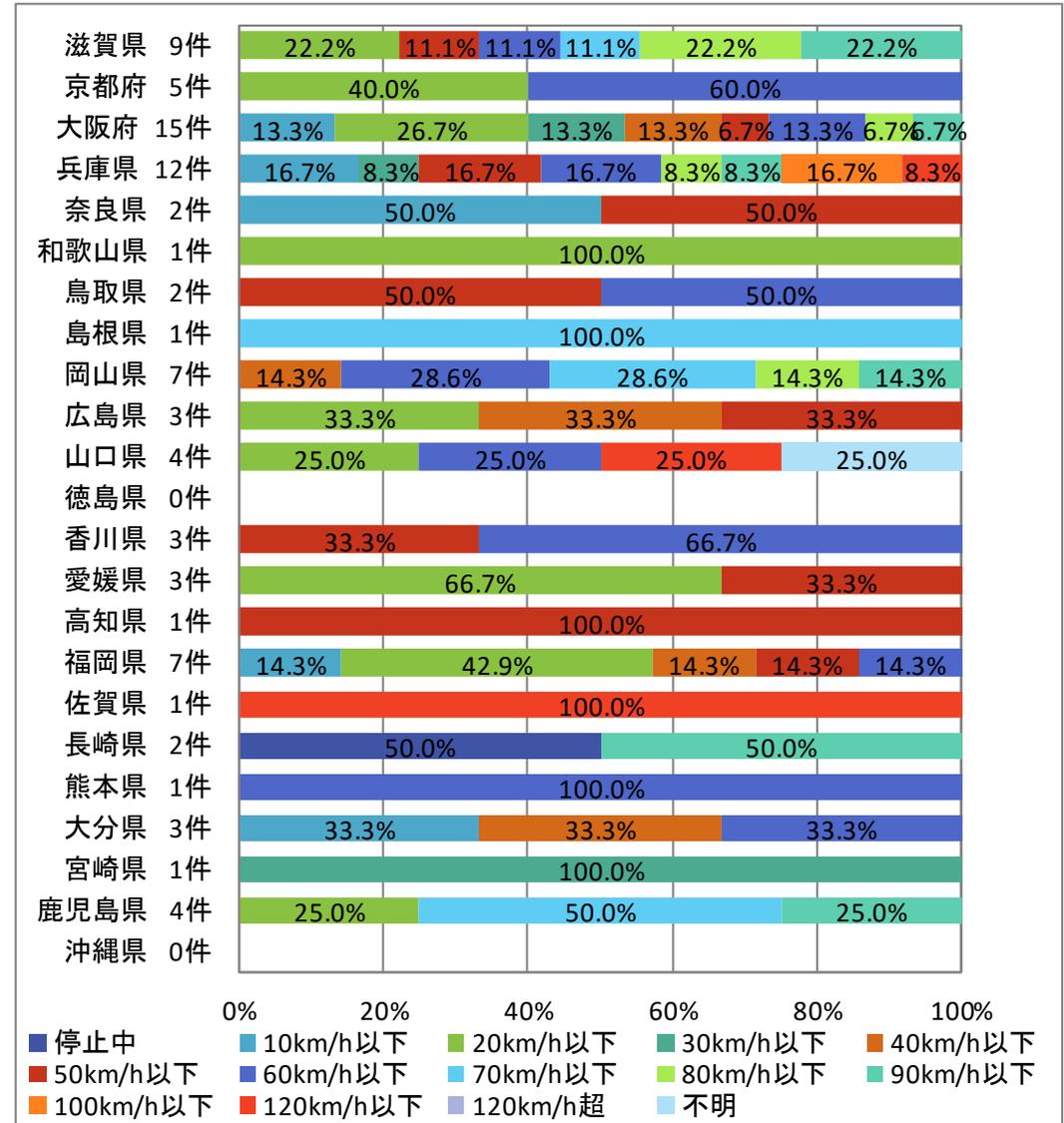
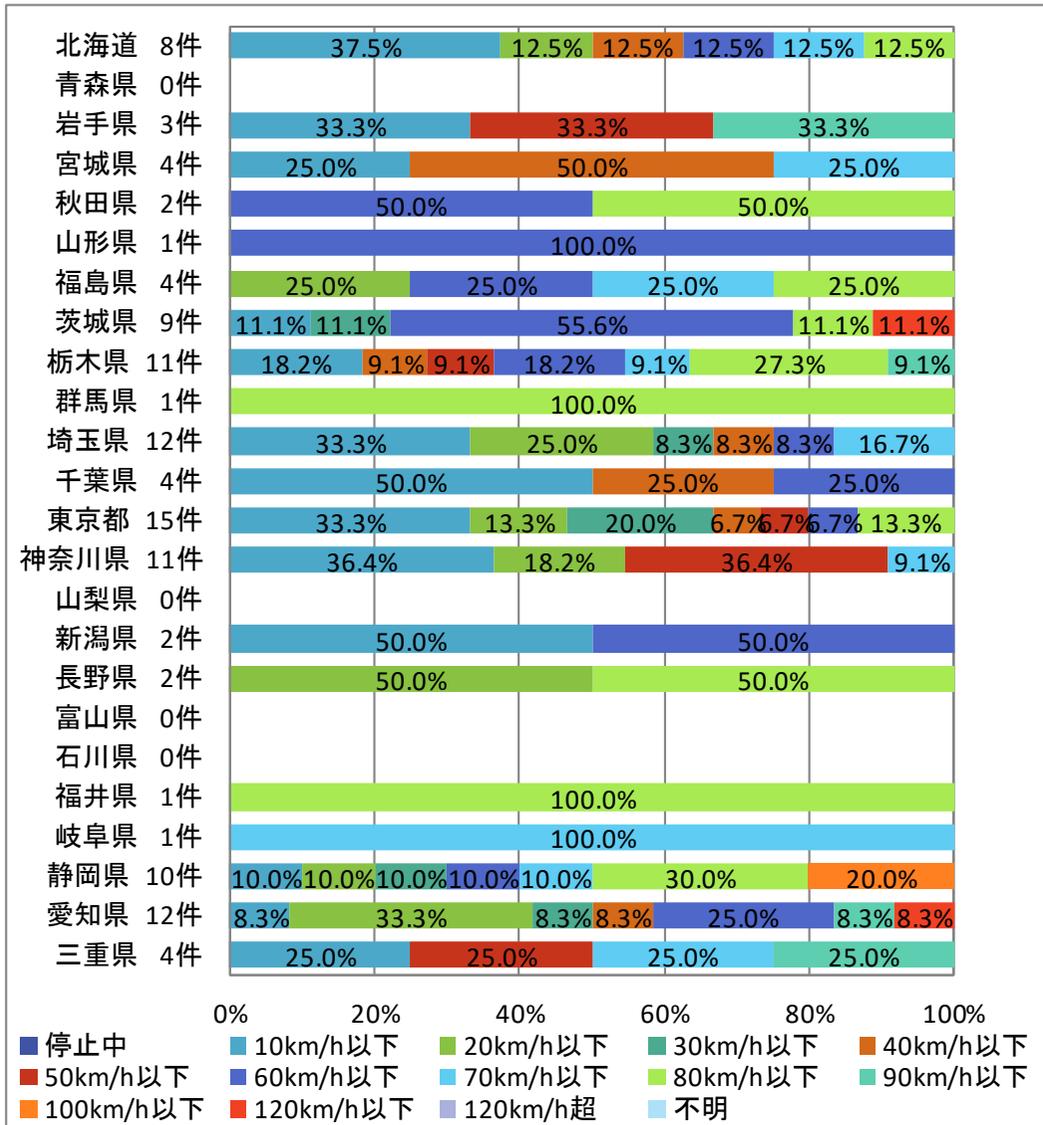
- ・発生地別の時間帯別にみると、各県によって傾向は異なる。
- ・事故発生件数の多い県をみると、「東京都」では「22～24時」が多い。
- ・「大阪府」では「14～16時」が多い。
- ・「埼玉県」では「8～10時」、「愛知県」では「6～8時」、「兵庫県」では「4～6時」、「栃木県」では「0～2時」、「神奈川県」では「16～18時」が多い。



IV. 2020年死亡事故データ(発生地)



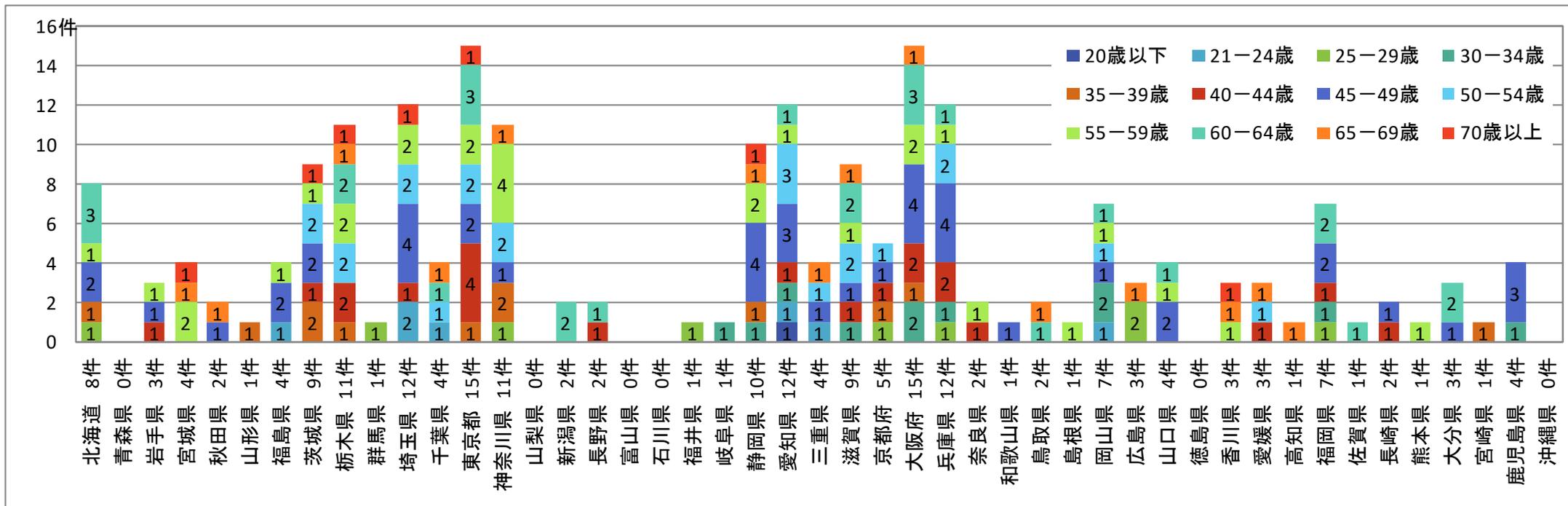
IV. 2020年死亡事故データ(発生地)



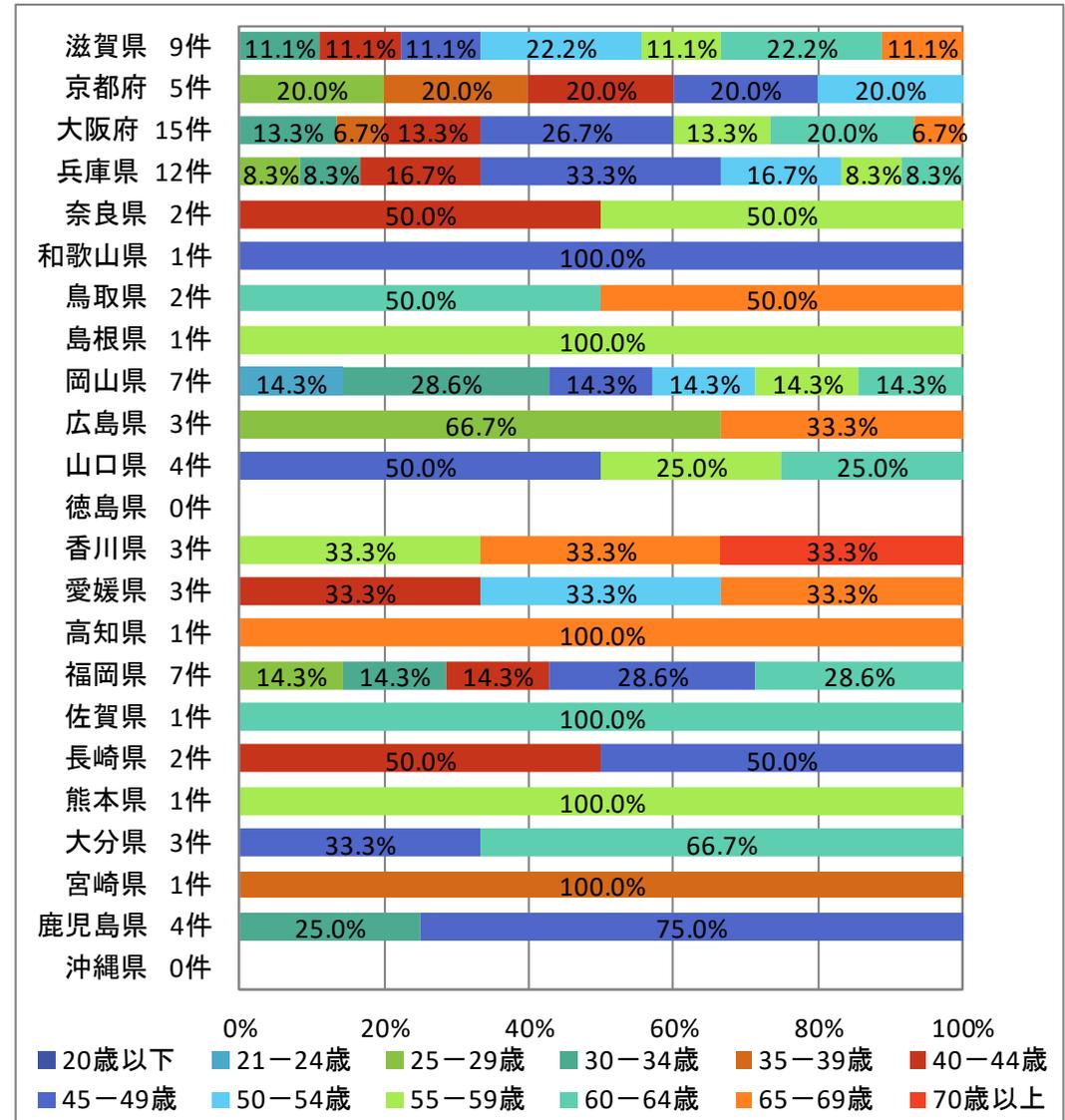
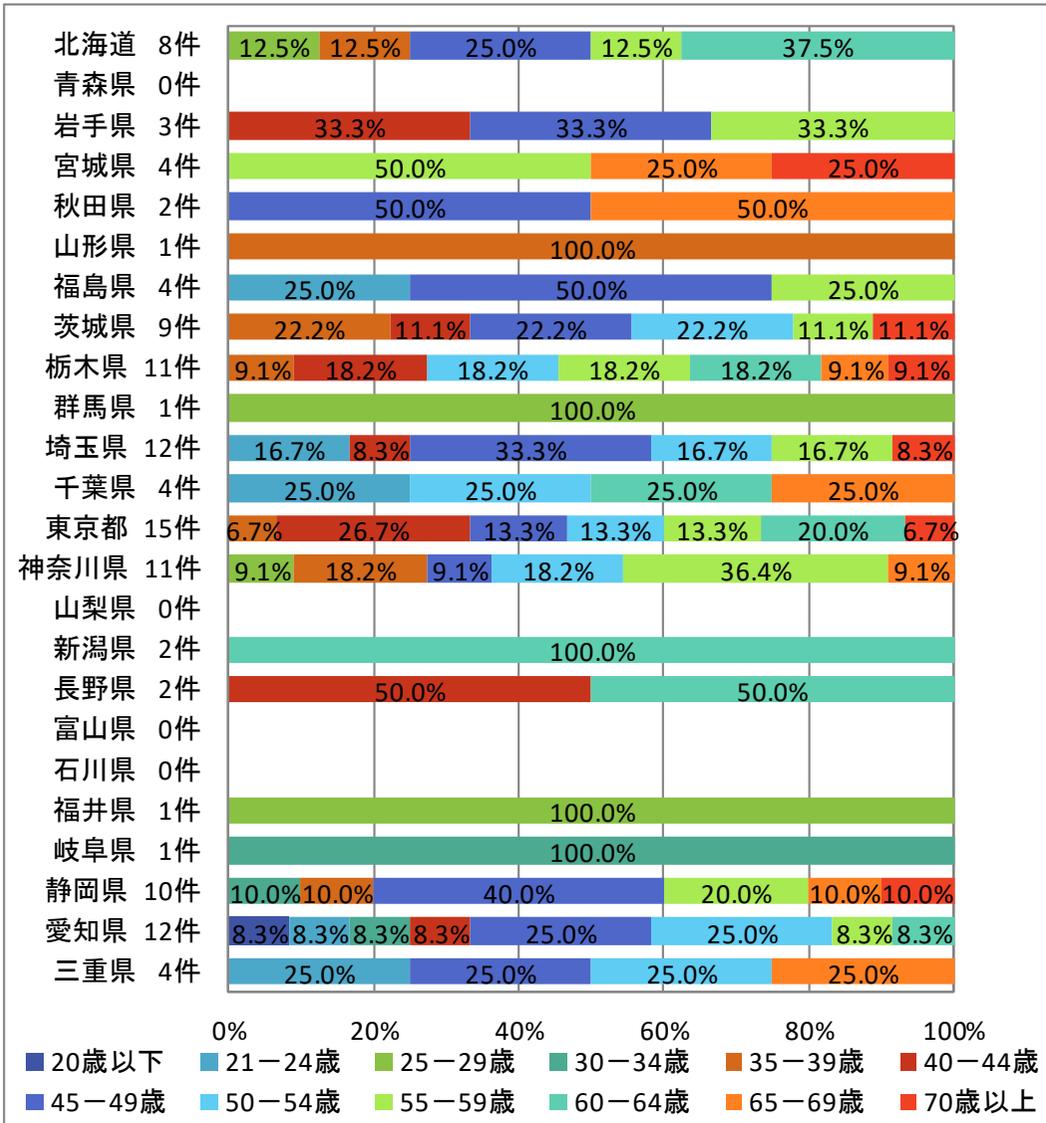
IV. 2020年死亡事故データ(発生地)

5. 発生地別の運転者の年齢層別

- ・発生地別の年齢層別にみると、各県によって傾向は異なる。
- ・事故発生件数の多い県をみると、「東京都」では「40-44歳」、「大阪府」、「埼玉県」、「兵庫県」では「45-49歳」が最も多い。
- ・「愛知県」では「45-49歳」、「50-54歳」が多い。
- ・「栃木県」では「40-44歳」、「50-54歳」、「55-59歳」、「60-64歳」が多い。
- ・「神奈川県」では「55-59歳」が多い。



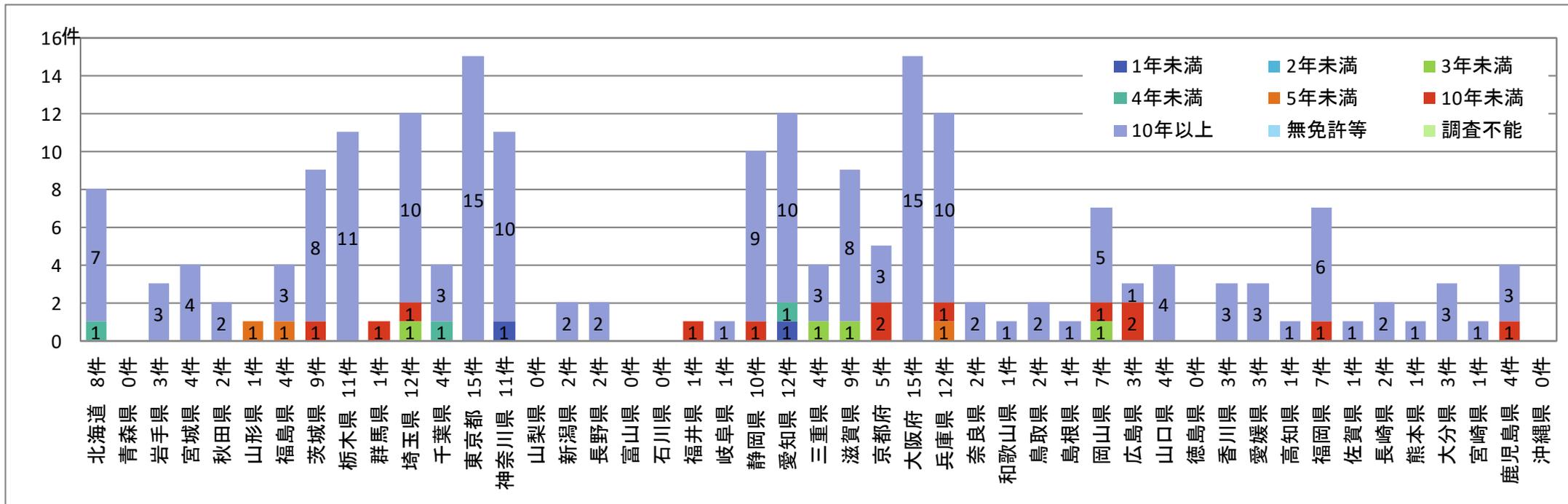
IV. 2020年死亡事故データ(発生地)



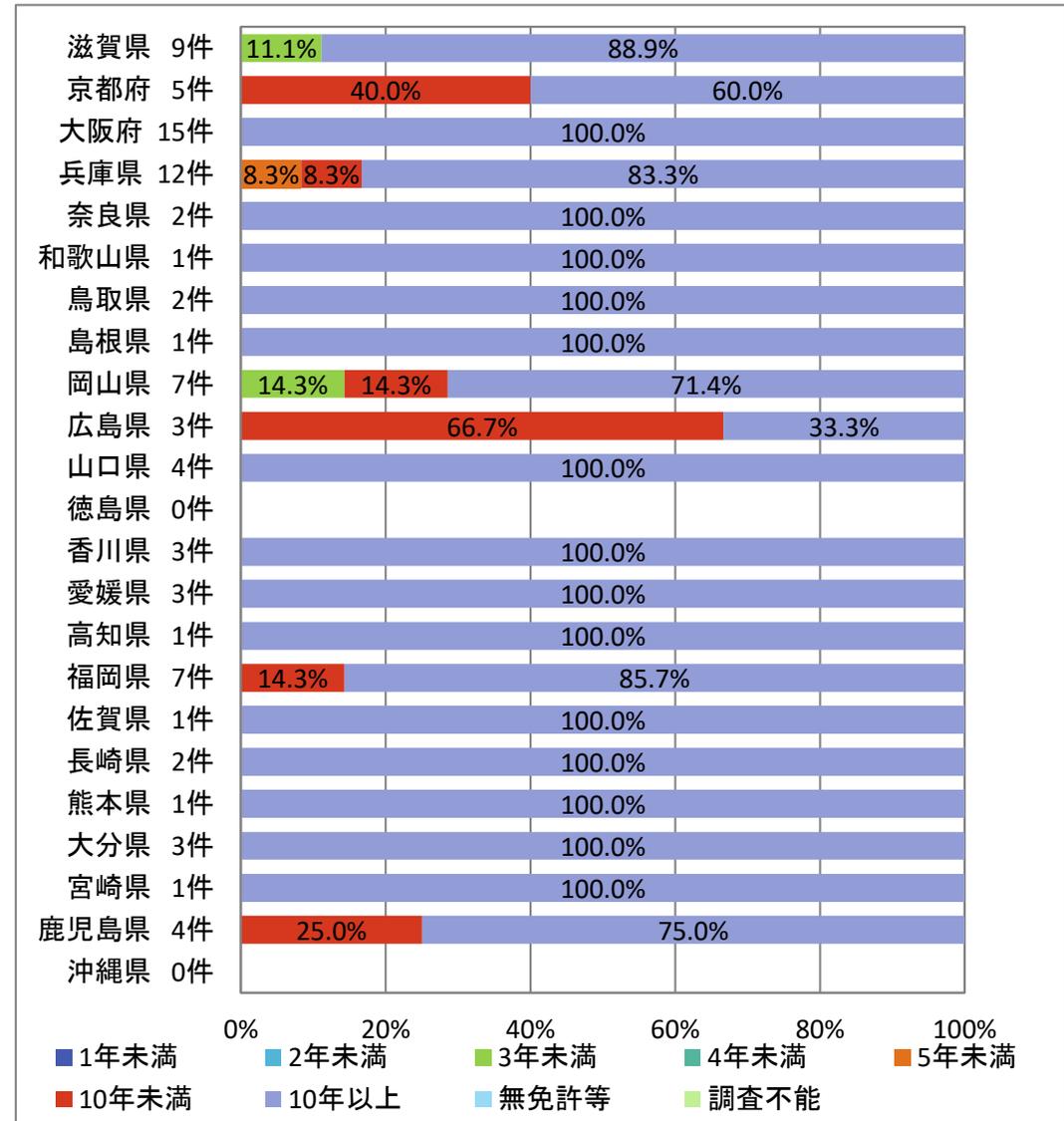
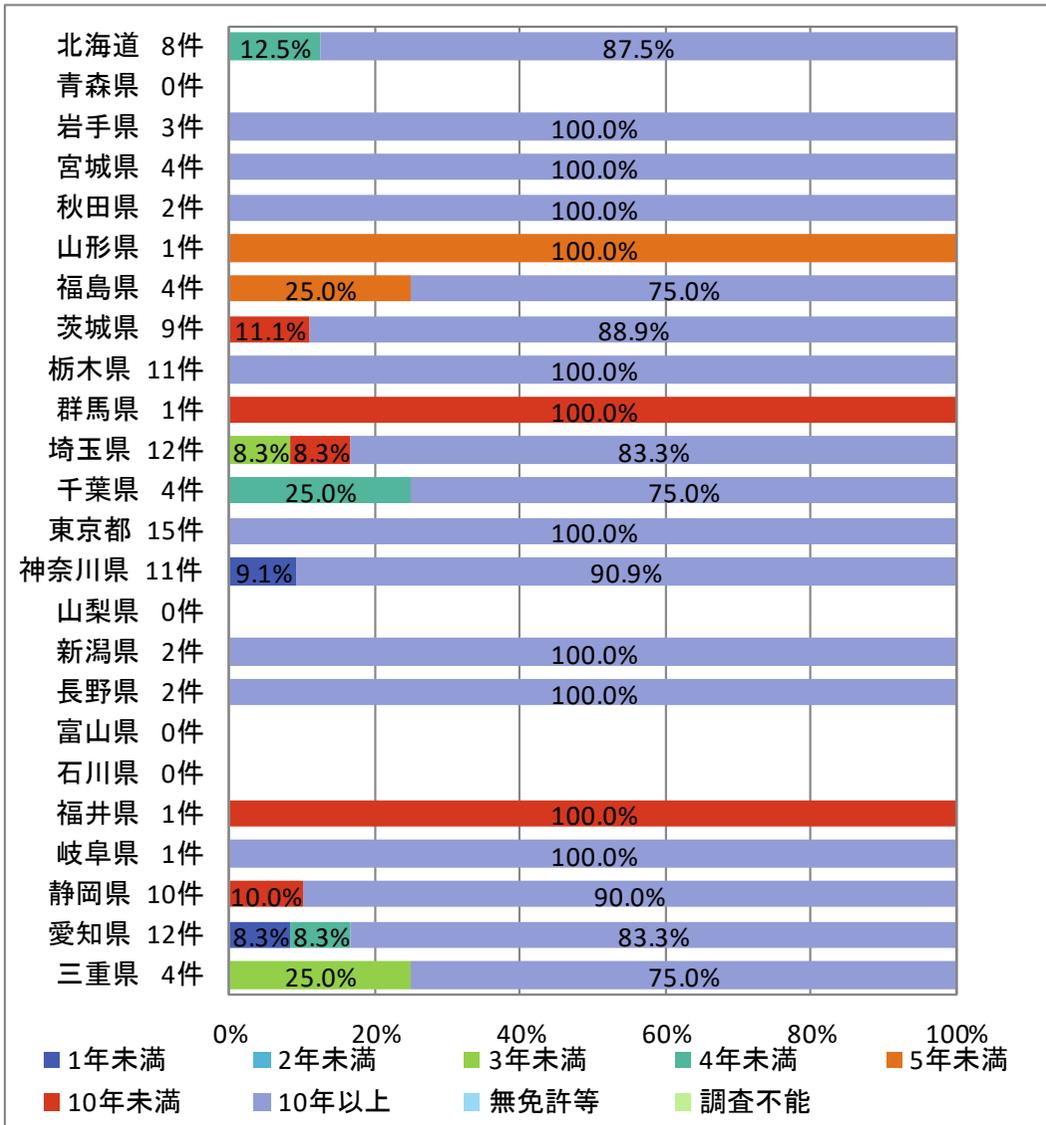
IV. 2020年死亡事故データ(発生地)

6. 発生地別の運転者の免許取得年数別

・発生地別の免許取得年別にみると、一部の県を除き「10年以上」が多い。



IV. 2020年死亡事故データ(発生地)



メ モ

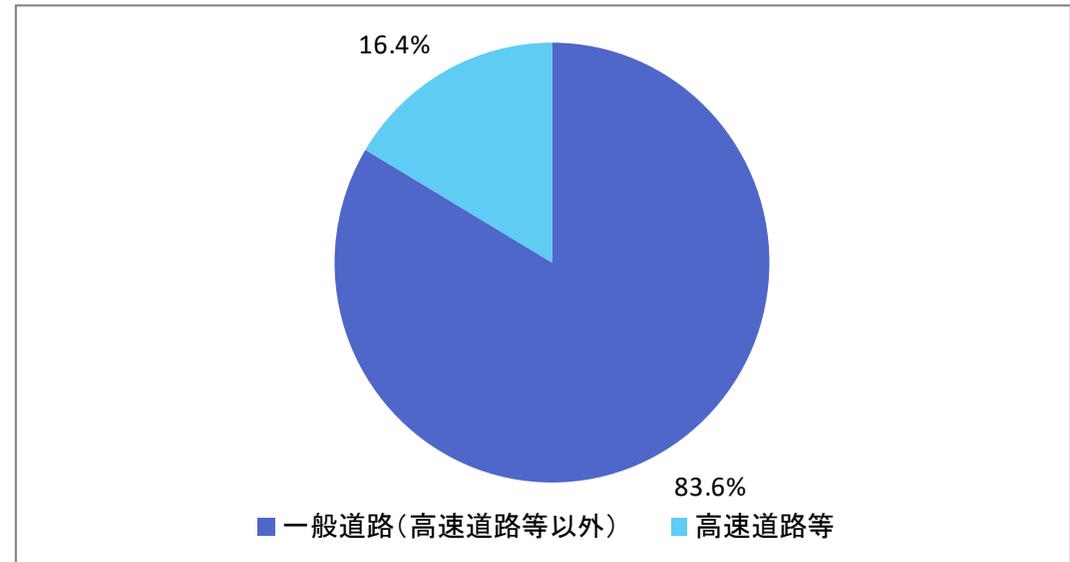
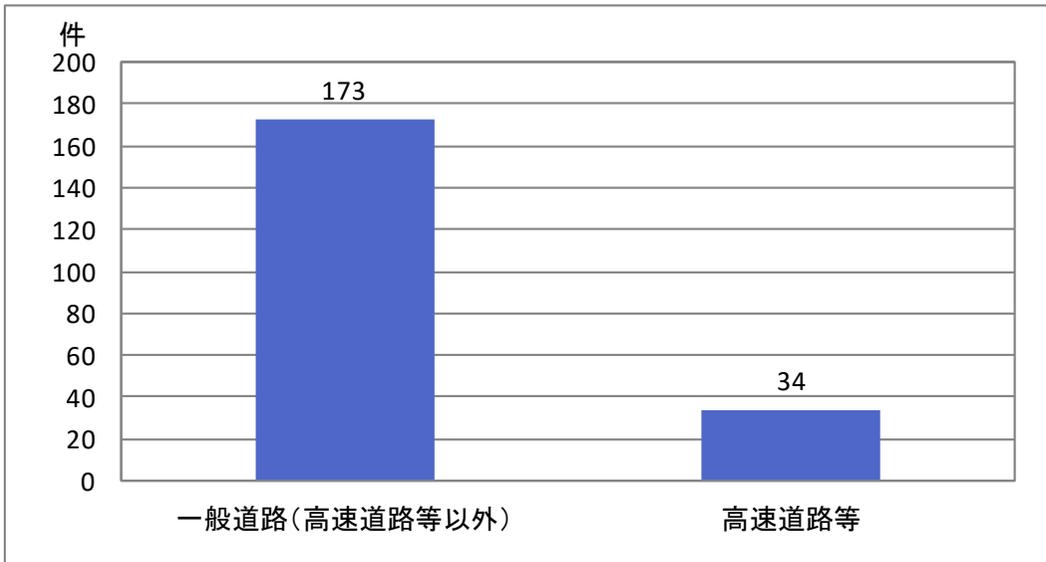
V. 2020年死亡事故データ(道路区分)

1. 道路区分別
2. 道路区分別の事故類型別
3. 道路区分別の行動類型別
4. 道路区分別の時間帯別
5. 道路区分別の運転者の危険認知速度別
6. 道路区分別の運転者の年齢層別
7. 道路区分別の運転者の免許取得年数別

V. 2020年死亡事故データ(道路区分)

1. 道路区分別

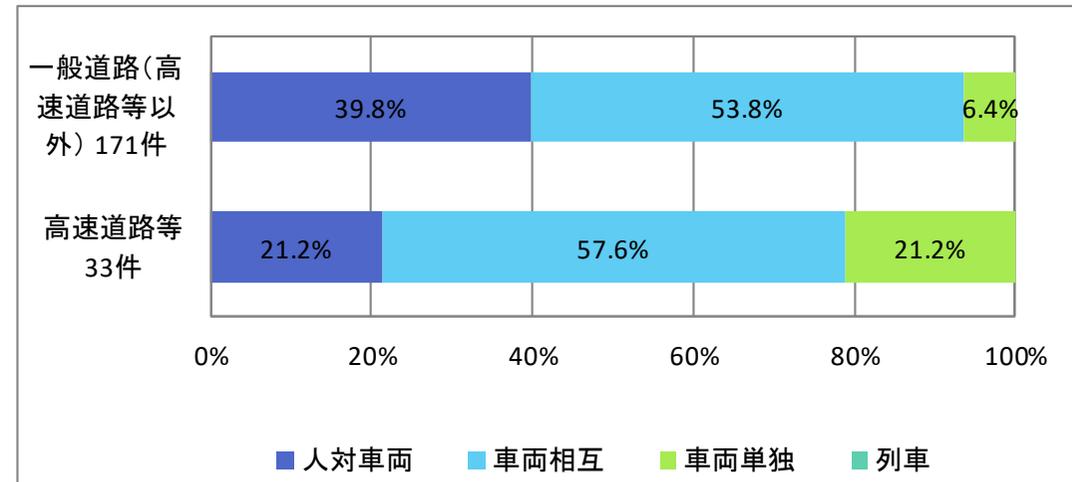
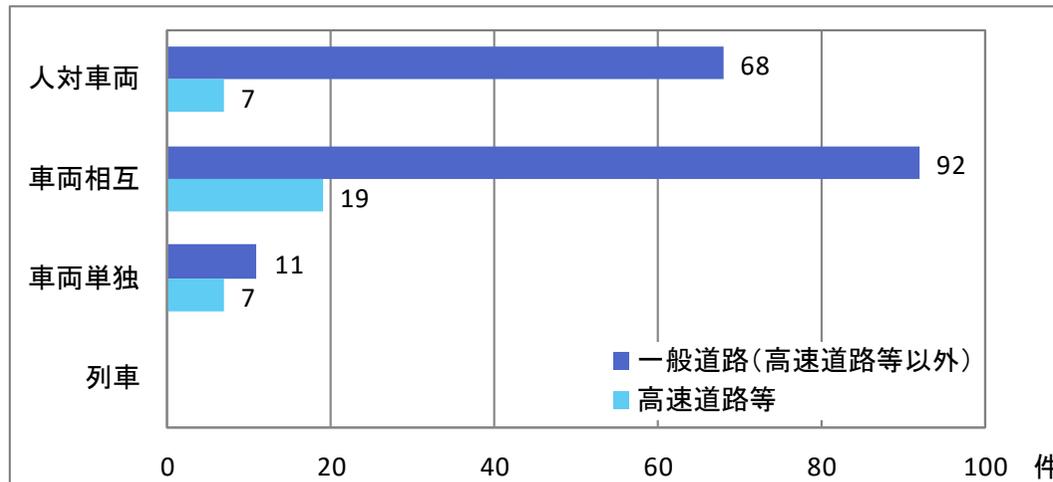
- ・道路区分別にみると、「一般道路」が最も多く173件（83.6%）と8割以上を占めている。



V. 2020年死亡事故データ(道路区分)

2. 道路区分の事故類型別

- 道路区分の事故類型別にみると、「一般道路」、「高速道路等」とともに「車両相互」が最も多く、それぞれ92件(53.8%)、19件(57.6%)と5割以上を占めている。

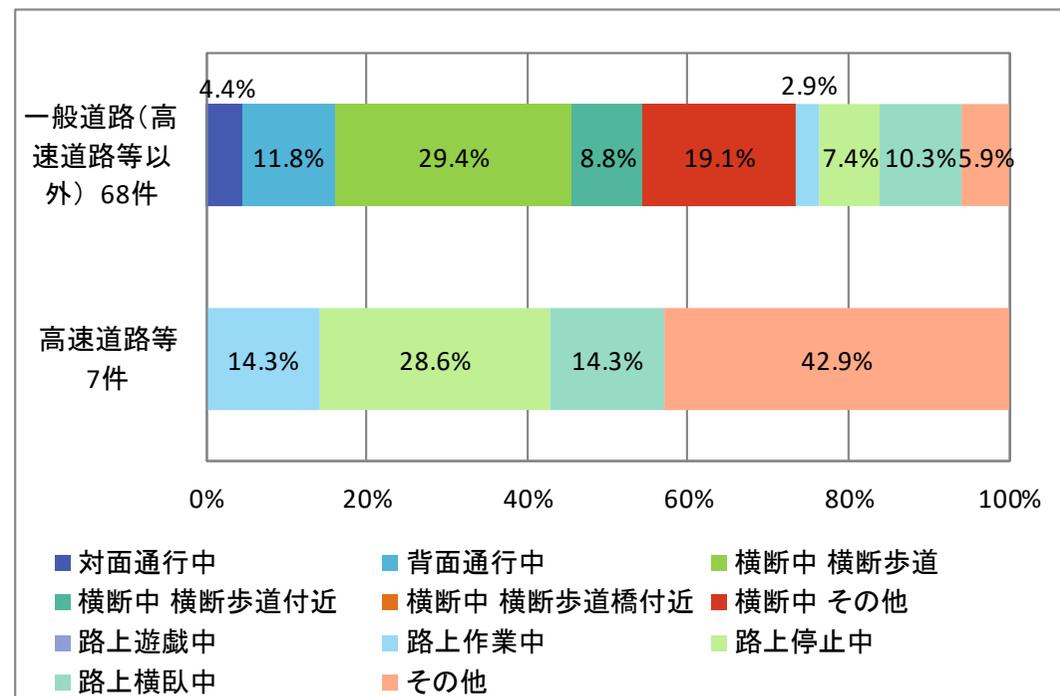
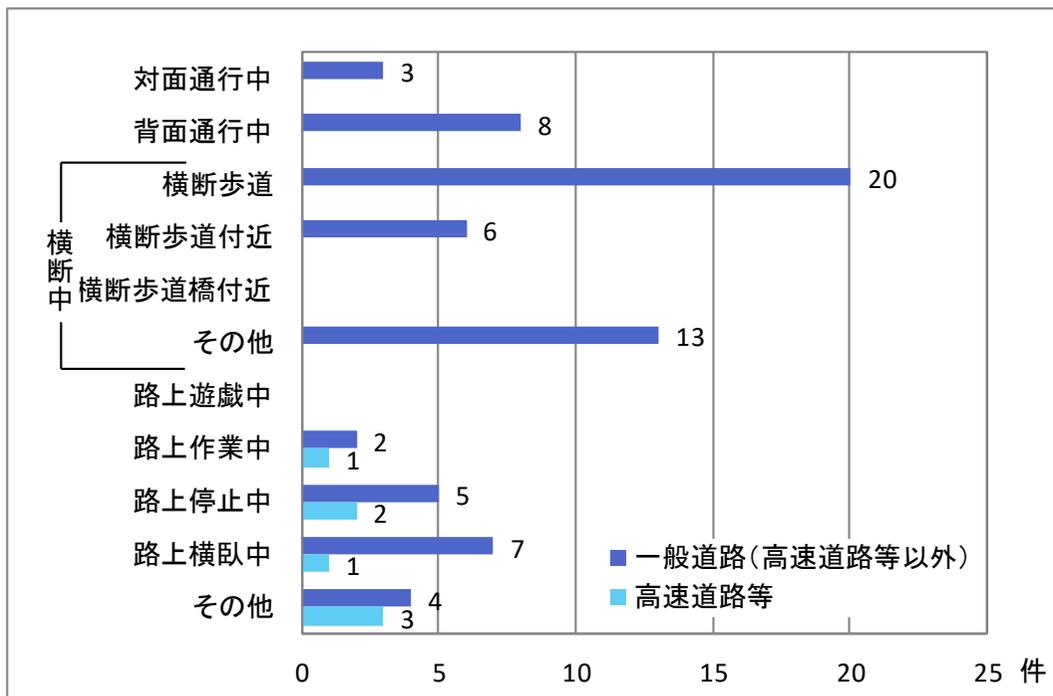


※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

V. 2020年死亡事故データ(道路区分)

(1)道路区分の事故類型(人対車両)別

- 道路区分の事故類型(人対車両)別にみると、「一般道路」では「横断中 横断歩道」が最も多く20件(29.4%)となっている。次いで、「横断歩道 その他」13件(19.1%)、「背面通行中」8件(11.8%)、「路上横臥中」7件(10.3%)等と続いている。
- 「高速道路」では「その他」3件(42.9%)、「路上停止中」2件(28.6%)、「路上作業中」、「路上横臥中」がそれぞれ1件(14.3%)となっている。

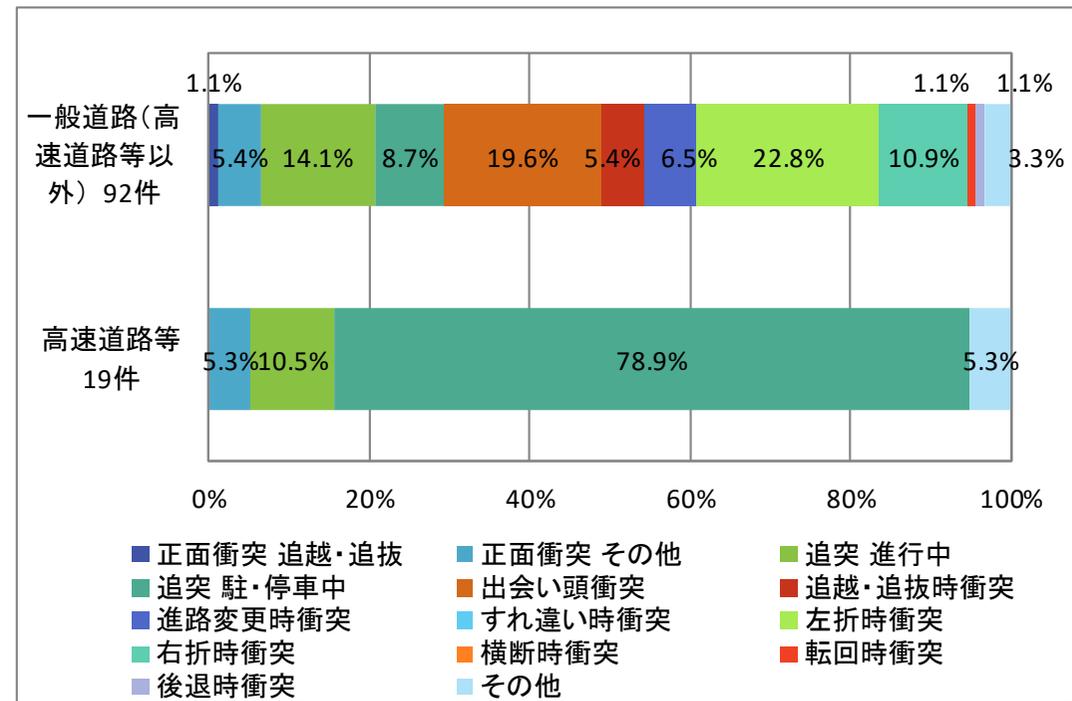
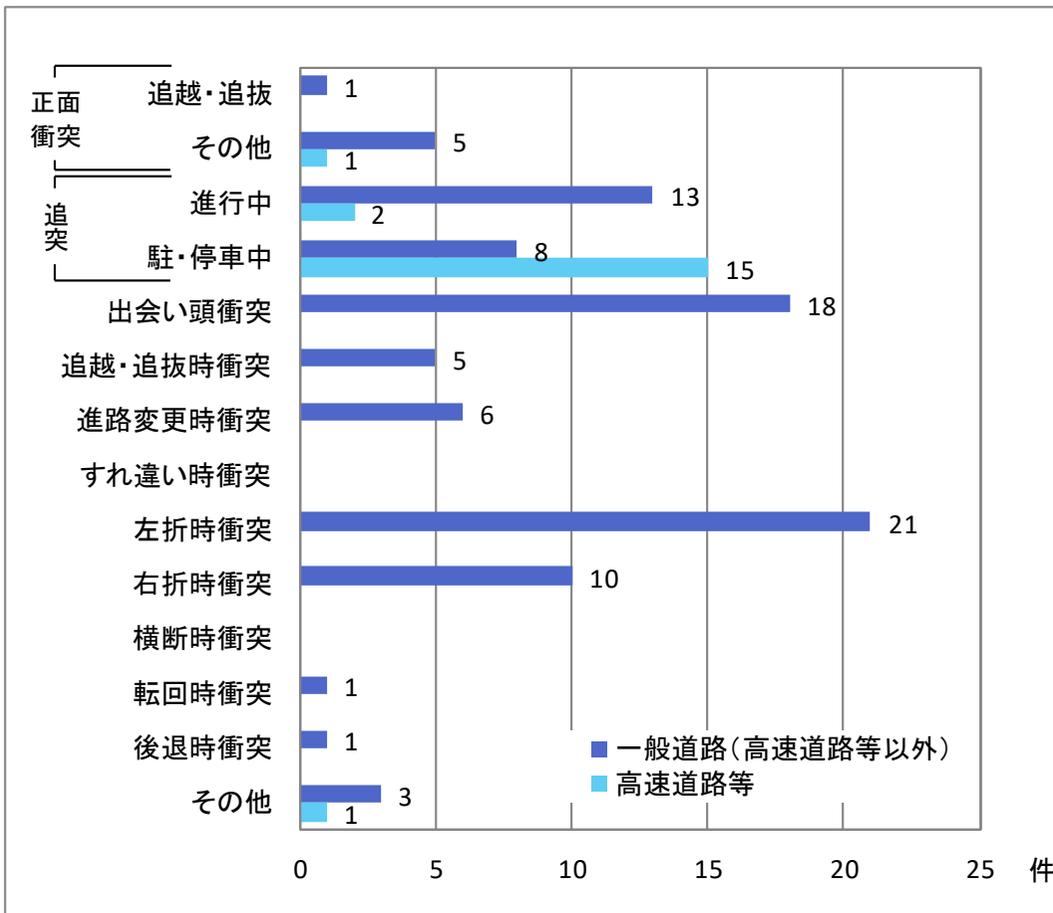


※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

V. 2020年死亡事故データ(道路区分)

(2)道路区分の事故類型(車両相互)別

- ・道路区分の事故類型(車両相互)別にみると、「一般道路」では「左折時衝突」が最も多く21件(22.8%)となっている。次いで、「出会い頭衝突」18件(19.6%)、「追突 進行中」13件(14.1%)、「右折時衝突」10件(10.9%)等と続いている。
- ・「高速道路」では「追突 駐・停車中」が最も多く15件(78.9%)と8割近くを占めている。

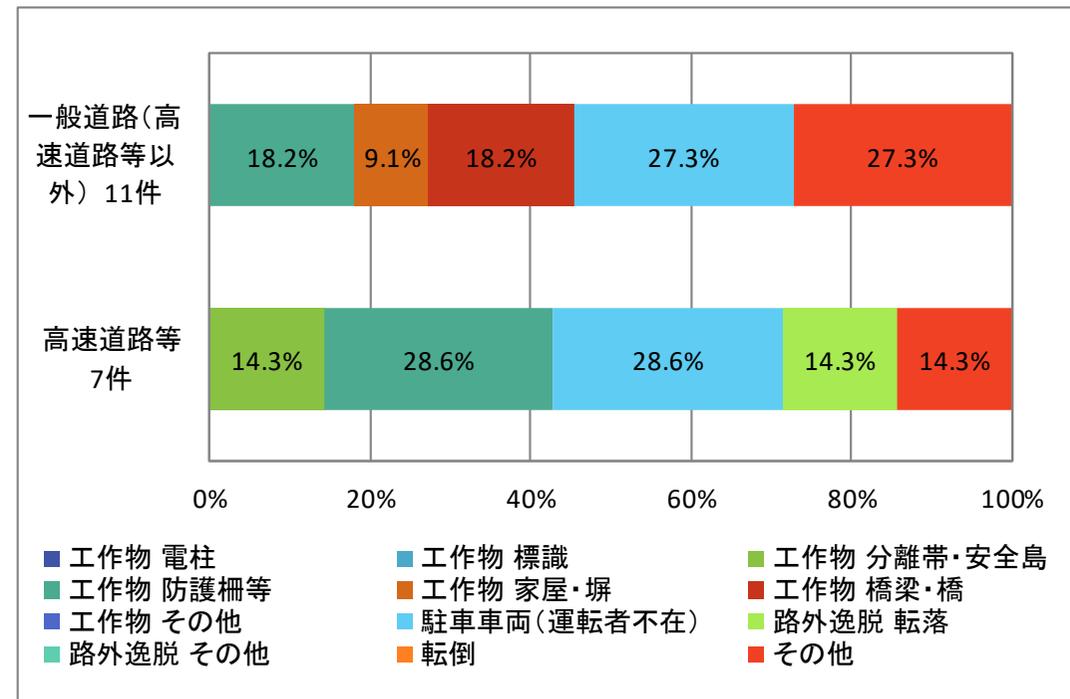
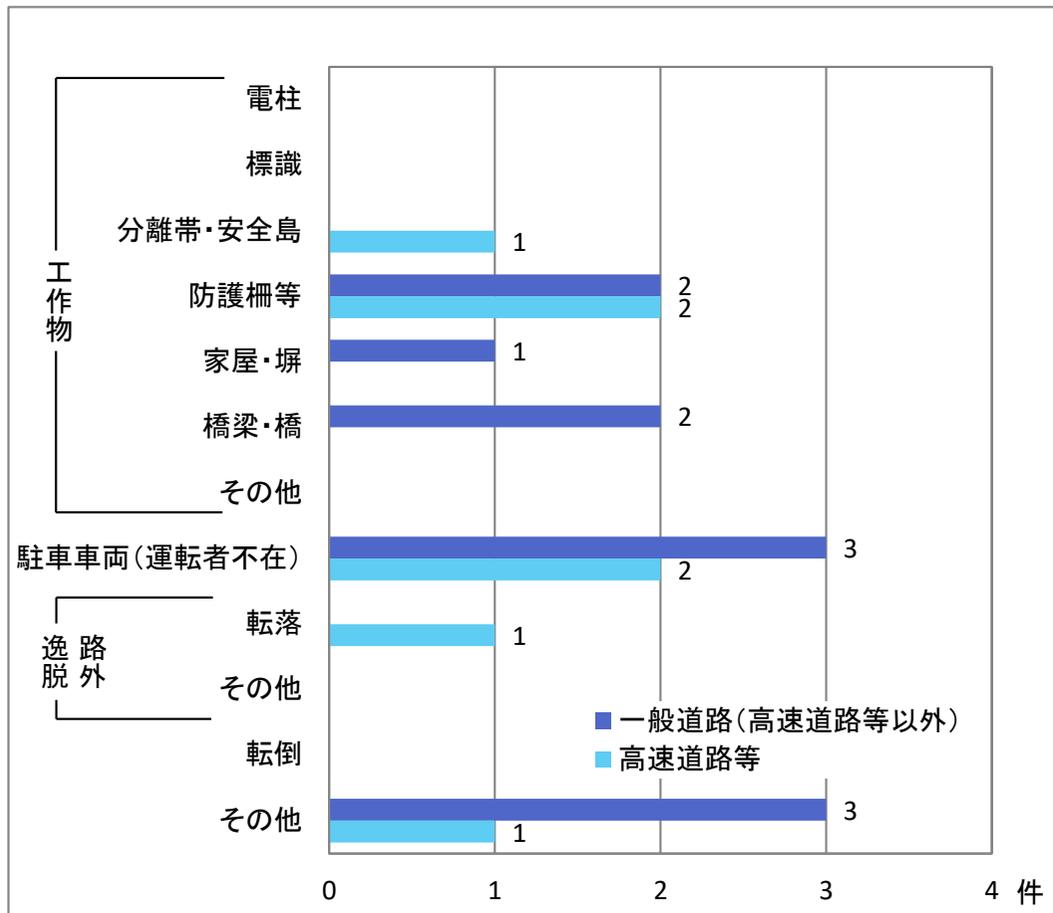


※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

V. 2020年死亡事故データ(道路区分)

(3) 道路区分の事故類型(車両単独)別

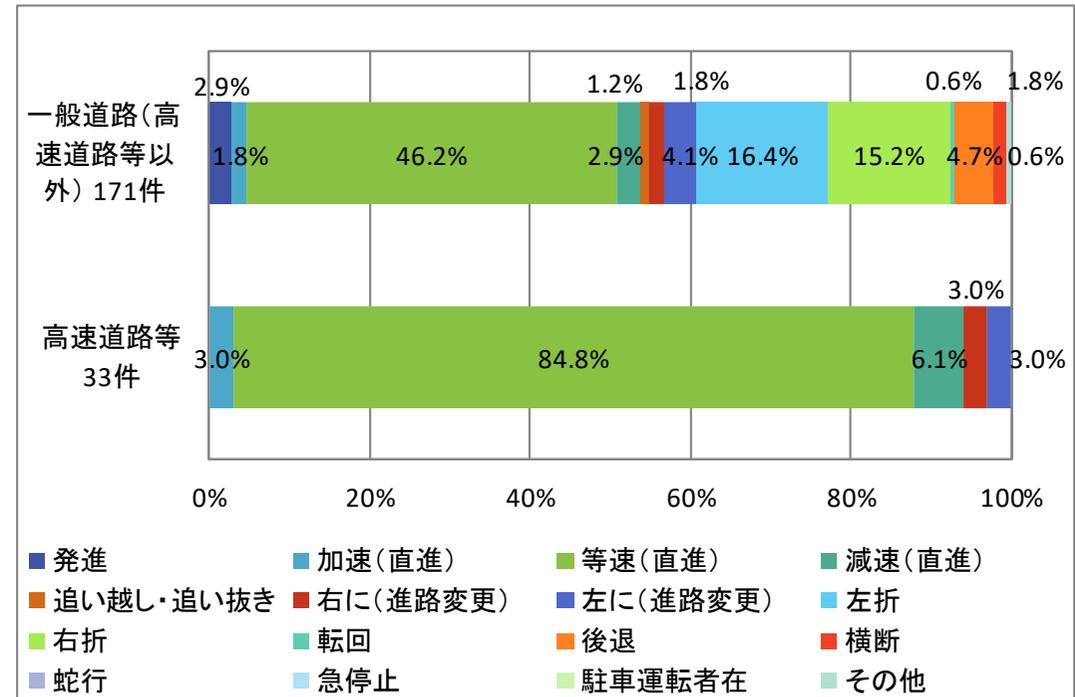
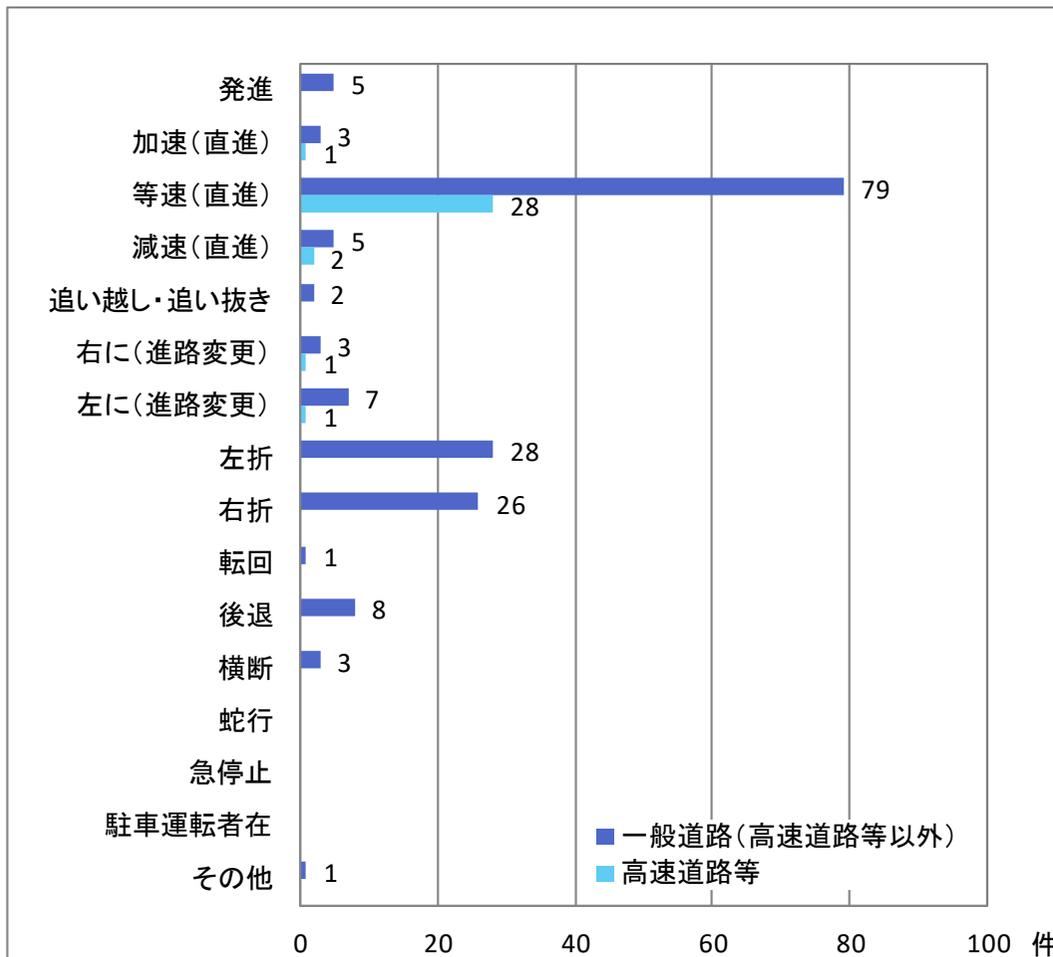
- ・道路区分の事故類型(車両単独)別にみると、「一般道路」では「駐車車両(運転者不在)」、「その他」が最も多く、それぞれ3件(27.3%)となっている。
- ・「高速道路」では「工作物 防護柵等」、「駐車車両(運転者不在)」が最も多く、それぞれ2件(28.6%)となっている。



V. 2020年死亡事故データ(道路区分)

3. 道路区分別の行動類型別

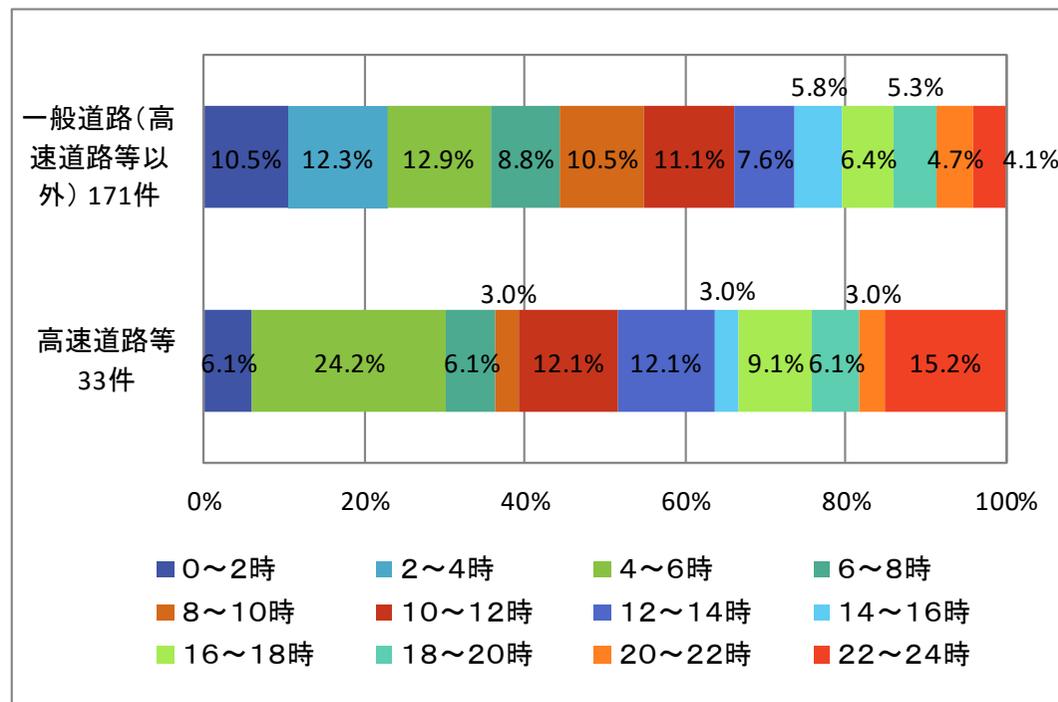
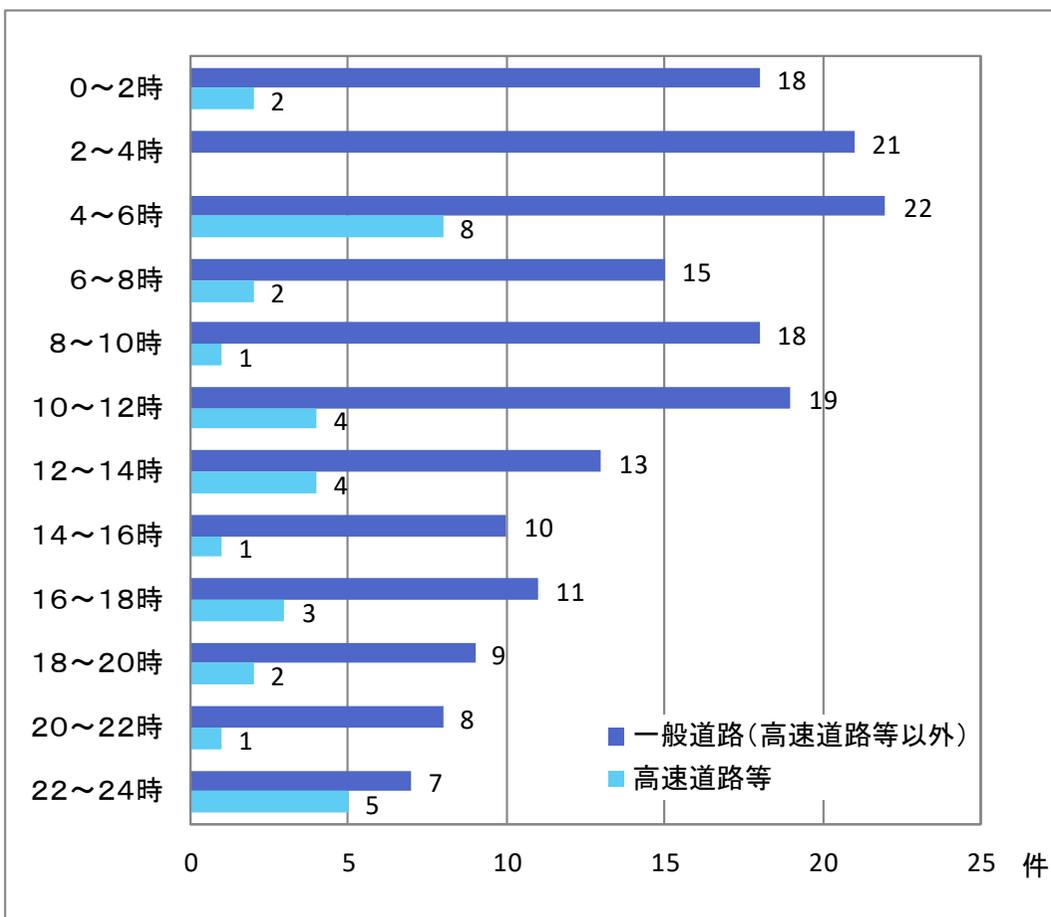
・道路区分別の行動類型別にみると、「一般道路」及び「高速道路」のいずれも「等速（直進）」が最も多く、それぞれ79件（46.2%）、28件（84.8%）となっている。



V. 2020年死亡事故データ(道路区分)

4. 道路区分別の時間帯別

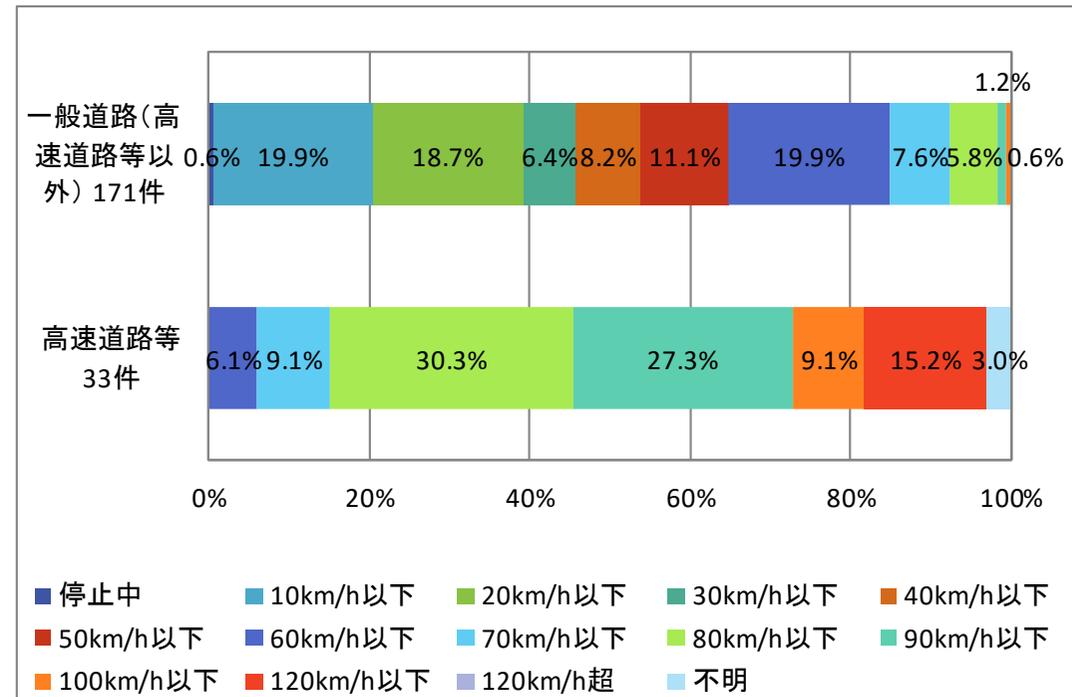
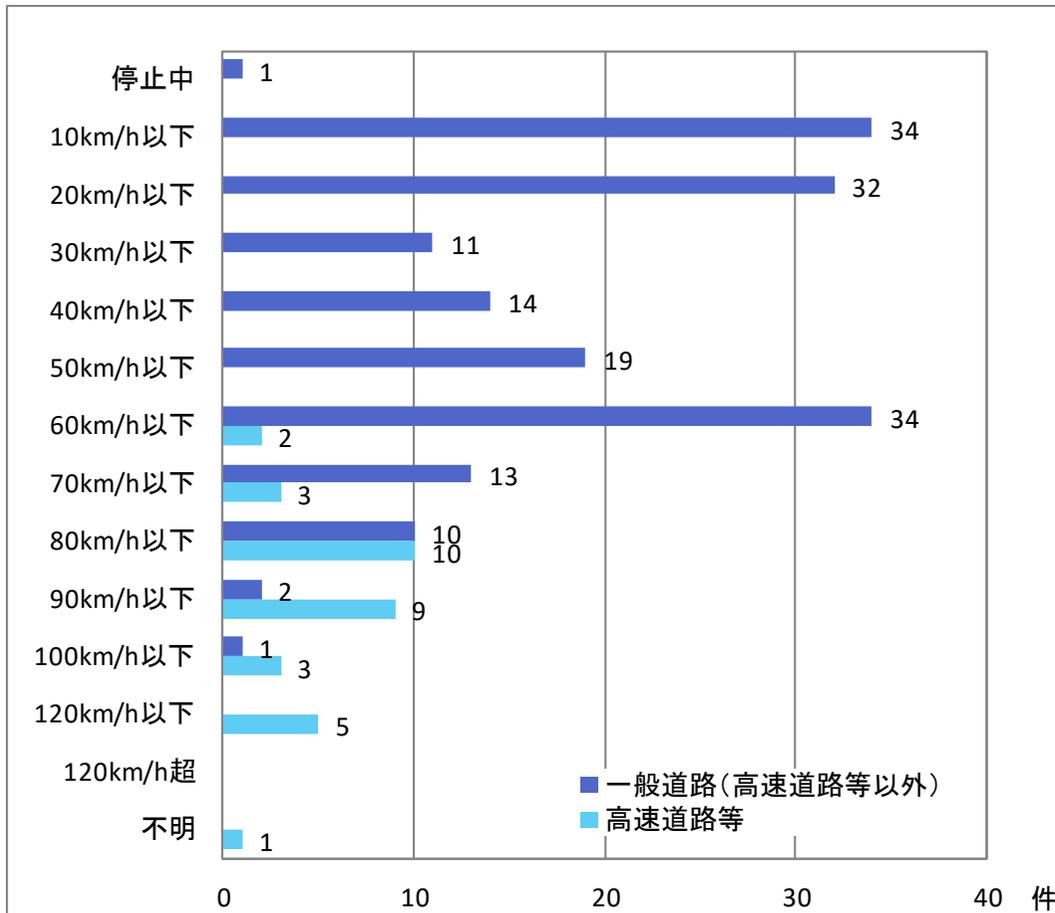
- ・道路区分別の時間帯別にみると、「一般道路」では「4～6時」が最も多く22件（12.9%）となっている。次いで、「2～4時」21件（12.3%）、「10～12時」19件（11.1%）、「0～2時」、「8～10時」がそれぞれ18件（10.5%）等と続いている。22時～6時までの深夜早朝時間帯で4割近くを占めている。
- ・「高速道路」では「4～6時」が最も多く8件（24.2%）となっている。次いで、「22～24時」5件（15.2%）、「10～12時」、「12～14時」がそれぞれ4件（12.1%）等と続いている。22時～6時までの深夜早朝時間帯で5割近くを占めている。



V. 2020年死亡事故データ(道路区分)

5. 道路区分別の運転者の危険認知速度別

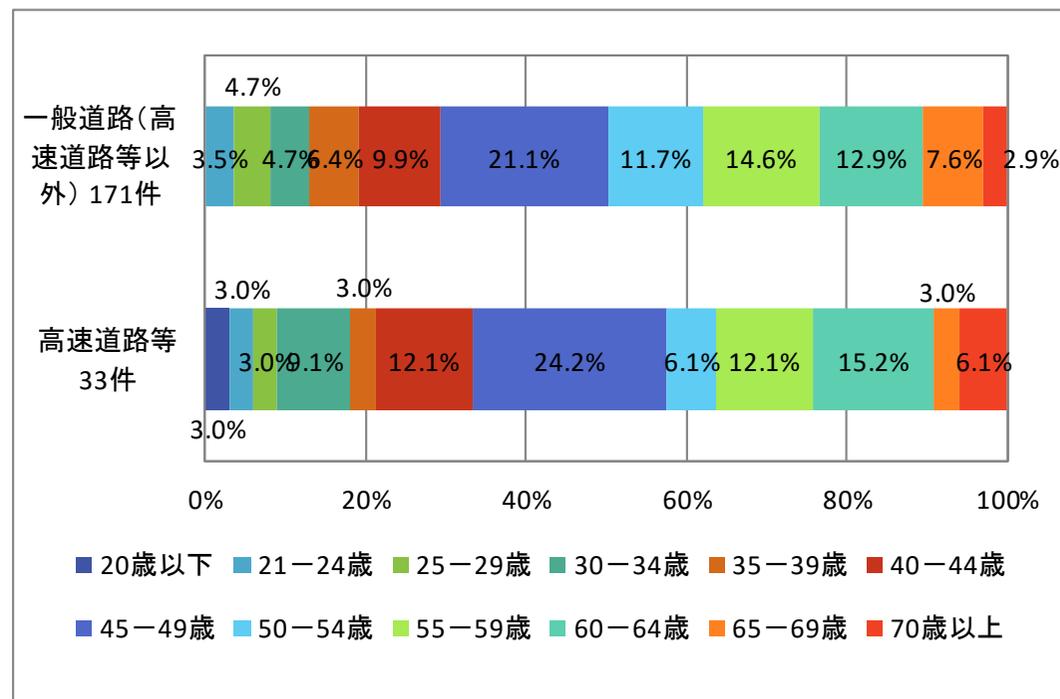
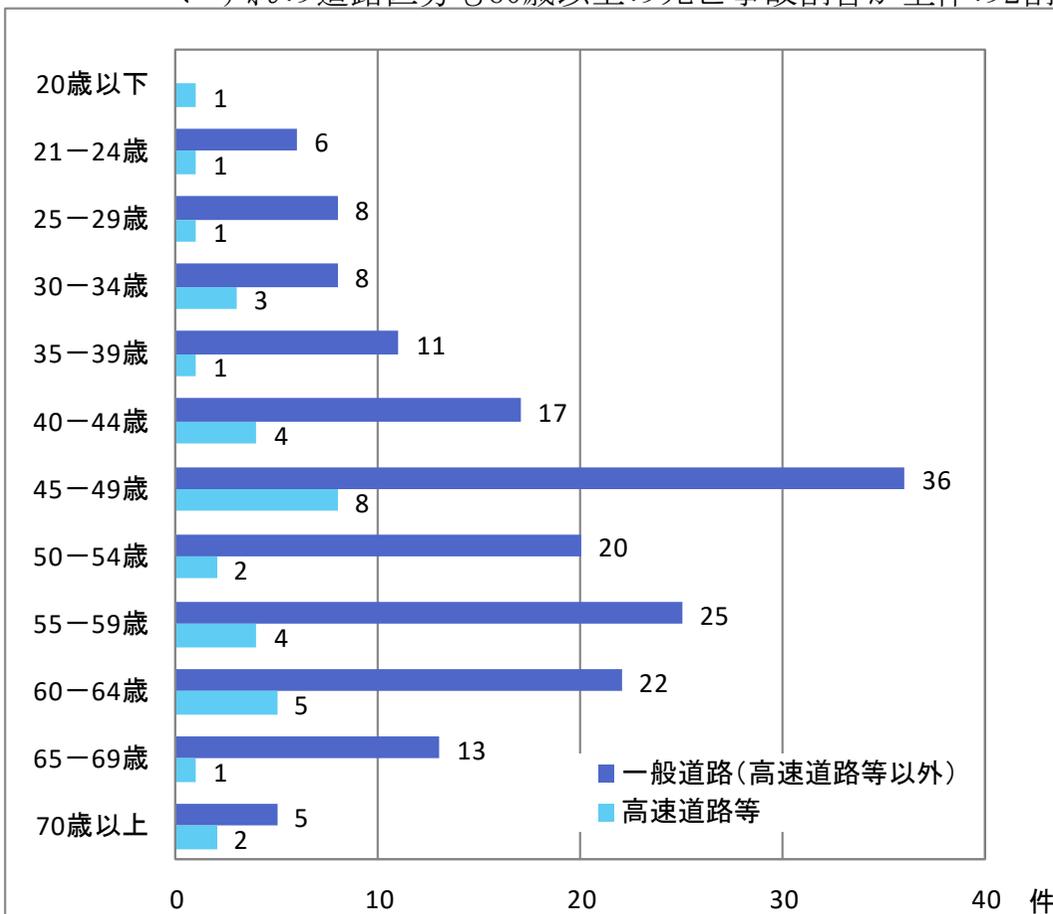
- ・道路区分別の危険認知速度別にみると、「一般道路」では「10km/h以下」、「60km/h以下」が最も多く、それぞれ34件（19.9%）となっている。次いで、「20km/h以下」32件（18.7%）等と続いている。市街地の最高速度に近い10～20km/h程度の速度帯と幹線道路の最高速度に近い60km/hの速度帯に分布がわかれている。
- ・「高速道路」では「80km/h以下」が最も多く10件（30.3%）となっている。次いで、「90km/h以下」9件（27.3%）等と続いている。



V. 2020年死亡事故データ(道路区分)

6. 道路区分別の運転者の年齢層別

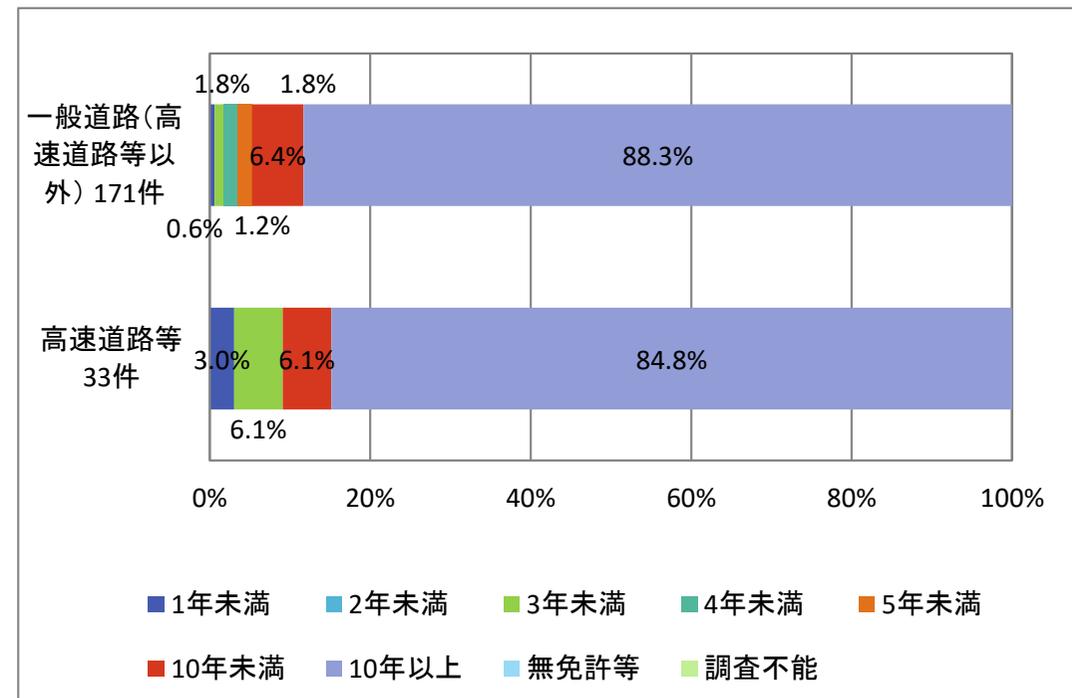
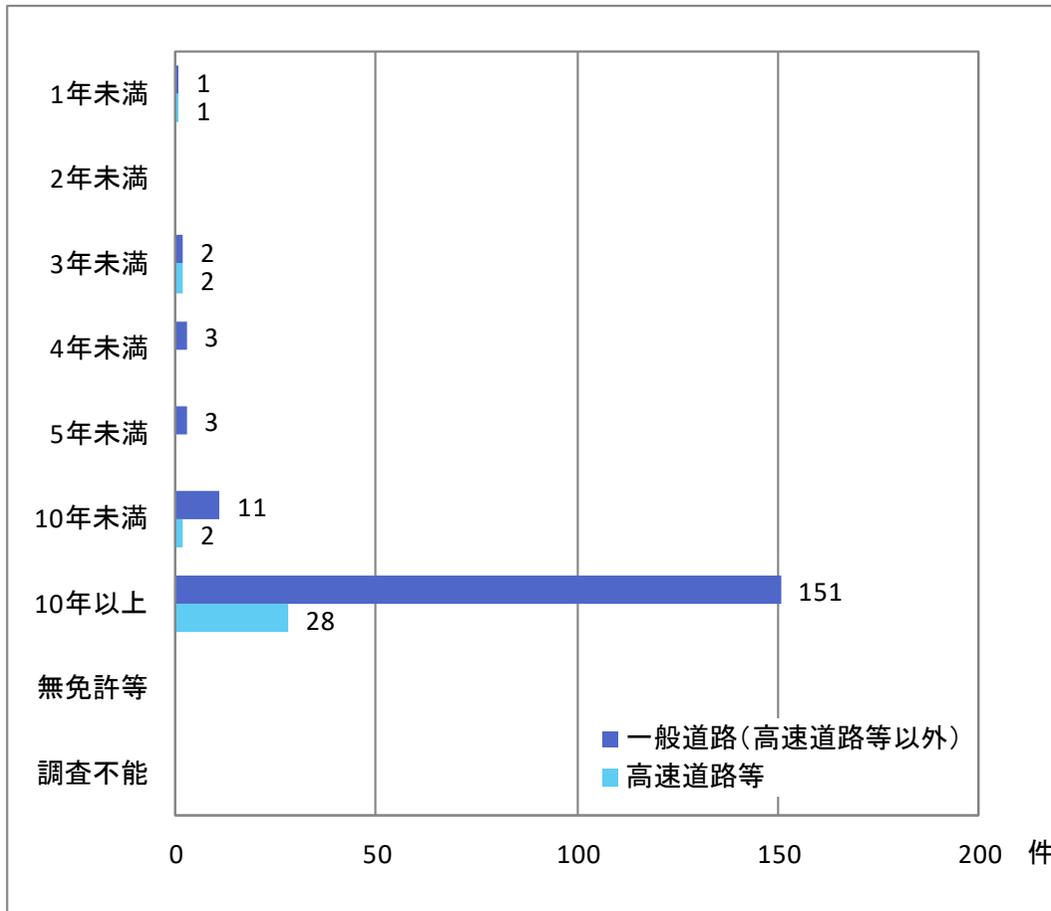
- ・道路区分別の年齢層別にみると、「一般道路」では「45-49歳」が最も多く36件（21.1%）となっている。次いで、「55-59歳」25件（14.6%）、「60-64歳」22件（12.9%）等と続いている。
- ・「高速道路」では「45-49歳」が最も多く8件（24.2%）となっている。次いで、「60-64歳」5件（15.2%）等と続いている。
- ・いずれの道路区分も60歳以上の死亡事故割合が全体の2割以上となっている。



V. 2020年死亡事故データ(道路区分)

7. 道路区分別の運転者の免許取得年別

- 道路区分別の免許取得年別にみると、「一般道路」及び「高速道路」のいずれも「10年以上」が最も多く、それぞれ151件（88.3%）、28件（84.8%）と8～9割近くを占めている。



メ モ

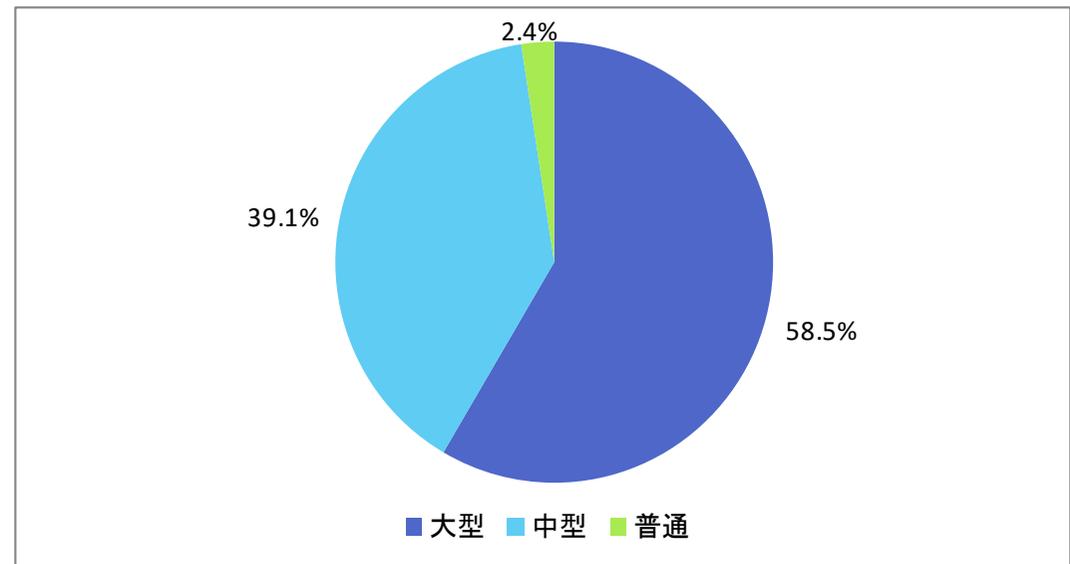
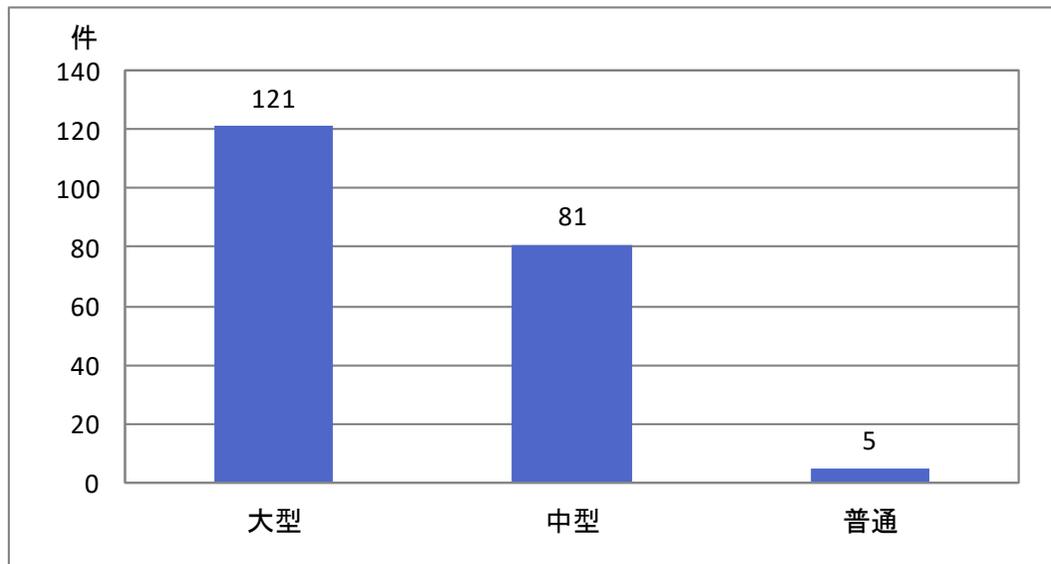
VI. 2020年死亡事故データ(車両区分)

1. 車両区分別
2. 車両区分別の事故類型別
3. 車両区分別の行動類型別
4. 車両区分別の時間帯別
5. 車両区分別の運転者の危険認知速度別
6. 車両区分別の運転者の年齢層別
7. 車両区分別の運転者の免許取得年数別

VI. 2020年死亡事故データ(車両区分)

1. 車両区分別

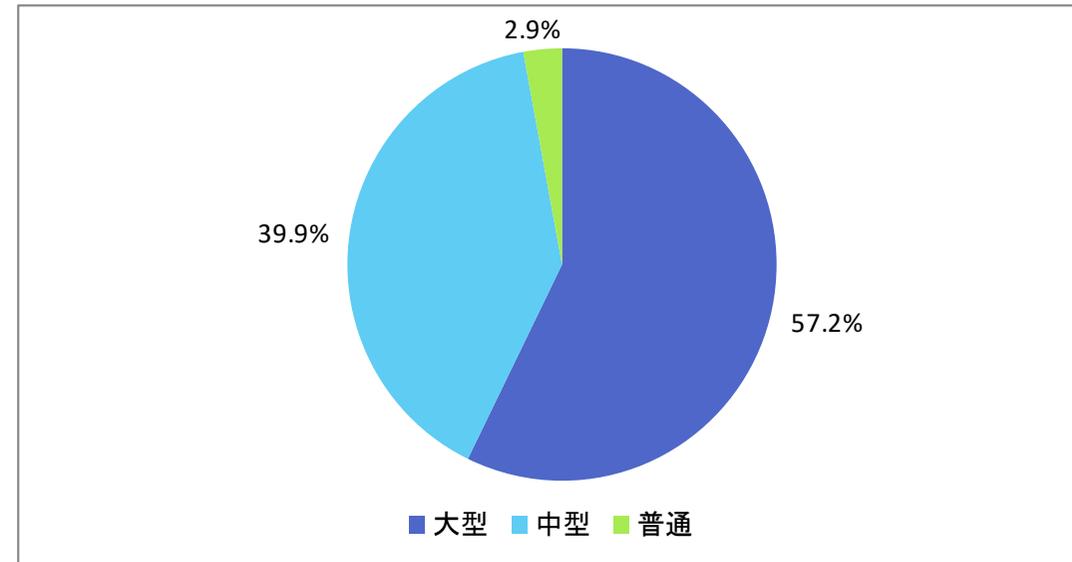
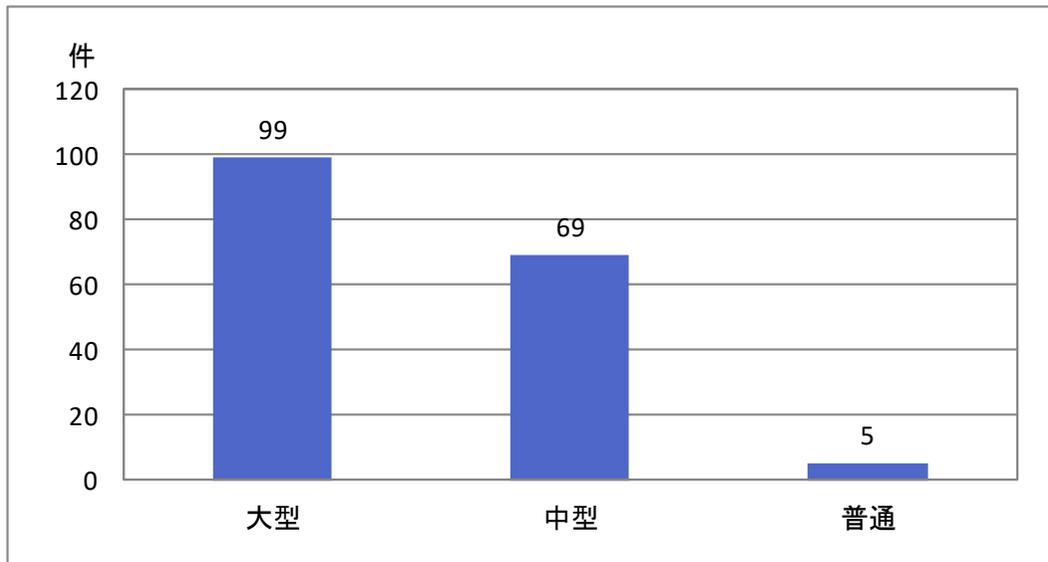
- ・車両区分別にみると、「大型」が最も多く121件（58.5%）と6割近くを占めている。
- ・次いで、「中型」81件（39.1%）、「普通」5件（2.4%）と続いている。



VI. 2020年死亡事故データ(車両区分)

(1) 一般道路上での車両区分

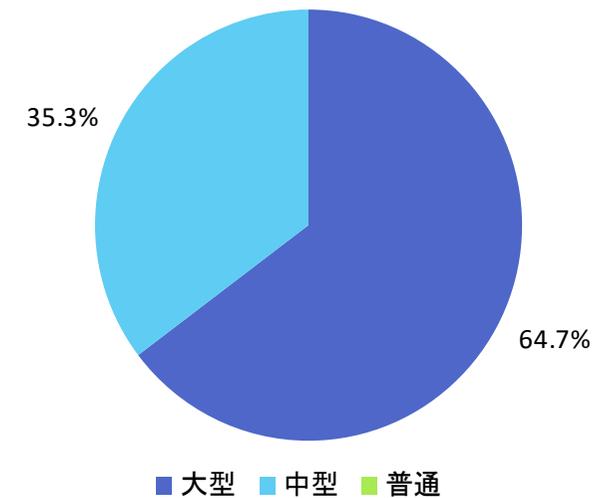
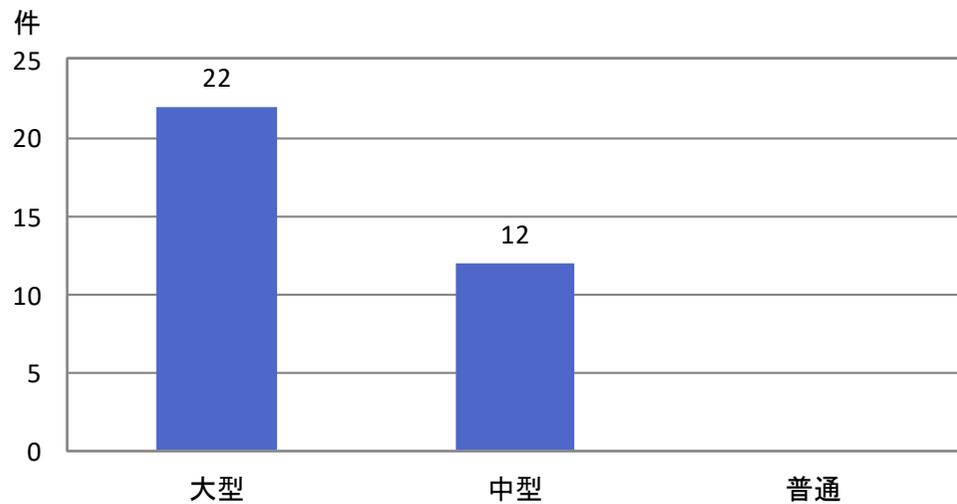
- ・一般道路上での車両区分をみると、「大型」が最も多く99件（57.2%）と6割近くを占めている。
- ・次いで、「中型」69件（39.9%）、「普通」5件（2.9%）と続いている。



VI. 2020年死亡事故データ(車両区分)

(2) 高速道路上での車両区分

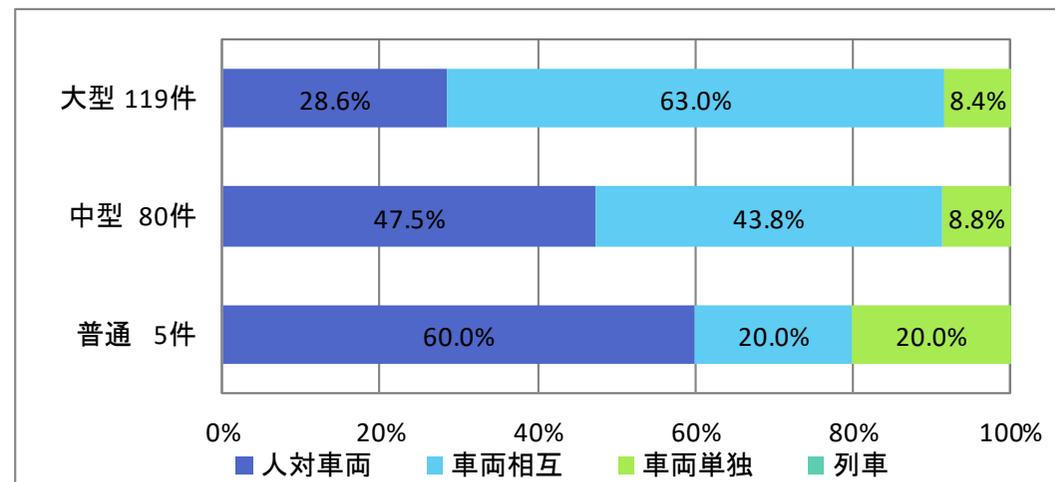
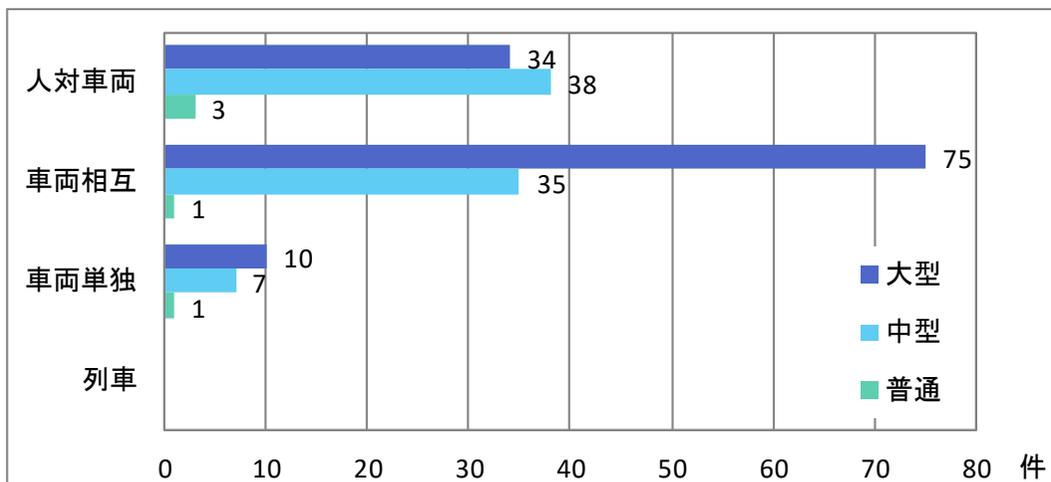
- ・ 高速道路上での車両区分をみると、「大型」が最も多く22件（64.7%）と6割以上を占めている。
- ・ 次いで、「中型」12件（35.3%）となっている。



VI. 2020年死亡事故データ(車両区分)

2. 車両区分の事故類型別

- ・車両区分の事故類型別にみると、「大型」は「車両相互」が最も多く75件（63.0%）となっている。
- ・「中型」、「普通」は「人対車両」が最も多く、それぞれ38件（47.5%）、3件（60.0%）となっている。
- ・車両が小さくなるほど、「人対車両」の割合が多い傾向にある。

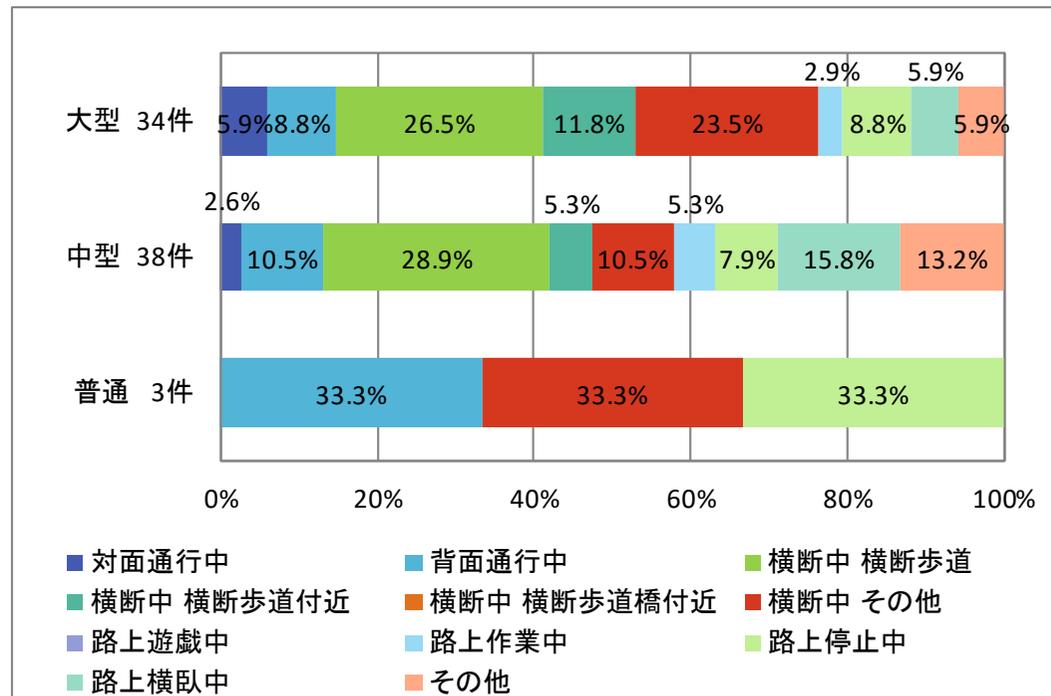
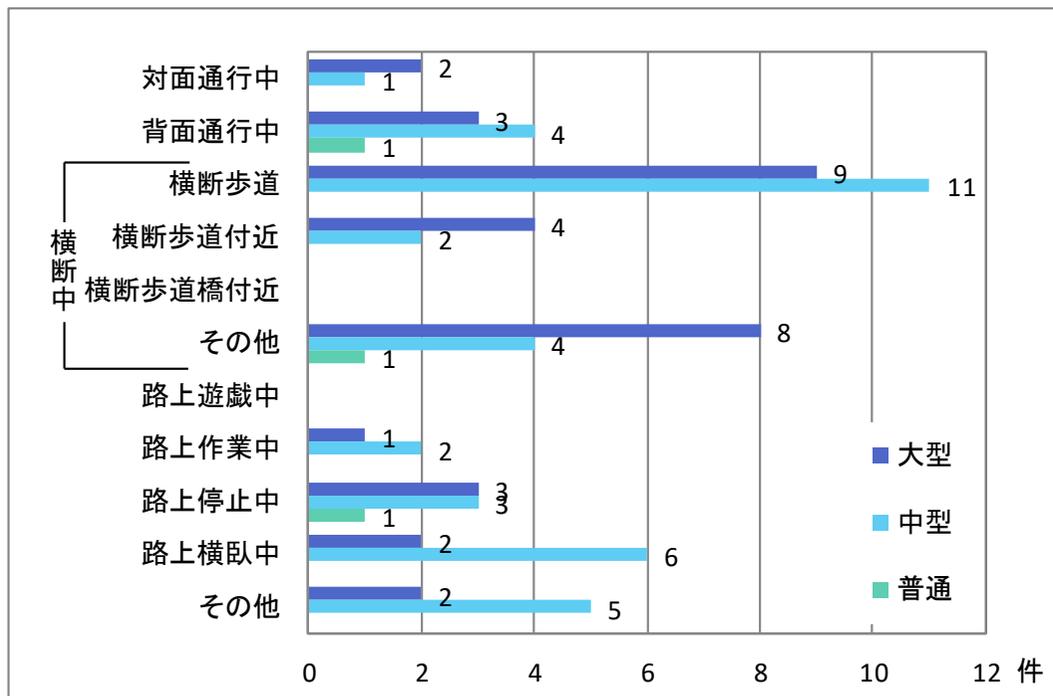


※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

VI. 2020年死亡事故データ(車両区分)

(1) 車両区分の事故類型(人対車両)別

- ・ 車両区分の事故類型(人対車両)別にみると、「大型」、「中型」は「横断中 横断歩道」が最も多く、それぞれ9件(26.5%)、11件(28.9%)となっている。
- ・ 「普通」は「背面通行中」、「横断中 その他」、「路上停止中」がそれぞれ1件(33.3%)となっている。

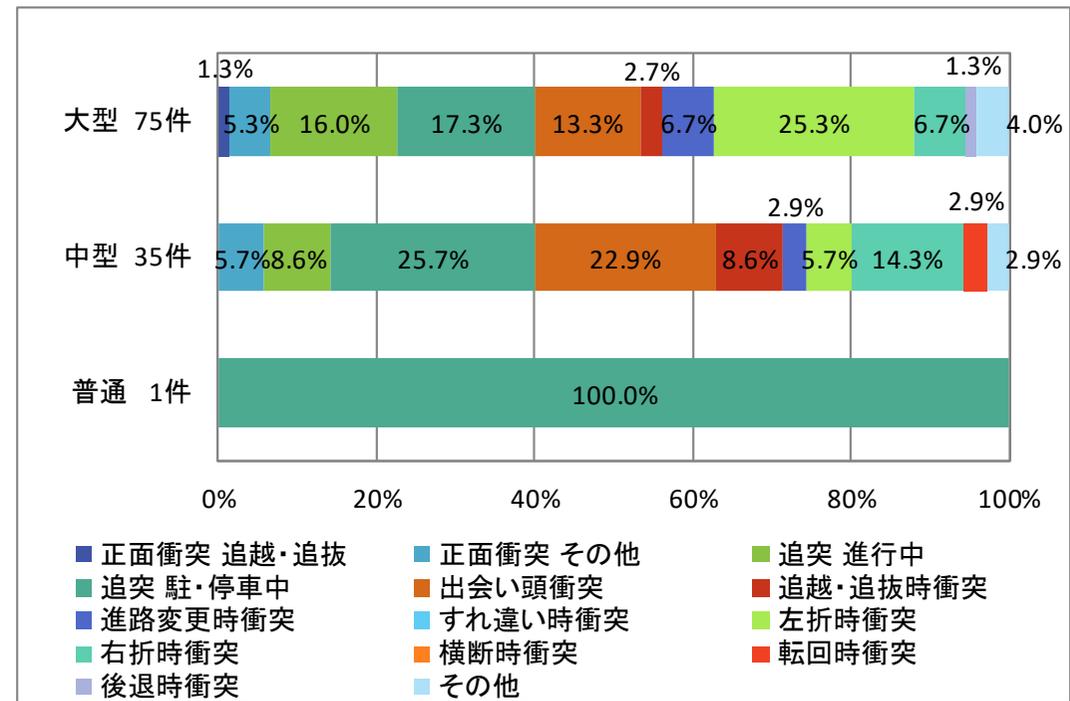
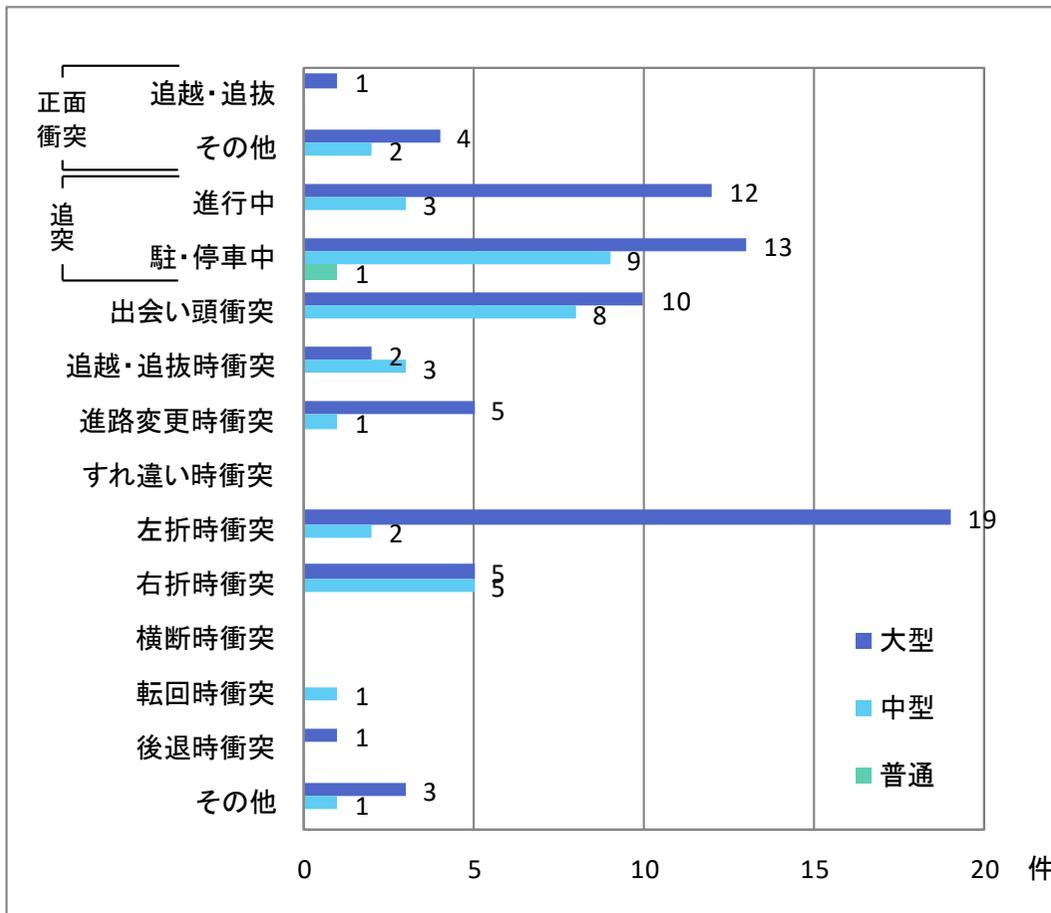


※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

VI. 2020年死亡事故データ(車両区分)

(2) 車両区分の事故類型(車両相互)別

- ・車両区分の事故類型(車両相互)別にみると、「大型」は「左折時衝突」が最も多く19件(25.3%)となっている。
- ・「中型」、「普通」は「追突 駐・停車中」が最も多く、それぞれ9件(25.7%)、1件(100.0%)となっている。

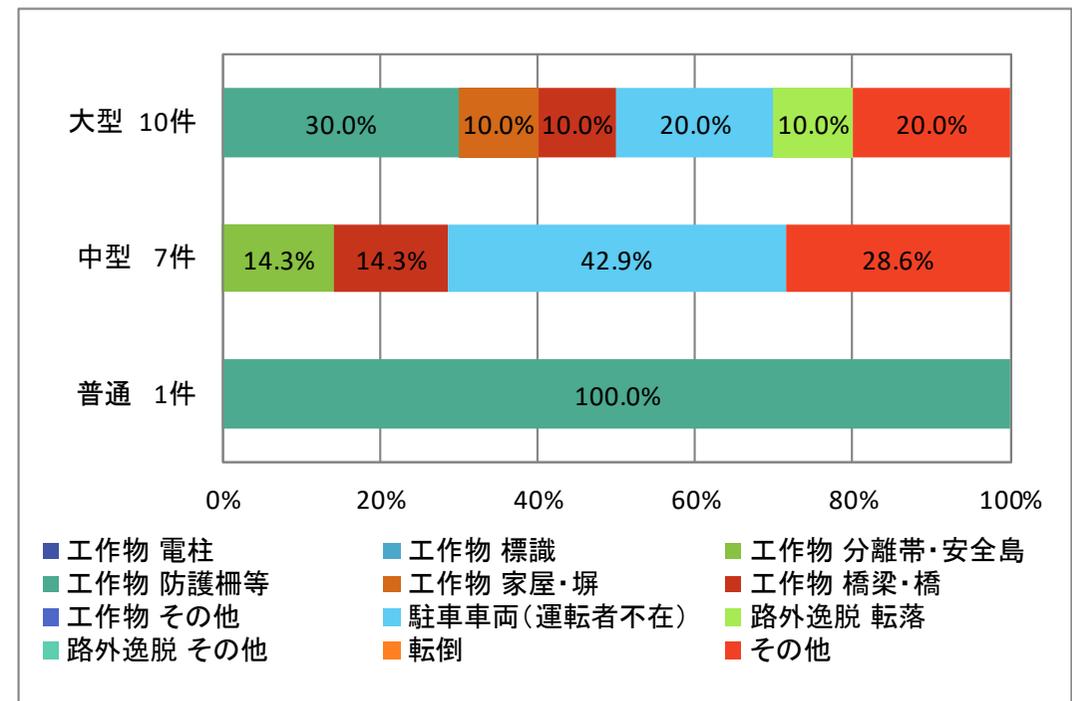
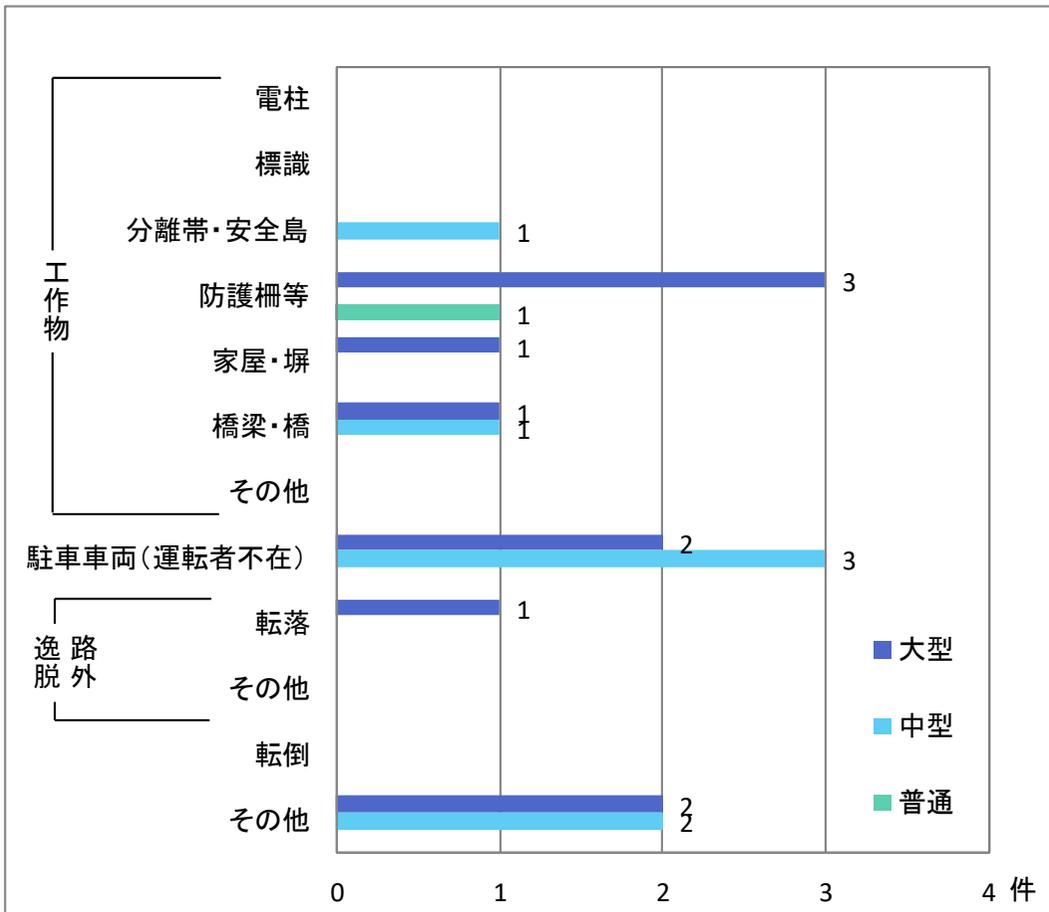


※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

VI. 2020年死亡事故データ(車両区分)

(3) 車両区分の事故類型(車両単独)別

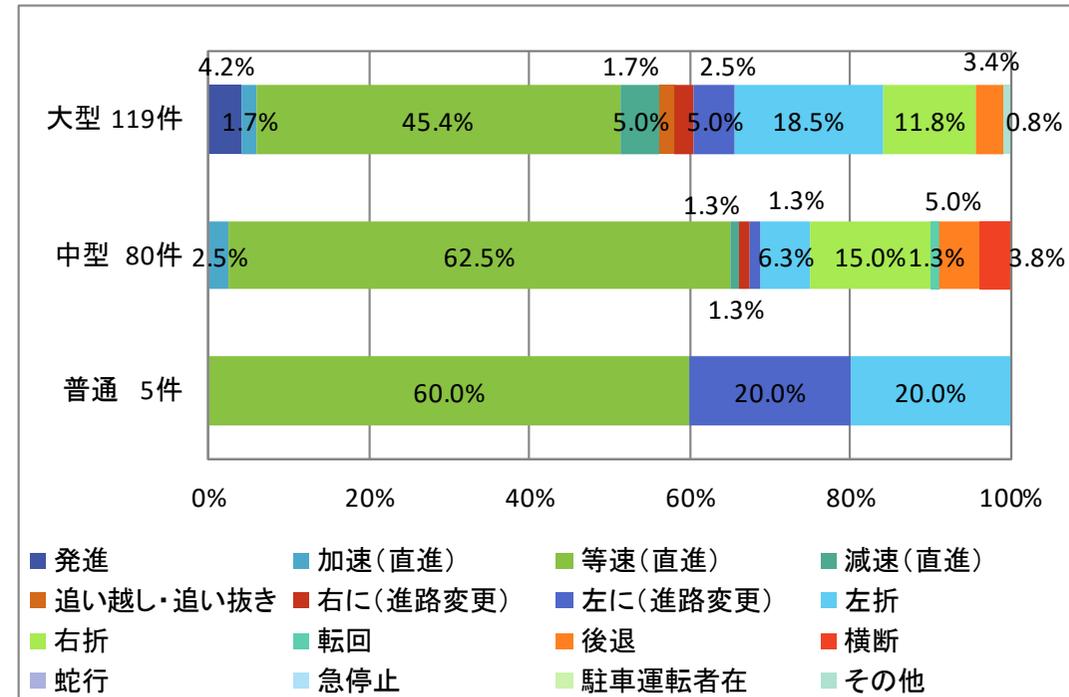
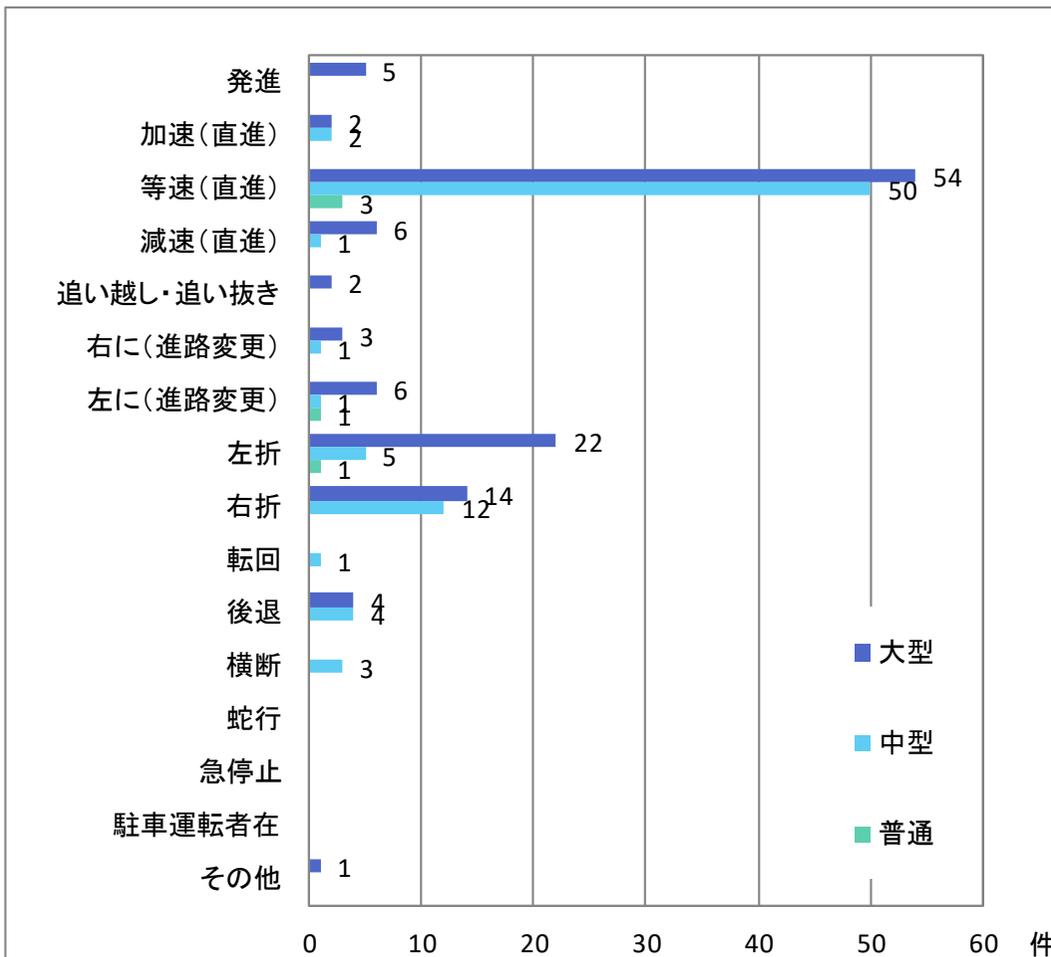
- ・ 車両区分の事故類型(車両単独)別にみると、「大型」、「普通」は「工作物 防護柵等」が最も多く、それぞれ3件(30.0%)、1件(100.0%)となっている。
- ・ 「中型」は「駐車車両(運転者不在)」が最も多く3件(42.9%)となっている。



VI. 2020年死亡事故データ(車両区分)

3. 車両区分別の行動類型別

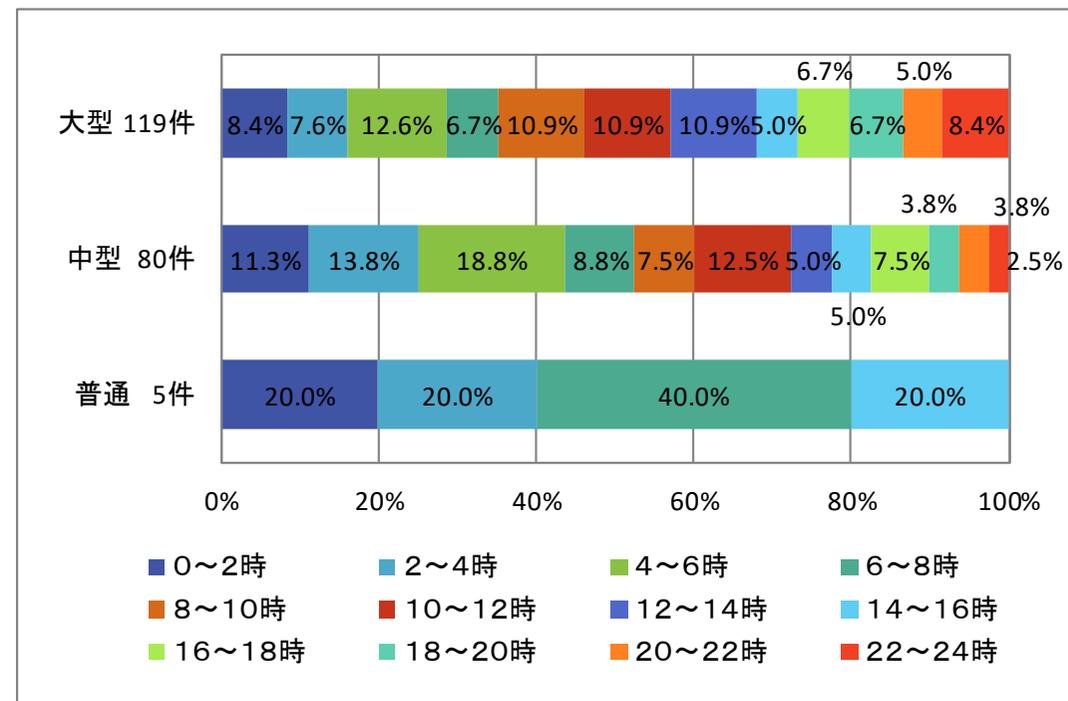
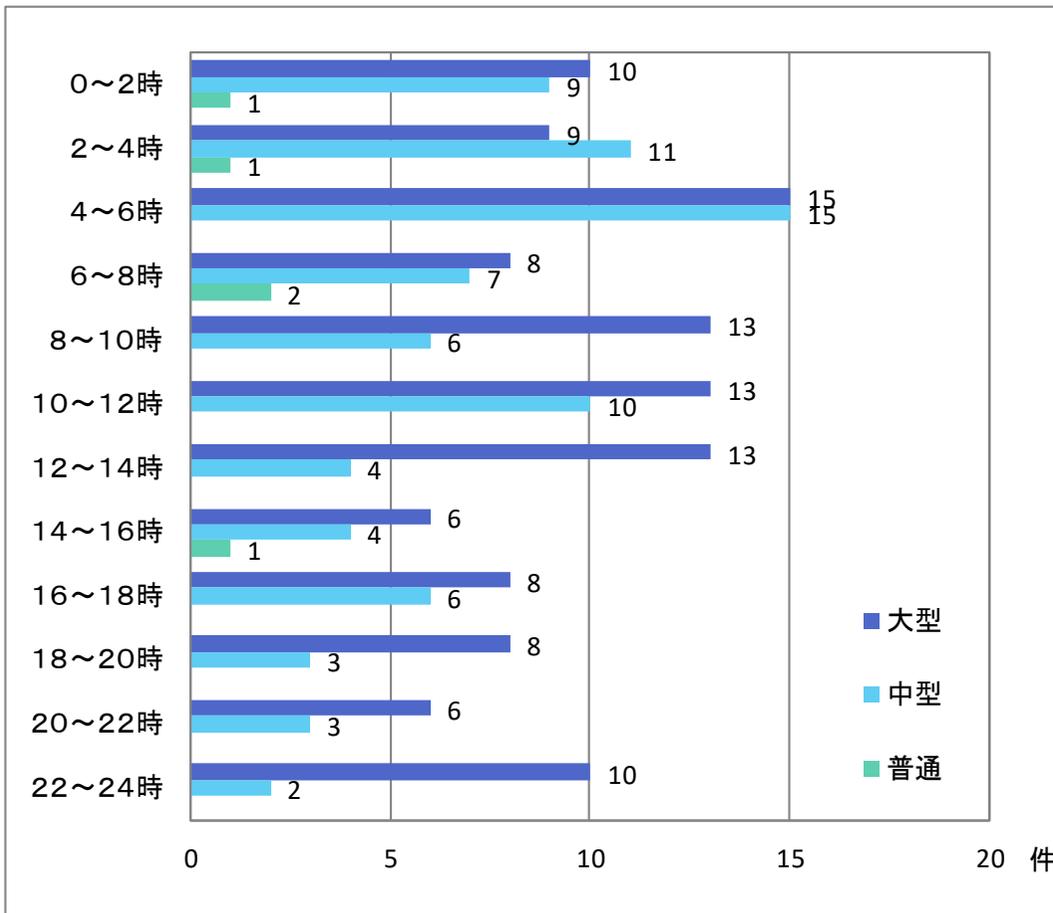
- ・車両区分別の行動類型別にみると、「大型」から「普通」までのいずれも「等速（直進）」が最も多く、それぞれ54件（45.4%）、50件（62.5%）、3件（60.0%）となっている。
- ・次いで、「大型」は「左折」22件（18.5%）となっている。「中型」は「右折」12件（15.0%）、「普通」は「左に（進路変更）」、「左折」がそれぞれ1件（20.0%）となっている。



VI. 2020年死亡事故データ(車両区分)

4. 車両区分別の時間帯別

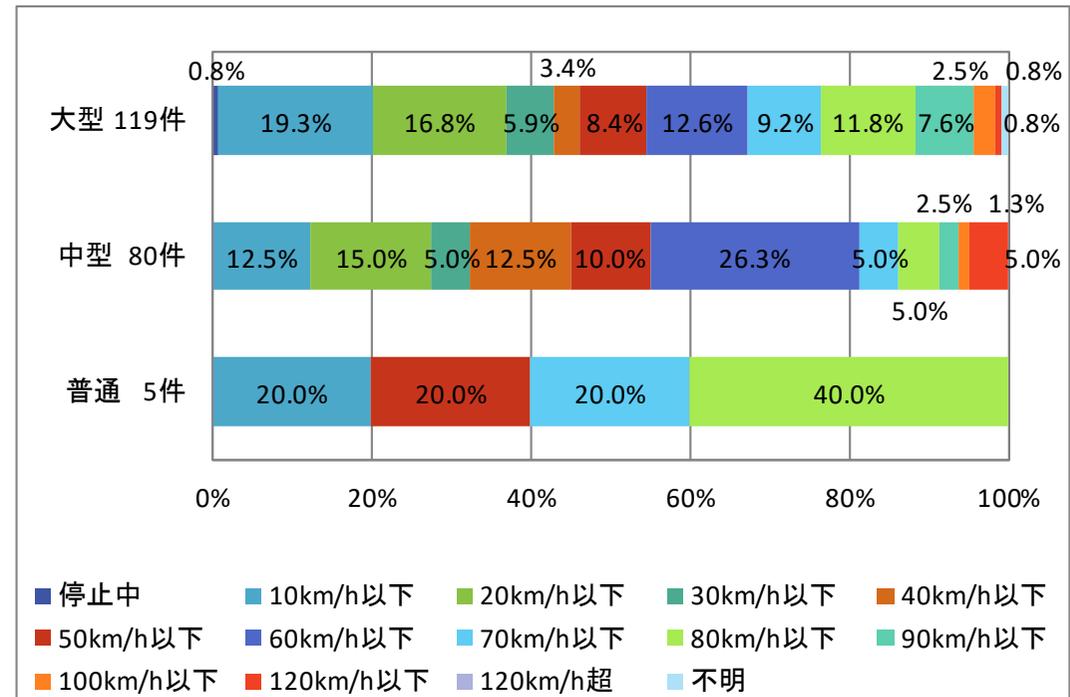
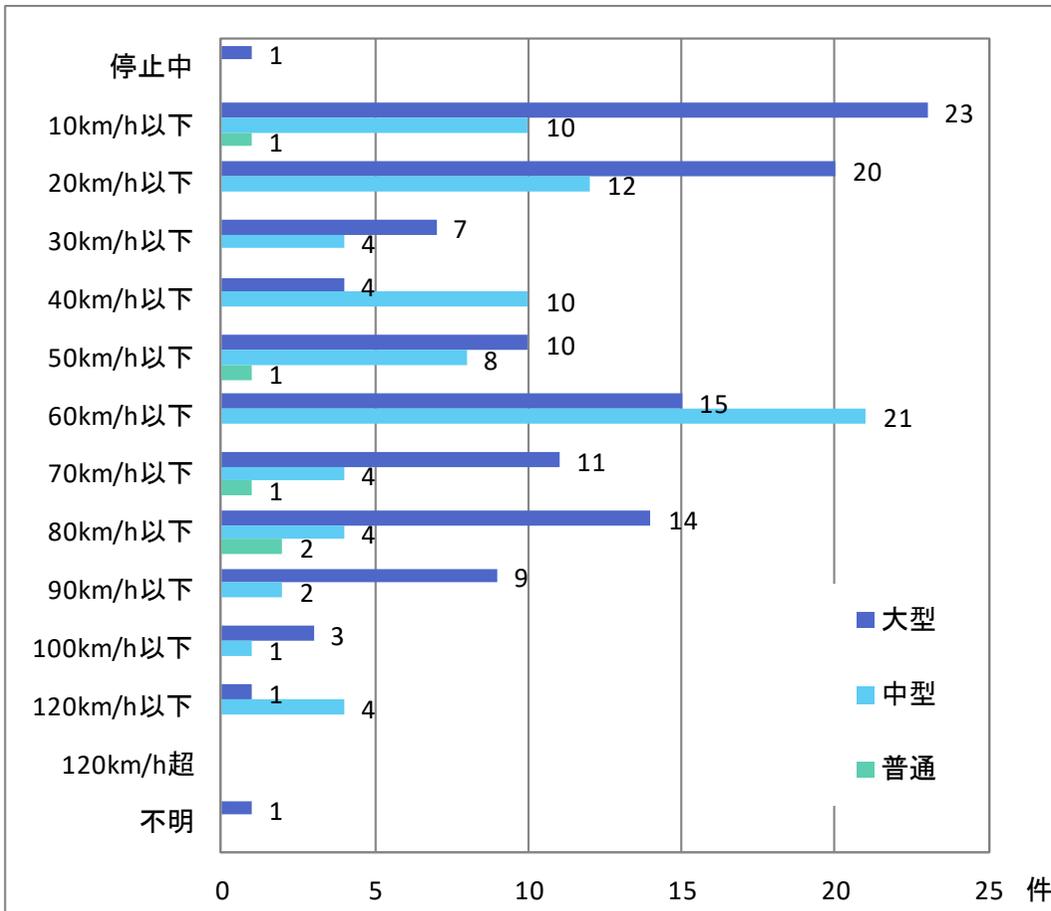
- ・車両区分別の時間帯別にみると、「大型」は「4～6時」が最も多く15件（12.6%）となっている。次いで、「8～10時」、「10～12時」、「12～14時」がそれぞれ13件（10.9%）等と続いている。
- ・「中型」は「4～6時」が最も多く15件（18.8%）となっている。次いで、「2～4時」11件（13.8%）、「10～12時」10件（12.5%）等と続いている。
- ・「普通」は「6～8時」が最も多く2件（40.0%）となっている。次いで、「0～2時」、「2～4時」、「14～16時」がそれぞれ1件（20.0%）と続いている。



VI. 2020年死亡事故データ(車両区分)

5. 車両区分別の運転者の危険認知速度別

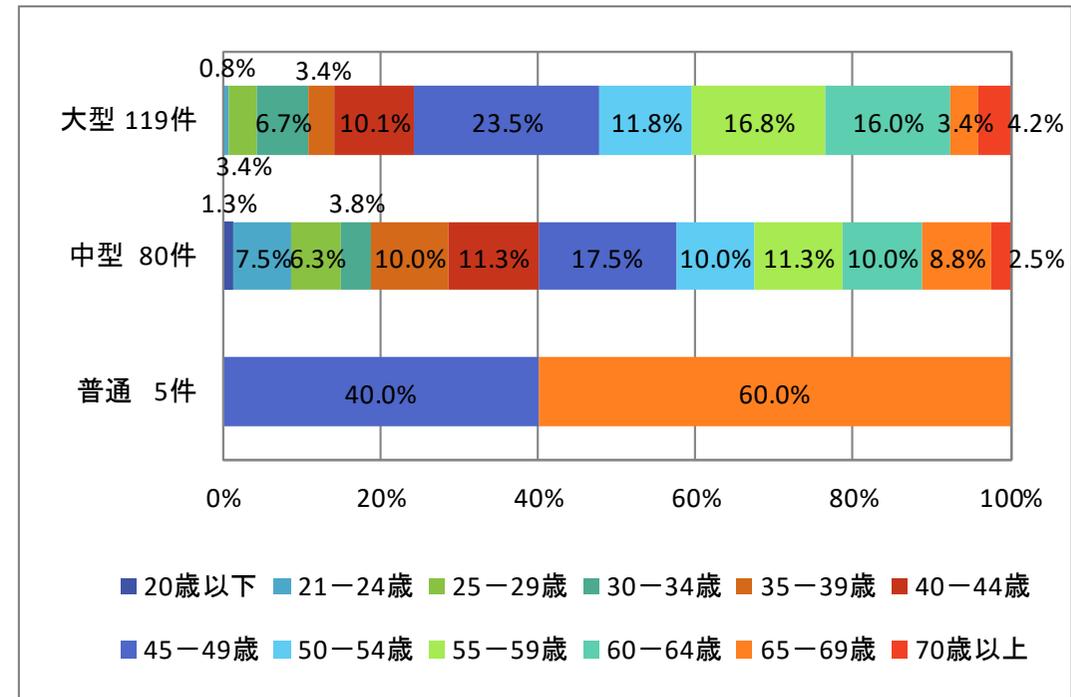
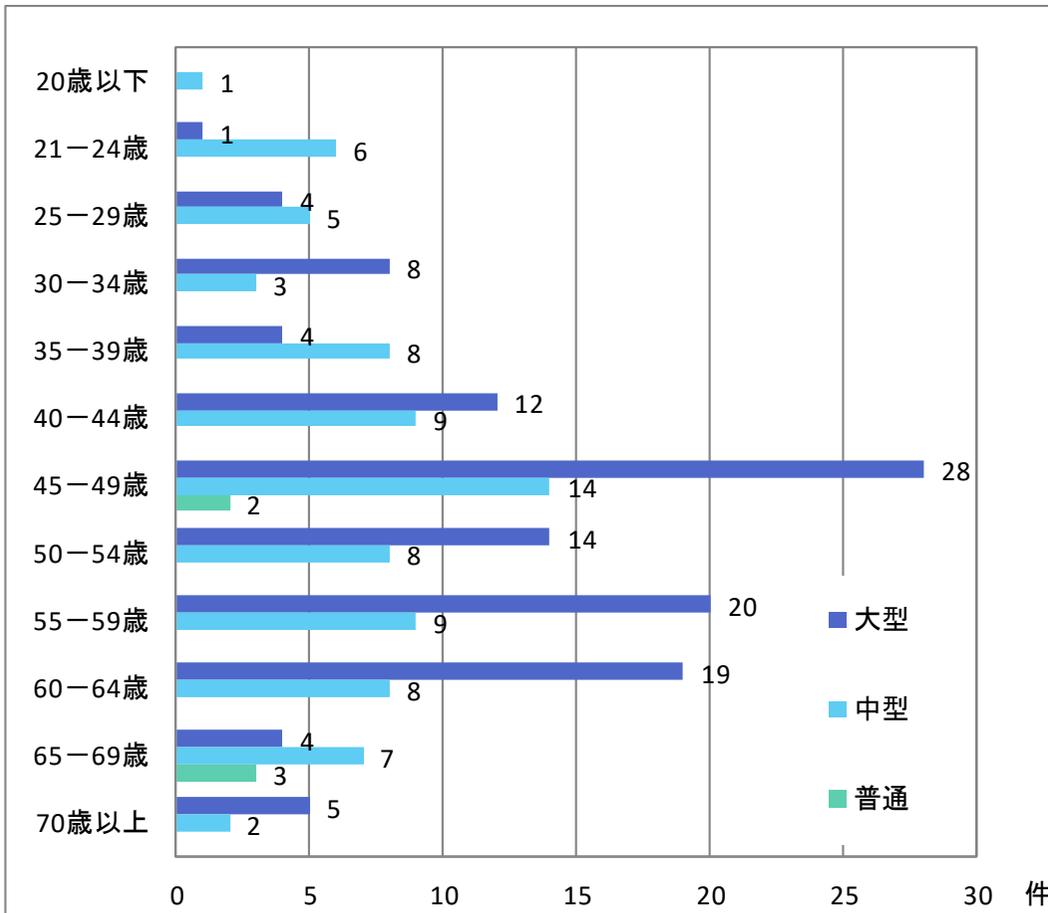
- ・車両区分別の危険認知速度別にみると、「大型」は「10km/h以下」が最も多く23件（19.3%）となっている。次いで、「20km/h以下」20件（16.8%）等と続いている。
- ・「中型」は「60km/h以下」が最も多く21件（26.3%）となっている。次いで、「20km/h以下」12件（15.0%）等と続いている。
- ・「普通」は「80km/h以下」が最も多く2件（40.0%）となっている。



VI. 2020年死亡事故データ(車両区分)

6. 車両区分別の運転者の年齢層別

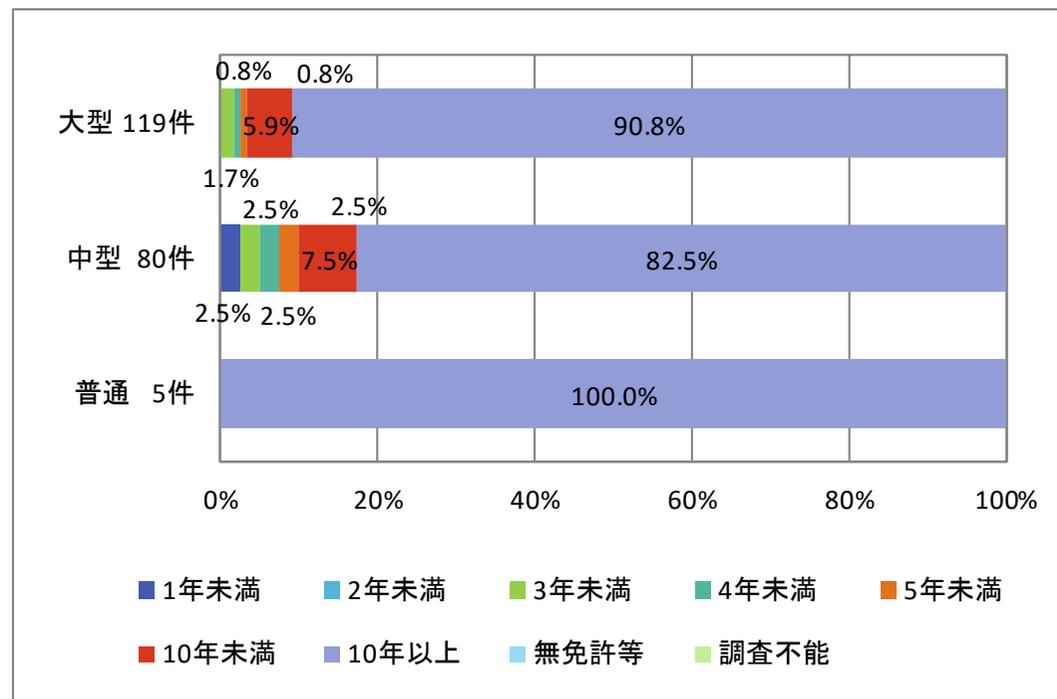
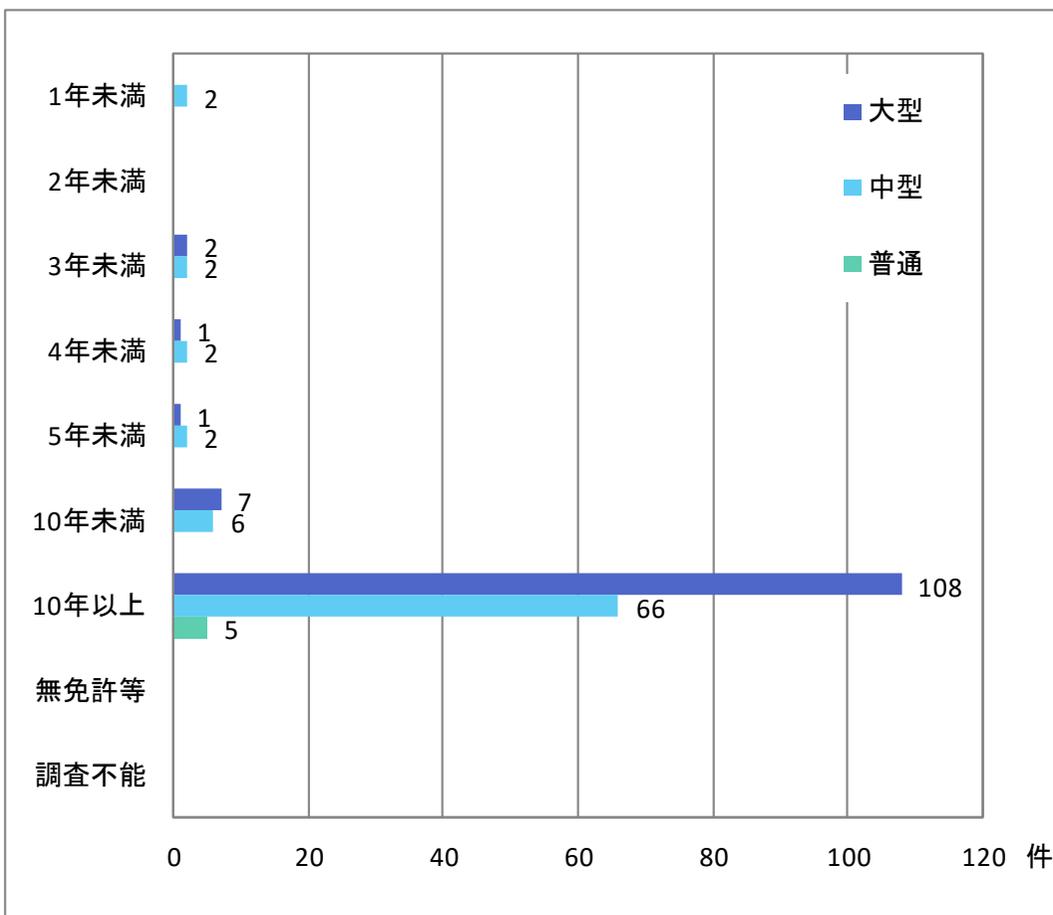
- ・車両区分別の年齢層別にみると、「大型」は「45-49歳」が最も多く28件（23.5%）となっている。次いで、「55-59歳」20件（16.8%）、「60-64歳」19件（16.0%）等と続いている。
- ・「中型」は「45-49歳」が最も多く14件（17.5%）となっている。次いで、「40-44歳」、「55-59歳」がそれぞれ9件（11.3%）等と続いている。
- ・「普通」は「65-69歳」が最も多く3件（60.0%）となっている。



VI. 2020年死亡事故データ(車両区分)

7. 車両区分別の運転者の免許取得年別

・道路区分別の免許取得年別にみると、いずれの車両も「10年以上」が最も多くなっている。



メ モ

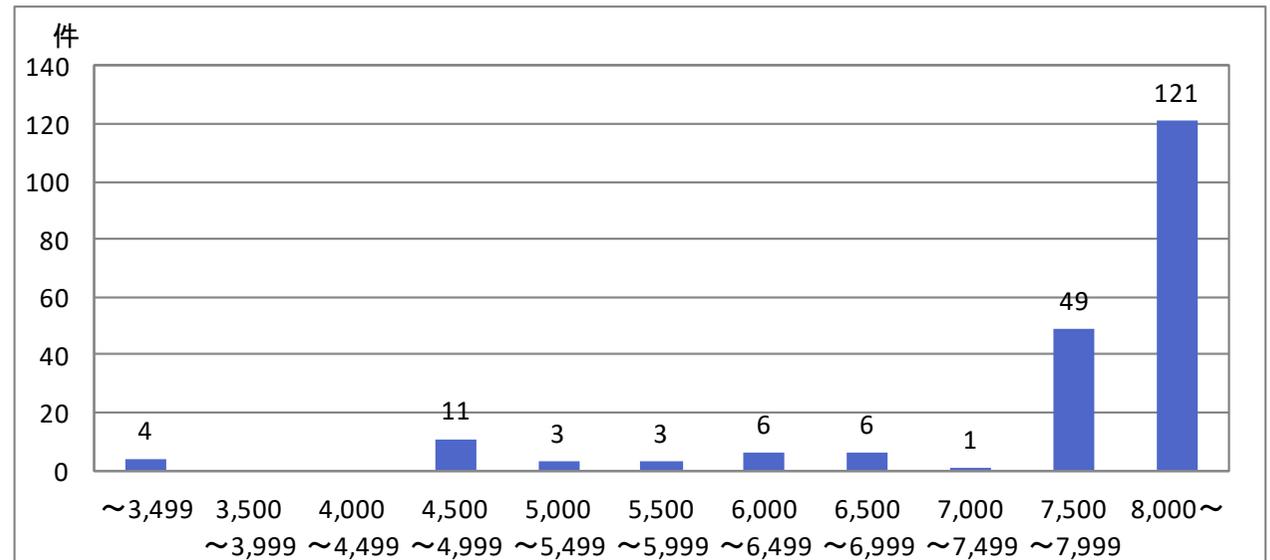
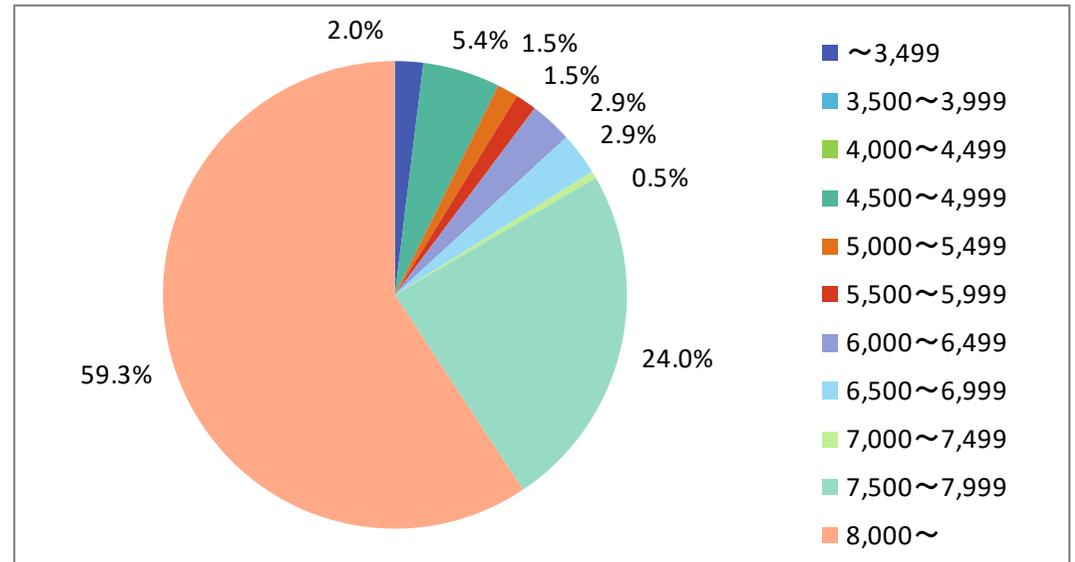
Ⅶ. 2020年死亡事故データ(車両総重量)

1. 車両総重量別

Ⅶ. 2020年死亡事故データ(車両総重量)

1. 車両総重量別

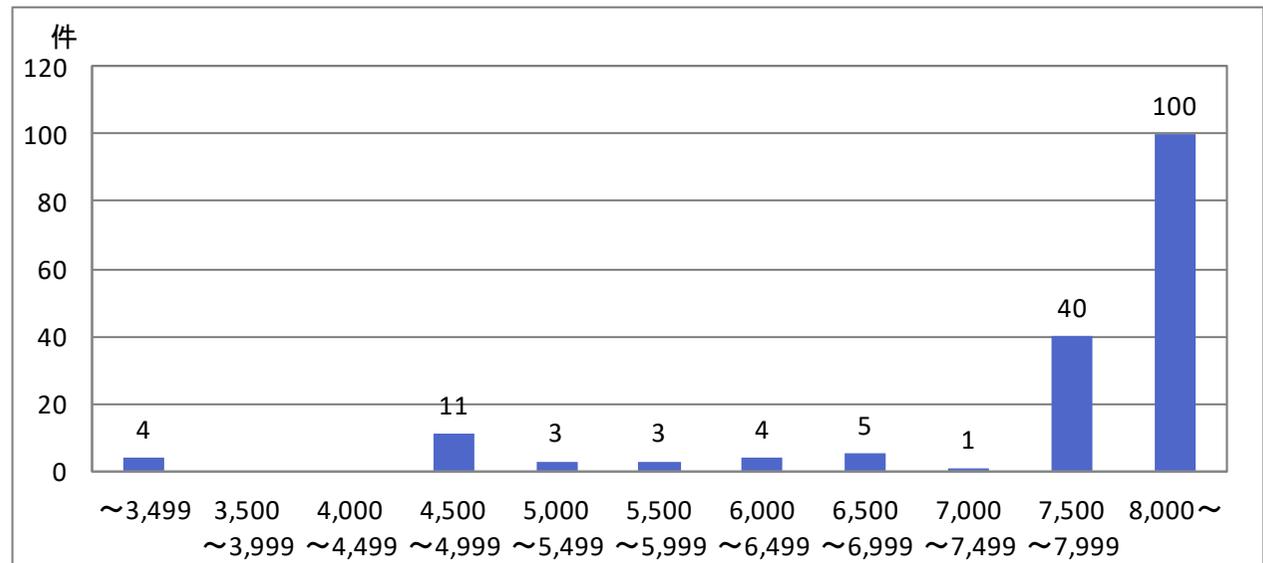
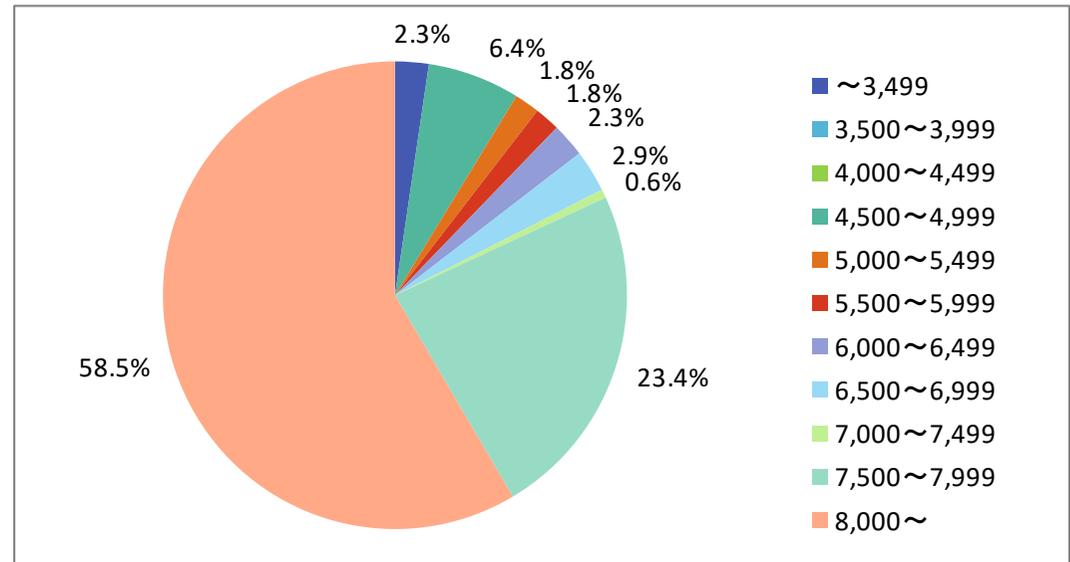
- ・車両総重量別にみると、「8,000～」が最も多く121件(59.3%)と6割近くを占めている。
- ・次いで、「7,500～7,999」49件(24.0%)等と続いており、両者で8割以上を占めている。



VII. 2020年死亡事故データ(車両総重量)

(1) 一般道路上での車両総重量別

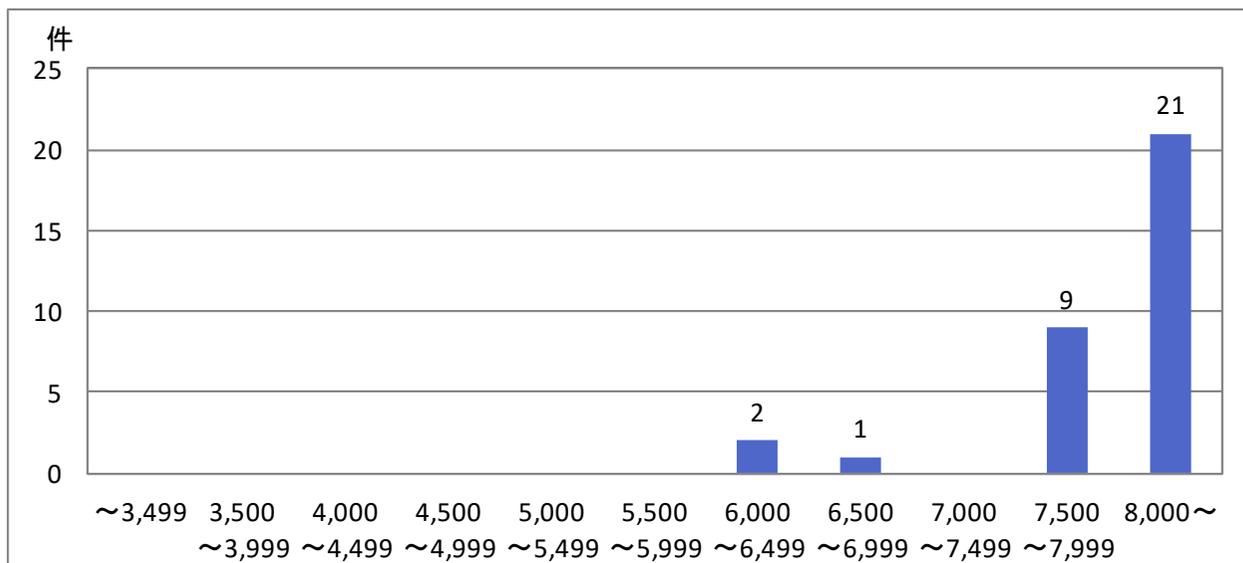
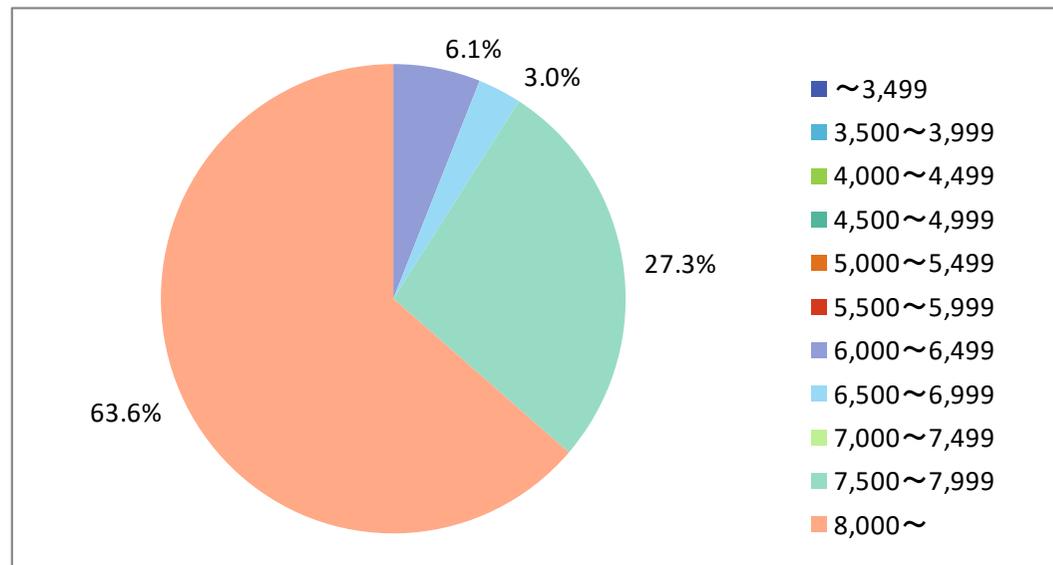
- ・一般道路上での車両総重量別をみると、「8,000～」が最も多く100件（58.5%）と6割近くを占めている。
- ・次いで、「7,500～7,999」40件（23.4%）等と続いており、両者で8割以上を占めている。



VII. 2020年死亡事故データ(車両総重量)

(2) 高速道路上での車両総重量別

- ・ 高速道路上での車両総重量別をみると、「8,000～」が最も多く21件(63.6%)と6割以上を占めている。
- ・ 次いで、「7,500～7,999」9件(27.3%)等と続いており、両者で9割以上を占めている。



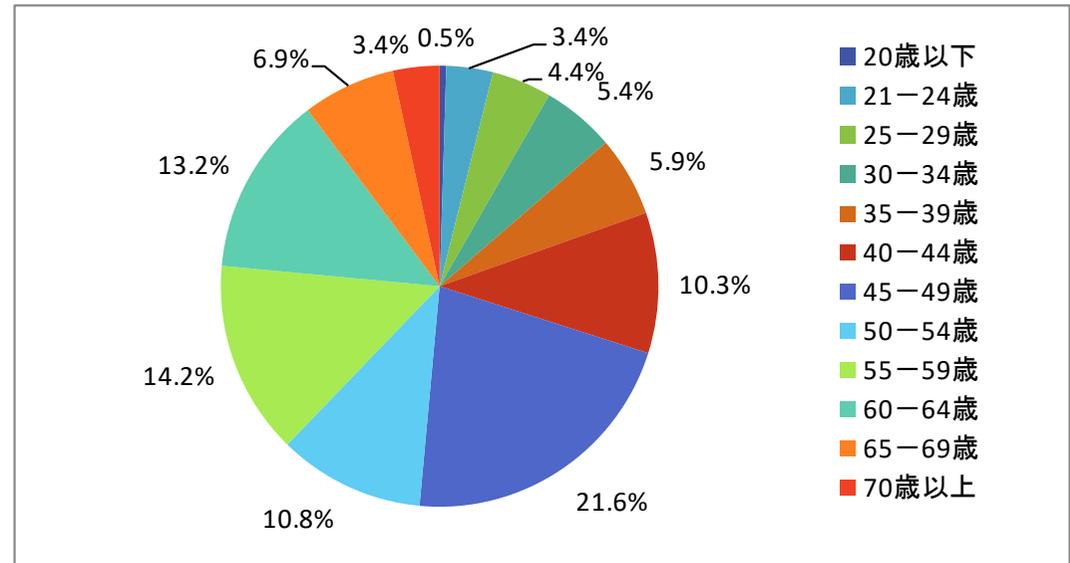
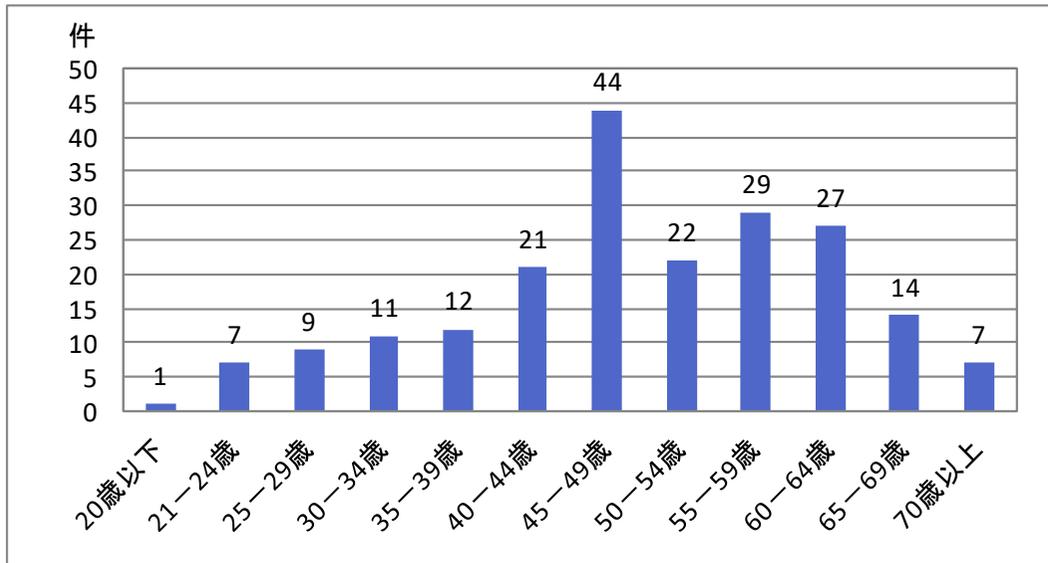
Ⅷ. 2020年死亡事故データ(年齢層別)

1. 第一当事者の年齢層別
2. 第一当事者の年齢層別の事故類型別

Ⅷ. 2020年死亡事故データ(年齢層別)

1. 第一当事者の年齢層別

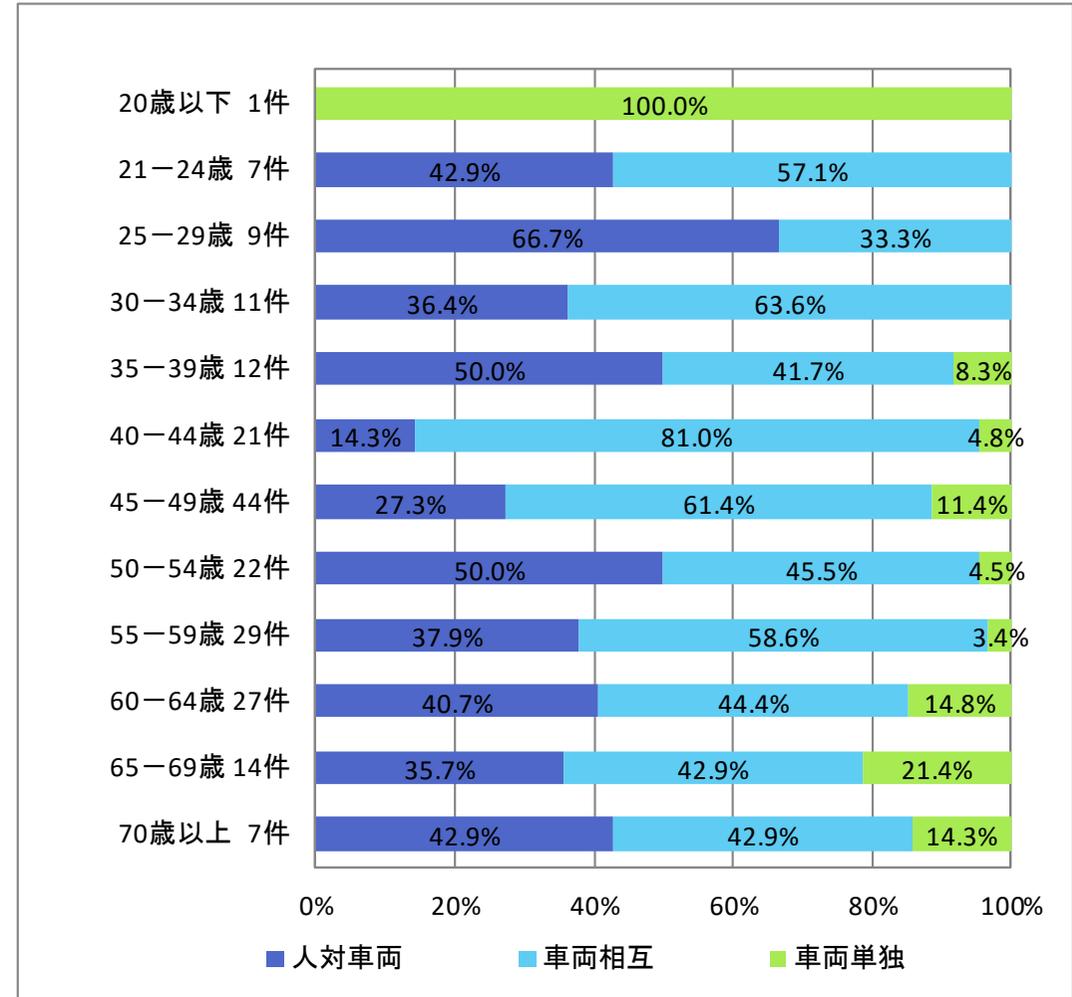
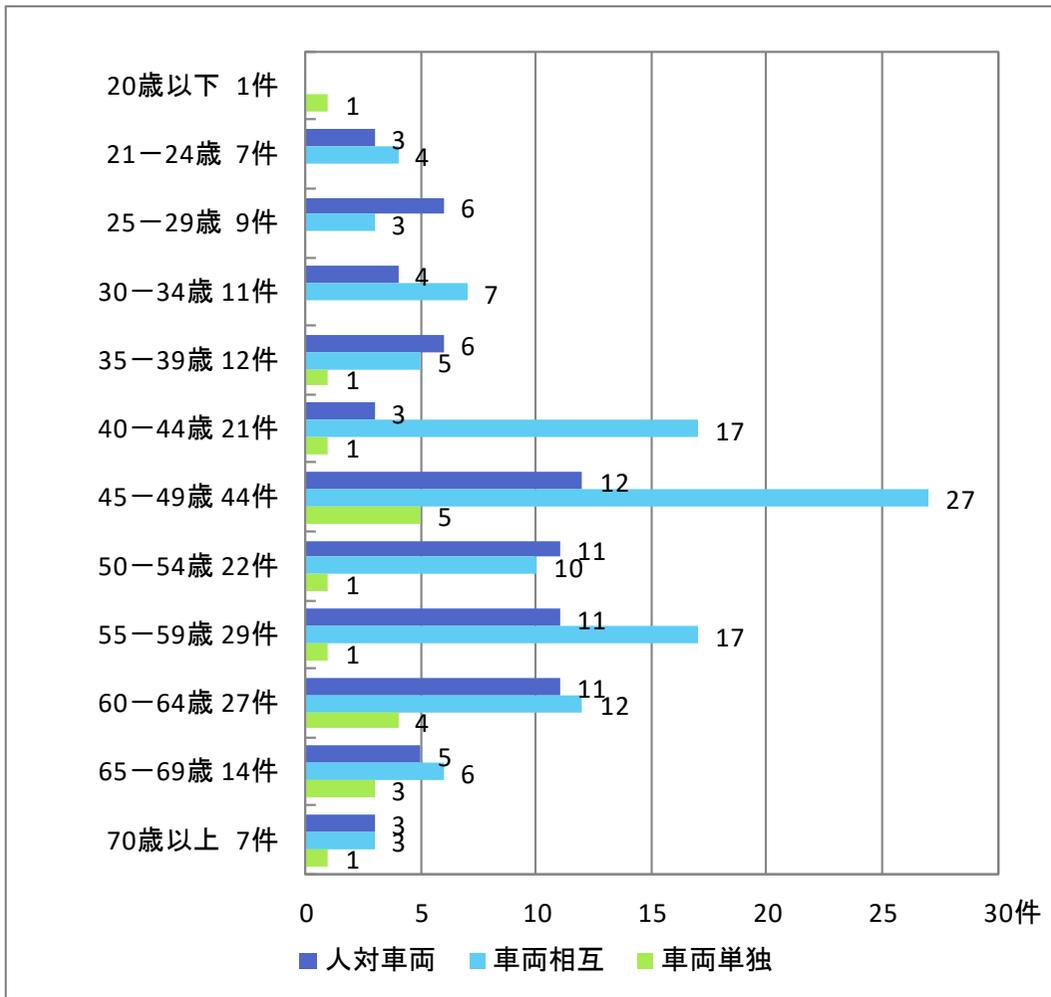
- ・年齢層別にみると、「45-49歳」が最も多く44件（21.6%）となっている。
- ・次いで、「55-59歳」29件（14.2%）、「60-64歳」27件（13.2%）等と続いている。



VIII. 2020年死亡事故データ(年齢層別)

2. 第一当事者の年齢層別の事故類型別

- ・年齢層別の事故類型別にみると、年齢層によって傾向は異なる。
- ・若年層に比べ、高齢層は「車両単独」の割合が多い。

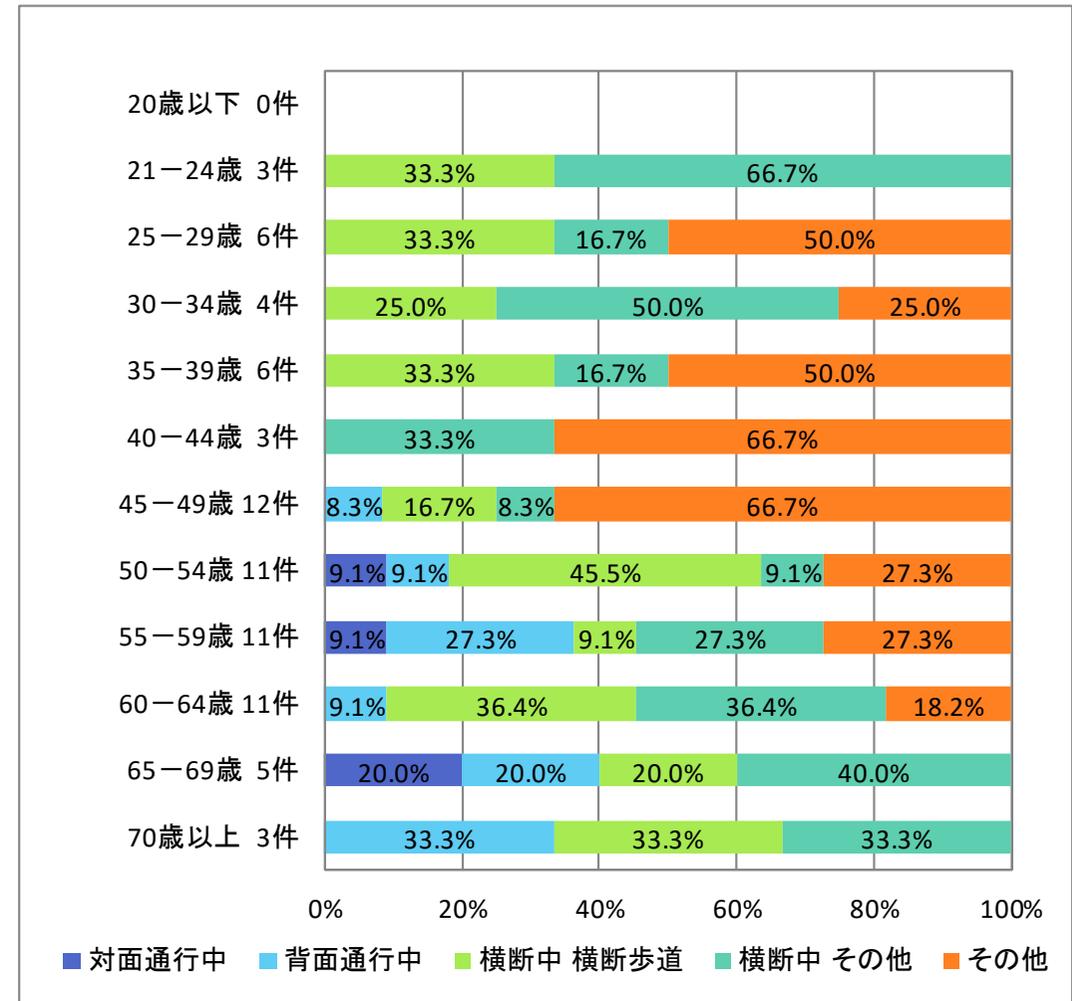
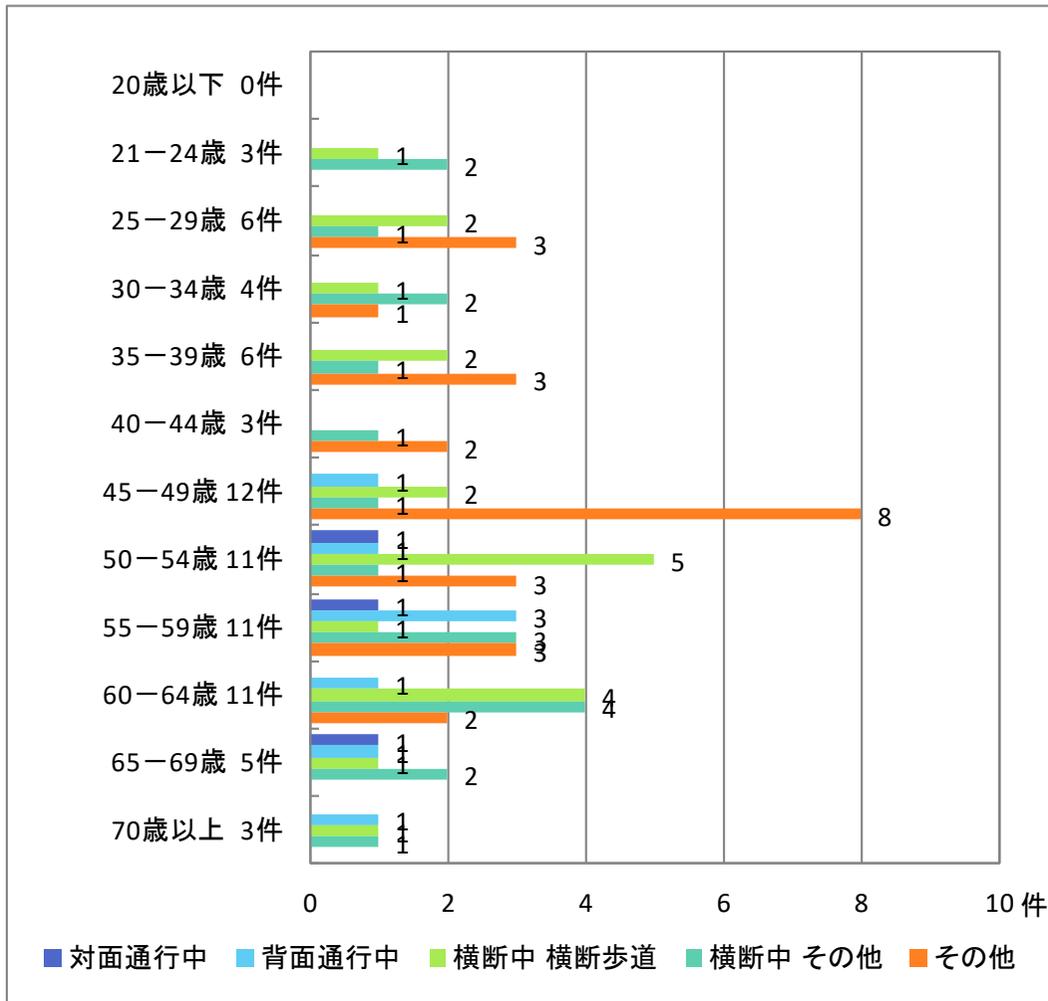


※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

Ⅷ. 2020年死亡事故データ(年齢層別)

(1) 第一当事者の年齢層別の事故類型(人対車両)別

・年齢層別の事故類型(人対車両)別にみると、年齢層によって傾向は異なる。

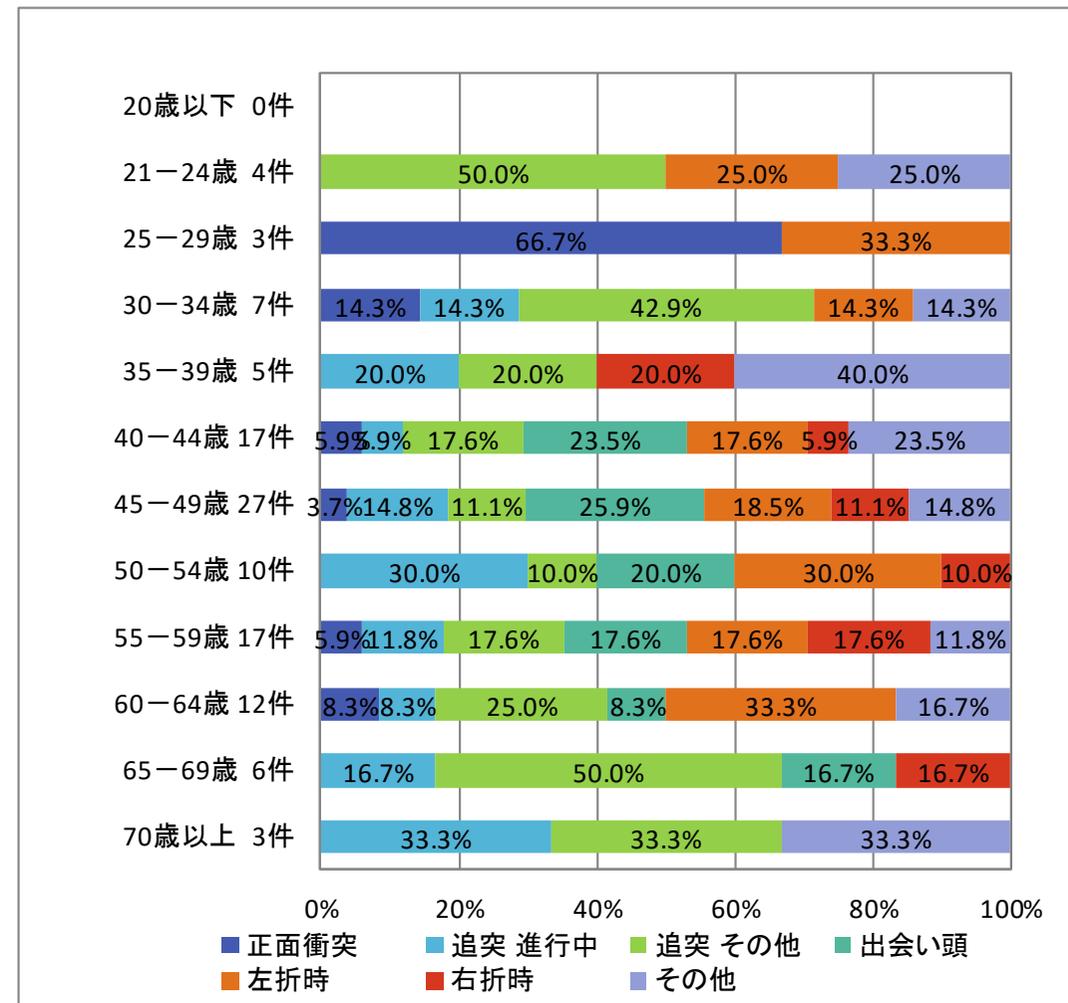
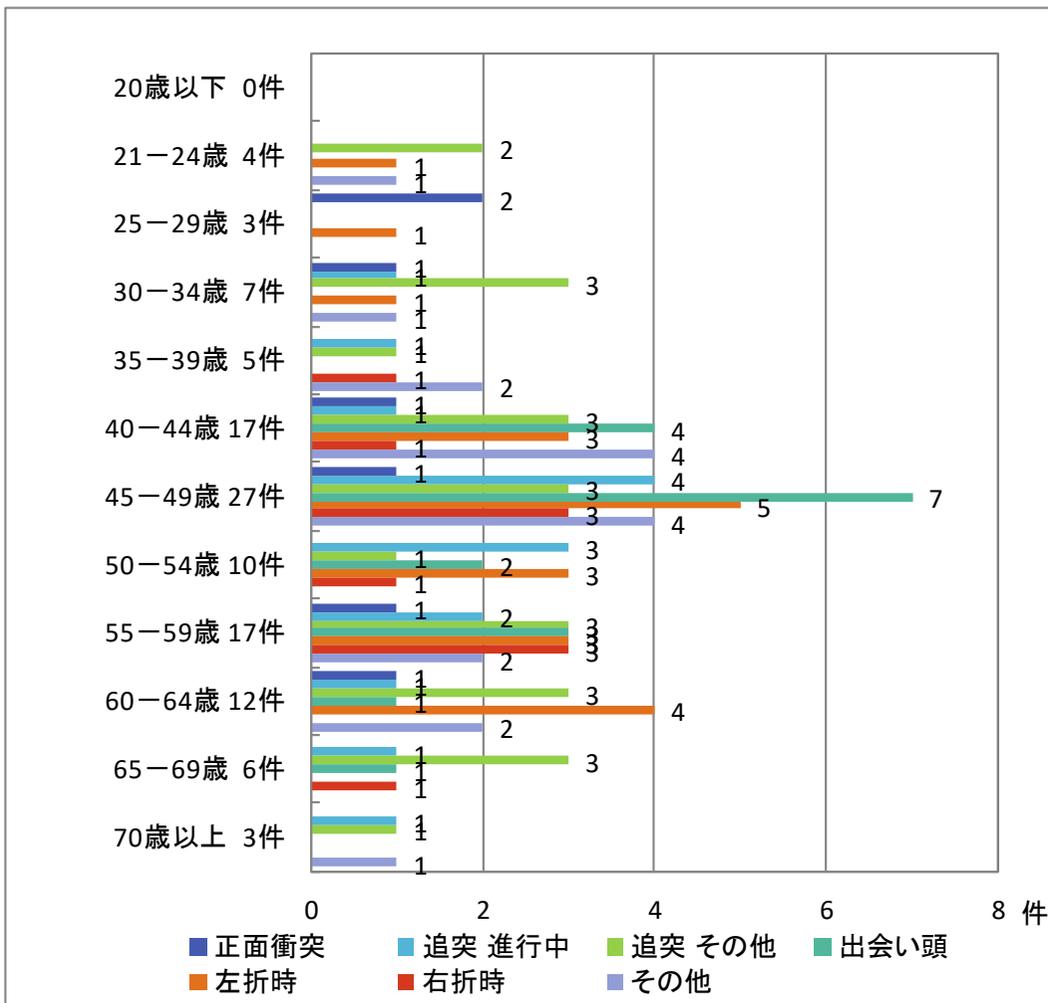


※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

Ⅷ. 2020年死亡事故データ(年齢層別)

(2) 第一当事者の年齢層別の事故類型(車両相互)別

・年齢層別の事故類型(車両相互)別にみると、年齢層によって傾向は異なる。

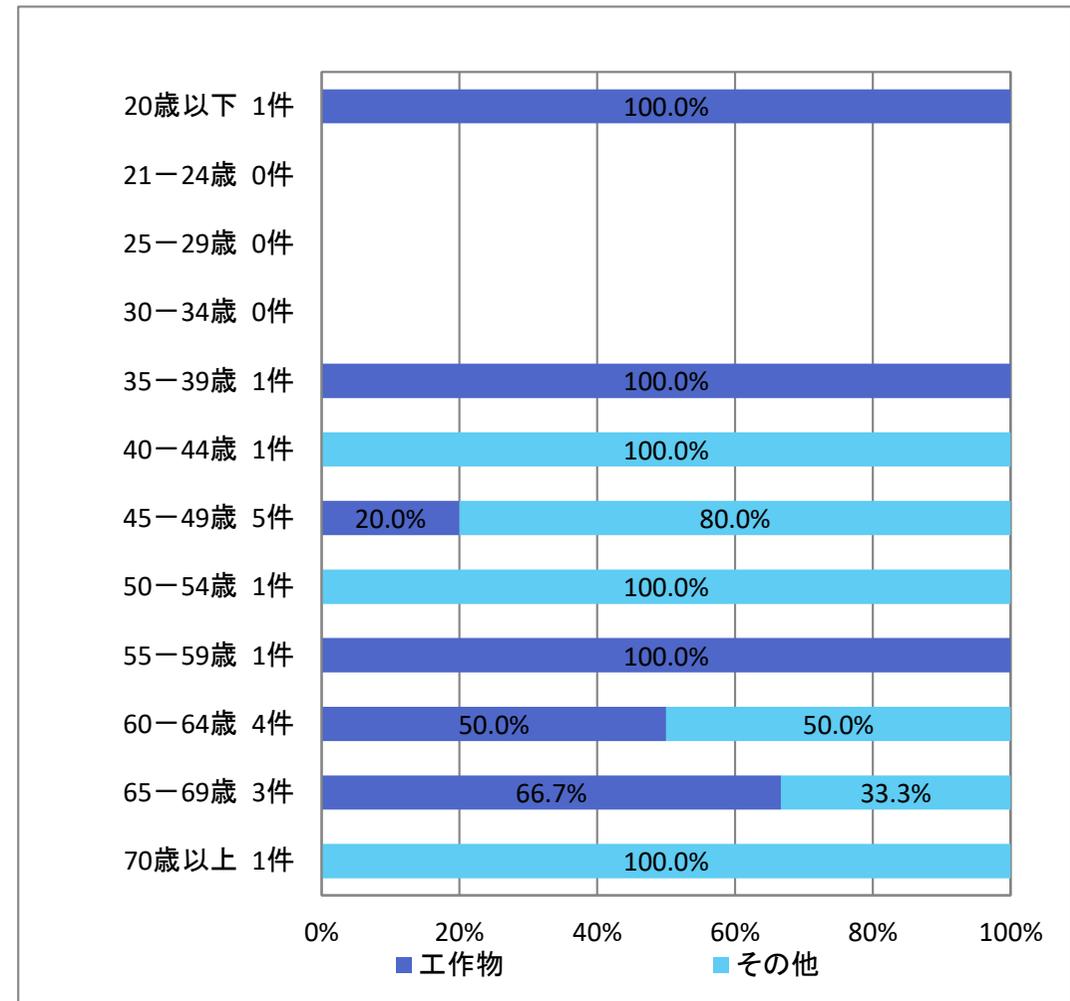
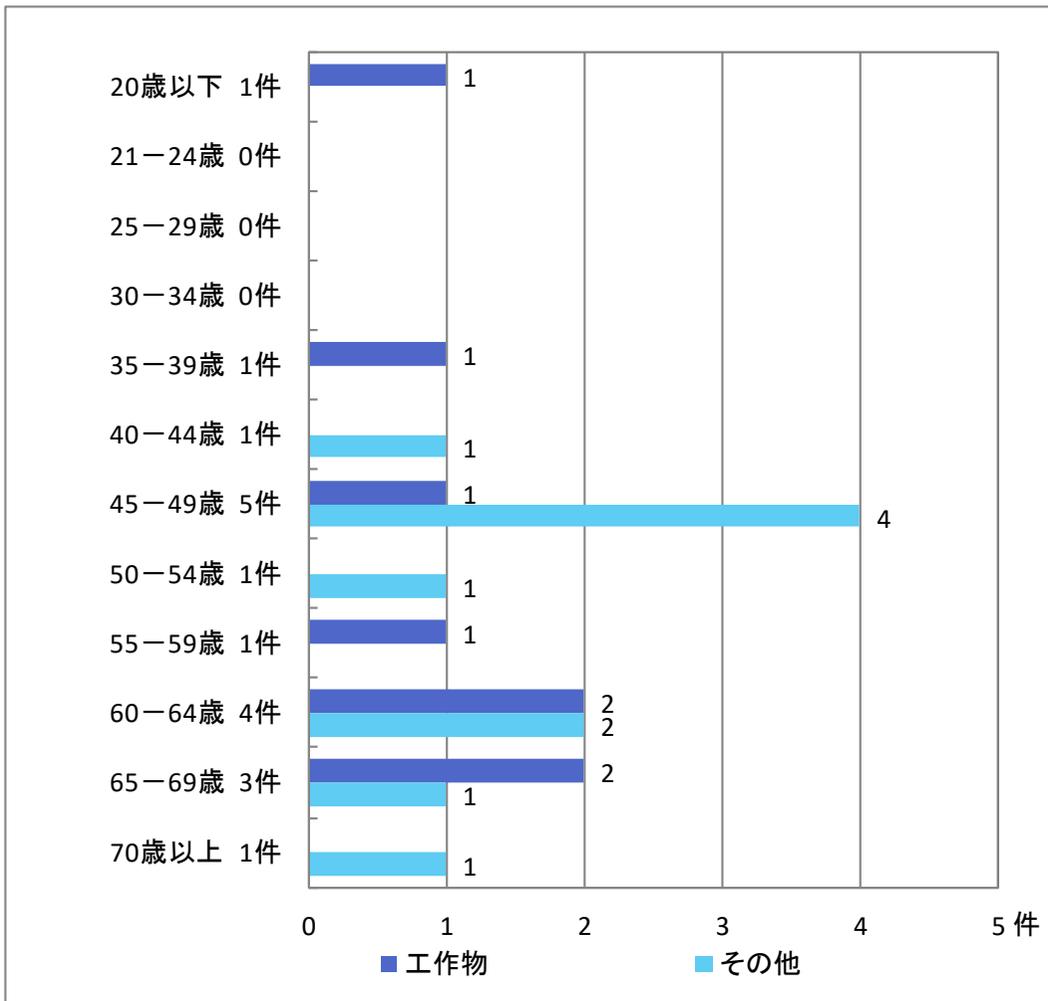


※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

VIII. 2020年死亡事故データ(年齢層別)

(3) 第一当事者の年齢層別の事故類型(車両単独)別

・年齢層別の事故類型(車両単独)別にみると、年齢層によって傾向は異なる。



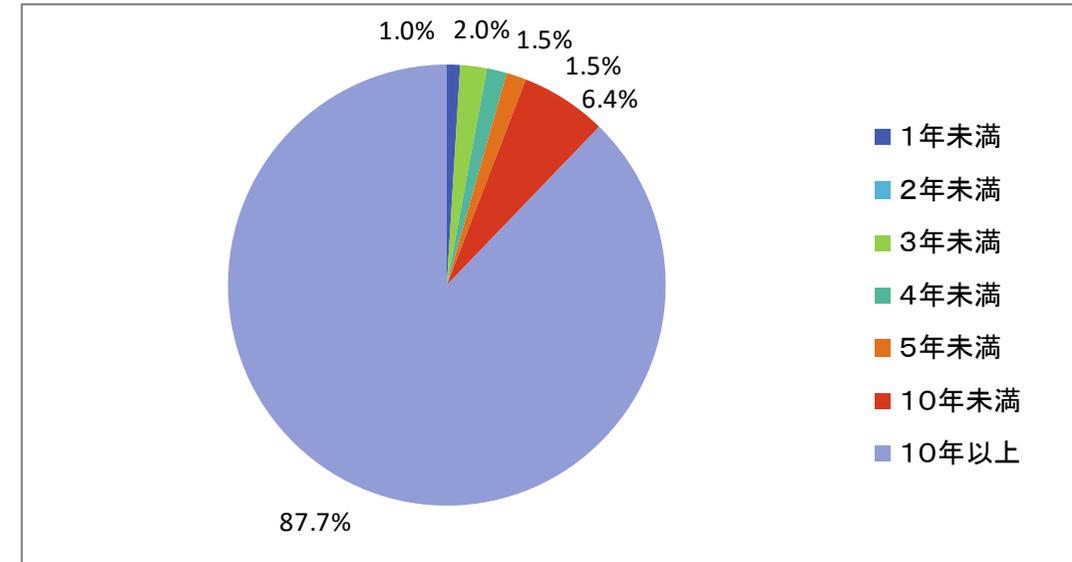
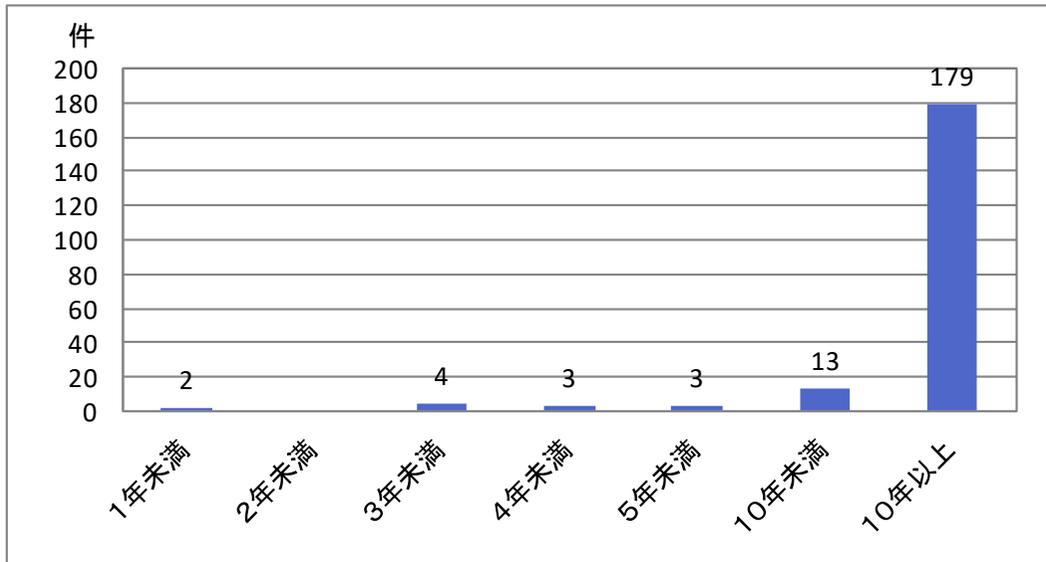
Ⅸ. 2020年死亡事故データ(運転免許取得年数別)

1. 運転者の免許取得年数別
2. 運転者の免許取得年数別の事故類型別

Ⅸ. 2020年死亡事故データ(運転免許取得年数別)

1. 運転者の免許取得年数別

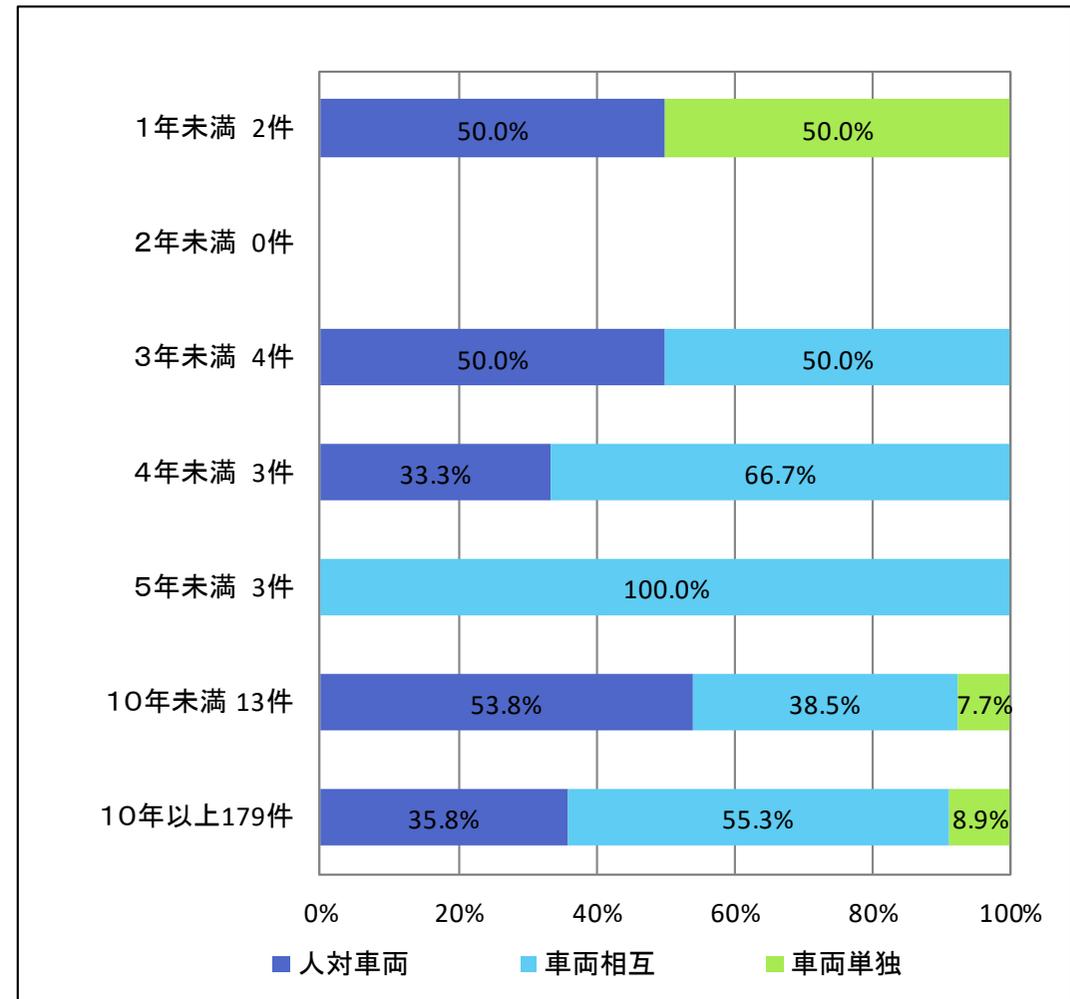
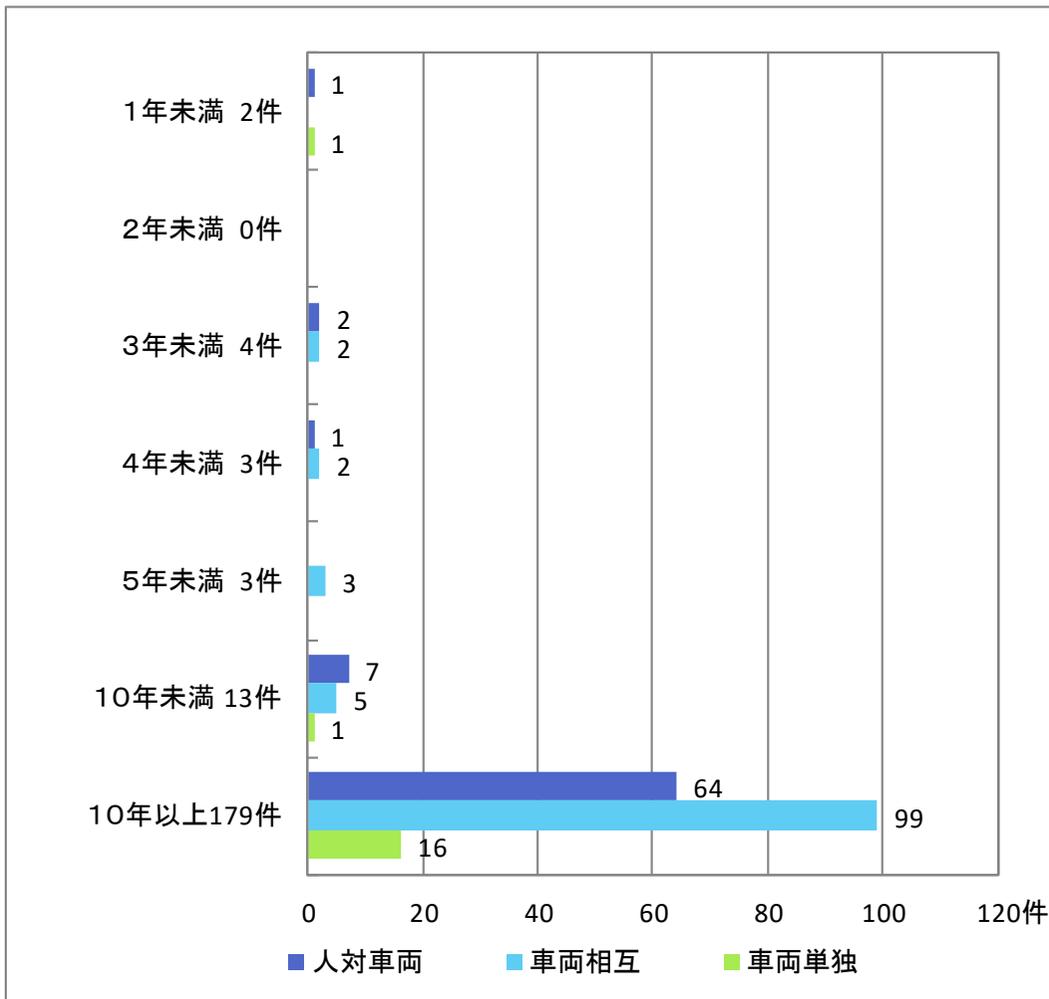
・免許取得年数別にみると、「10年以上」が最も多く179件（87.7%）と9割近く以上を占めている。



Ⅸ. 2020年死亡事故データ(運転免許取得年数別)

2. 運転者の免許取得年数別の事故類型別

・免許取得年数別の事故類型別にみると、多くの年齢層で「車両相互」の割合が多い。

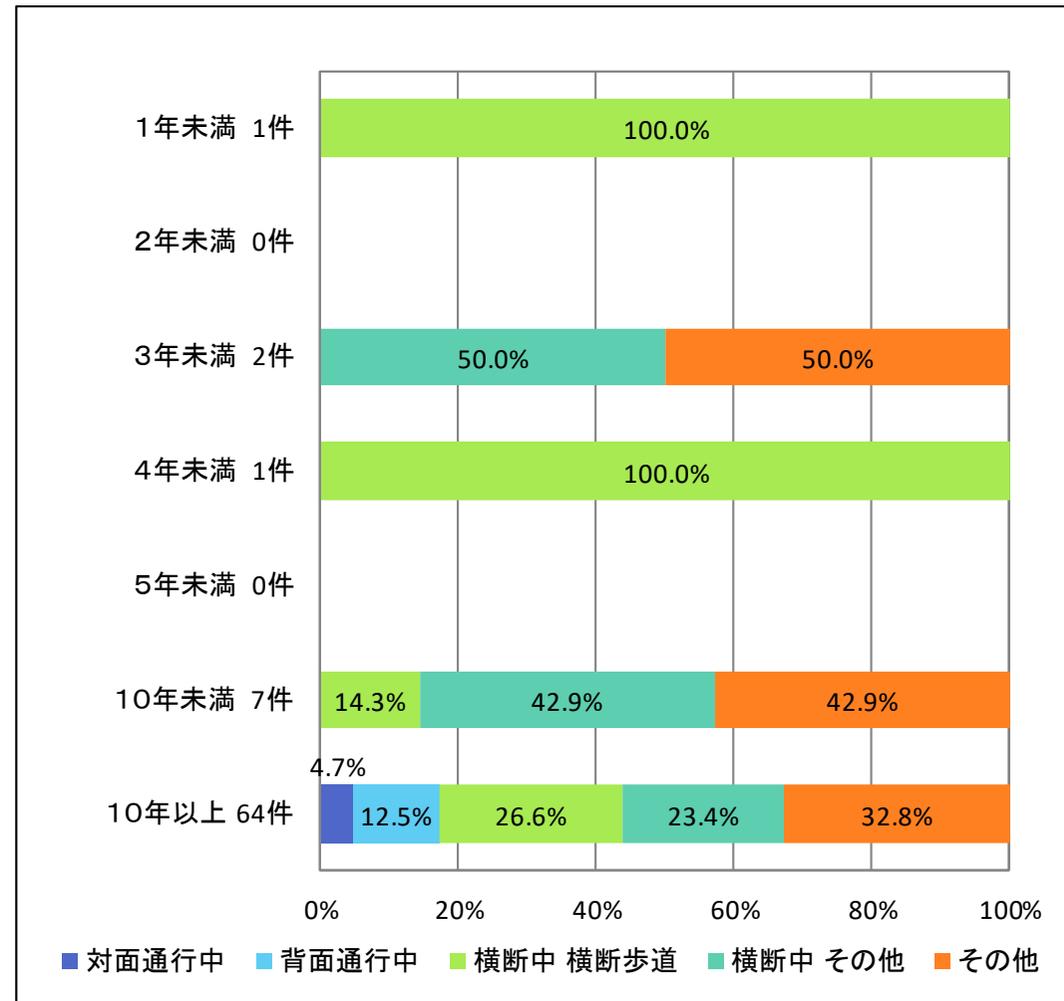
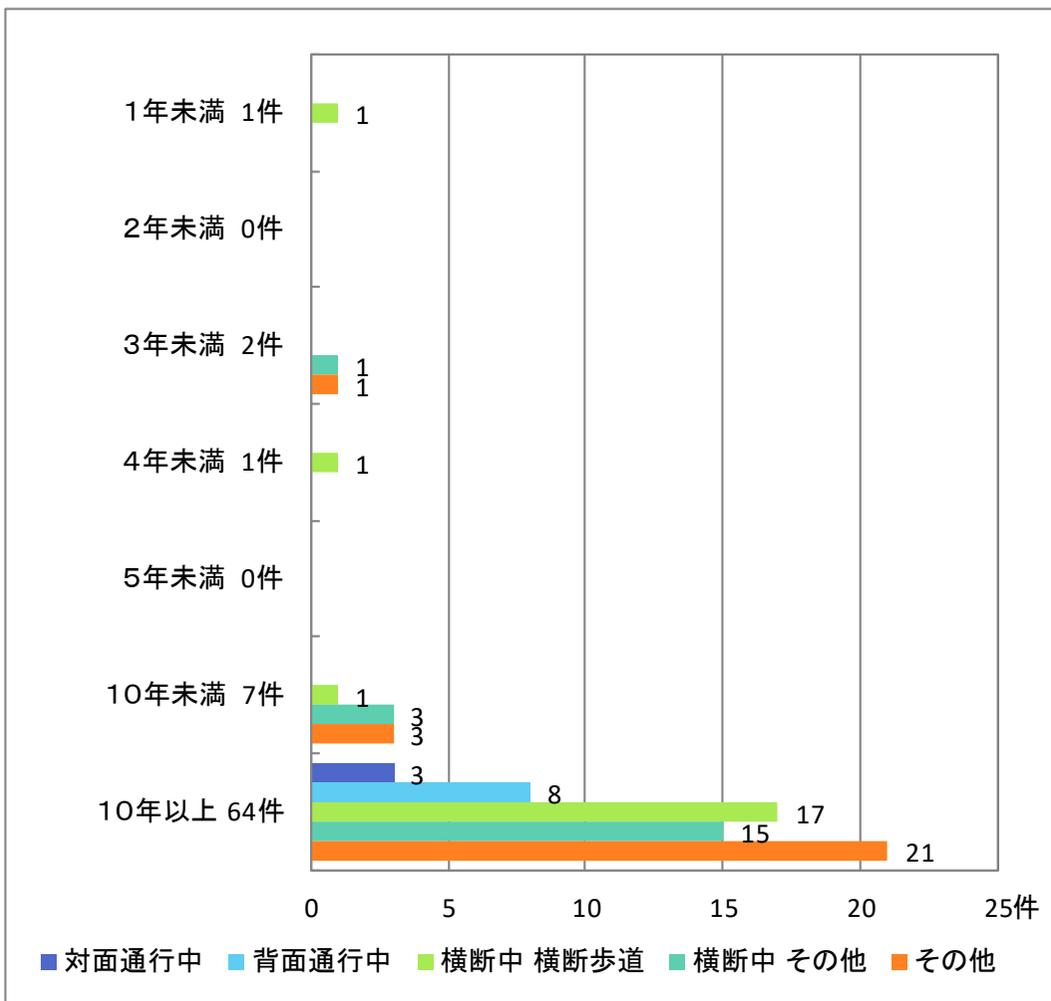


※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

Ⅸ. 2020年死亡事故データ(運転免許取得年数別)

(1) 運転者の免許取得年数別の事故類型(人対車両)別

- ・ 免許取得年数別の事故類型(人対車両)別にみると、年齢層によって傾向は異なる。
- ・ 「10年以上」は「その他」の割合が多い。

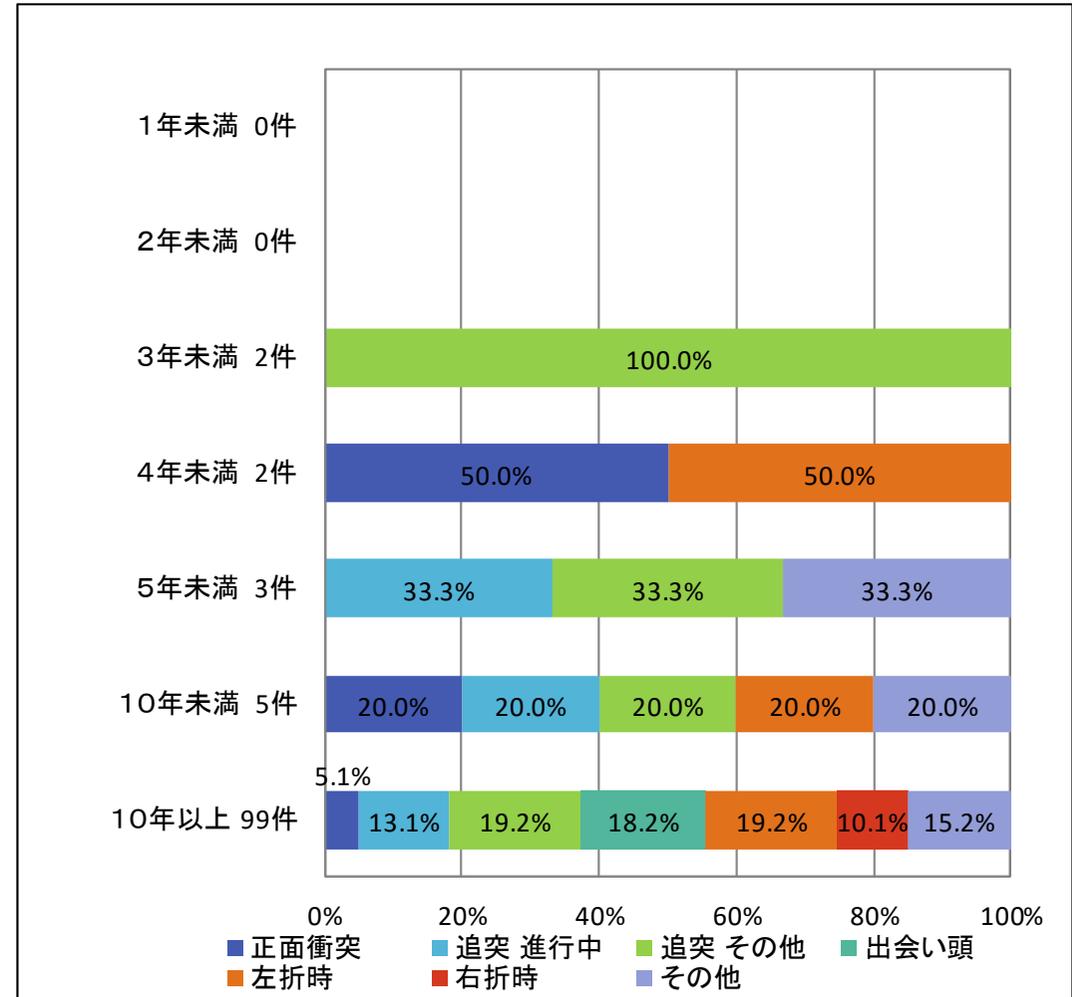
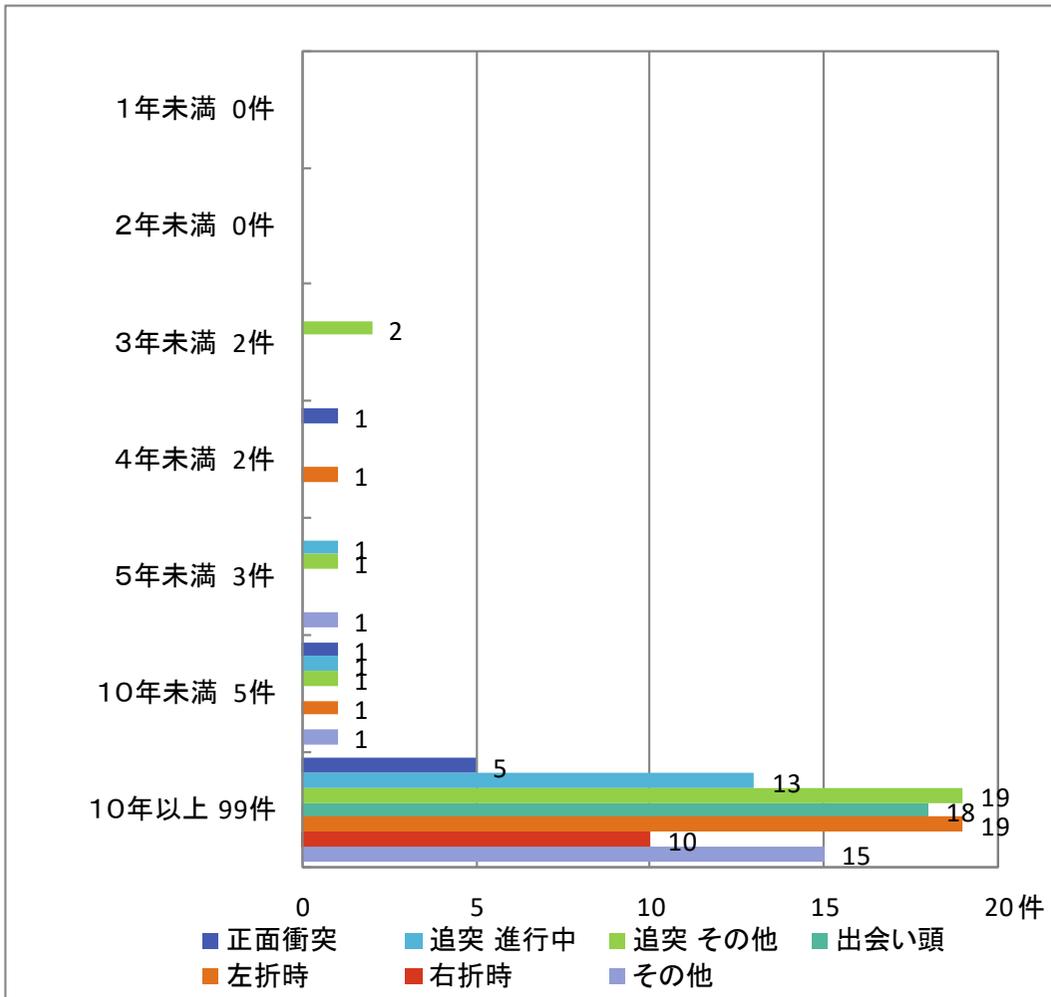


※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

Ⅸ. 2020年死亡事故データ(運転免許取得年数別)

(2) 運転者の免許取得年数別の事故類型(車両相互)別

- ・免許取得年数別の事故類型(車両相互)別みると、年齢層によって傾向は異なる。
- ・「10年以上」は「追突 その他」、「左折時」の割合が多い。

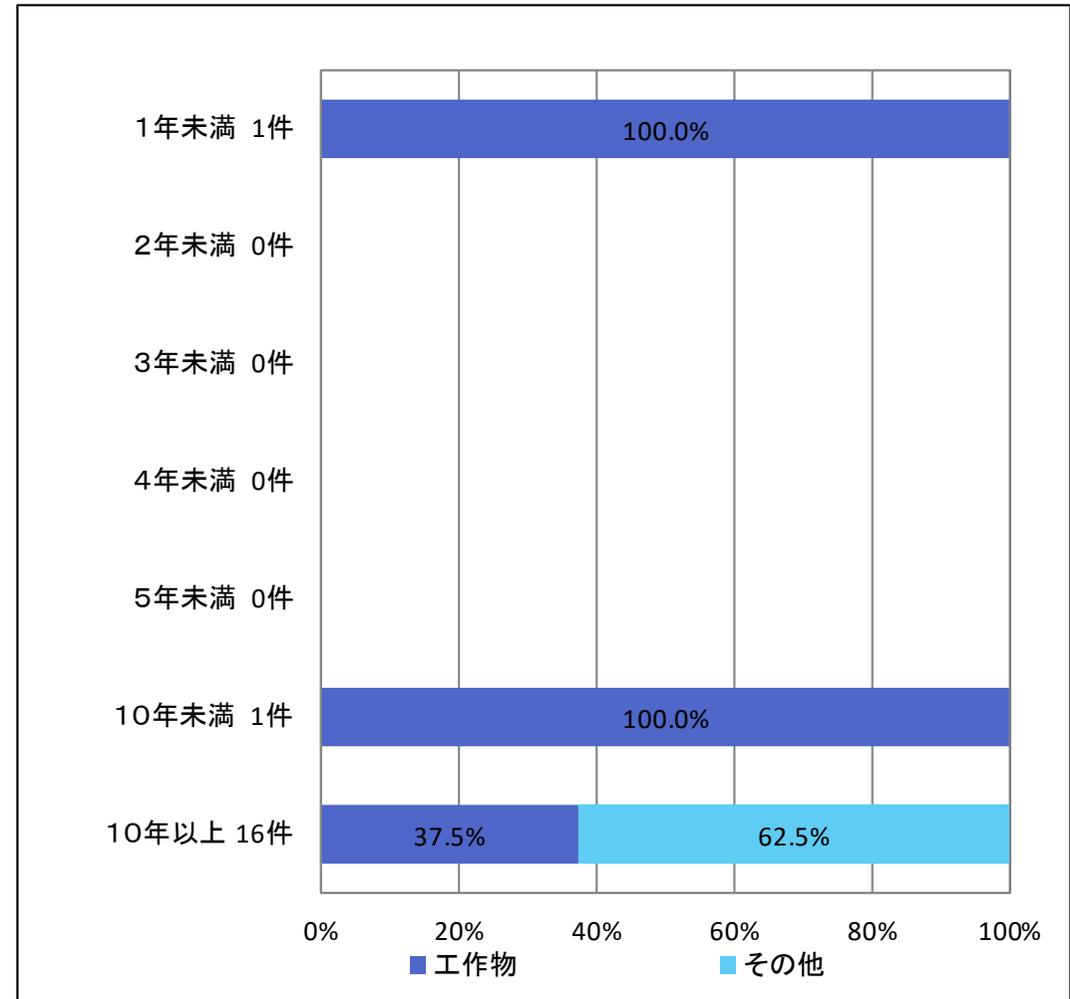
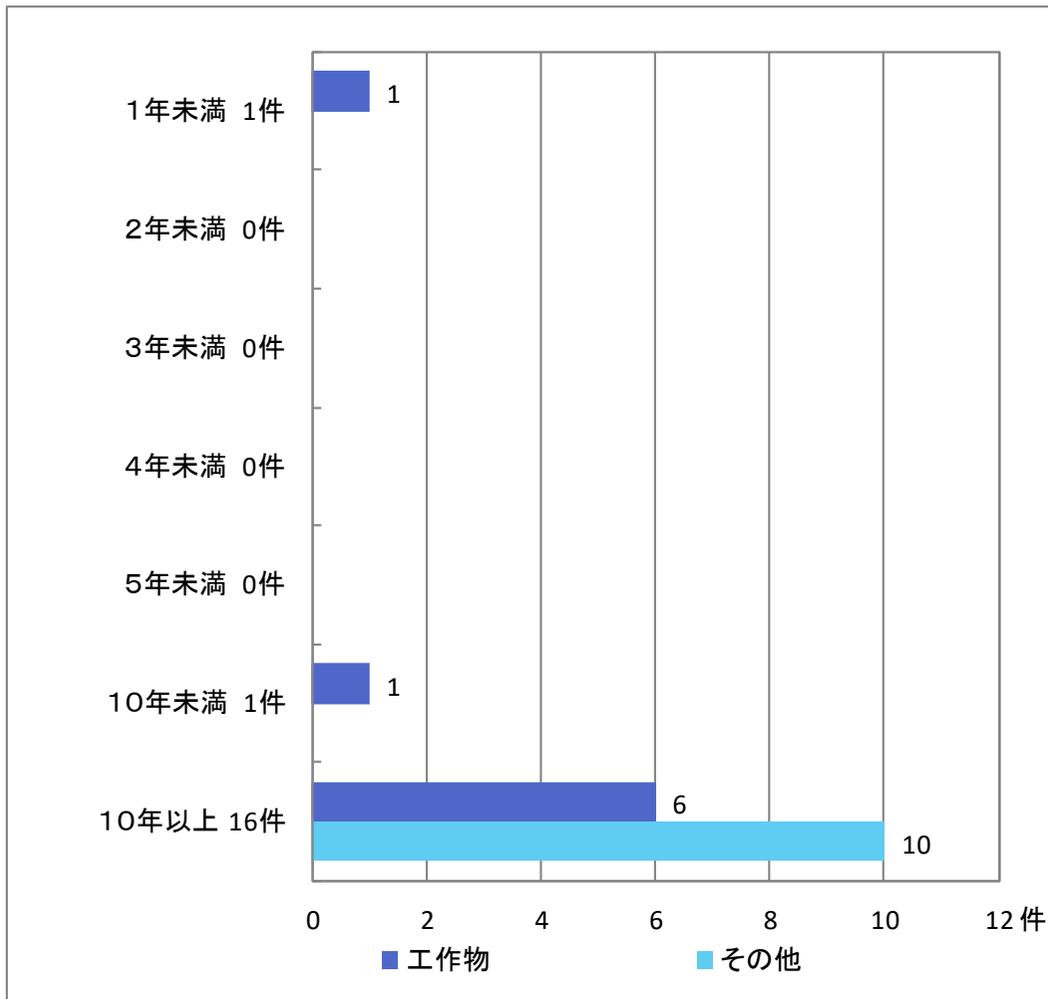


※対自転車事故は、「車両相互」に含まれます。

Ⅸ. 2020年死亡事故データ(運転免許取得年数別)

(3) 運転者の免許取得年数別の事故類型(車両単独)別

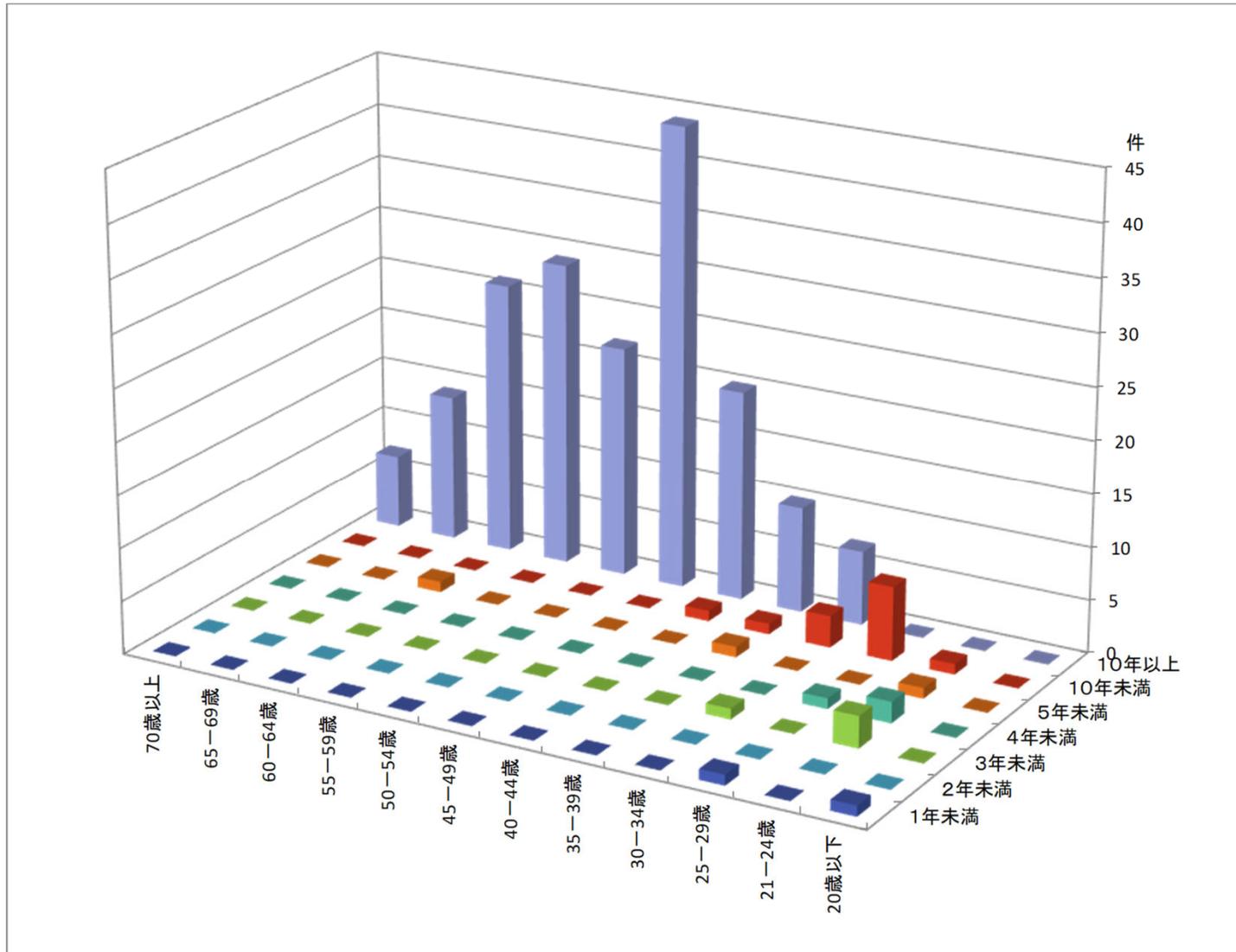
- ・免許取得年数別の事故類型(車両単独)別にみると、「10年以上」は「その他」の割合が多い。



Ⅸ. 2020年死亡事故データ(運転免許取得年数別)

(4) 運転者の年齢層別の免許取得年数別

- ・30歳以上は免許取得年数「10年以上」の件数が多い。



メ モ

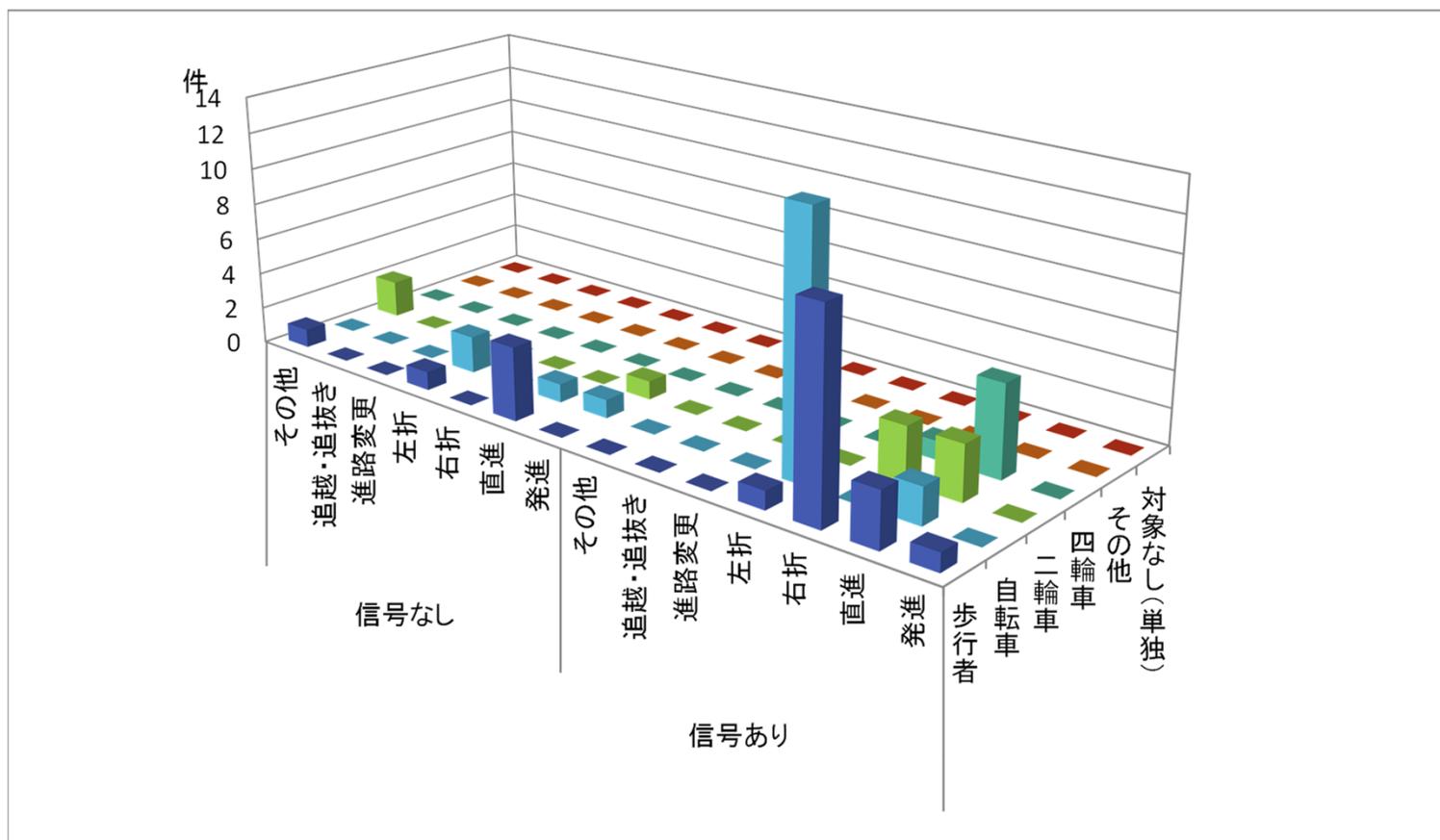
X. 2020年死亡事故データ(交差点(追突を除く))

1. 第一当事者行動類型別の第二当事者別
2. 発生地別
3. 車籍別
4. 対歩行者・自転車別
5. 対歩行者・自転車別の年齢層別
6. 右・左折別の第二当事者の年齢別・発生時間別
7. 右・左折時の対歩行者・自転車別の第二当事者の年齢別・発生時間別
8. 右左折死亡事故の車体形状別第二当事者別

X. 2020年死亡事故データ(交差点(追突を除く))

1. 第一当事者行動類型別の第二当事者別

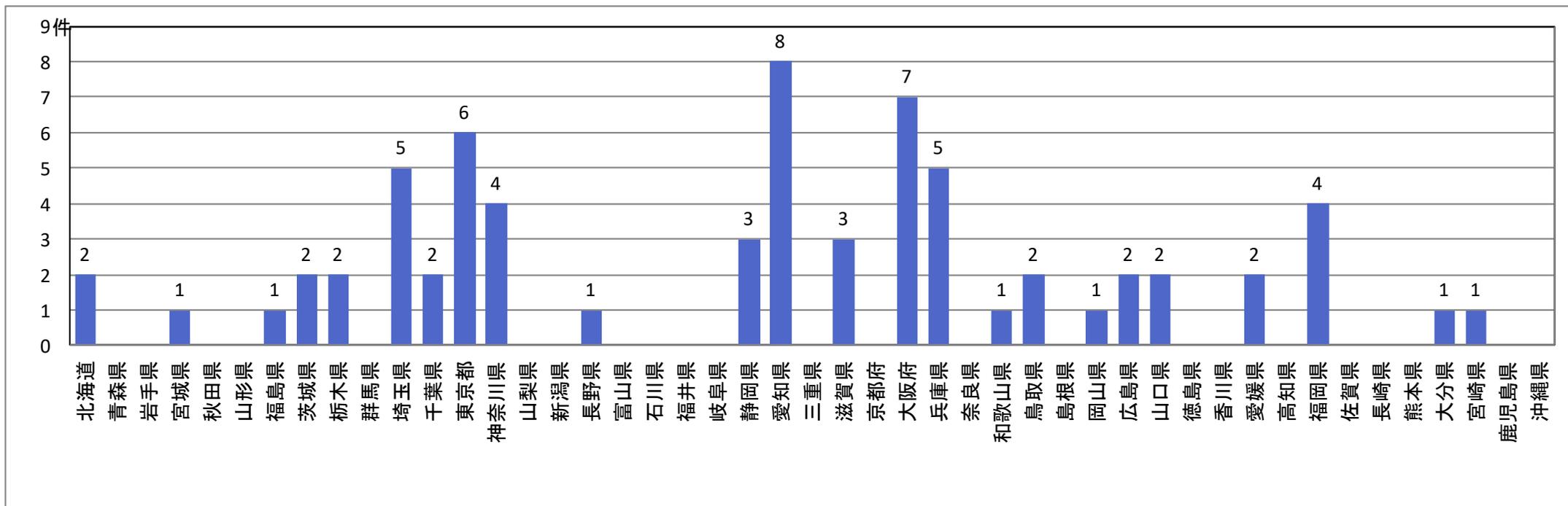
- ・信号機のある交差点での事故が多くなっている。
- ・信号機のある交差点では、左折は「自転車」、右折は「歩行者」、直進は「四輪車」の事故が多い。
- ・信号機のない交差点では、直進は「歩行者」、左折は「自転車」の事故が多い。



X. 2020年死亡事故データ(交差点(追突を除く))

2. 発生地別

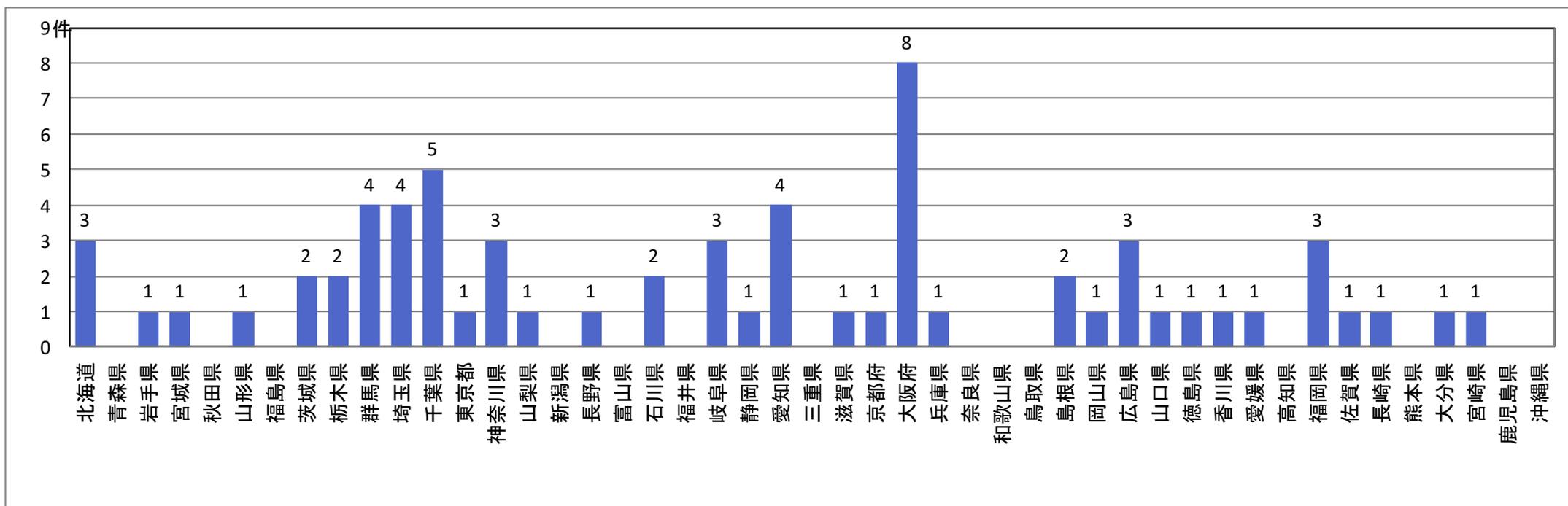
- 発生地別の交差点事故件数をみると、「愛知県」が最も多く8件、次いで「大阪府」7件、「東京都」6件、「埼玉県」、「兵庫県」がそれぞれ5件等と続いている。



X. 2020年死亡事故データ(交差点(追突を除く))

3. 車籍別

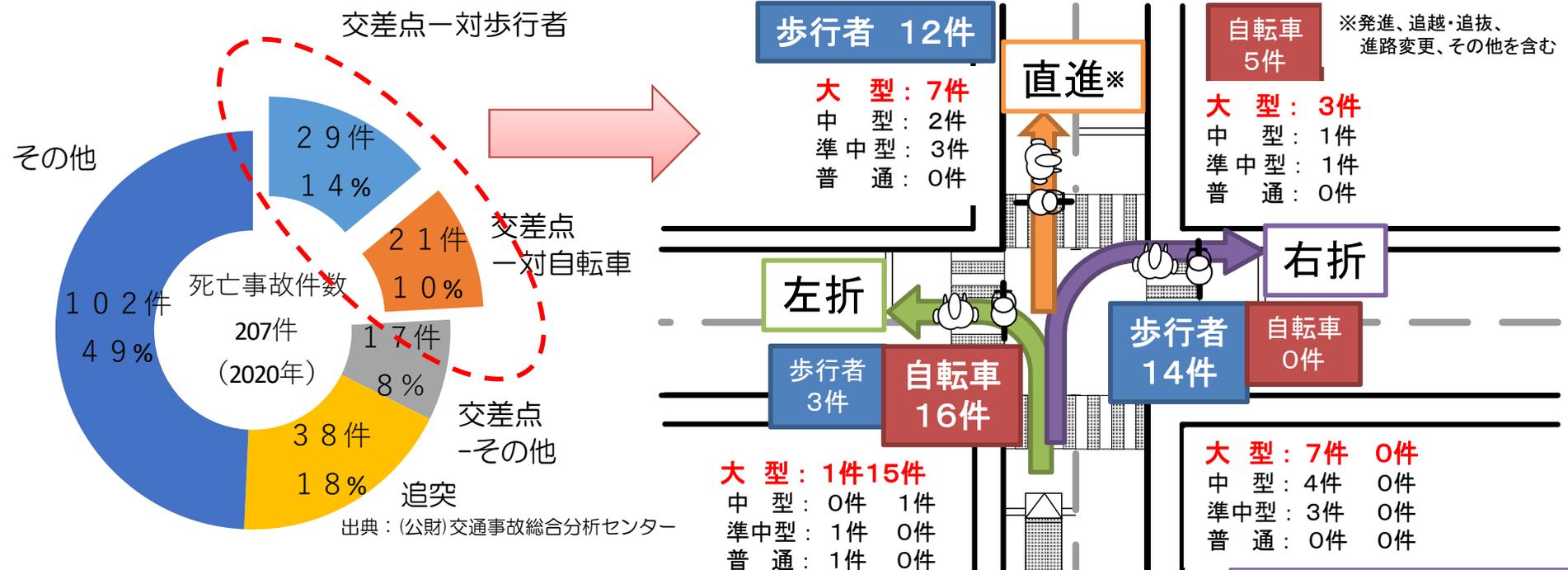
- ・車籍別の交差点事故件数をみると、「大阪府」が最も多く8件、次いで「千葉県」5件、「群馬県」、「埼玉県」、「愛知県」がそれぞれ4件等と続いている。



X. 2020年死亡事故データ(交差点(追突を除く))

4. 対歩行者・自転車別

- ・事業用トラックが第1当事者となる交差点における対歩行者、対自転車の死亡事故(50件)は、追突事故(38件)の**1.3倍**。
- ・直進死亡事故は、**7割以上が対歩行者(12件)**であり、**対歩行者の6割近くが大型車**。
- ・左折死亡事故は、**8割以上が対自転車(16件)**であり、**対自転車の9割以上が大型車**。
- ・右折死亡事故は、**全て対歩行者(14件)**であり、**対歩行者の5割が大型車**。



交差点-歩行者	交差点での右左折及び直進時の対歩行者事故(右図参照)
交差点-自転車	交差点での右左折及び直進時の対自転車事故(右図参照)
交差点-その他	上記以外の交差点での対四輪車・二輪車の事故(追突除く)
追突	対二輪車・自転車を含む追突事故
その他	上記以外の正面衝突等の車両相互(自転車含む)事故、車両単独事故、交差点以外での対人事故

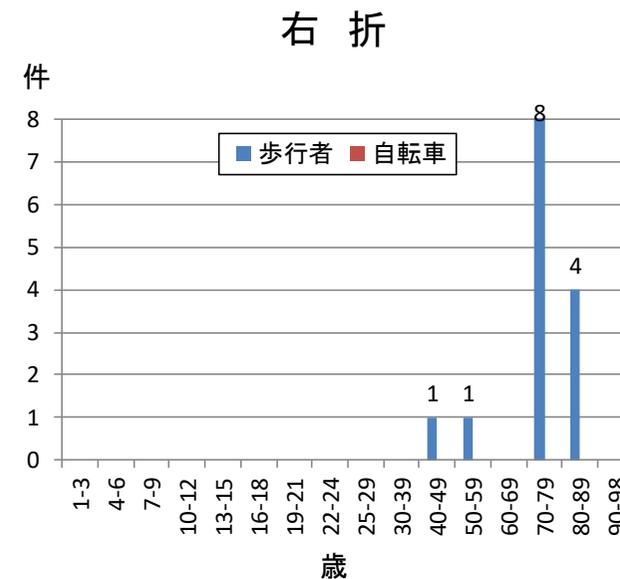
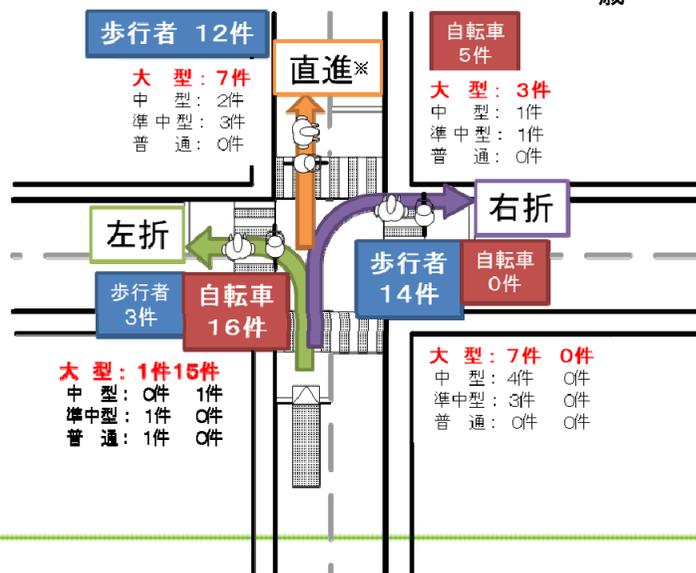
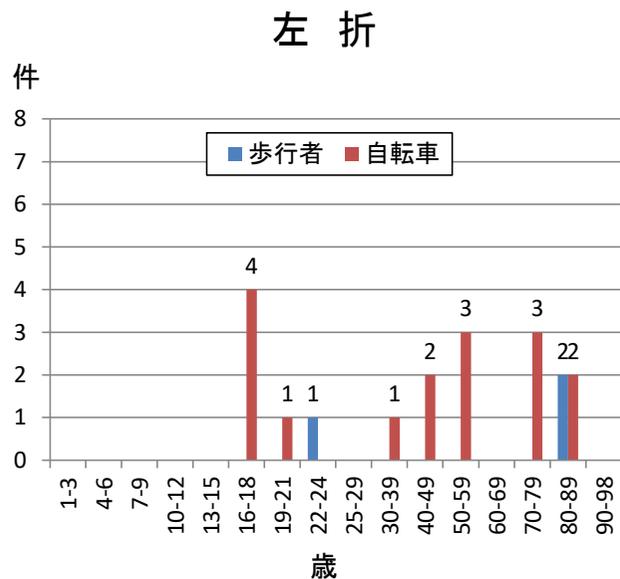
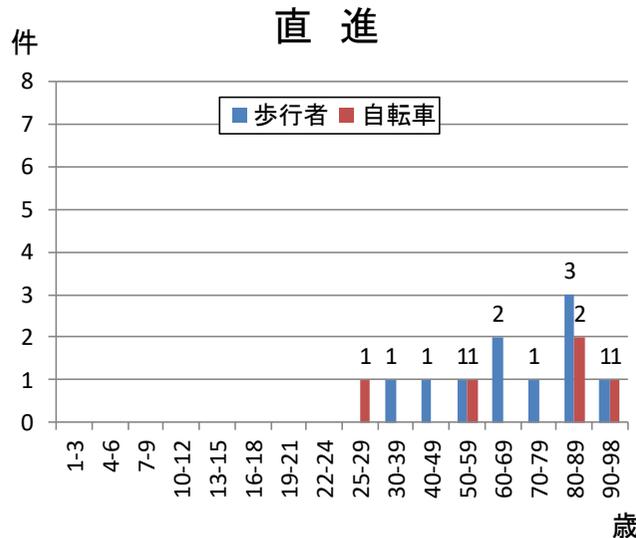
車両区分の解説	
大型	車両総重量11t以上
中型	7.5t以上11t未満
準中型	3.5t以上7.5t未満
普通	3.5t未満

※なお、本統計データに軽自動車は含まない

X. 2020年死亡事故データ(交差点(追突を除く))

5. 対歩行者・自転車別の第二当事者の年齢別

- ・直進時の死亡事故: 対歩行者は7割が60歳以上、対自転車は6割が80歳以上。
- ・左折時の死亡事故: 対自転車は10歳代から80歳代まで幅広い年齢層で3割以上が70歳以上。
- ・右折時の死亡事故: 対歩行者は9割近くが70歳以上。

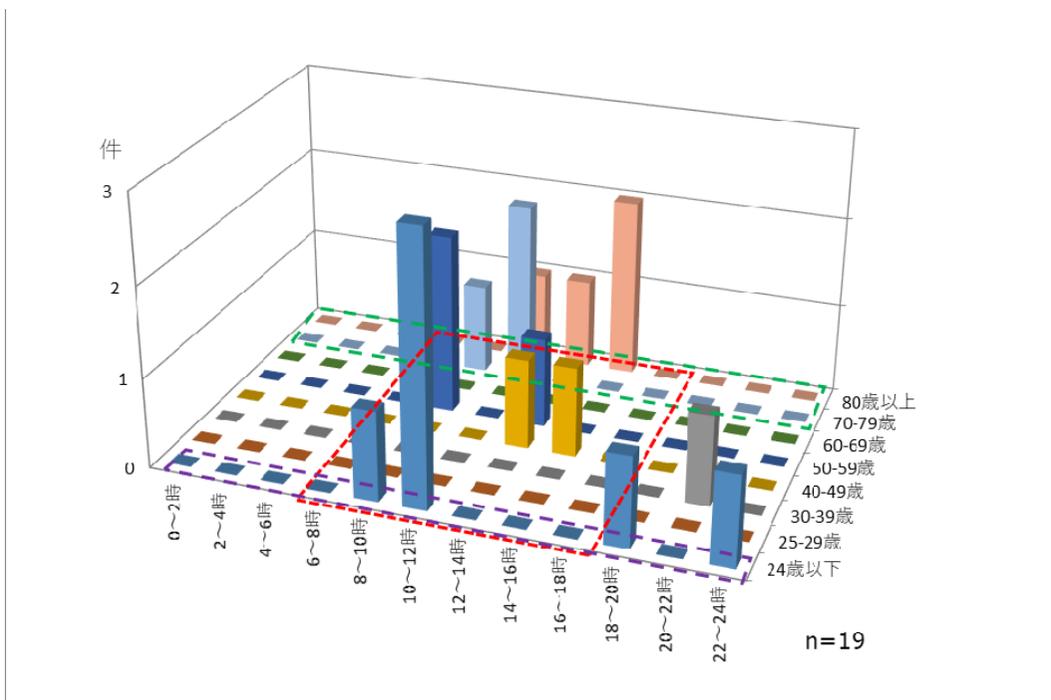


X. 2020年死亡事故データ(交差点(追突を除く))

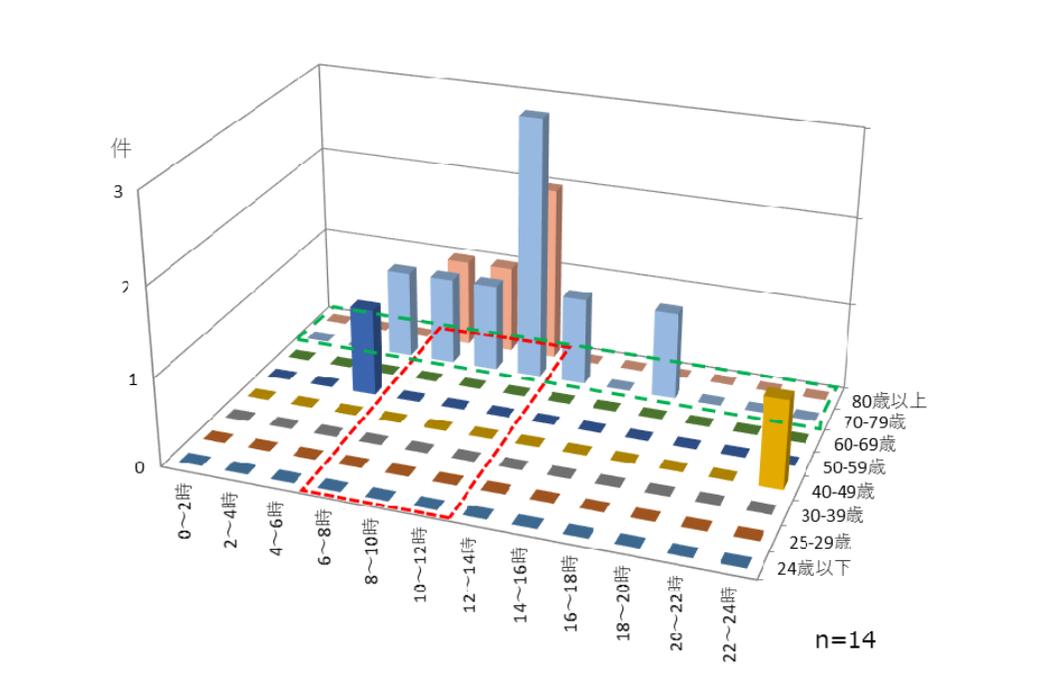
6. 右・左折別の第二当事者の年齢別・発生時間別

- ・左折死亡事故は、「24歳以下」が6件（31.6%）、「70歳以上」が7件（36.8%）を占めている。若年層及び高齢層で全体の7割近くを占めている。また、発生時間帯は16件（84.2%）と8割以上が日中の時間帯（6時～18時）に発生している。
- ・一方、右折死亡事故は、「70歳以上」が12件（85.7%）と9割近くを占めている。また、発生時間帯は9件（64.3%）と6割以上が午前中の時間帯（6時～12時）に発生している。

【左折】



【右折】

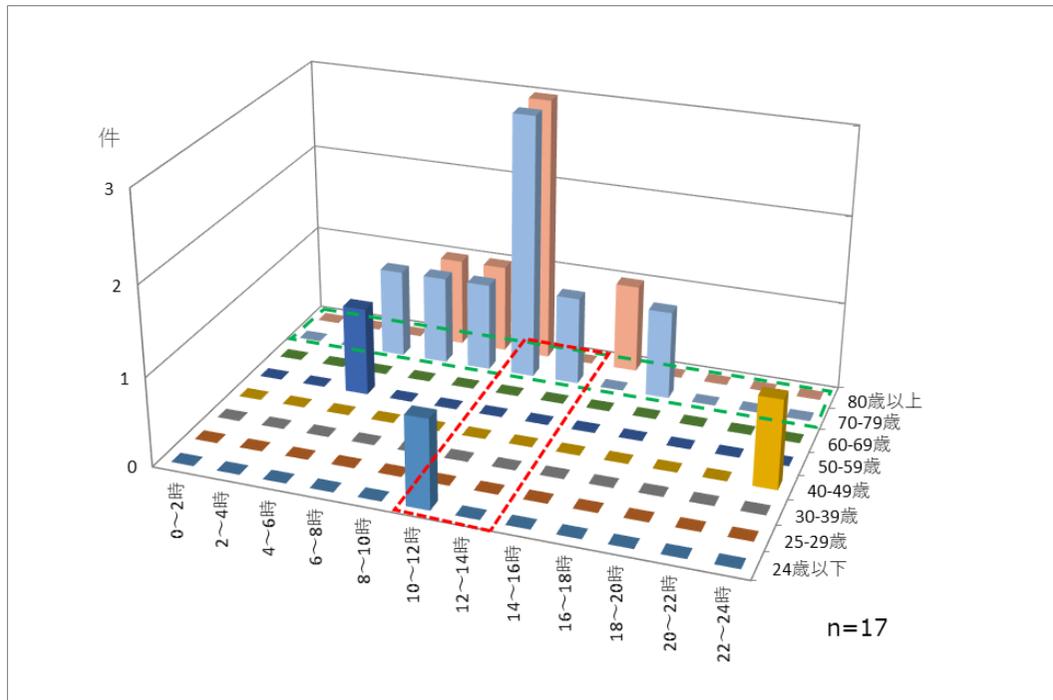


X. 2020年死亡事故データ(交差点(追突を除く))

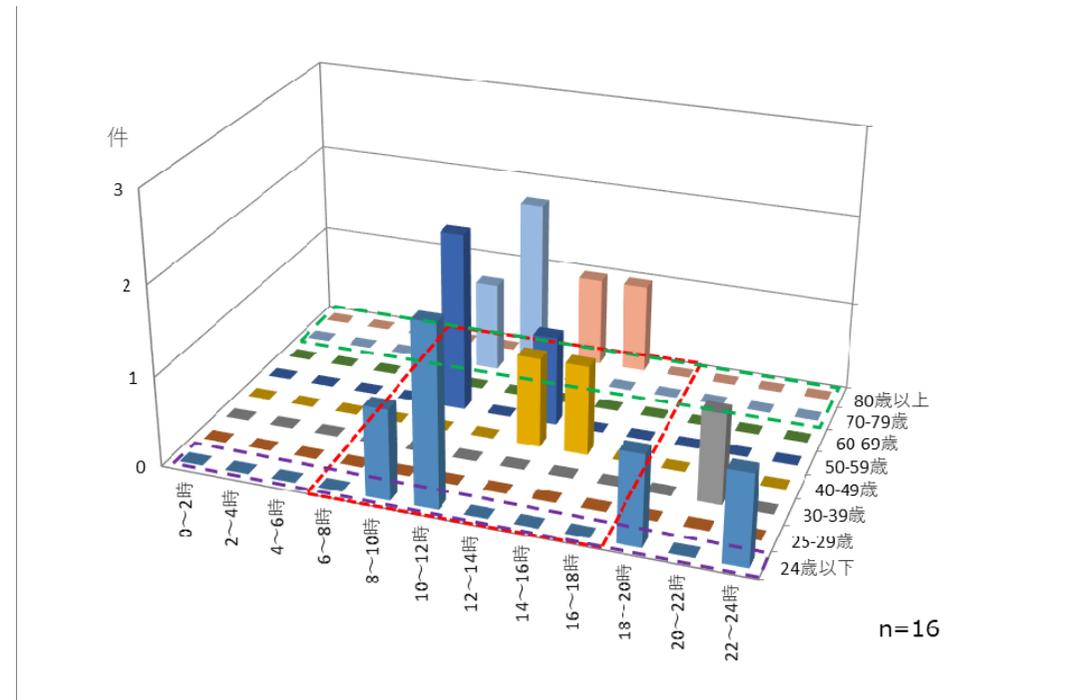
7. 右・左折時の対歩行者・自転車別の第二当事者の年齢別・発生時間別

- ・ 第二当事者が歩行者の場合、「70歳以上」が14件（82.4%）と8割以上を占めている。また、発生時間帯は8件（47.1%）と5割近くが午前の遅い時間からお昼過ぎまでの時間帯（10時～14時）に発生している。
- ・ 一方、第二当事者が自転車の場合、「24歳以下」、「70歳以上」がそれぞれ5件（31.3%）を占めている。若年層及び高齢層で全体の6割以上を占めている。また、発生時間帯は13件（81.3%）と8割以上が日中の時間帯（6時～18時）に発生している。

【対歩行者】



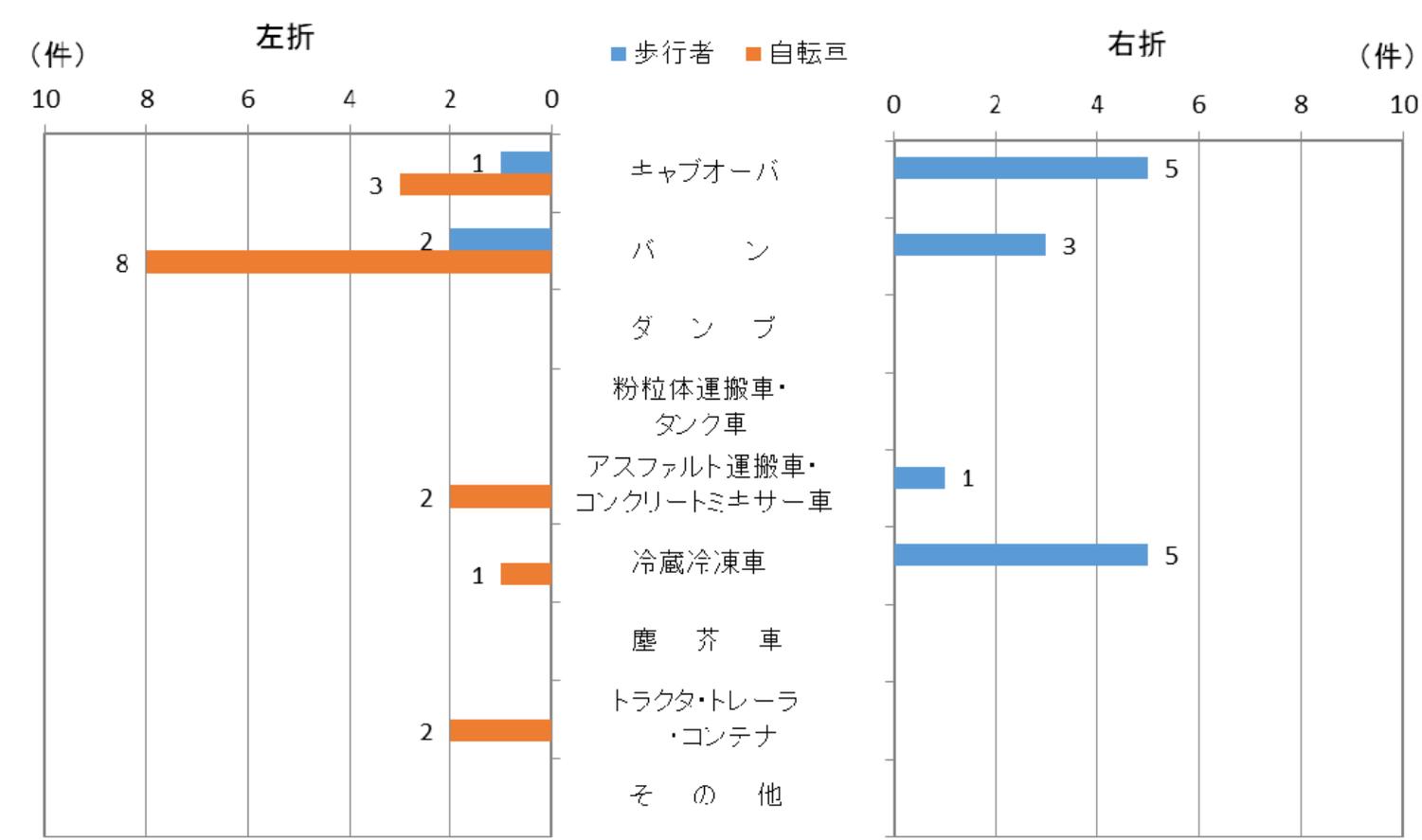
【対自転車】



X. 2020年死亡事故データ(交差点(追突を除く))

8. 右左折死亡事故の車体形状別第二当事者別

- ・車体形状別にみると、左折事故で第二当事者が「自転車」の場合は「バン」が最も多く8件、次いで「キャブオーバ」3件等と続いている。
- ・右折事故で第二当事者が「歩行者」の場合は、「キャブオーバ」、「冷蔵冷凍車」が最も多く、それぞれ5件、次いで「バン」3件等と続いている。



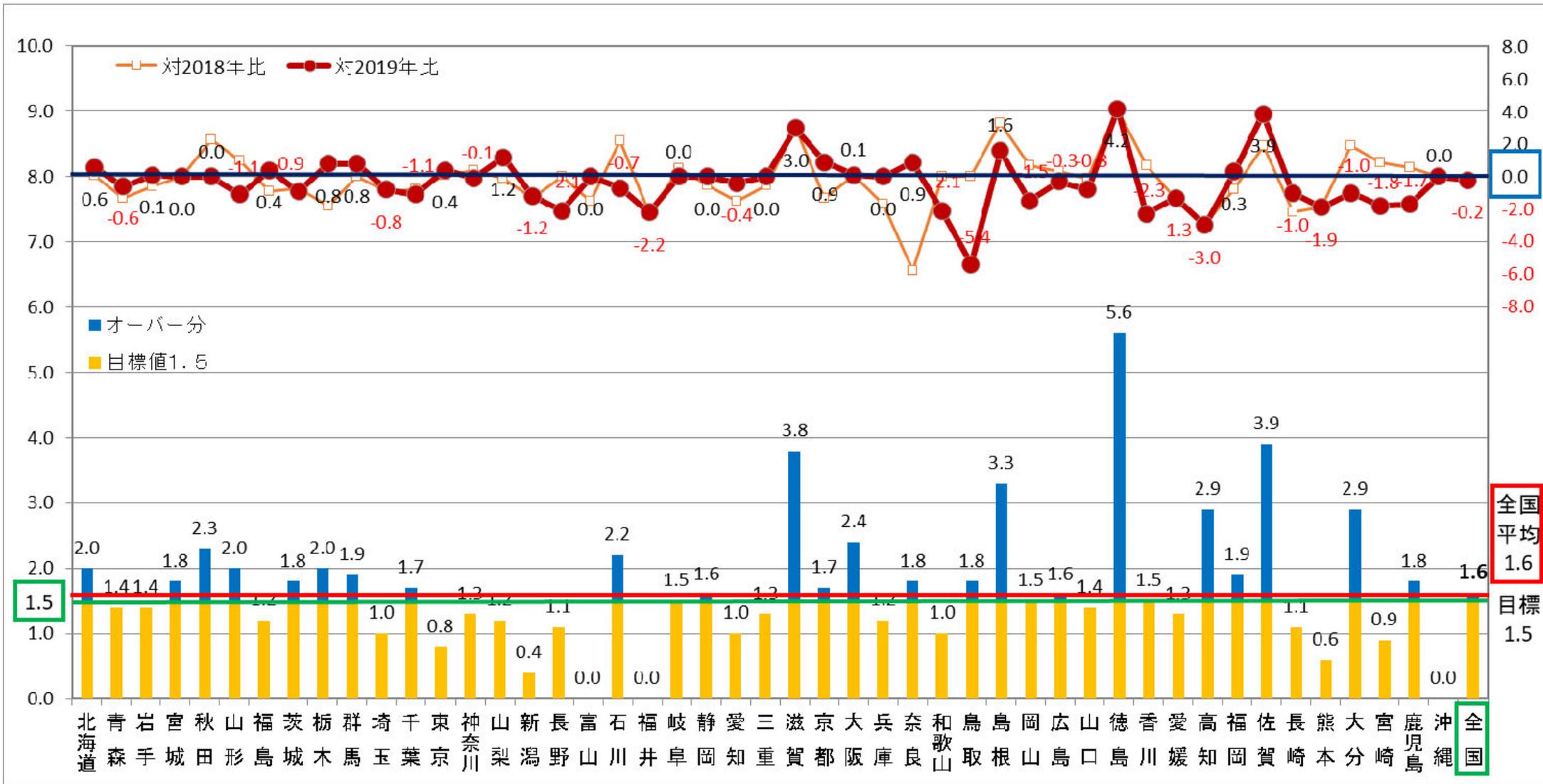
メ モ

X I . 2020年死亡事故データ(1万台当たり)

区分	死亡事故件数					19比増減	死者数					19比増減	車両台数			
	2017	2018	2019	2020	19比増減		2017	2018	2019	2020	19比増減		車両台数	1万台当たり死亡事故件数		
都道府県																
北海道	9	13	10	14	4	9	14	10	14	4	69,965	2.0				
宮城県	4	5	5	5	0	4	5	5	5	0	28,550	1.8				
福島県	7	5	2	3	1	7	5	2	3	1	24,509	1.2				
茨城県	5	3	2	2	0	5	3	2	2	0	14,812	1.4				
栃木県	3	4	3	2	△1	4	4	3	2	△1	14,708	1.4				
群馬県	1	1	3	2	△1	1	1	5	2	△3	9,761	2.0				
埼玉県	2	0	2	2	0	2	0	2	2	0	8,602	2.3				
千葉県	5	4	4	1	△3	7	4	4	1	△3	24,284	0.4				
東京都	2	2	6	2	△4	2	2	6	2	△4	18,608	1.1				
神奈川県	2	0	4	3	△1	2	0	4	3	△1	13,708	2.2				
新潟県	3	2	0	0	0	3	2	0	0	0	13,159	0.0				
富山県	10	7	4	8	4	10	7	4	8	4	95,121	0.8				
石川県	12	6	10	9	△1	12	6	10	9	△1	71,385	1.3				
福井県	12	16	18	11	△7	16	16	19	11	△8	65,254	1.7				
山梨県	13	17	16	9	△7	13	17	16	9	△7	90,715	1.0				
長野県	9	11	12	8	△4	9	11	12	8	△4	44,256	1.8				
岐阜県	4	5	3	5	2	4	5	3	5	2	26,506	1.9				
静岡県	1	9	3	5	2	1	9	3	5	2	24,400	2.0				
愛知県	1	1	0	1	1	1	1	0	1	1	8,273	1.2				
中部																
岐阜県	11	22	13	9	△4	12	22	13	9	△4	90,891	1.0				
静岡県	7	9	7	7	0	7	9	7	7	0	42,892	1.6				
三重県	2	2	3	3	0	2	2	3	3	0	20,411	1.5				
福井県	4	4	3	3	0	4	4	4	4	0	23,133	1.3				
近畿																
大阪府	36	22	23	24	1	37	22	23	26	3	98,689	2.4				
京都府	8	7	2	4	2	8	7	2	4	2	24,205	1.7				
兵庫県	14	14	6	6	0	14	16	7	6	△1	50,225	1.2				
滋賀県	1	1	1	5	4	1	2	1	5	4	13,199	3.8				
奈良県	2	8	1	2	1	2	9	1	2	1	10,819	1.8				
和歌山県	0	1	3	1	△2	0	1	3	1	△2	9,855	1.0				
中国																
広島県	7	4	6	5	△1	8	4	6	5	△1	31,408	1.6				
岡山県	1	1	4	1	△3	1	1	4	1	△3	5,594	1.8				
山口県	2	0	1	2	1	2	0	1	2	1	6,046	3.3				
四国																
香川県	11	2	8	4	△4	12	2	8	4	△4	26,899	1.5				
愛媛県	1	2	3	2	△1	1	2	3	2	△1	13,939	1.4				
高知県	4	1	5	2	△3	4	1	5	2	△3	13,469	1.5				
徳島県	0	1	1	4	3	0	1	1	4	3	7,185	5.6				
福岡県	12	4	4	2	△2	13	4	4	2	△2	15,403	1.3				
九州																
福岡県	13	15	9	11	2	13	15	10	11	1	56,798	1.9				
佐賀県	4	2	0	4	4	4	2	0	5	5	10,367	3.9				
長崎県	3	3	2	1	△1	3	3	2	1	△1	9,338	1.1				
熊本県	4	4	4	1	△3	4	6	4	1	△3	16,105	0.6				
大分県	4	1	4	3	△1	4	1	4	3	△1	10,393	2.9				
宮崎県	4	0	4	1	△2	4	0	4	1	△2	11,239	0.9				
鹿児島県	3	2	6	3	△2	3	2	6	3	△2	17,034	1.8				
沖縄県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7,751	0.0				
不明	6	4	4	3	△1	7	4	4	3	△1	0					
合計	271	253	239	207	△32	280	260	245	211	△34	1,325,579	1.6				

※軽自動車による死亡事故件数及び死者数を除く 出典：(公財) 交通事故総合分析センター
 ※車両台数はトローラ及び軽自動車を除く営業用貨物自動車の保有台数(2020年12月末現在) 出典：(一財) 自動車検査登録情報協会

X I . 2020年死亡事故データ(1万台当たり)



※死亡事故件数は事業用貨物自動車が第一当事者となるものであり、軽自動車によるものを除く 出典:(公財)交通事故総合分析センター
 ※車両台数はトレーラ及び軽自動車を除く営業用貨物自動車の保有台数(2020.12末現在) 出典:(一財)自動車検査登録情報協会

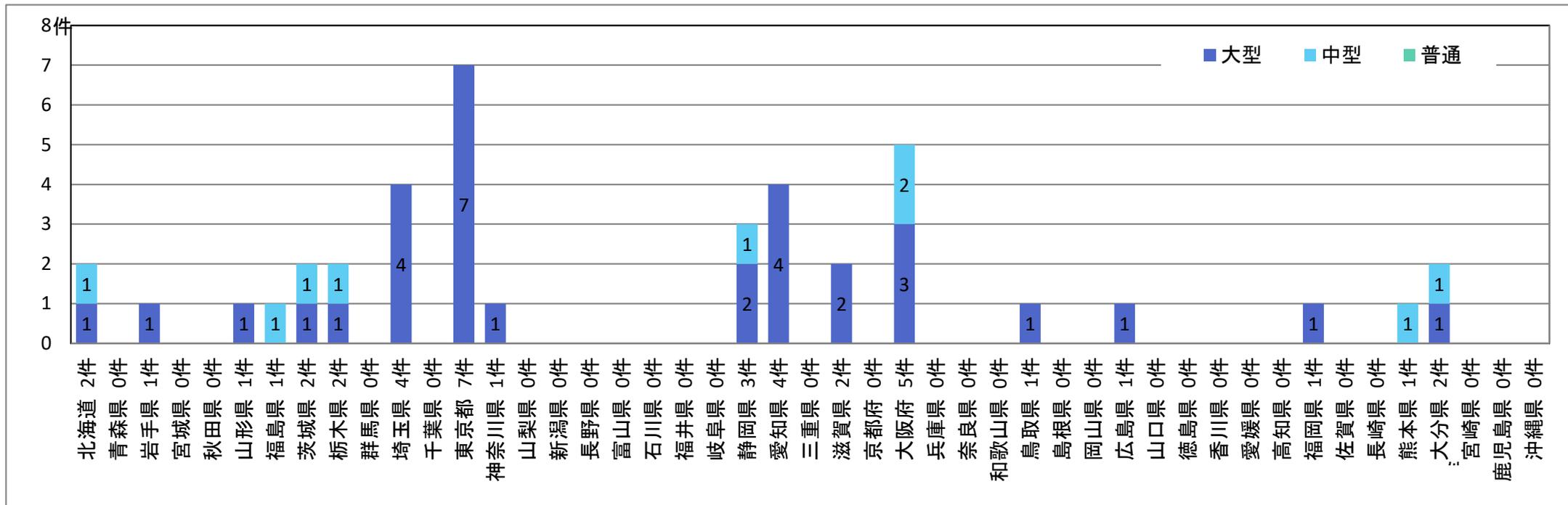
X II . 2020年死亡事故データ(対自転車死亡事故)

1. 発生地別
2. 車籍別
3. 車種別
4. 事故類型別
5. 自転車運転者の年齢層別
6. 第一当事者事故類型別自転車運転者の年齢層別

X II . 2020年死亡事故データ(対自転車死亡事故)

1. 発生地別

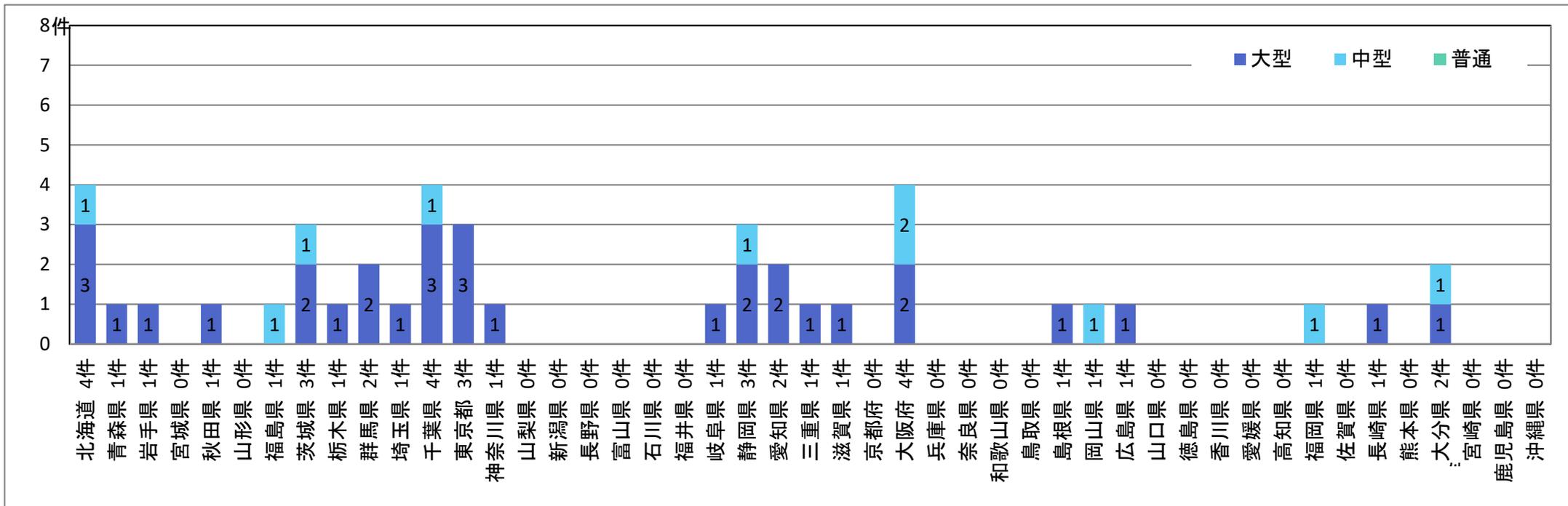
- 発生地別死亡事故件数の多い県をみると、「東京都」が最も多く7件、次いで「大阪府」5件、「埼玉県」、「愛知県」がそれぞれ4件、「静岡県」3件等と続いている。



X II . 2020年死亡事故データ(対自転車死亡事故)

2. 車籍別

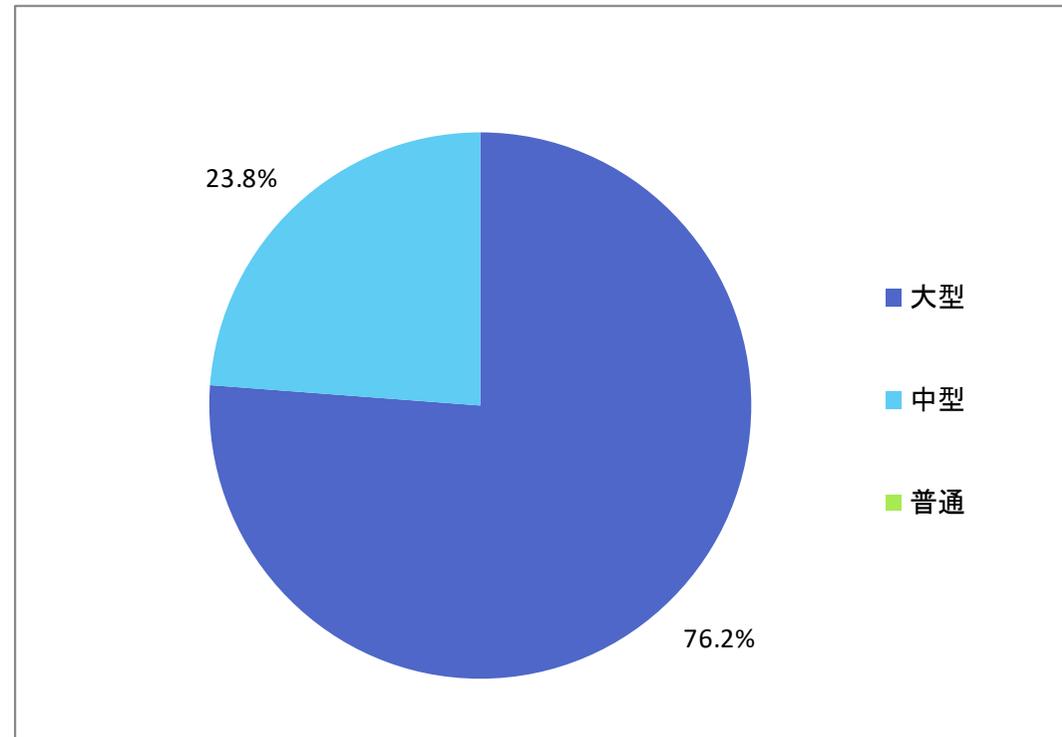
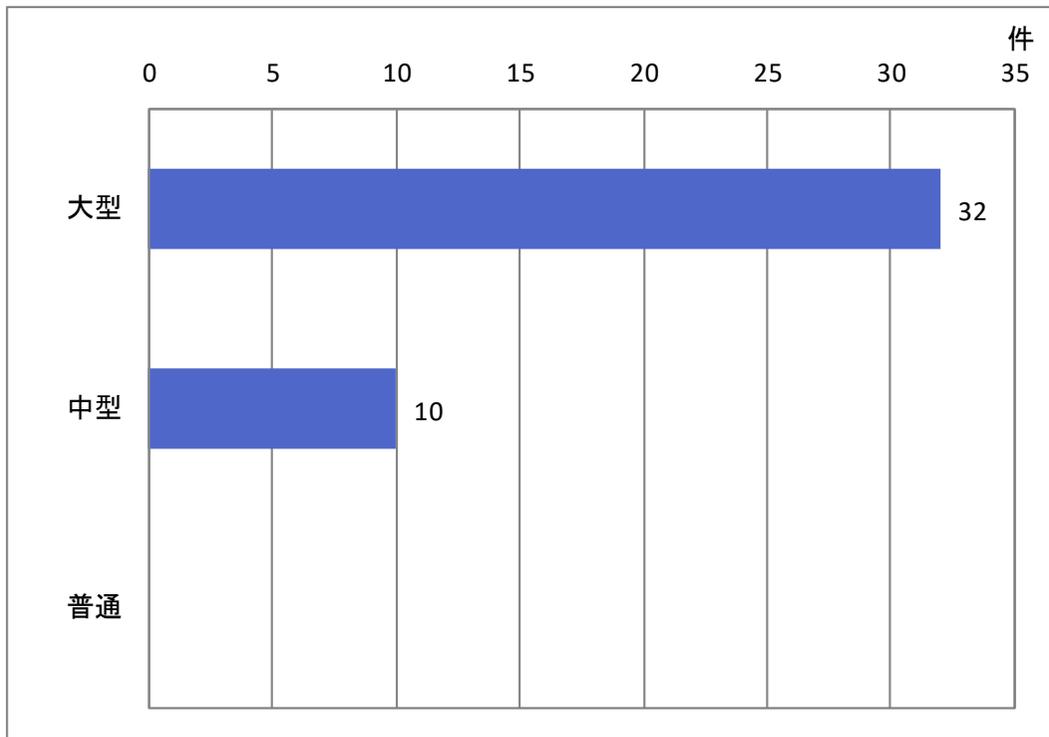
・車籍別死亡事故件数の多い県をみると、「北海道」、「千葉県」、「大阪府」が最も多く、それぞれ4件、次いで「茨城県」、「東京都」、「静岡県」がそれぞれ3件等と続いている。



X II . 2020年死亡事故データ(対自転車死亡事故)

3. 車種別

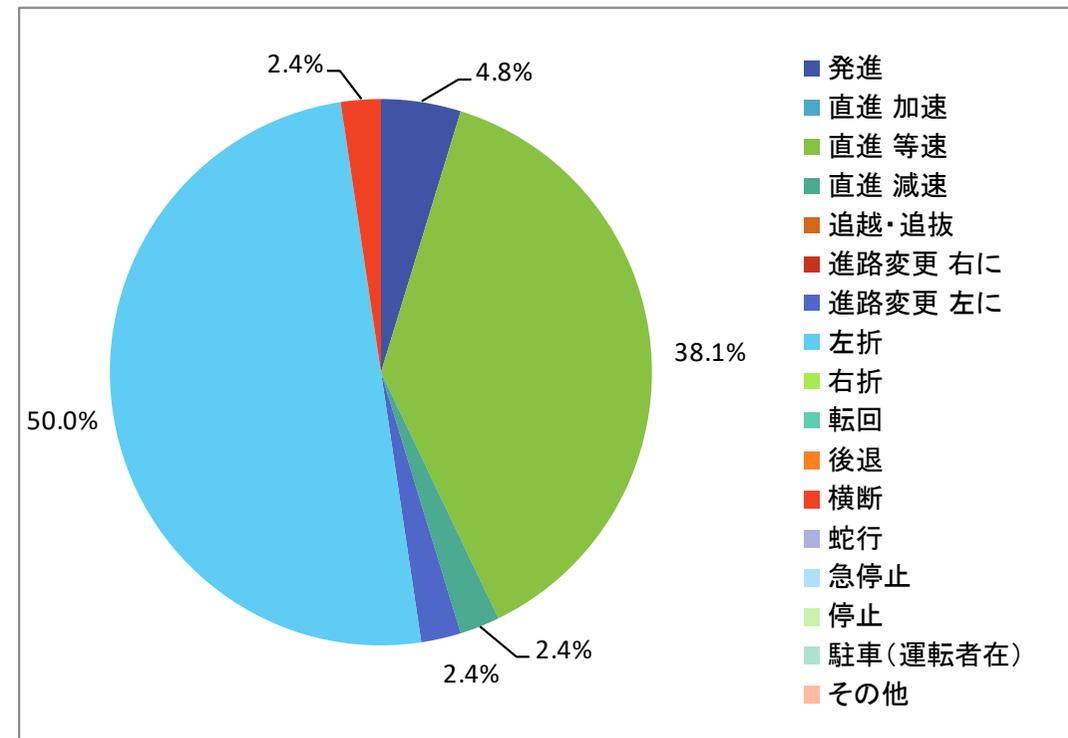
- ・死亡事故件数を車種別にみると、「大型」が最も多く32件（76.2%）と8割近くを占めている。
- ・次いで「中型」10件（23.8%）と続いている。



X II . 2020年死亡事故データ(対自転車死亡事故)

4. 事故類型別

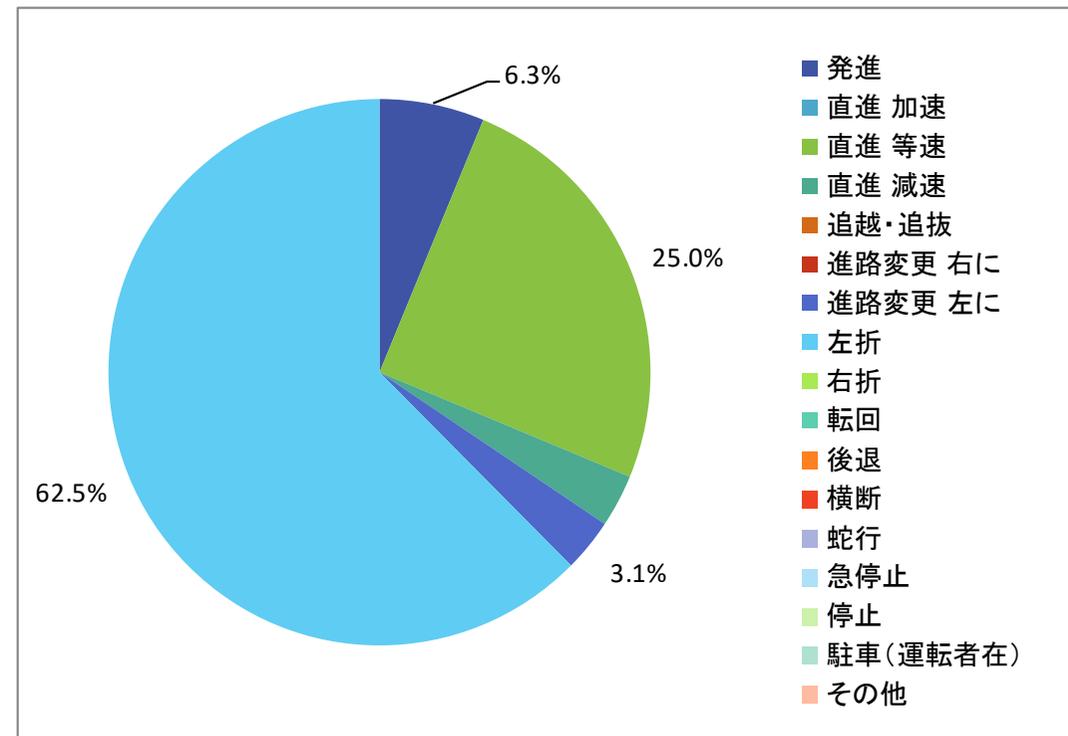
- ・死亡事故件数を事故類型別にみると、「左折」が最も多く21件（50.0%）となっている。
- ・次いで「直進 等速」16件（38.1%）等と続いている。



X II . 2020年死亡事故データ(対自転車死亡事故)

(1)大型

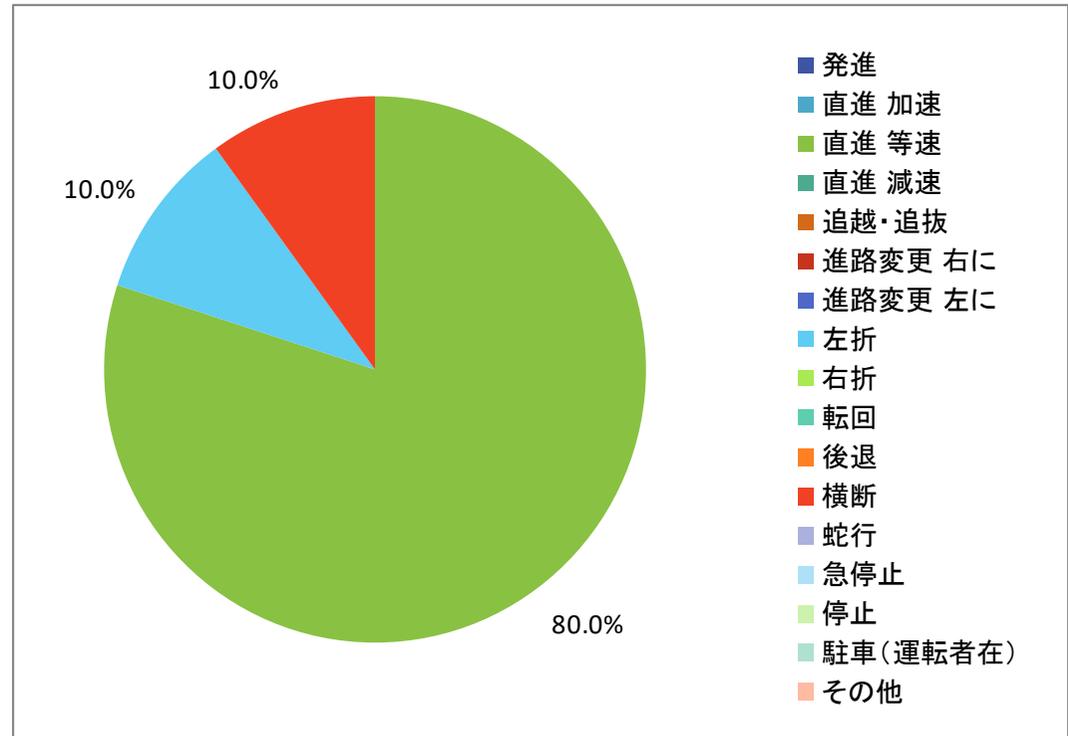
- ・死亡事故件数の事故類型別を車種別にみると、「大型」は「左折」が最も多く20件（62.5%）と6割以上を占めている。
- ・次いで「直進 等速」8件（25.0%）等と続いている。



X II . 2020年死亡事故データ(対自転車死亡事故)

(2) 中型

- ・死亡事故件数の事故類型別を車種別にみると、「中型」は「直進 等速」が最も多く8件（80.0%）となっている。
- ・次いで「左折」、「横断」がそれぞれ1件（10.0%）と続いている。



X II . 2020年死亡事故データ(対自転車死亡事故)

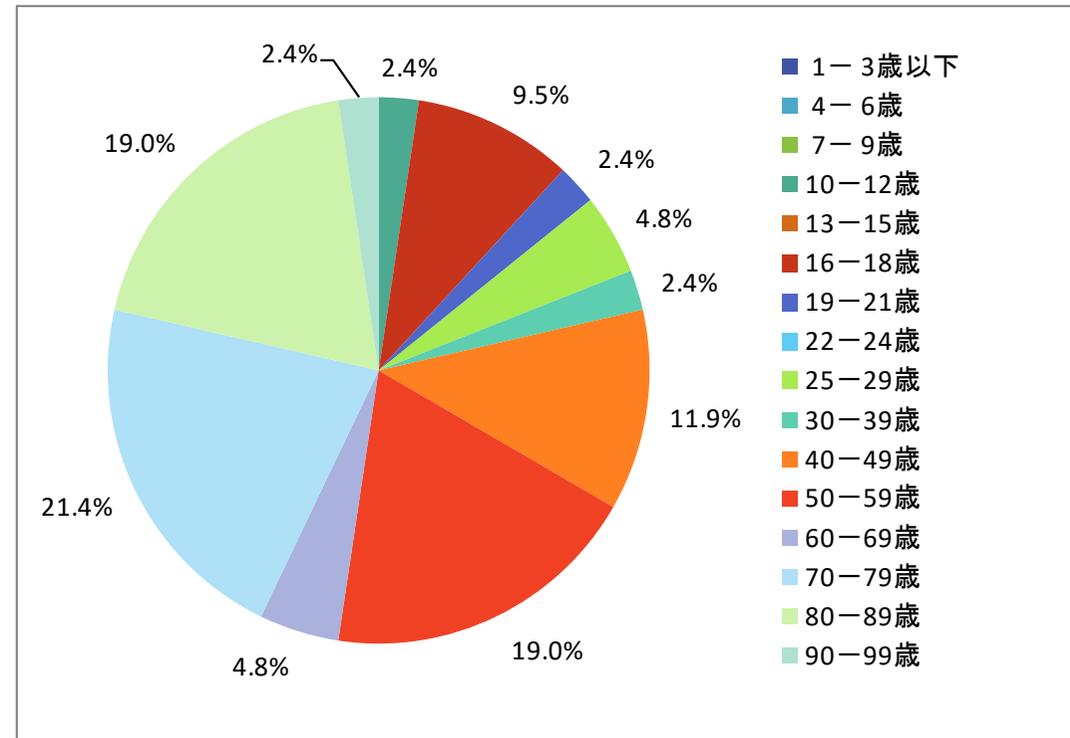
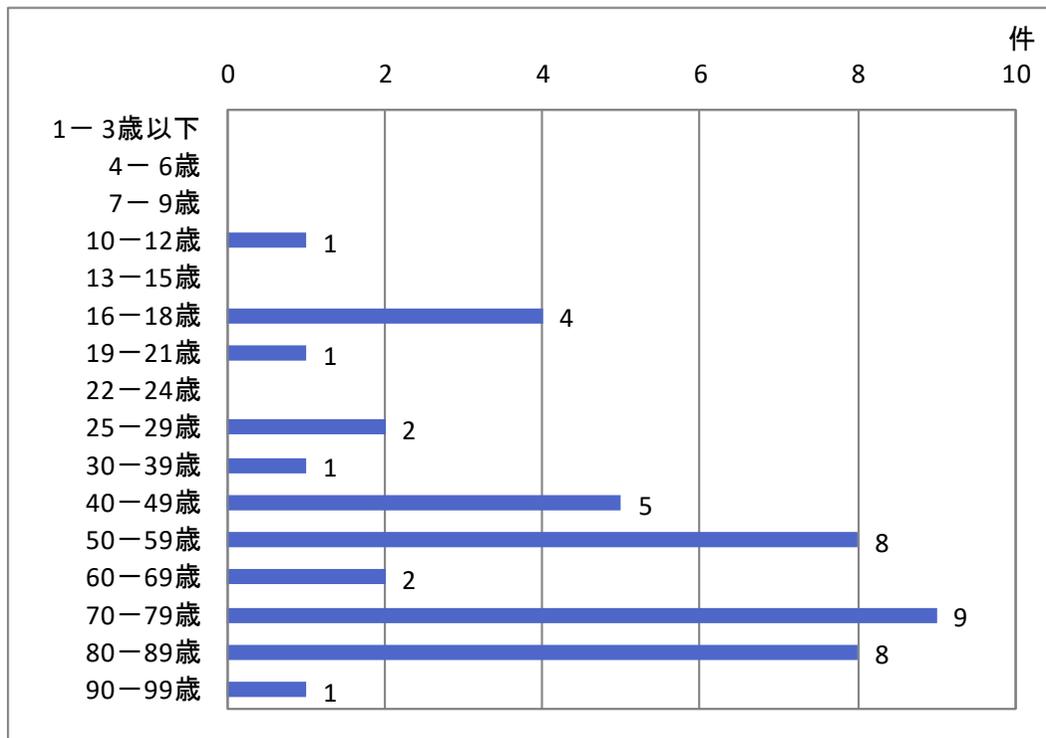
(3) 普通

- ・死亡事故件数の事故類型別を車種別にみると、「普通」は死亡事故が起きていない。

X II . 2020年死亡事故データ(対自転車死亡事故)

5. 自転車運転者の年齢層別

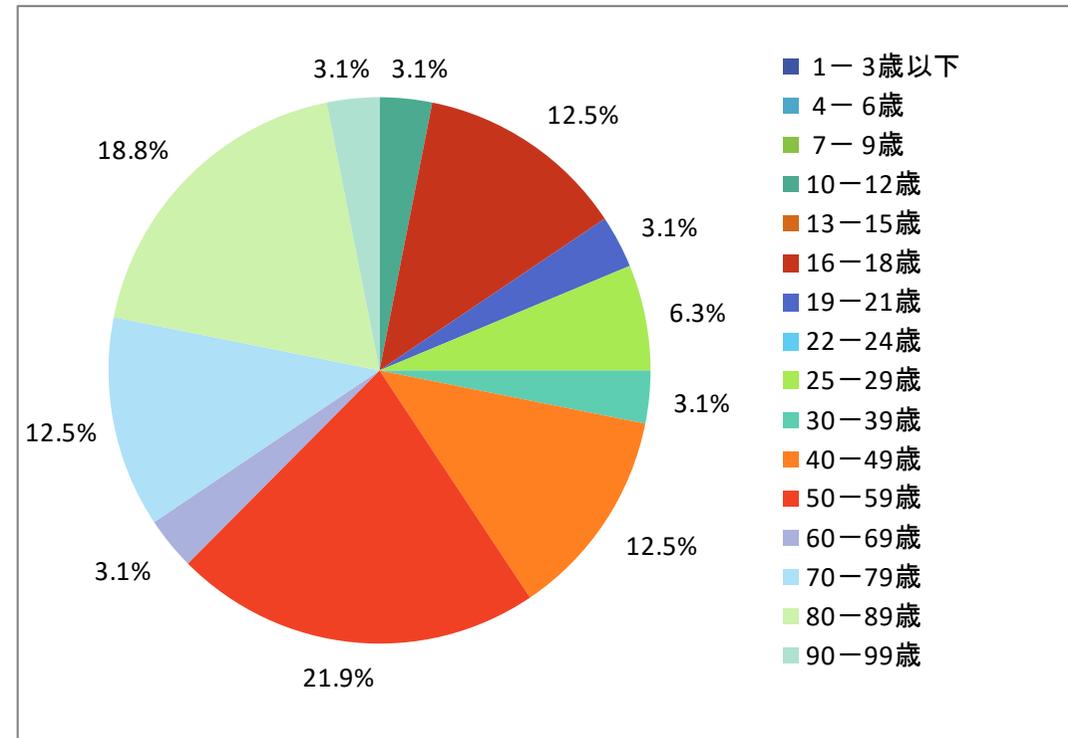
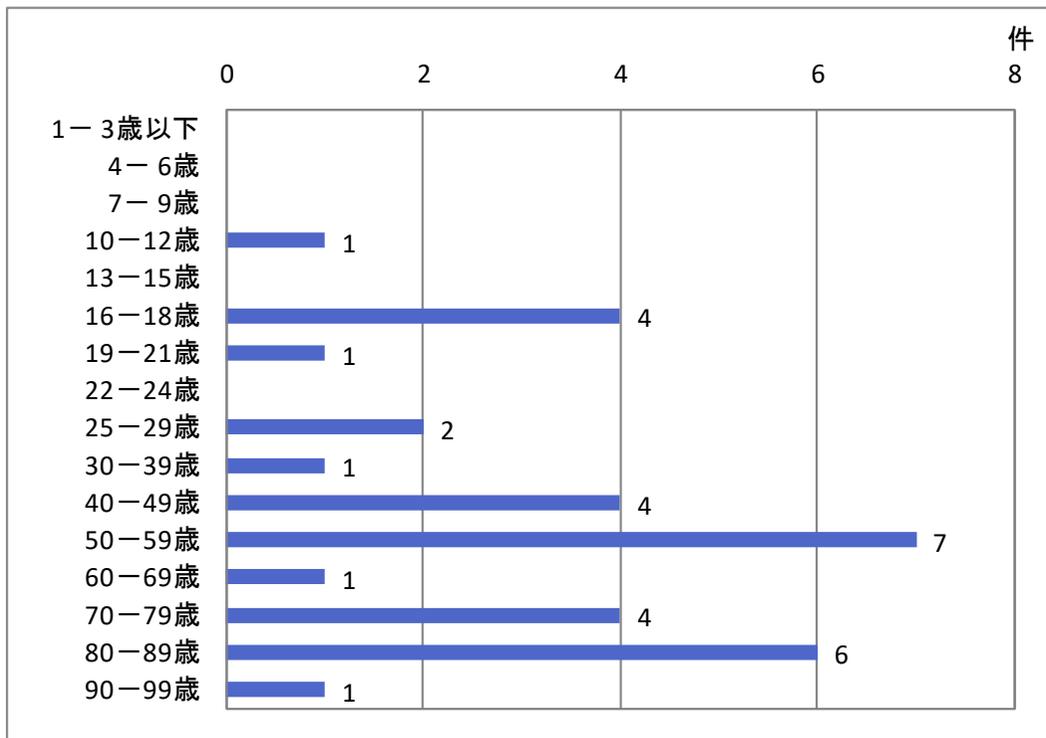
- ・死亡事故件数を自転車運転者の年齢層別にみると、「70-79歳」が最も多く9件（21.4%）となっている。
- ・次いで「50-59歳」、「80-89歳」がそれぞれ8件（19.0%）となっており、60歳代以上で5割近くを占めている。



X II . 2020年死亡事故データ(対自転車死亡事故)

(1)大型

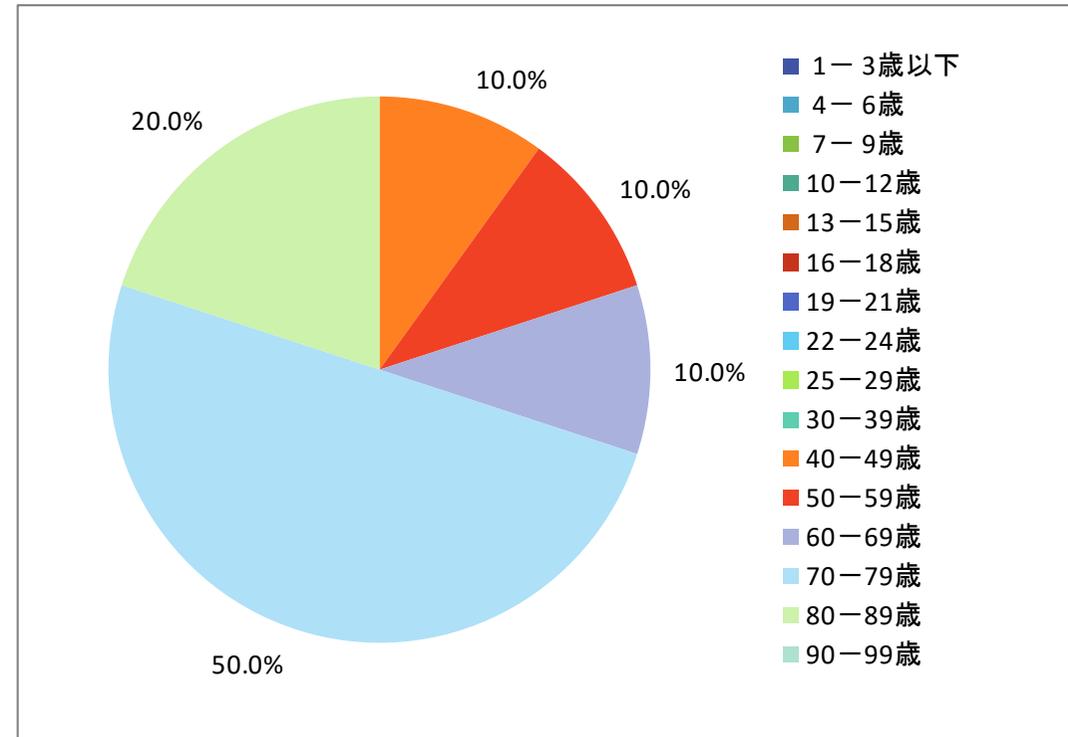
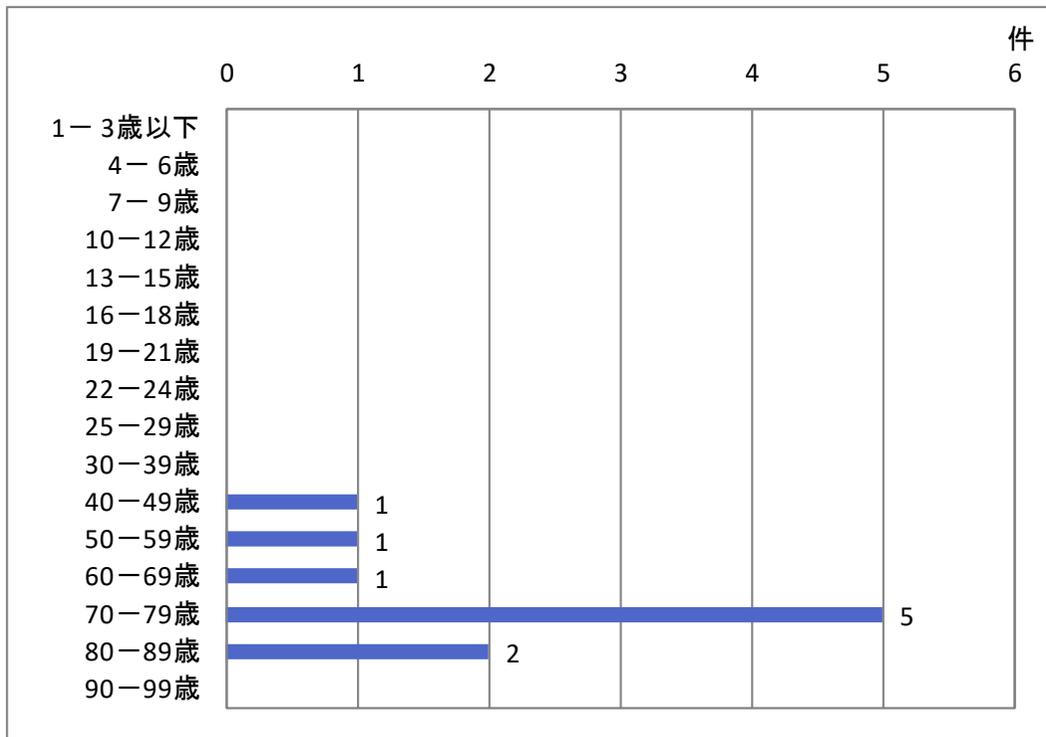
- ・死亡事故件数の自転車運転者の年齢層別を車種別にみると、「大型」は「50-59歳」が最も多く7件（21.9%）となっている。
- ・次いで「80-89歳」6件（18.8%）、「16-18歳」、「40-49歳」、「70-79歳」がそれぞれ4件（12.5%）等と続いている。



X II . 2020年死亡事故データ(対自転車死亡事故)

(2) 中型

- ・死亡事故件数の自転車運転者の年齢層別を車種別にみると、「中型」は「70-79歳」が最も多く5件（50.0%）となっている。
- ・次いで「80-89歳」2件（20.0%）等と続いている。



X II . 2020年死亡事故データ(対自転車死亡事故)

(3) 普通

- ・死亡事故件数の自転車運転者の年齢層別を車種別にみると、「普通」は死亡事故が起きていない。

X II . 2020年死亡事故データ(対自転車死亡事故)

6. 第一当事者事故類型別自転車運転者の年齢層別

- 死亡事故件数を事故類型別自転車運転者の年齢層別にみると、

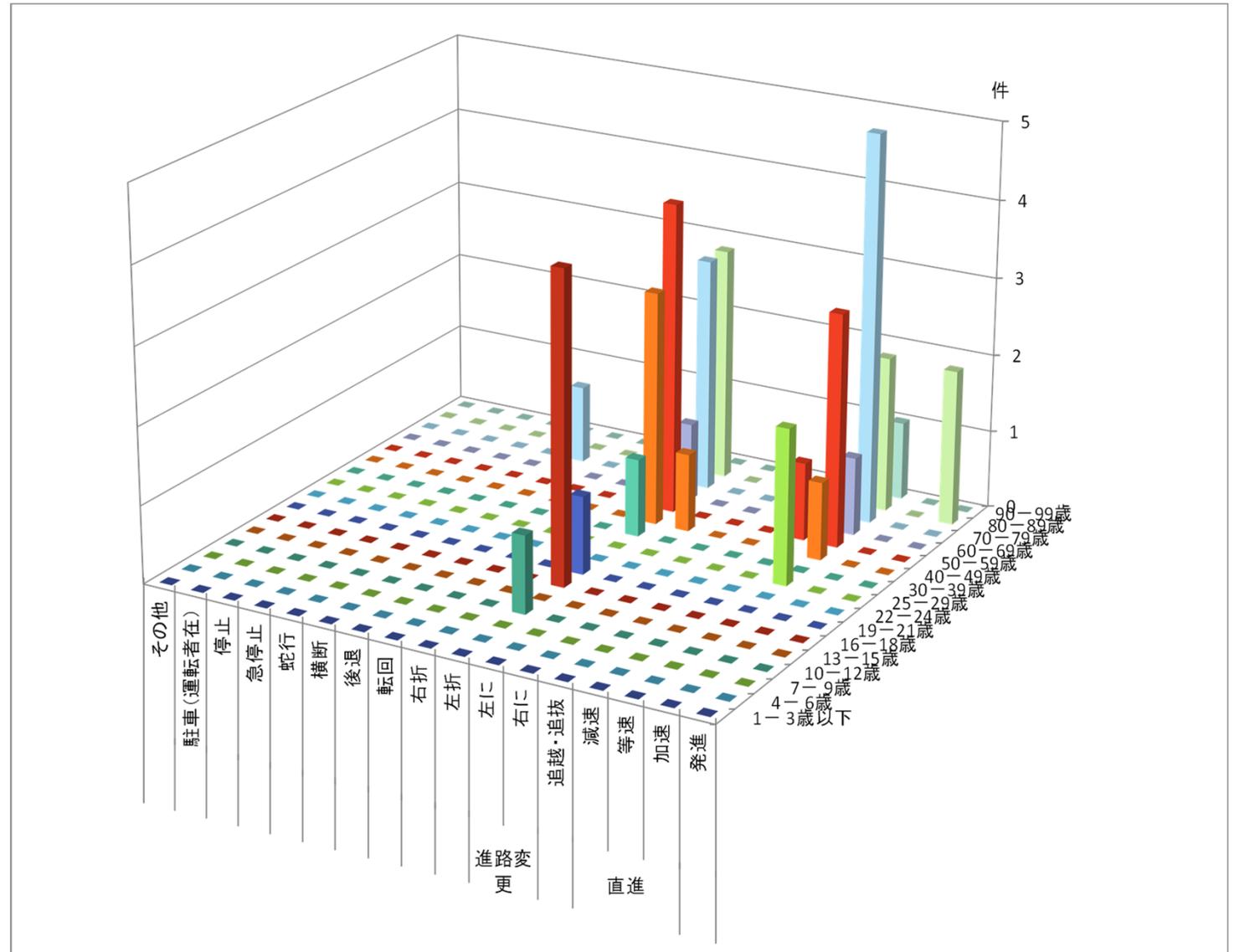
「直進 等速」－「70-79歳」
が最も多く5件となっている。

- 次いで、

「左折」－「16-18歳」4件、

「左折」－「50-59歳」4件

等と続いている。

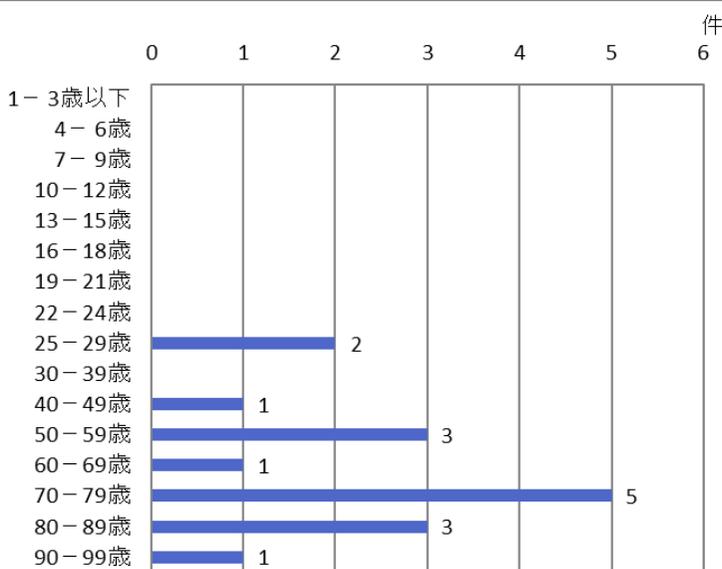


X II . 2020年死亡事故データ(対自転車死亡事故)

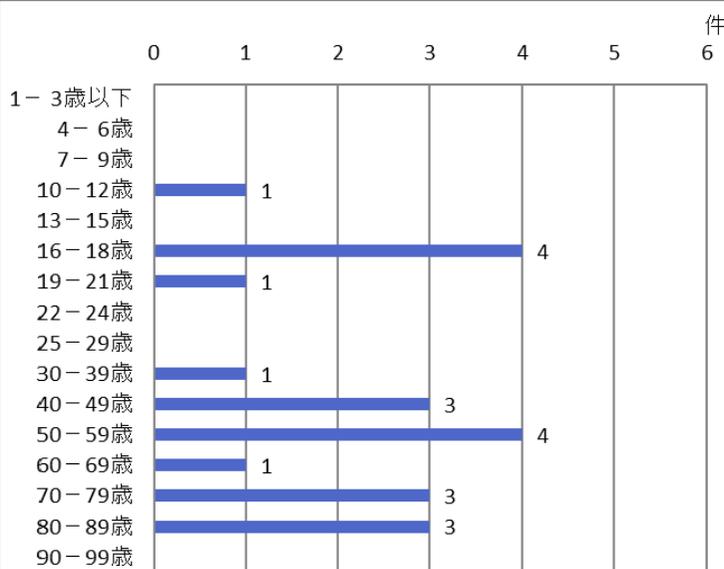
(1)「等速 直進」、「左折」及び「右折」の自転車運転者の年齢層別

- 死亡事故件数の「等速 直進」を自転車運転者の年齢層別にみると、「70-79歳」が最も多く5件となっている。次いで、「50-59歳」、「80-89歳」がそれぞれ3件等と続いている。
- 「左折」を自転車運転者の年齢層別にみると、「16-18歳」、「50-59歳」が最も多く、それぞれ4件となっている。次いで、「40-49歳」、「70-79歳」、「80-89歳」がそれぞれ3件等と続いている。
- 「右折」は死亡事故が起きていない。
- 「等速 直進」、「左折」のいずれも高齢の自転車運転者が多い。また、「左折」は若年層から幅広い年齢層に渡っている。運転者は相手自転車の動静により注意して進行する必要がある。

「等速 直進」 n=16



「左折」 n=21



「右折」 n=0

